

# HP OpenView Client Configuration Manager

Windows オペレーティング システム用

ソフトウェア バージョン : 2.00

---

## 管理者ガイド

ドキュメントのリリース日 : 2007 年 3 月

ソフトウェアのリリース日 : 2007 年 3 月



## ご注意

### 保証

当社は、本書に関して特定目的の市場性と適合性に対する保証を含む一切の保証をいたしかねます。当社は、本書の記載事項の誤り、またはマテリアルの提供、性能、使用により発生した直接損害、間接損害、特別損害、付随的損害または結果損害については責任を負いかねますのでご了承ください。

当社製品に適用可能な具体的な保証条件のコピーは、お近くの営業所から入手できます。

### 権利の制限

合衆国政府が使用、複製、または開示を行う場合、国防総省については **DFARS 252.227-7013** の "Rights in Technical Data and Computer Software" の (c) (1) (ii) に記載されている制限が適用されます。

**Hewlett-Packard Company**  
**United States of America**

その他の機関については **FAR 52.227-19** の (c) (1) および (c) (2) に記載されている制限が適用されます。

### 著作権

© Copyright 2007 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

本書の内容の一部または全部を著作者の許諾なしに複製、改変、および翻訳することは、著作権法下での許可事項を除き、禁止されています。本書に記載した内容は、予告なしに変更することがあります。

### 商標

**Linux** は、**Linus Torvalds** の登録商標です。

**Microsoft®**、**Windows®**、および **Windows® XP** は、米国 **Microsoft Corporation** の米国およびその他の国における登録商標です。

**OpenLDAP** は、**OpenLDAP Foundation** の登録商標です。

### 謝辞

**PREBOOT EXECUTION ENVIRONMENT (PXE) SERVER**  
Copyright © 1996-1999 Intel Corporation.

TFTP SERVER

Copyright © 1983, 1993

The Regents of the University of California.

OpenLDAP

Copyright 1999-2001 The OpenLDAP Foundation, Redwood City, California, USA.

Portions Copyright © 1992-1996 Regents of the University of Michigan.

OpenSSL License

Copyright © 1998-2001 The OpenSSLProject.

Original SSLeay License

Copyright © 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com)

DHTML Calendar

Copyright Mihai Bazon, 2002, 2003

## ドキュメントの更新

このガイドのタイトル ページには、次の識別情報が含まれています。

- バージョン番号。ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントのリリース日。ドキュメントが更新されるごとに変わります。
- ソフトウェアのリリース日。ソフトウェアのこのバージョンのリリース日を示します。

最近の更新がないか確認したり、最新版を使用していることを確認するには、次の URL に移動してください。

**[ovweb.external.hp.com/lpe/doc\\_serv/](http://ovweb.external.hp.com/lpe/doc_serv/)**

適切な製品サポート サービスを購読している場合にも、更新版や新版を受け取ることができません。詳細は、HP 営業担当者までご連絡ください。

## サポート

次の HP OpenView サポート Web サイトを参照してください。

**[www.hp.com/managementsoftware/support](http://www.hp.com/managementsoftware/support)**

この Web サイトでは、HP OpenView の製品、サービス、サポートに関するお問い合わせ情報が掲載されています。

HP OpenView オンラインソフトウェア サポートでは、お客様自身が問題を解決するのに有益な情報を提供します。ビジネスを管理するのに必要な、対話型技術サポート ツールにアクセスする、素早く効率的な方法を提供しています。サポートを受ける貴重なお客様として、サポートサイトを使って以下のことができます。

- 関心がある知識ドキュメントの検索
- オンラインでの機能拡張要求の提出
- ソフトウェア パッチのダウンロード
- サポート事例の提出と進捗状況の追跡
- サポート契約の管理
- HP サポート連絡先の確認
- 利用可能なサービスに関する情報の確認
- 他のソフトウェア顧客とのディスカッションへの参加
- ソフトウェア トレーニングの検索と登録

サポート エリアのほとんどでは、HP Passport ユーザーとして登録し、サインインする必要があります。

アクセス レベルに関する詳細については、次を参照してください。

**[www.hp.com/managementsoftware/access\\_level](http://www.hp.com/managementsoftware/access_level)**

HP Passport ID に登録するには、次を参照してください。

**[www.managementsoftware.hp.com/passport-registration.html](http://www.managementsoftware.hp.com/passport-registration.html)**



# 目次

<b>第 1 章 はじめに .....</b>	<b>17</b>
対象 .....	17
要約 .....	17
Client Configuration Manager の概要 .....	19
Basic ライセンスの機能 .....	20
Premium ライセンスの機能 .....	21
Client Configuration Manager 管理コンソール .....	22
管理エージェント .....	24
Configuration Management Administrator Publisher .....	26
Image Preparation Wizard .....	27
Settings Migration Manager .....	27
ヘルプの表示 .....	28
<b>第 2 章 Client Configuration Manager のインストール .....</b>	<b>29</b>
システム要件 .....	29
サーバー .....	29
データベース .....	30
ターゲット デバイス .....	30
Client Configuration Manager のインストール .....	32
管理エージェントの手動インストール .....	39
シンクライアントでの 管理エージェントのインストール .....	40
Embedded Linux .....	40
Windows XPe .....	42
Windows CE .....	43
OS 配布用の PXE の設定 .....	43
<b>第 3 章 基本的な使用方法 .....</b>	<b>45</b>
ログイン .....	45
クイック スタート タスク .....	46

## 第 4 章 管理 .....53

デバイス管理.....	53
一般.....	54
デバイス .....	55
デバイスのインポート .....	58
[デバイス] タブからの管理エージェントの配布 .....	58
管理エージェントの削除 .....	58
ソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索 .....	59
パッチ適合性の探索.....	59
アプリケーション利用状況の探索 .....	60
リモート制御.....	60
電源管理.....	61
デバイスの削除.....	61
デバイスの詳細 .....	61
現在のジョブ .....	63
過去のジョブ .....	63
グループ管理.....	63
一般.....	64
グループ タイプ .....	65
グループ .....	66
グループの作成.....	68
管理エージェントのグループへの配布.....	68
管理エージェントのグループからの削除 .....	69
グループに対するソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索 .....	69
グループに対するパッチ適合性の探索.....	70
グループに対するアプリケーション利用状況データの探索 .....	70
電源管理.....	71
グループの削除.....	71
グループの詳細 .....	72
[グループの詳細] ウィンドウのタスク .....	74
スタティック グループでのデバイスの追加と削除.....	74
グループでのソフトウェア エンタイトルメントの追加と削除 .....	75
グループでのソフトウェアの配布、削除、および同期 .....	75
グループでのパッチ エンタイトルメントの追加と削除 .....	76
グループへのパッチの配布.....	77
現在のジョブ .....	77
過去のジョブ .....	77
ソフトウェア管理 .....	78
一般.....	79
ソフトウェア .....	79

ソフトウェアの配布.....	81
グループ エンタイトルメントの追加 .....	82
サービスのインポート .....	82
サービスのエクスポート.....	83
OVCCM からのソフトウェアの削除.....	83
ソフトウェアの詳細.....	83
現在のジョブ .....	87
過去のジョブ .....	87
パッチ管理 .....	87
一般.....	89
パッチ .....	90
パッチの配布.....	91
グループ エンタイトルメントの追加 .....	91
サービスのインポート .....	91
サービスのエクスポート.....	92
パッチの詳細.....	92
現在のジョブ .....	96
過去のジョブ .....	96
OS 管理 .....	96
一般.....	97
OS.....	98
オペレーティング システムの配布 .....	100
Local Service Boot (LSB) を使用した OS イメージの配布 .....	104
PXE を使用した OS イメージの配布 .....	104
サービス CD を使用した OS イメージの配布.....	105
グループ エンタイトルメントの追加 .....	106
サービスのインポート .....	107
サービスのエクスポート.....	107
オペレーティング システムのライブラリからの削除.....	108
OS の詳細 .....	108
現在のジョブ .....	110
過去のジョブ .....	110
ジョブ管理 .....	111
一般.....	111
現在のジョブ .....	112
ジョブ コントロール.....	112
ジョブ ステータス .....	112
ジョブの詳細.....	115
過去のジョブ .....	116

<b>第 5 章 レポート</b> .....	<b>117</b>
検索オプション .....	118
表示オプション .....	118
検索条件.....	118
[レポート] ウィンドウ .....	119
検索オプションを使用したフィルタの選択.....	119
[ディレクトリ/グループ フィルタ] 領域 .....	120
[データ フィルタ] 領域.....	121
表示オプションを使用したレポート ビューの選択.....	123
レポート ビューのタイプ .....	124
インベントリ管理レポート .....	125
パッチ管理レポート.....	125
利用状況管理レポート .....	125
HP ハードウェア レポートの表示 .....	126
[レポート] ウィンドウについて .....	127
Windows アクション バーの使用 .....	128
レポート データからのフィルタの適用.....	130
ダイナミック レポート グループの作成 .....	130
<b>第 6 章 設定</b> .....	<b>133</b>
サポート .....	134
ログ ファイルのダウンロード.....	135
ライセンス情報の更新.....	135
コンソールへのアクセス.....	135
追加コンソール ユーザーの作成 .....	136
コンソール ユーザーの削除 .....	136
コンソール ユーザーの詳細の表示および変更 .....	137
コンソール パスワードの変更.....	137
インフラストラクチャ .....	138
インフラストラクチャ サーバーの管理 .....	139
インフラストラクチャ サービスの配布 .....	140
パッチ管理 - Configuration.....	141
パッチ取得スケジュール .....	142

パッチ取得設定.....	143
OS 管理.....	146
ハードウェア管理.....	147
CMI の設定.....	147
TPM の設定.....	148
レポート.....	149
データベース.....	150
利用状況の設定.....	150
利用状況の収集.....	151
利用状況収集フィルタの設定.....	153
利用状況条件の定義.....	154
メンテナンス.....	156

## 第 7 章 ウィザード..... 157

デバイス インポート ウィザード.....	158
エージェント配布ウィザード.....	159
エージェント削除ウィザード.....	160
ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザード.....	160
パッチ適合性探索ウィザード.....	161
アプリケーション利用状況収集ウィザード.....	162
電源管理ウィザード.....	163
グループ作成ウィザード.....	164
スタティック グループの作成.....	164
ダイナミック探索グループの作成.....	165
ダイナミック レポート グループの作成.....	166
リモート制御ウィザード.....	167
ソフトウェア配布ウィザード.....	168
サービス インポート ウィザード.....	169
サービス エクスポート ウィザード.....	169
ソフトウェア同期ウィザード.....	170
パッチ配布ウィザード.....	171
サービス エンタイトルメント ウィザード.....	172

ソフトウェア削除ウィザード .....	172
ユーザー作成ウィザード.....	173
OS 配布ウィザード.....	174
利用状況収集フィルタ作成ウィザード.....	175
インフラストラクチャ配布ウィザード.....	176
インフラストラクチャ削除ウィザード.....	177
<b>第 8 章 OS イメージの準備と取得.....</b>	<b>179</b>
Windows OS イメージ .....	179
手順 1 – 参照マシンの準備.....	180
手順 2 - Sysprep.inf の作成 .....	183
手順 3 – Image Preparation Wizard の実行.....	185
シンクライアントの OS イメージ .....	194
Windows XPe OS イメージ .....	194
手順 1 – XPe 参照マシンの準備 .....	194
手順 2 – Image Preparation Wizard の実行 .....	195
Windows CE OS イメージ.....	201
手順 1 – CE 参照マシンの準備.....	201
手順 2 – Image Preparation Wizard の実行 .....	202
Embedded Linux OS イメージ.....	205
手順 1 – Embedded Linux 参照マシンの準備 .....	205
手順 2 – Image Preparation Wizard の実行 .....	206
OS イメージのパブリッシュおよび配布 .....	211
<b>第 9 章 Publisher の使用.....</b>	<b>213</b>
ソフトウェアのパブリッシュ .....	214
Windows インストーラ ファイルのパブリッシュ .....	214
[コンポーネントを選択] を使用したパブリッシュ .....	219
オペレーティング システム イメージのパブリッシュ .....	222
HP Softpaq のパブリッシュ.....	223
BIOS 設定のパブリッシュ.....	225
BIOS 設定ファイルの作成.....	228
パブリッシュされたサービスの表示 .....	229
CM Administrator Agent Explorer.....	230

## 第 10 章 Application Self-Service Manager の使用..... 231

Application Self-Service Manager へのアクセス.....	231
Application Self-Service Manager の概要 .....	232
グローバル ツールバー .....	233
メニュー バー .....	233
カタログ リスト.....	234
サービス リスト.....	234
Application Self-Service Manager ユーザー インターフェイスの使用 .....	235
ソフトウェアのインストール.....	237
カタログのリフレッシュ .....	237
情報の表示.....	238
ソフトウェアの削除 .....	238
履歴の表示.....	239
バンド幅の調整.....	240
ステータスの表示.....	240
ユーザー インターフェイスのカスタマイズ.....	241
全般オプション.....	242
サービス リスト オプション .....	243
接続オプション.....	246
OVCМ システム トレイ アイコン .....	247
OVCМ [ステータス] ウィンドウ.....	248

## 第 11 章 Settings Migration..... 251

サポートされるアプリケーションと設定 .....	251
設定テンプレートの作成.....	253
Settings Migration Utility の使用.....	256
設定のバックアップ .....	257
保管された設定およびファイル.....	258
設定の復元.....	259
OS 配布の間の Settings Migration.....	262
File Rules .....	262
File Rules へのアクセス .....	263
[File Rules] ダイアログ ボックス.....	264

アプリケーションサポートの注意点 .....	265
Microsoft Office サポートの注意点 .....	265
Microsoft Office .....	265
Microsoft Access .....	266
Microsoft Excel .....	267
Microsoft Frontpage .....	268
Microsoft InfoPath .....	269
Office アシスタントの設定 .....	269
Office ショートカット バー .....	270
Microsoft OneNote .....	270
Microsoft Outlook .....	270
Microsoft PowerPoint .....	271
Microsoft Project .....	272
Microsoft Publisher .....	273
Microsoft Word .....	273
サポートされる他のアプリケーションと OS に関する注意点 .....	274
ACT! 2000 .....	274
Adobe Acrobat .....	275
Lotus Notes 5.X, 6.X .....	275
Microsoft Internet Explorer .....	276
Microsoft NetMeeting .....	276
Microsoft Outlook Express .....	277
Netscape .....	277
Norton AntiVirus .....	278
Norton AntiVirus Corporate Edition .....	278
Visio .....	278
WinZip .....	280
WordPerfect for Office 2000 .....	280
Dragon Naturally Speaking for WordPerfect .....	281
Corel Utilities .....	281
Corel Quattro Pro .....	281
Corel WordPerfect .....	281
データ転送 .....	282
Windows のオプション .....	282
デスクトップ ショートカット .....	282
ダイヤルアップ ネットワーク .....	282
フォルダ オプション .....	282
ローカルプリンタ ログ .....	283
マッピングされたネットワーク ドライブ .....	283
マイ ドキュメント .....	283
ネットワークおよび共有プリンタの設定 .....	283
ネットワーク設定 .....	283
タスク バーおよびクイック起動バー .....	284
Windows アドレス帳 .....	284

コントロール パネル.....	284
ユーザー補助オプション.....	284
表示.....	284
インターネット オプション.....	284
キーボード.....	284
マウスの設定.....	285
電源管理.....	285
地域の設定.....	285
サウンド.....	285
タイムゾーン.....	285

## 第 12 章 よく寄せられる質問 ..... 287

管理コンソールにはどうやってアクセスしますか?.....	287
どのバージョンを使用しているかは、どのようにしてわかりますか?.....	287
コンソールのパスワードはどのようにして変更できますか?.....	287
自分の環境にあるデバイスの管理を始めるには、どのようにしますか?.....	288
インベントリの収集のスケジュール設定は、どのようにしますか?.....	288
管理対象デバイスのインベントリ情報は、どのようにして表示できますか?.....	289
パッチ取得はどのようにして自動化できますか?.....	289
パッチ適合性探索スケジュールをどのようにして設定しますか?.....	290
管理対象デバイスすべてにソフトウェアを配布するには、どのようにしますか?.....	290
特定の Microsoft パッチを取得するには、どのようにしますか?.....	290
ライセンス キーはどのようにして更新しますか?.....	291
OS サービス パックの対象とするデバイスのグループをどのようにして作成しますか?.....	291
ソフトウェアをある 1 つのデバイスに配布するには、どのようにしますか?.....	292
コンソールを使用せずに管理エージェントをデバイスにインストールするには、 どのようにしますか?.....	292
Windows インストーラ パッケージをパブリッシュするには、どのようにしますか?.....	292
setup.exe をパブリッシュするには、どのようにしますか?.....	293
全デバイスがソフトウェアを正常に受信したのは、どのようにしてわかりますか?.....	293
ソフトウェアをユーザーがインストールできるようにするには、どのようにしますか?.....	293
デバイス適合性レポートを生成するには、どのようにしますか?.....	294
OS イメージを取得するには、どのようにしますか?.....	294

OS イメージにドライバを追加するには、どのようにしますか? .....	294
OS イメージをパブリッシュするには、どのようにしますか? .....	295
OS イメージを配布するには、どのようにしますか? .....	295
利用状況データの収集を開始するには、どのようにしますか? .....	295
サポートに連絡するには、どのようにしますか? .....	296
<b>第 13 章 トラブルシューティング .....</b>	<b>297</b>
ログ ファイル .....	297
エージェント配布の問題 .....	298
OS 配布の問題 .....	299
Application Self-Service Manager の問題 .....	299
電源管理の問題 .....	300
<b>付録 A 2 バイト文字のサポートについて .....</b>	<b>301</b>
サポートされる言語 .....	301
ロケールの変更 .....	301
Sysprep ファイルの 2 バイト文字サポート .....	302

# 第 1 章 はじめに

HP OpenView Client Configuration Manager (OVCCM) は、PC ソフトウェア設定管理ソリューションです。OS イメージの配布、パッチの管理、リモートコントロール、HP ハードウェアのドライバや BIOS の更新、ソフトウェアの配布、利用状況の測定などの、ソフトウェアおよび HP ハードウェア管理機能すべてを、Web ベースの統合コンソールから提供します。

このガイドでは、OVCCM の紹介、製品コンポーネントのセットアップとインストールの方法の説明、管理コンソール、Publisher、Application Self-Service Manager および Image Preparation Wizard を使用するための詳細な情報と手順の提供を行います。OVCCM の機能とコンポーネントの概要については、次のセクションを参照してください。

- [Client Configuration Manager の概要 \(19 ページ\)](#)

## 対象

このガイドは、OVCCM のインストール、設定、および使用を行う管理者を対象にしています。

## 要約

### 第 1 章, はじめに

この章では、OVCCM の概要および利用可能な機能およびコンポーネントを説明します。

### 第 2 章, Client Configuration Manager のインストール

この章では、OVCCM とそのコンポーネントをインストールし設定する詳細な手順を説明します。

### 第 3 章, 基本的な使用方法

この章では、開始方法、最初に行う操作、管理コンソールの使用を始める方法など、OVCCM をすぐに使用するための手順を設定します。

## 第 4 章, 管理

この章では、管理コンソールの [管理] タブとその各機能を詳しく説明します。

## 第 5 章, レポート

この章では、管理コンソールの [レポート] セクションを使用して、レポートを作成、表示する手順を説明します。

## 第 6 章, 設定

この章では、OVCCM のインストール、コンソール アクセスやパッチ、ハードウェア、レポートの設定についての情報を提供します。

## 第 7 章, ウィザード

この章では、OVCCM の各ウィザードの詳細な手順を説明します。

## 第 8 章, OS イメージの準備と取得

この章では、ユーザーの環境にあるデバイスに配布するため、オペレーティングシステム イメージを準備し取得する方法を説明します。

## 第 9 章, Publisher の使用

この章では、OVCCM Publisher の使用手順を説明します。

## 第 10 章, Application Self-Service Manager の使用

この章では、管理エージェントとともにインストールされる Application Self-Service Manager の使用方法を説明します。

## 第 11 章, Settings Migration

この章では、OpenView Settings Migration Manager および Settings Migration Utility を使用した、ユーザー設定のバックアップおよび復元に関する情報を提供します。

## 第 12 章, よく寄せられる質問

この章では、OVCCM およびそのコンポーネントを使用したときに利用できる一般的な管理タスクに関する、よく寄せられる質問を紹介します。

## 第 13 章, トラブルシューティング

この章では、OVCCM の使用中に遭遇する一般的な問題を解決するための情報と手順を説明します。

### 付録 A 2 バイト文字のサポートについて

この付録では、2 バイト文字のサポートに関する情報を提供します。

## Client Configuration Manager の概要

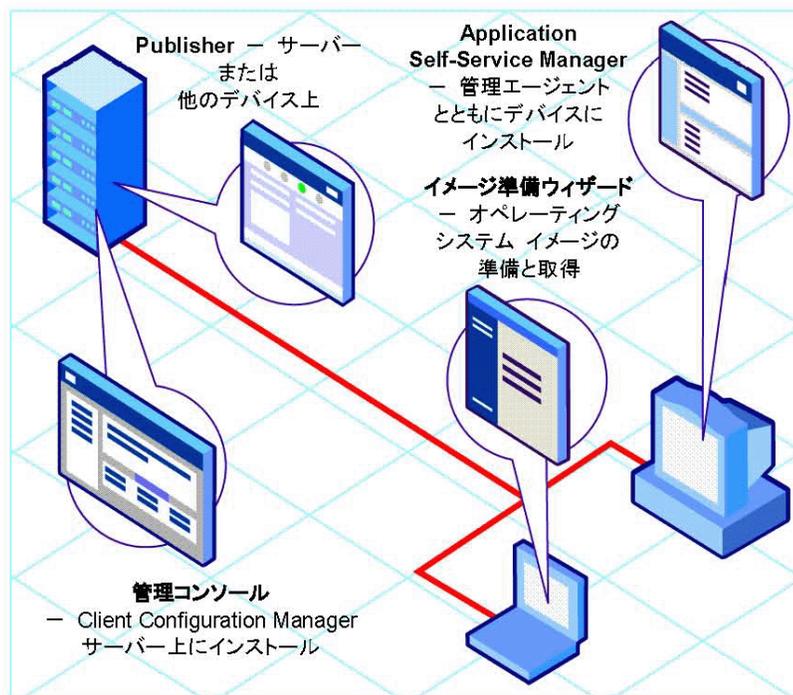
OVCCM では、Basic および Premium という、2 つの製品レベルが利用できます。このガイドには、両製品レベルに関する情報が含まれています。次のセクションで、各ライセンスで利用可能な OVCCM の機能を詳しく説明します。

- [Basic ライセンスの機能 \(20 ページ\)](#)
- [Premium ライセンスの機能 \(21 ページ\)](#)

次のセクションには、各 OVCCM コンポーネントに関する概要が含まれます。

- [Client Configuration Manager 管理コンソール \(22 ページ\)](#)
- [管理エージェント \(24 ページ\)](#)
- [Configuration Management Administrator Publisher \(26 ページ\)](#)
- [Image Preparation Wizard \(27 ページ\)](#)
- [Settings Migration Manager \(27 ページ\)](#)

図 1 OVCCM の環境



## Basic ライセンスの機能

**Basic** 製品レベル ライセンスは、次の管理機能を提供します。

- **ハードウェアおよびソフトウェアのインベントリ**  
BIOS 設定情報など、管理対象の HP デバイスに対して、ハードウェアおよびソフトウェアのインベントリ収集が利用できます。デバイスで収集されたインベントリ情報は、中央コンソールで表示できます。レポート ツールでは、データを詳細にまたはグラフィック表示で表示します。簡単にフィルタ処理をして、特定の条件にマッチするデバイスを表示できます。
- **ハードウェア警告のレポート**  
OVCCM Basic が管理するデバイスは、ファンが故障している、シャーシが開いている、などのハードウェア警告をクライアントデバイス上に、または中央コンソールにレポートするように、中央で設定できます。HP Client Management Interface (CMI) を使用して、他のハードウェア コンポーネントが影響を受ける前に、管理者は、修理すべきシステムを確認できます。

- **Softpaq 管理**  
自動的に環境のデバイスに適用できる **Softpaq** を取得します。また、BIOS、デバイスドライバまたは **HP** が提供するアプリケーションの更新に、デバイスが **Softpaq** を必要とするかどうかを判断し、デバイスに **Softpaq** を配布します。これらはすべて中央コンソールから行います。コンソールのレポート領域では、取得して適用可能などの **Softpaq** が、デバイスに適用されたか、まだ適用されていないか、に関する情報を提供します。
- **BIOS 管理**  
**OVCCM Basic** では、BIOS の保護、デバイスでの起動順序の調節、**Wake-on-LAN** の有効化、または他の BIOS 設定の調節を行うため、パスワードを使用できます。**OVCCM** は、環境の **HP** デバイスの現在の BIOS 設定を判断し、希望の設定になるように BIOS 設定を更新できます。
- **ProtectTools 管理**  
**ProtectTools** のセキュリティ設定を行います。
- **リモート管理**  
管理者は、コンソールの統合リモート コントロール機能を使用して、問題が発生したデバイスを管理できます。リモート コントロールの他に、電源のオフ、デバイスの再起動や **Wake-On-LAN** などの、コンソール内蔵の電源管理機能が備わっています。
- **シンクライアント管理**  
**Windows XPe**、**CE** および **Embedded Linux** を実行している **HP** シンクライアント デバイスへオペレーティング システムおよびソフトウェアを配布します。

## Premium ライセンスの機能

**Premium** 製品レベルのライセンスでは、上で説明した、**Basic** ライセンスで利用可能な全機能に加えて、次の追加機能が利用できます。

- **OS の配布**  
**Windows 2000** または **Windows XP** を **PC** クライアント デバイスに配布します。オペレーティング システムは、オペレーティング システムをインストールしていないデバイスまたは既存の **Windows** オペレーティング システムを現在実行しているデバイスに配布できます。
- **Settings migration**  
ユーザーの設定およびファイルは、マシンからマシンに移動できます。あるいは、同じデバイスでのインプレース移行では **OS** から **OS** へ移行できます。設定の移行は、製品バージョンが異なってもサポートされます。たとえば、**Office XP** から **Office 2003** へ設定を移行できます。
- **ソフトウェアの配布**  
環境内の管理対象デバイスへパッケージ化されたソフトを配布します。ソフトウェアは、ローカル接続またはリモート接続の **PC** に配布できます。デバイスが、ネットワーク上にあるが、配布ジョブが実行されたときに電源がオフになっている場合、配布プロセスの一部として、デバイスの電源をオンにすることができます。

- **Microsoft パッチ管理**  
OVCCM Premium は、環境内の Microsoft パッチを管理できます。パッチは、Microsoft から自動的に取得します。取得の後、管理対象のデバイスは、パッチの適合性を判断し、パッチがデバイスに配布可能になります。パッチが配布された後、パッチが対応しているセキュリティ脅威からデバイスが保護されていることが、定期的に確認されます。
- **インベントリおよびソフトウェア利用状況の収集**  
ハードウェアおよびソフトウェアのインベントリ収集に加えて、OVCCM Premium は、ソフトウェア使用状況を収集できます。利用状況の情報を使用して、ライセンスの適合性を判断したり、環境でどのソフトウェアライセンスが必要であるかを判断できます。管理者は、OVCCM の利用状況管理追跡、レポート機能を使って、ソフトウェアライセンスの数が多すぎないか、不十分ではないか、判断できます。
- **リモート コンテンツ管理**  
リモート オフィスをよりよく推進するため、OVCCM Premium は、リソースを提供するインフラストラクチャ サーバーを配布できます。これにより、クライアント デバイスは、速度がより遅いワイドエリア ネットワーク接続からリソースを取得する代わりに、よりローカルなソースからそのリソースを取得できます。

## Client Configuration Manager 管理コンソール

管理コンソールは、メインとなる Web インターフェイスです。これを使って、デバイス、ソフトウェア、オペレーティング システムおよびパッチの管理だけでなく、これらの管理対象デバイスをベースにレポートを作成、表示できます。

下の図に表示された 管理コンソール領域を確認してください。

図 2 OVCCM 管理コンソール



凡例

- a コンソール タブー コントロールの上部に位置する一連のタブで、3 つのメイン コンソール領域を移動できます
- b ワークスペース タブー各セクション内に表示されるタブ
- c コンテンツー コンソール タブ内で利用可能なセクション
- d ワークスペース – コンテンツが表示される主要領域

コンソールの [レポート] タブは、[管理] タブや [設定] タブとは、レイアウトが多少異なります。[検索] オプションと [表示] オプションが、左に表示され、レポートクエリの結果が、右のワークスペースに表示されます。

図 3 管理コンソールの [レポート] セクション



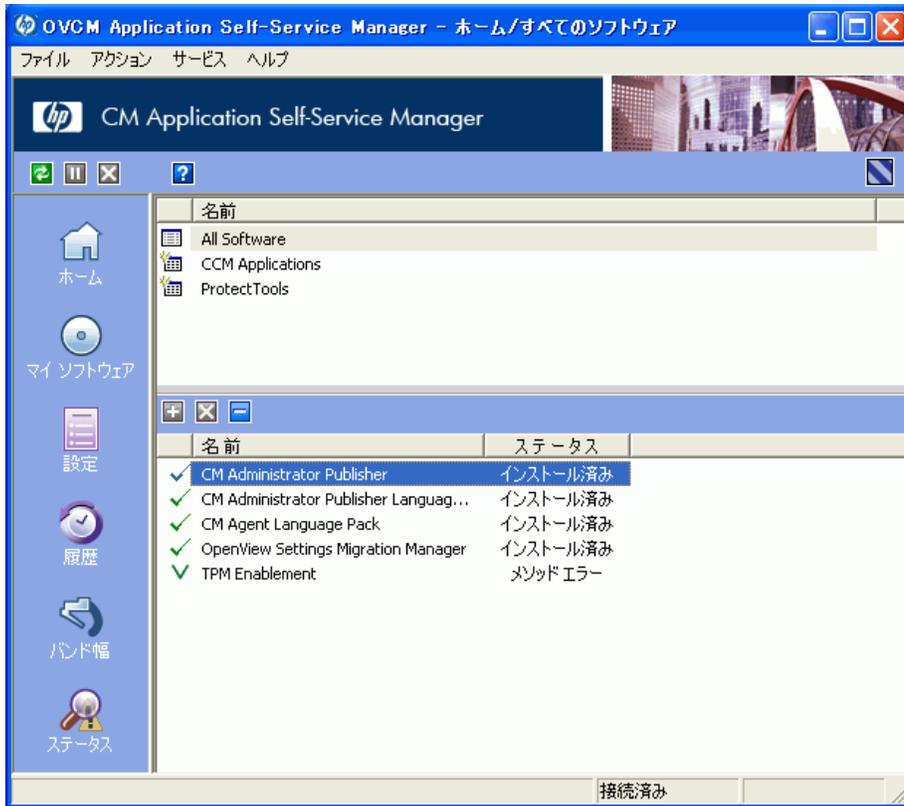
## 管理エージェント

管理エージェントを使用して、OVCCM にインポートされたデバイスを管理します。管理者は、管理エージェントをデバイスに配布してから、そのデバイスまたはデバイスのグループにソフトウェアやパッチのエンタイトルメント設定とインストールを行います。

- Application Self-Service Manager**  
 管理エージェントがデバイスに配布されると、Application Self-Service Manager がインストールされ、そのデバイスにエンタイトルメントが設定されたソフトウェアをユーザーが管理できるようになります。

詳細については、231 ページの「[Application Self-Service Manager の使用](#)」を参照してください。

図 4 CM Application Self-Service Manager



### ソフトウェアのインストール

管理対象デバイスにソフトウェアをインストールする方法は2つあります。

ユーザーが、**Application Self-Service Manager** からエンタイトルメントが設定されたソフトウェアを選択して、ユーザーの判断でインストールします。詳細については、231 ページの「**Application Self-Service Manager の使用**」を参照してください。

管理者は、OVCCM から直接、管理対象デバイスにソフトウェアのエンタイトルメントを設定したり、ソフトウェアを配布します。エンド ユーザーとの対話は必要ありません。詳細については、78 ページの「**ソフトウェア管理**」を参照してください。

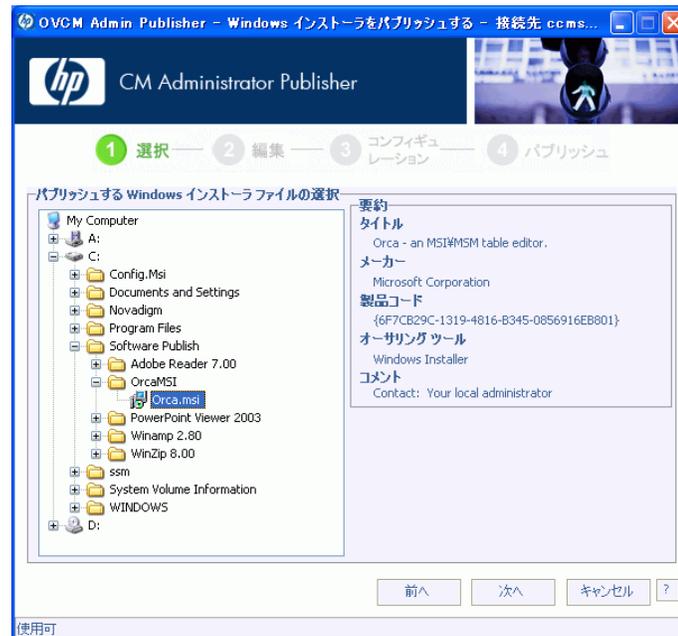
## Configuration Management Administrator Publisher

**Publisher** は、OVCCM データベースへソフトウェア、オペレーティング システムのイメージ、BIOS 設定または **HP Softpaq** をパブリッシュするために使用します。その後、ソフトウェアサービスのエンタイトルメント設定を行い、ユーザー環境の管理対象デバイスに配布できます。

▶ **サービス**は、ソフトウェア ライブラリ、パッチ ライブラリまたは OS ライブラリの任意のエントリです。サービス **インポート デッキ**または**エクスポート デッキ**には、ある特定のサービスをインストールするのに必要なコンポーネント (ファイルおよびフォルダ構造など) をすべて格納しています。

**Publisher** は、ソフトウェア サービスの選択と設定を行うデバイスにインストールする必要があります。**Publisher** をインストールするには、OVCCM インストール CD にある **Configuration Management Administrator** インストールファイルを使用できます。または、管理対象デバイスへの配布のため、ソフトウェア ライブラリで利用可能な **CM Administrator Publisher** サービスを使用できます。

図 5 **Publisher**



詳細については、213 ページの「**Publisher** の使用」を参照してください。

- **Configuration Management Agent Explorer**  
Agent Explorer は、CM Administrator のコンポーネントであり、Publisher とともにインストールされます。Agent Explorer は、トラブルシューティングや問題解決の支援に利用できますが、HP サポートから直接指示を受けてから、使用してください。

## Image Preparation Wizard

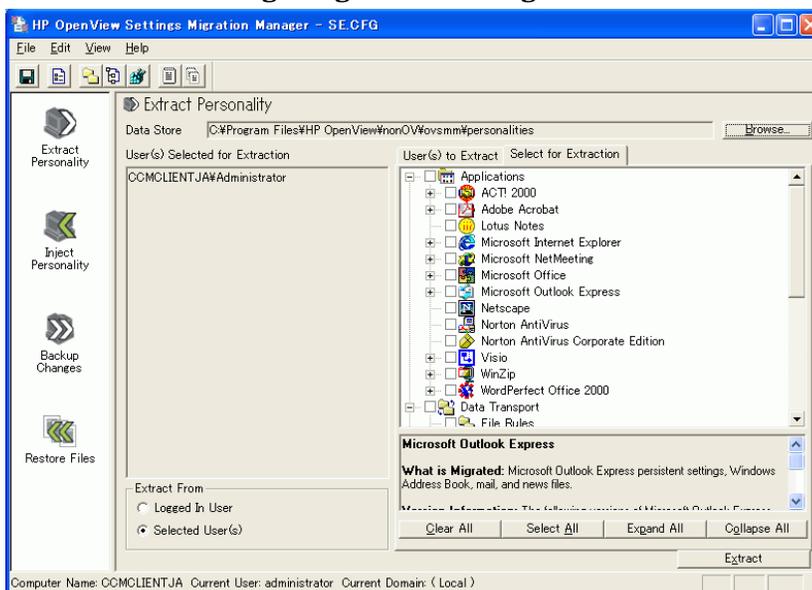
Image Preparation Wizard は、デバイス上でオペレーティング システムをローカルに準備し取得します。このウィザードは、OVCCM CD-ROM から利用可能な、Image Preparation Wizard CD ISO の一部です。

詳細な指示は、179 ページの「OS イメージの準備と取得」を参照してください。

## Settings Migration Manager

OVCCM サーバー上で Settings Migration Manager を使用して、管理対象デバイス上のアプリケーションやオペレーティング システム用のユーザー設定を取得するためのテンプレートを指定します。

図 6 Settings Migration Manager



指定したら、Settings Migration Utility サービスを管理対象デバイスへ配布します。ユーティリティを使用して、OVCCM サーバー上で指定された設定テンプレートに基づいて、設定のバックアップと復元を行います。

詳細については、251 ページの「Settings Migration」を参照してください。

## ヘルプの表示

ウィンドウの右上角にある Help  ボタンをクリックすると、OVCCM オンラインヘルプが表示されます。

図 7 OVCCM コンソールのオンラインヘルプ



コンソールの他に、Publisher、Application Self-Service Manager および Image Preparation Wizard でも、このガイドの情報に基づいたそれぞれのオンラインヘルプが利用できます。

## 第 2 章 Client Configuration Manager のインストール

この章では、HP OpenView Client Configuration Manager およびそのコンポーネントをインストールし設定する方法を説明します。次の各セクションでは、OVCCM、Publisher および 管理エージェントの具体的なインストール指示と要件を説明しています。

- システム要件 (29 ページ)
- Client Configuration Manager のインストール (32 ページ)
- Publisher のインストール (37 ページ)
- 管理エージェントの手動インストール (39 ページ)

### システム要件



OVCCM では、10,000 台までのデバイスに対してソフトウェア、パッチ、およびインベントリの管理を行うことを推奨します。

### サーバー

- 最低 2GHz CPU のデュアルプロセッサ構成の専用サーバー
- 4 GB の RAM
- Windows 2000 Server、Windows 2000 Advanced Server、Windows Server 2003 Standard Edition、Windows Server 2003 Enterprise Edition

## データベース

- ローカルにインストールされているか、OVCCM サーバーからリモートにアクセス可能な、**Microsoft SQL Server 2000 SP3** 以上 (**SQL Server Personal Edition** は、テストまたはデモンストレーション目的にのみ推奨します)。
- **SQL Server** は、混在モード認証を使用するように設定する必要があります。



**Windows 2000 Server** に **OVCCM** をインストールしている場合、ローカルシステムに最新の **Microsoft Data Access Component** をインストールしておきます (これは、**SQL Server** にリモートでアクセスするのに必要です)。詳細は [www.microsoft.com](http://www.microsoft.com) を参照してください。

## ターゲット デバイス

- 管理対象デバイスには、**Service Pack 4** を適用した **Windows 2000 Professional** または **Windows XP Professional** をインストールしておく必要があります。
- 管理対象の **HP** シンクライアント デバイスには、**Windows CE**、**XPe**、または **Embedded Linux** をインストールしておく必要があります。
- ファイルと印刷の共有を有効にします。
- **Active Directory** の一部でない **Windows XP** を実行するターゲットデバイスについては、簡易ファイルの共有を無効にする必要があります。
- **TPM** 対応システムでは、**Infineon Driver version 2.00** 以降が必要です。



OVCCM は、管理対象デバイスとの通信に、複数の TCP ポートを使用します。企業または個人向けのファイアウォールソフトウェアを使用している場合、これらのポートを除外しなければなりません。

**クライアントデバイス:** クライアントデバイスに個人向けファイアウォールがインストールされている場合、受信トラフィックに対して次のポートを除外します。

- TCP 3463

次のポートを除外して、管理エージェントのリモート配布を可能にします。

- TCP 139 および 445
- UDP 137 および 138

このポートに加えて、次のプログラム ファイルをファイアウォールから除外します。

- C:\Program Files\Novadigm\RadUIShell.exe
- C:\Program Files\Novadigm\Radexecd.exe
- C:\Program Files\Novadigm\nvdkit.exe
- C:\Novadigm\ManagementAgent\nvdkit.exe

**OVCCM サーバー:** 企業ファイアウォールがインストールされている場合、次のポートをサーバー上の TCP トラフィックについて除外しなければなりません:

3460、3464、3465、3466、3467、3468、3469、3470 および 3480

▶ Windows XPE シンクライアントデバイスには、Sygate ファイアウォールがプレインストールされています。OVCCM が動作できるように Sygate を設定しなければなりません。

- 1 管理者として Windows XPE へログオンします。
- 2 システムトレイの Sygate アイコンを右クリックして、**[Advanced Rules...]** を選択します。
- 3 [一般] タブで：
  - 説明 **[Allow OVCCM All]** を追加します
  - **[Allow this traffic]** を選択します
- 4 [アプリケーション] タブで、ブラウズ ボタンを使用して、C:\Program Files\Novadigm から次のアプリケーションを追加します：
  - Nvdkit
  - Radconct
  - Radpinit
  - Radexecd
  - Radstgrq
- 5 各項目の隣のチェック マークで、各項目が選択されていることを確認します。
- 6 **[OK]** をクリックして、新しいルールを保存します。
- 7 **[OK]** をクリックして終了します。
- 8 システムトレイの **[Enhanced Write Filter (EWF)]** アイコンを右クリックして、**[commit]** を選択します。再起動するようという指示が表示されます。これで、変更がフラッシュメモリに書き込まれます。

## Client Configuration Manager のインストール

次のセクションでは、OVCCM のインストールと設定に必要な手順を説明します。手順 1 と 2 はこの順序で完了しなければなりません。

- 1 インストール前 — データベースのセットアップ (33 ページ)
- 2 Client Configuration Manager のインストール (33 ページ)
- 3 Publisher のインストール (37 ページ)

## タスク1 インストール前 – データベースのセットアップ

OVCCM をインストールする前に、最初に SQL Server のデータベースをセットアップしなければなりません。これには、OVCCM に使用する SQL Server に、付属のデータベース ファイル (CCMDB\_Data.MDF) をアタッチします。

### OVCCM データベースをアタッチするには

- 1 OVCCM メディアから、データベース フォルダを SQL Server がアクセスできる場所にコピーします。
- 2 SQL Server Enterprise Manager を開いて、希望する SQL Server の下 (たとえば、ローカル) で **[データベース]** をクリックして強調表示します。
- 3 [ファイル] メニューから、**[操作] > [すべてのタスク] > [データベースのアタッチ]** をクリックします。
- 4 コピーしたデータベース フォルダに移動して、**CCMDB\_Data.MDF** を選択します。

— データベースのアタッチメントを設定して、データベースのオーナー名を **sa** (または、データベース管理者が割り当てた適当な名前) とし、**CCMDB** としてアタッチします。

▶ Windows 認証を使用している場合、データベースのオーナー名は **sa** 以外でもかまいません。

— SQL Server 名、admin ユーザーの ID およびパスワードが、OVCCM のインストールの間に必要となります。

これでデータベースがアタッチされました。次のセクションでは、OVCCM のインストールについて詳しく説明します。

## タスク2 Client Configuration Manager のインストール

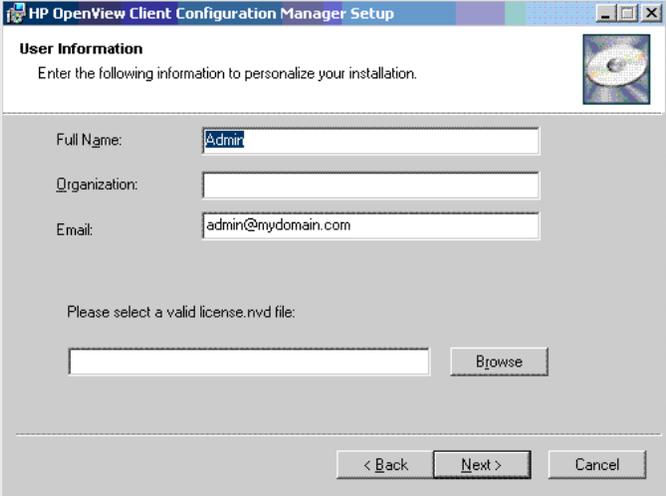
ユーザーの環境にある専用サーバーに OVCCM をインストールします。

▶ OVCCM をインストールする前に、最初に SQL Server のデータベースをセットアップしなければなりません。データベースのセットアップ手順は前のセクションを参照してください。

### OVCCM をインストールするには

- 1 OVCCM メディアの **hpccm.exe** をダブルクリックします。  
[Welcome] ウィンドウが表示されます。
- 2 **[Next]** をクリックします。  
[License Agreement] ウィンドウが表示されます。

- 3 ライセンス契約を読んで承諾し、**[Next]** をクリックします。  
[User Information] ウィンドウが表示されます。



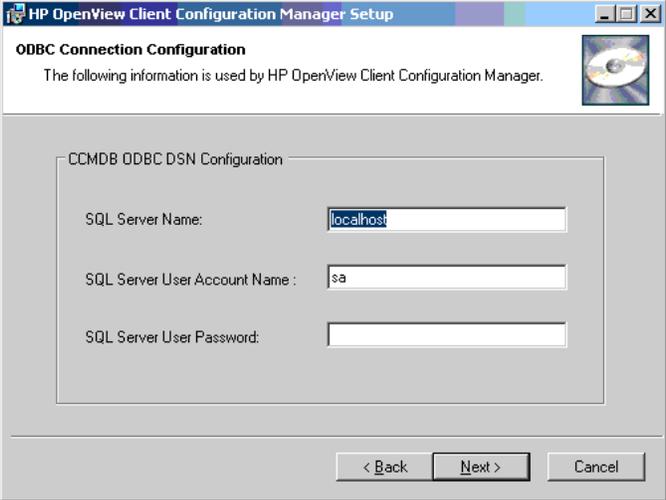
The screenshot shows the 'User Information' dialog box. The title bar reads 'HP OpenView Client Configuration Manager Setup'. The main text says 'Enter the following information to personalize your installation.' There are three input fields: 'Full Name' with 'Admin' entered, 'Organization' (empty), and 'Email' with 'admin@mydomain.com' entered. Below these is a section for license files: 'Please select a valid license.nvd file:' followed by an empty text box and a 'Browse' button. At the bottom are '< Back', 'Next >', and 'Cancel' buttons.

- 4 ユーザー情報および license file の場所を入力して、**[Next]** をクリックします。



license file の名前は license.nvd でなければなりません。  
license file の名前がこれと異なる場合は、そのファイルの名前を license.nvd に変更します。

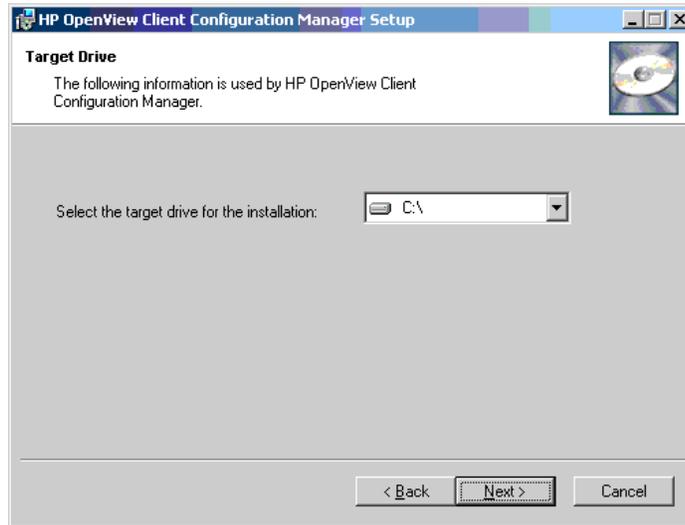
[ODBC Connection Configuration] ウィンドウが開きます。



The screenshot shows the 'ODBC Connection Configuration' dialog box. The title bar reads 'HP OpenView Client Configuration Manager Setup'. The main text says 'The following information is used by HP OpenView Client Configuration Manager.' There is a section titled 'CCMDB ODBC DSN Configuration' containing three input fields: 'SQL Server Name' with 'localhost' entered, 'SQL Server User Account Name' with 'sa' entered, and 'SQL Server User Password' (empty). At the bottom are '< Back', 'Next >', and 'Cancel' buttons.

- 5 OVCCM データベースへの ODBC DSN 接続を設定します。SQL Server 名、ユーザー アカウント、およびユーザー パスワードを入力して、[Next] をクリックします。

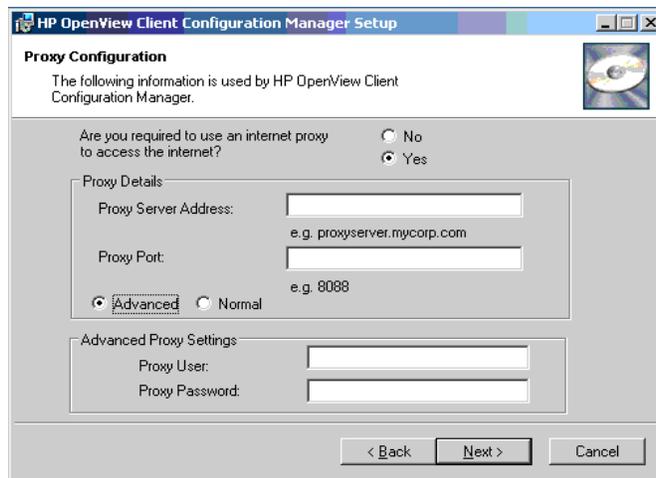
[Target Drive] ウィンドウが開きます。



- 6 ターゲットのインストール ドライブを選択して、[Next] をクリックします。

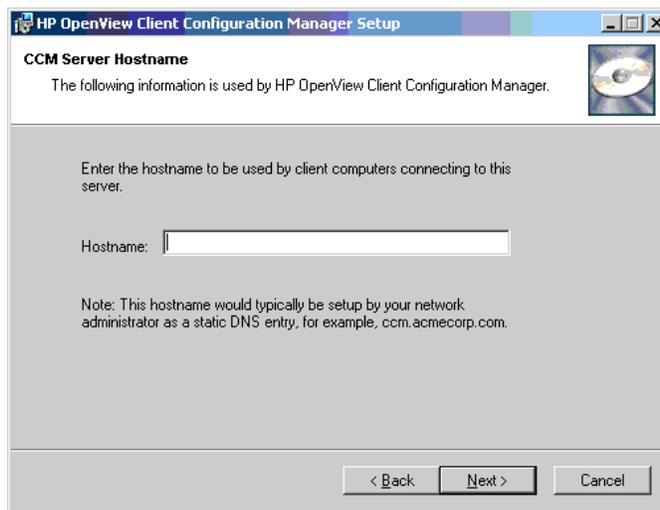
[Proxy Configuration] ウィンドウが開きます。

- 7 インターネットにアクセスするのに、インターネットプロキシを使用する必要がある場合、[Yes] をクリックして、[Proxy Details] および [Advanced Proxy Settings] を表示します。使用する必要がある場合、デフォルトの [No] を承諾し、手順 10 を続けます。



- 8 必要な場合、必要なプロキシの詳細と高度な設定を入力して、**[Next]** をクリックします。

**[CCM Server Hostname]** ウィンドウが開きます。



- 9 このサーバーに接続しているクライアント コンピュータで使用されるホスト名を入力します。

▶ 通常、このホスト名はネットワーク管理者により、たとえば **OVCCM.acmecorp.com** のように、スタティック DNS エントリとしてセットアップされます。これにより、クライアント コンピュータは、コンピュータ名や IP アドレスが変更された場合でも、OVCCM サーバーへのアクセスを続けることができます。

- 10 **[Next]** をクリックします。

**[Ready to Install the Application]** ウィンドウが表示されます。

- 11 インストール設定を変更したい場合は、**[Back]** をクリックします。インストールの準備ができたなら、**[Next]** をクリックします。

- 12 OVCCM がインストールされます。**[Close]** をクリックして、アプリケーションを終了します。

### Client Configuration Manager コンソールの起動

OVCCM をローカルで起動する場合、**[HP OpenView Client Configuration Manager Console]** デスクトップアイコンをダブルクリックします。

または、環境にある任意のデバイスから Web ブラウザを使用して、OVCCM コンソールにアクセスできます (Microsoft Internet Explorer 6 以上が必要です)。

- <http://OVCCMhost:3480/CCM> に移動します。  
この場合の *OVCCMhost* は、OVCCM がインストールされているサーバーの名前です。  
[ログイン] ページで、ユーザー名とパスワードを入力し、[サインイン] をクリックします。デフォルトでは、ユーザー名は **admin**、パスワードは **secret** です。

▶ **Windows 2003 Server** に関する注意 : **Windows 2003 Server** をインストールしたデバイスで OVCCM へのローカルなアクセスができるようにするには、そのデバイスの [ローカル エリア ネットワーク (LAN) 設定] で [ローカル アドレスにはプロキシ サーバーを使用しない] を必ずチェックします。

▶ [レポート] セクションのグラフィカル レポートを表示するには、**Java Runtime** または **Virtual Java Machine** が必要です。詳細は、<http://java.com/en/index.jsp> を参照してください。

### Client Configuration Manager の削除

サーバーから OVCCM を削除するには、OVCCM インストール プログラム (*hpccm.exe*) を使用します。

OVCCM を削除するのに **Windows** コントロール パネル アプレット [プログラムの追加と削除] を使用する場合、複数のファイルおよびフォルダがサーバー上に残るので、手動で削除する必要があります (ディレクトリ *C:\Novadigm* および初期インストールから追加、変更されたファイル)。

#### サーバーから OVCCM を削除するには

- 1 OVCCM サーバーの **hpccm.exe** をダブルクリックします。
- 2 **[Remove]** を選択して **[OK]** をクリックします。  
OVCCM がサーバーから削除されます。

### タスク 3 Publisher のインストール

ソフトウェアを OVCCM にパブリッシュする元となる場所に **Publisher** をインストールします。

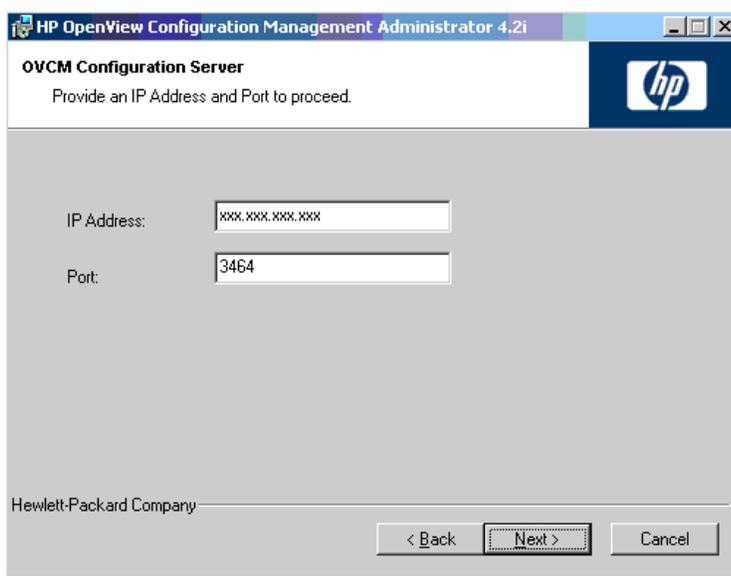
製品 CD に含まれるインストール ファイルの他に、OVCCM ソフトウェア ライブラリでは、管理対象デバイスへの配布に **Publisher** サービス、**CM Administrator Publisher** が利用できます。これらの方法のいずれかを使用して、次のセクションで説明するように **Publisher** をインストールします。

- インストール プログラムを使用して **Publisher** をインストールするには (38 ページ)

- **Software Publisher** サービスを使用して **Publisher** をインストールするには (39 ページ)

### インストール プログラムを使用して **Publisher** をインストールするには

- 1 **Publisher** をインストールしたいデバイスで、OVCCM メディアの **RadAdmin** ディレクトリに移動し、**Radadmin42i\_CCM.msi** をダブルクリックします。  
[Welcome] ウィンドウが表示されます。
- 2 インストールを開始するには、[Next] をクリックします。  
[End-User License Agreement] ウィンドウが表示されます。
- 3 ライセンス契約を読んで承諾し、[Next] をクリックします。



- 4 OVCCM サーバーの IP アドレスまたはホスト名を入力します。  
デフォルトのポート **3464** は変更しないでください。
- 5 [Next] をクリックします。  
[Ready to Install the Application] ウィンドウが表示されます。
- 6 [Install] をクリックしてインストールを開始します。
- 7 インストールが完了したら、[Finish] をクリックします。

## Software Publisher サービスを使用して Publisher をインストールするには

- 1 管理エージェントを配布して、ターゲット デバイスを管理します。詳細は、58 ページの「[\[デバイス\] タブからの管理エージェントの配布](#)」を参照してください。
- 2 **Software Publisher** サービスに対するエンタイトルメントをデバイスに設定します。最初にグループにそのデバイスを追加してから、エンタイトルメントを割り当てます。詳細については、63 ページの「[グループ管理](#)」を参照してください。
- 3 **OVCCM** ソフトウェア ライブラリで利用可能な **CM Administrator Publisher** サービスを配布します。ソフトウェア配布に関する指示は、78 ページの「[ソフトウェア管理](#)」を参照してください。

配布してから、**Publisher** を使用して、ソフトウェアや **HP Softpaq**、**BIOS** 設定、**OS** イメージ サービスをパブリッシュできます。

### Publisher へのアクセス

- **[スタート]** メニューを使用して **Publisher** にアクセスします。

**[スタート]** > **[すべてのプログラム]** > **[HP OVCM Administrator]** > **[CM Administrator Publisher]**



OVCCM 管理コンソールのユーザー名とパスワードを使用して、**Publisher** にログインします。デフォルトでは、ユーザー名は **admin**、パスワードは **secret** です。

**Publisher** に関する詳細は、213 ページの「[Publisher の使用](#)」、または **Publisher** のオンライン ヘルプを参照してください。

## 管理エージェントの手動インストール

ネットワークに常時接続されているとは限らないデバイスを管理するには、管理エージェントを手動でインストールします。**OVCCM** メディアには、必要なコンポーネントをインストールするための個別のファイルが含まれています。

管理エージェントがインストールされた後、クライアント デバイスは **OVCCM** データベースに自動的に追加されます。



管理エージェントはシンクライアント デバイスには配布できないので、手動でインストールする必要があります。詳細な指示は、40 ページの「[シンクライアントでの管理エージェントのインストール](#)」を参照してください。

### 管理エージェントを手動でインストールするには

- 1 コマンドラインを使用して、OVCCM メディアの RadAgent ディレクトリに移動します。
- 2 **setup.cmd host** と入力します。この場合の host は OVCCM サーバーの IP アドレスまたはホスト名です。
- 3 **Enter** キーを押します。

管理エージェントがインストールされ、デバイスは OVCCM を使用した管理の準備ができました。

## シンクライアントでの 管理エージェントのインストール

ネットワークに常時接続されているとは限らないデバイスの他に、管理したいシンクライアント デバイスにも管理エージェントを手動でインストールする必要があります。

### Embedded Linux

OVCCM 管理エージェントのインストールには、/mnt ファイル システム上に最低 3 MB の空き領域が必要です。シンクライアント モデルおよび関連するイメージには、エージェントをインストールする十分な領域を持たないものがあります。現在のところ、**32 MB** のフラッシュ メモリしか持たないモデルでは、エージェントをローカルにインストールできません。後述の **NFS** 共有からの実行に関する注意および **OS** の配布に **Local Service Boot (LSB)** を使用する際の制限を参照してください。

現在のモデル：

- **モデル T5525:** 256MB のフラッシュ メモリ。エージェントをローカルにインストールできます。
- **モデル t5515:** 32 MB および 128 MB イメージをサポートします。128 MB イメージを使用して、エージェントをローカルにインストールできます。
- **モデル t5125:** 32 MB のフラッシュ メモリ。エージェントをローカルにインストールできません。

### Embedded Linux に管理エージェントをインストールするには

- 1 ターゲットのシンクライアント デバイスに **root** としてログインします。
- 2 /mnt/opt/OVCM という名前の新しいディレクトリを作成します。

- 3 OVCCM メディアの `/ThinClient/Linux` ディレクトリにある `ThinClient.tar` の内容を `/mnt/opt/OVCCM` にコピーします。

デバイスのモデルによっては、`/tmp` または別のマシンでこれらのファイルを展開する必要があります。モデルによっては、`tar` ファイルと展開された内容を両方とも格納する十分なディスク領域がないためです (約 7 ~ 8 MB の空き領域が必要です)。展開した後は、`ThinClient.tar` を削除できます。

- 4 カレントディレクトリを `/mnt/opt/OVCCM` に変更して、次のように入力しインストールを実行します：

```
./install -i OVCCM_Server
```

この場合の `OVCCM_Server` は OVCCM サーバーのホスト名または IP アドレスです。

管理エージェントがインストールされます。

- ▶ これらのデバイスでは出荷時に、DNS サーバーとの連絡や登録の機能が備えられていません。そのため、このデバイスには `ping` を実行できない場合があります。また、ファクトリーイメージに作成された `hosts` ファイルには、デフォルトのホスト名として `'localhost.localdomain'` が、またエイリアスとして (実際の) 割り当てられたホスト名が使用されています。結果として、管理エージェントはそのデバイスを `localhost.localdomain` として登録します。割り当てられたホスト名を反映するため、`hosts` ファイルでの順序を変更して、`127.0.0.1` エントリのリストの最初に、割り当てられたホスト名を移動できます。

- ▶ これらのデバイスの管理には、BIOS に有効なシリアル番号とマシン UUID が含まれている必要があります (アセット タグの設定も推奨します)。これらの設定を行わないと、OS の配布が正しく実行されない場合があります。

32 MB のフラッシュメモリしかないモデルを使用している場合、管理エージェントをローカルにインストールできません。また、OS イメージを配布するための [ローカル サービスの起動] オプションは使用できないので、そのためには PXE を使用する必要があります。

#### NFS 共有からリモートにエージェントを実行するには

- 1 インストールスクリプトを更新して、`MEDIA_RAM_ROOT` および `INFRA_MEDIA_ROOT` 変数が NFS ディレクトリを指すように変更します。

- 2 ディレクトリ /mnt/opt/OVCM を作成し、インストール スクリプトをこの場所に置き、インストール パッケージの残りの部分(thinclient.tar)を NFS ディレクトリに置きます。
- 3 上の手順 4 で説明したようにインストールを実行します。

#### Embedded Linux から管理エージェントを削除するには

Embedded Linux から管理エージェントを削除するには、**uninstall** スクリプトを使用します。

- 1 Embedded Linux デバイスに **root** としてログインします。
- 2 /tmp/OVCM/IDMSYS に移動します。
- 3 ./uninstall と入力して、**Enter** キーを押します。  
管理エージェントが削除されます。

## Windows XPe

#### Windows XPe に管理エージェントをインストールするには

- 1 Windows XPe シンクライアント デバイスから OVCCM メディアにアクセスします。
- 2 OVCCM メディアで、SystemDrive:\ThinClient\XPE に移動します。
- 3 **setup.exe** をダブルクリックします。
- 4 インストールの指示に従います。
- 5 IP アドレスとポート番号の入力を要求されたら、OVCCM サーバーの IP アドレスとポート番号を入力します。

管理エージェントがインストールされます。

#### Windows XPE から管理エージェントを削除するには

Windows XPE から管理エージェントを削除するには、インストール プログラム **setup.exe** を使用します。

- 1 **setup.exe** をダブルクリックします。
- 2 **[Remove]** を選択します。
- 3 **[OK]** をクリックします。  
管理エージェントが削除されます。

## Windows CE

### Windows CE に管理エージェントをインストールするには

- 1 Windows CE シンクライアント デバイスから OVCCM メディアにアクセスします。
- 2 OVCCM メディアで、SystemDrive:\ThinClient\WinCE に移動します。
- 3 **radskman.X86.CAB** をダブルクリックします。
- 4 OVCCM サーバーの IP アドレスまたはホスト名を入力して、**[OK]** をクリックします。

管理エージェントがインストールされます。

### Windows CE から管理エージェントを削除するには

- Windows のコントロールパネル アプレット **[プログラムの追加と削除]** を使用して、管理エージェントを Windows CE から削除します。

## OS 配布用の PXE の設定

PXE を使用して、オペレーティング システム イメージの配布を行う場合、次の手順を使用して、DHCP サーバーおよび TFTP サーバーを設定します。

- ▶ OVCCM は、TFTP サーバーおよび DHCP サーバーがユーザーの環境にすでに存在することを前提としています。これらは、OVCCM メディアには含まれていません。

## OS 配布用に PXE を設定するには

- DHCP サーバーが、ブートファイル (DHCP オプション 067) および ブートサーバー (DHCP オプション 066) を使用するよう設定します。
  - OVCCM で使用されるブートファイルは **rombl.0** です。
  - ブートサーバーは、TFTP サーバーを実行している IP アドレスを指している必要があります。
- TFTP サーバーがブートファイルを提供するよう設定します。
  - OVCCM CD-ROM の \OSManagement\PXE\ ディレクトリの内容を TFTP サーバーにコピーします。
  - 新しくコピーされた \linux.cfg ディレクトリで、default ファイルを OVCCM サーバーを指すように編集します。この設定ファイルは、サーバーのホスト名ではなく IP アドレスを使用する必要があることに注意してください。デフォルトの設定ファイルの例を次にあげます：

```
DEFAULT bzImage  
  
APPEND initrd=rootfs.gz root=/dev/ram0 rw ip=dhcp  
ISVR=192.168.1.11 ISVRPORT=3469
```

上の例では、OVCCM サーバーの IP アドレスは **192.168.1.11** であり、OS 管理用に使用されるポート番号は **3469** です。



**PXE** は DHCP ブロードキャスト、マルチキャスト、または UDP プロトコルを使用し、ブロードキャストを受信します。ブロードキャストトラフィックがサブネット間で制限されている場合、**PXE** サーバーを各サブネットに置き、ブロードキャストを有効にするか (これはオプションにない場合があります)、DHCP ヘルパー機能を使用して DHCP ブロードキャストトラフィックを通過させる必要があります。この状況は、標準の DHCP サーバーの状況と似ているので、ネットワーク管理者はおそらく良く理解していると思われる。

PXE 業界標準に関する情報は、次を参照してください。

**<ftp://download.intel.com/design/archives/wfm/downloads/pxespec.pdf>**

## 第 3 章 基本的な使用方法

OVCCM のインストールと設定を完了したので、管理コンソールを使用して、Windows クライアント環境の管理を始める準備ができました。次のセクションでは、OVCCM の使用を始め、開始する必要がある重要なタスクを紹介します。

- ログイン (45 ページ)
- クイック スタート タスク (46 ページ)

### ログイン

デスクトップアイコンを使用して、または OVCCM サーバーへのネットワークアクセスが可能な環境で任意のデバイスからブラウザを使用して、OVCCM にアクセスします。

- **http://OVCCMhost:3480/CCM** に移動します。この場合の *OVCCMhost* は、OVCCM がインストールされているサーバーの名前です。

[ログイン] ページで、ユーザー名とパスワードを入力し、[サインイン] をクリックします。デフォルトでは、ユーザー名は **admin**、パスワードは **secret** です。

パスワードの変更方法やユーザーの追加方法は、133 ページの「設定」を参照してください。

▶ ウィザードを実行したり通知を表示するときに、OVCCM 管理コンソールが別のブラウザ インスタンスを開く場合があります。これらのウィザードや通知にアクセスするには、必ずブラウザのポップアップブロック設定で [許可されたサイト] に OVCCM を設定します。

▶ セキュリティのため、OVCCM は、20 分間操作を行わないと、自動的に現在のユーザーをログアウトさせます。その後、コンソールの使用を続けるには、再ログインする必要があります。

## クイック スタート タスク

このセクションで説明するクイック スタート タスクを使用して、すぐに Windows クライアント環境の管理を始めます。

 タスクには、**Premium** ライセンスを必要とするものがあります。

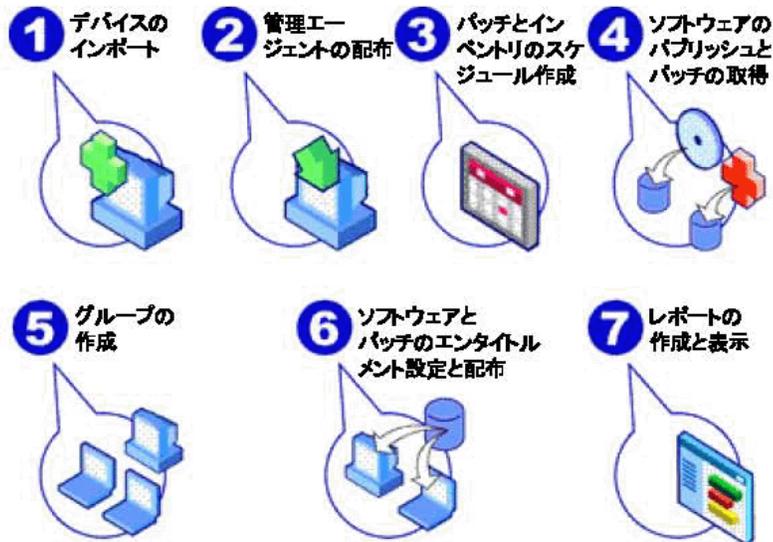
これらのタスクを完了すると：

- デバイスを **OVCCM** にインポートして、管理エージェントを配布することにより、デバイスを管理できます。
- インベントリやパッチ管理に必要なスケジュールを設定できます。
- ソフトウェアのパブリッシュやパッチの取得を開始する場所がわかります。
- デバイス グループを作成して、そのグループのデバイスにソフトウェアおよびパッチを配布できるようになります。
- ユーザー環境内の全管理対象デバイスについてレポートを作成する場所がわかります。

次のセクションでは、これらのタスクについて説明し、追加情報については関連セクションを紹介します：

- 1 デバイスのインポート (47 ページ)
- 2 管理エージェントの配布 (47 ページ)
- 3 スケジュールの設定 (48 ページ)
- 4 ソフトウェアのパブリッシュとパッチの取得 (48 ページ)
- 5 グループの作成 (49 ページ)
- 6 ソフトウェアまたはパッチのエンタイトルメント設定と配布 (50 ページ)
- 7 レポートの生成と表示 (51 ページ)

図8 クイックスタートタスクの概要



### タスク1 デバイスのインポート

インベントリ情報を収集したり、ソフトウェアおよびパッチを配布するため、最初に、ユーザーの環境のデバイスを CCM に認識させるのに、CCM ヘドバイスをインポートする必要があります。

- [デバイス管理] の [一般] タブから、[インポート] をクリックして、**デバイスインポートウィザード** を起動します。
- 158 ページのウィザードの手順に従って、デバイスをインポートします。

▶ ほとんどのタスクは、[現在のジョブ] タブおよび [過去のジョブ] タブまたは [ジョブ管理] セクションでモニタできるジョブを生成します。

デバイスがインポートされたら、ソフトウェア、パッチ、およびインベントリを管理するため、**管理エージェントの配布** を行います。

### タスク2 管理エージェントの配布

デバイスがインポートされたら、管理エージェントを配布します。

- [デバイス管理] の [一般] タブから、[配布] をクリックして、**エージェント配布ウィザード** を起動します。
- 159 ページのウィザードの手順に従って、インポートしたデバイスに管理エージェントを配布します。

デバイスの管理を開始したので、インベントリの収集、パッチの適合性スキャン、およびパッチの取得の**スケジュール**の設定を行います。

### タスク 3 スケジュールの設定

インベントリおよびパッチ取得のスケジュールを開始するには、[ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザード] タブおよび [設定] タブを使用します。

#### インベントリ スケジュールを設定するには

- デバイス管理領域の [デバイス] タブから、管理対象デバイスを選択します (または、グループ管理の [グループ] タブからグループを選択します)。
- **[インベントリの収集]**  ツールバー ボタンをクリックして、**[ソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索]** を選択し、ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザードを起動します。
- 160 ページのウィザードの手順に従って、ユーザーのデバイスとグループについてソフトウェアおよびハードウェアのインベントリ収集を定義します。

#### パッチ取得のスケジュールリングおよび設定を行うには

- [設定] タブの [パッチ管理] セクションを使用して、パッチ取得の設定およびスケジュールリングを行います。
  - [スケジュール] タブを使用して、パッチ取得のスケジュールを入力します。
  - [設定] タブを使用して、必要な Windows パッチおよび HP Softpaq 取得の設定を入力します。



Microsoft パッチ管理には Premium レベルのライセンスが必要です。

#### パッチ適合性探索スケジュールを設定するには

- [デバイス管理] 領域の [デバイス] タブから、管理対象デバイスを選択します。
- **[インベントリの収集]**  ツールバー ボタンをクリックして、**[パッチ適合性の探索]** を選択し、パッチ適合性探索ウィザードを起動します。
- 161 ページのウィザードの手順に従って、該当するデバイスとグループに対するパッチ適合性スケジュールを作成します。

スケジュールを設定したら、ソフトウェアのパブリッシュとパッチの取得を行うことができます。

### タスク 4 ソフトウェアのパブリッシュとパッチの取得

管理対象のデバイスにソフトウェアやパッチを配布する前に、ソフトウェア ライブラリおよびパッチ ライブラリにソフトウェアやパッチを格納する必要があります。

- **CM Administrator Publisher** を使用して、**OVCCM** データベースにソフトウェアをパブリッシュします。
  - ソフトウェア サービスの設定およびパブリッシュを行う側のマシンで **Publisher** を起動します。詳細は、**Publisher** のオンライン ヘルプ または「[第 9 章, Publisher の使用](#)」を参照してください。
    - ▶ ソフトウェアおよびオペレーティング システムのパブリッシュには、**Premium** レベルのライセンスが必要です。**Basic** ライセンスでは、**HP Softpaq** または **BIOS** 設定のパブリッシュができます (**Basic** ライセンスでのソフトウェアおよび **OS** イメージのパブリッシュは、シンクライアントデバイスに限られます)。
- **HP** または **Microsoft** からパッチを取得して、パッチ ライブラリに格納します。
  - [管理] タブの [パッチ管理] セクションから、**[取得]** をクリックします。パッチがダウンロードされ、パッチ ライブラリに追加されます。**OVCCM** は、前の手順 [スケジュールの設定](#) で設定した取得スケジュールに従って、パッチを自動的にダウンロードします。
    - ▶ パフォーマンスの問題を避けるため、最初はパッチを、評価のため非プロダクション環境にある **OVCCM** サーバーに取得します。

各ライブラリでソフトウェアおよびパッチが利用可能になると、[グループの作成](#)を行い、配布用のソフトウェアおよびパッチのエンタイトルメントを設定します。

## タスク 5 グループの作成

ソフトウェアまたはパッチを配布するには、ターゲット デバイスを含むグループを作成してから、ソフトウェアまたはパッチのエンタイトルメントをそのグループに設定します。

- [グループ管理] の [一般] タブから、**[新しいスタティック グループの作成]** をクリックします。[グループ作成ウィザード](#)が起動します。164 ページのウィザードの手順に従って、スタティック グループを作成します。
- **OVCCM** はまた、発見されたデバイス (探索グループ) または選択されたインベントリ条件 (レポート グループ) に基づいて、動的なデバイス グループもサポートします。これらのグループは、グループ作成ウィザードを使用しても作成できます。詳細は、63 ページの「[グループ管理](#)」、および 117 ページの「[レポート](#)」を参照してください。

グループが作成されたら、そのグループのデバイスについてソフトウェアまたはパッチのエンタイトルメント設定と配布を行います。

## タスク 6 ソフトウェアまたはパッチのエンタイトルメント設定と配布

[グループ管理] セクションの [グループ] タブで、グループの説明をクリックして [グループの詳細] ウィンドウを開きます。ここから、ソフトウェアまたはパッチのエンタイトルメント設定および配布ができます。

▶ ソフトウェアおよびパッチを配布するには、**Premium** レベルのライセンスが必要です。**Basic** ライセンスでは、**BIOS** 設定および **HP Softpaq** の配布ができます。

### ソフトウェアのエンタイトルメント設定および配布を行うには

- [グループの詳細] の [ソフトウェア] タブを使用して、ソフトウェアのエンタイトルメントを設定します。
  - [ソフトウェア エンタイトルメントの追加]  ツールバー ボタンをクリックして、ソフトウェア サービスを選択し、それらがそのグループに利用できるようにします。エンタイトルメントが設定されたソフトウェアは、[ソフトウェア] タブ リストに表示され、**Application Self-Service Manager** のエンド ユーザーが利用できます。しかし、自動的に配布はされません。これにより、管理対象ソフトウェア カタログを作成でき、ユーザーは、いつどのオプションのソフトウェアを配布するかを決定できます。
  - ソフトウェアを配布するには、配布するソフトウェアを選択して、[ソフトウェアの配布]  ツールバー ボタンをクリックします。**ソフトウェア配布ウィザード**が開きます。**168** ページのウィザードの手順に従って、そのグループのデバイスにソフトウェアを配布します。配布されたソフトウェアは、エンドユーザーのデバイスに自動的にインストールされます。

### パッチのエンタイトルメント設定および配布を行うには

- [グループの詳細] の [パッチ] タブを使用して、パッチのエンタイトルメント設定と配布を行います。
  - [パッチ エンタイトルメントの追加]  ツールバー ボタンをクリックして、パッチを選択し、それらがそのグループに利用できるようにします。エンタイトルメントを設定したパッチが、[パッチ] タブ リスト内に表示されます。
  - パッチを配布するには、配布するパッチを選択して、[パッチの配布]  ツールバー ボタンをクリックします。**パッチ配布ウィザード**が開きます。**171** ページのウィザードの手順に従って、そのグループのデバイスにパッチを配布します。

▶ パッチの適合性の強制は、**パッチ配布ウィザード**を使用して設定できます。

▶ エンタイトルメントを設定したパッチは、**Application Self-Service Manager** カタログに表示されません。

OVCCM を使用して、ソフトウェアおよびパッチの配布を行いました。次の「**レポートの生成と表示**」セクションの指示に従って、レポートの作成について学びます。

## タスク7 レポートの生成と表示

[レポート] タブを使用し、管理対象デバイスの情報に基づいて、レポートの生成と表示を行います。

- デバイス レポートを生成するには、117 ページの「**レポート**」の指示に従います。

手早くレポートの例を生成するには、[インベントリ情報] 領域の [管理対象デバイスを表示] をクリックして、管理エージェントがインストールされている全デバイスのリストを表示します。

デバイスのリストが生成されると、左のオプションを使用して、またはデバイス カラムの詳細をクリックして、追加のフィルタを適用できます。

レポートが生成されると、[新しいダイナミックレポートグループの作成]  ツールバー ボタンをクリックして、そのレポートにデバイスのダイナミック グループを作成します。グループ作成ウィザードが起動します。164 ページのウィザードの手順に従って、レポート グループを作成します。



## 第4章 管理

[管理] タブには、環境を管理するのに使用するツールが備えられています。次のセクションでは、ユーザーがコントロールできる管理領域について説明します:

- デバイス管理 (53 ページ)
- グループ管理 (63 ページ)
- ソフトウェア管理 (78 ページ)
- パッチ管理 (87 ページ)
- OS 管理 (96 ページ)
- ジョブ管理 (111 ページ)

図9 [管理] タブのセクション



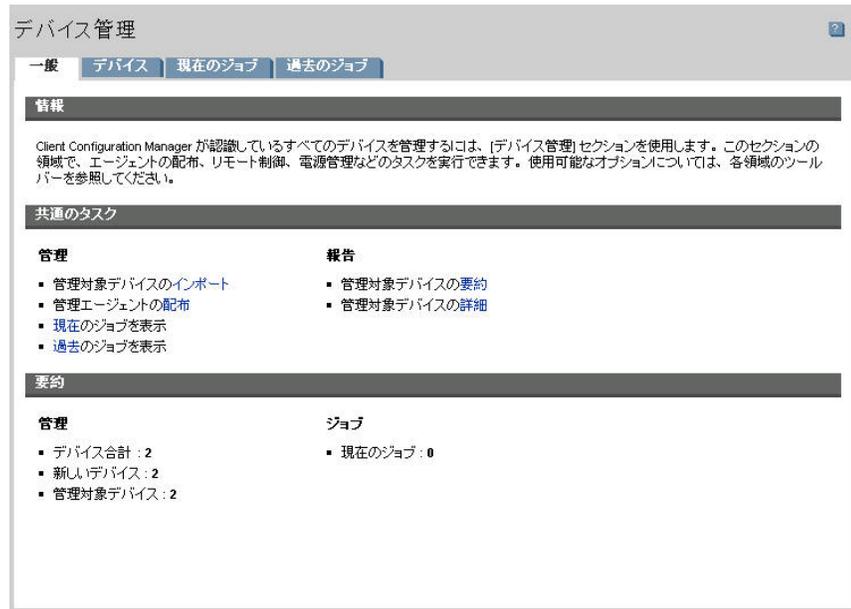
### デバイス管理

[デバイス管理] セクションを使用して、デバイスのインポート、管理エージェントの配布、インベントリの探索、パッチの管理、デバイスの電源オプションの管理、デバイスのリモートコントロール、アプリケーション利用状況の収集、および全管理対象デバイスに基づいたレポートの表示ができます。

[デバイス管理] には次のタブが含まれています:

- 一般 (54 ページ)
- デバイス (55 ページ)
- 現在のジョブ (63 ページ)
- 過去のジョブ (63 ページ)

図 10 [管理] タブの [デバイス管理] セクション



## 一般

[一般] タブを使用して、デバイスの追加、管理エージェントの配布、現在および過去のエージェント配布ジョブの表示、および管理対象デバイスに関するレポートの表示ができます。

ワークスペースの [要約] セクションには、データベース内のデバイスの数、管理対象デバイス (管理エージェントがインストールされているデバイス) の数、および現在のジョブの合計数が表示されます。

### デバイスをインポートするには

- [共通のタスク] 領域で **[インポート]** をクリックします。デバイス インポートウィザードが起動します。

158 ページのウィザードの手順に従って、デバイスを OVCCM に追加します。

## 管理エージェントを配布するには

- [共通のタスク] 領域で **[配布]** をクリックします。エージェント配布ウィザードが起動します。

159 ページのウィザードの手順に従って、データベースにあるデバイスに管理エージェントを配布します。

▶ リモート デバイスに管理エージェントを配布するには、管理共有へのアクセスが必要です。Windows XP には簡易ファイルの共有 (SFS) というセキュリティ機能が備えられており、これらの共有へのアクセスをブロックします。ワークグループの一部である Windows XP デバイスでは、SFS はデフォルトで有効になっています。また、Active Directory ドメインに参加するデバイスでは、SFS は自動的に無効となります。ターゲット デバイスが Windows XP を実行しており、Active Directory ドメインに参加していない場合、SFS をオフにして、管理エージェントのインストールを許可する必要があります。次の Microsoft サポート情報の記事は、SFS の設定方法に関して詳しく説明しています：

**<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;EN-US;q304040>**

▶ 管理エージェントは、シンクライアント デバイスへリモートで配布できません。OVCCM メディアの \ThinClient ディレクトリにあるインストールプログラムを使用して、手動でインストールする必要があります。

## デバイス

[デバイス] タブには、OVCCM にインポートされた全デバイスの表が表示されます。

▶ OVCCM がインストールされると、ホスト サーバーは自動的にデバイス リストに追加されます。このデバイス定義は、OVCCM が必要としており、削除できません。

新しくインポートされたデバイス (7 日以内にインポート) は、デバイス名の右に、デバイス名の右に、カッコ付きの " '新規作成' " という単語 (新規作成) が表示され、識別ができます。

▶ 管理エージェントが配布されるまでは、デバイス情報の一部しか利用できません。

[デバイス] ツールバーを使用して、デバイスのインポート、管理エージェントの配布または削除、インベントリの探索、パッチの管理、デバイスの電源オプションの管理、デバイスのリモート コントロール、アプリケーション使用状況の探索、およびデータベースからのデバイスの削除ができます。

デバイス リストのカラムの見出しをクリックして、ソート順を変更できます。あるいは、表の上部にあるナビゲーション ボタンを使用して、特定のセクションへジャンプできます。



ユーザーの環境にあるコンピュータ名に **15** 文字を超える名前がある場合、**OVCCM** を使用して、管理エージェントの配布またはグループの作成を行うと、予期しない結果になる場合があります。**HP** は、コンピュータ名を **15** 文字以下にすることを推奨します。詳細は、**Microsoft** サポート情報記事を参照してください：

**<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;en-us;188997>**

デバイスのリストの範囲を狭くするには、**[検索]** 機能を使用します。最初の検索ボックスには、コンソールの現在いるセクションで利用可能なカラムの見出しが必ず表示されます。**2** 番目のボックスには、クエリをカスタマイズするために使用する検索パラメータを入れます。

クエリ結果を表示すると、**[フィルタ結果]**  が、表の下部に表示されます。

表 1 [デバイス] ツールバーのタスク

ツールバーボタン	説明
	データのリフレッシュ – デバイス リストのリフレッシュ
	管理対象デバイスのインポート – デバイス インポート ウィザードの起動
	管理エージェントの配布 – エージェント配布ウィザードの起動
	管理エージェントの削除 – エージェント削除ウィザードの起動
	インベントリの収集： ソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索 – ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザードの起動 パッチ適合性の探索 – パッチ適合性探索ウィザードの起動 アプリケーション利用状況の探索 – アプリケーション利用状況収集ウィザードの起動
	電源管理 – 電源管理ウィザードの起動
	リモート制御 – リモート制御ウィザードの起動
	データベースからデバイスの削除 – デバイス リストからのデバイスの削除

次のタスクが [デバイス] タブから実行できます。

- デバイスのインポート (58 ページ)
- [デバイス] タブからの管理エージェントの配布 (58 ページ)
- 管理エージェントの削除 (58 ページ)
- ソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索 (59 ページ)
- パッチ適合性の探索 (59 ページ)
- アプリケーション利用状況の探索 (60 ページ)
- リモート制御 (60 ページ)
- 電源管理 (61 ページ)
- デバイスの削除 (61 ページ)
- デバイスの詳細 (61 ページ)

## デバイスのインポート

デバイス インポート ウィザードでは、名前または IP アドレスによるデバイスの手動インポートや、Active Directory または別の LDAP 準拠ディレクトリ内、あるいはネットワーク ドメインに含まれるデバイスの探索ができます。

- OVCCM に 1 つ以上のデバイスをインポートするには、**[管理対象デバイスのインポート]**  ツールバー ボタンをクリックします。デバイス インポート ウィザードが起動します。

158 ページのウィザードの手順に従って、新しいデバイスを OVCCM に追加します。

## [デバイス] タブからの管理エージェントの配布

エージェント配布ウィザードを使用して、管理エージェントをユーザー環境にあるデバイスに配布します。

### 管理エージェントを配布するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスを選択して、管理したいデバイスを選択します。
- 2 **[管理エージェントの配布]**  ツールバー ボタンをクリックして、エージェント配布ウィザードを起動します。
- 3 159 ページのウィザードの手順に従って、選択したデバイスに管理エージェントを配布します。

## 管理エージェントの削除

OVCCM データベースにあるデバイスから管理エージェントを削除するには、エージェント削除ウィザードを使用します。

### 管理エージェントを削除するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスを選択して、エージェントを削除したいデバイスを選択します。
- 2 **[管理エージェントの削除]**  ツールバー ボタンをクリックして、**エージェント削除ウィザード**を起動します。
- 3 160 ページのウィザードの手順に従って、選択したデバイスから管理エージェントを削除します。

### ソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索

ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザードを使用して、OVCCM データベースにあるデバイスに関するインベントリを探索します。

#### ソフトウェアおよびハードウェア インベントリを探索するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスを選択して、インベントリを探索したいデバイスを選択します。
- 2 **[インベントリの収集]**  ツールバー ボタンをクリックして、**[ソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索]** を選択し、**ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザード**を起動します。
- 3 160 ページのウィザードの手順に従って、選択したデバイスについてインベントリを探索します。

### パッチ適合性の探索

パッチ適合性探索ウィザードを使用して、OVCCM データベースにあるデバイスに対する適合性を探索します。

#### パッチ適合性の探索と強制を行うには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスを選択してパッチ適合性探索の対象とするデバイスを選択します。
- 2 **[インベントリの収集]**  ツールバー ボタンをクリックして、**[パッチ適合性の探索]** を選択し、**パッチ適合性探索ウィザード**を起動します。
- 3 161 ページのウィザードの手順に従って、選択したデバイスについてパッチ適合性を探索します。
- 4 **[レポート]** タブを使用して、選択したデバイスに関するパッチ適合性レポートを表示します。

## アプリケーション利用状況の探索

アプリケーション利用状況収集ウィザードを使用して、OVCCM データベース内のデバイスについてアプリケーション利用状況を探査します。ウィザードは、収集エージェントをインストールします。収集エージェントは、作成し有効にしたフィルタが指定する利用状況のデータを返します。さらに、必要な場合には、プライバシーを確保するため、利用状況データを難読化できます。詳細は、149 ページの [設定] タブの [レポート] セクションを参照してください。

利用状況データは、個々のデバイスに対しては 1 度だけ返されます。利用状況データを反復して収集できるのは、グループに対してだけです。グループに対する利用状況データの収集は、70 ページの「グループに対するアプリケーション利用状況データの探索」を参照してください。

▶ アプリケーション利用状況データを収集するには、Premium レベルのライセンスが必要です。

### アプリケーション利用状況を探査するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスを選択して、アプリケーション利用状況探査の対象とするデバイスを選択します。
- 2 [インベントリの収集] ツールバー ボタンをクリックして、[アプリケーション利用状況の探索] を選択し、アプリケーション利用状況収集ウィザードを起動します。
- 3 162 ページのウィザードの手順に従って、選択したデバイスについてアプリケーション利用状況を探査します。
- 4 [レポート] タブを使用して、選択したデバイスに関する利用状況レポートを表示します。

## リモート制御

リモート制御ウィザードを使用して、任意のデバイスとのリモートセッションを開始します。ウィザードにより、RDP または VNC のいずれかをインストールし使用可能にしているデバイスに接続できます。

▶ VNC を使用するには、Internet Explorer 用の Sun Java プラグインをインストールしなければなりません。詳細は、<http://java.com/en/index.jsp> を参照してください。

## リモート セッションを開始するには

- 1 リストからデバイスを選択して、**[リモート制御]**  ツールバー ボタンをクリックし、**リモート制御ウィザード**を起動します。
- 2 167 ページのウィザードの手順に従って、選択したデバイスについてリモートセッションを開始します。

▶ 管理対象デバイスにインストールしている **VNC Server** は、ポート 5800 で動作する **VNC Java** アプレットをサポートしていなければなりません。これを確認するには、ブラウザのウィンドウを開いて、**http://hostname:5800** と入力します。アプレットがインストールされている場合、**TightVNC** のログイン ページが開きます。

## 電源管理

デバイスの電源をオンにしたり、オフにしたり、デバイスを再起動するには、電源管理ウィザードを使用します。

- 管理したいデバイスを選択して、**[電源管理]**  ツールバー ボタンをクリックし、**電源管理ウィザード**を起動します。

163 ページのウィザードの手順に従って、選択したデバイスに対して電源管理ジョブを作成します。

## デバイスの削除

OVCCM データベースからデバイスを削除するには、**[デバイス]** ツールバーを使用します。

### OVCCM からデバイスを削除するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスを選択して、削除したいデバイスを選択します。
- 2 **[デバイスの削除]**  ツールバー ボタンをクリックして、OVCCM からデバイスを削除します。

## デバイスの詳細

[デバイス] タブでデバイス名をクリックすると、**[デバイスの詳細]** ウィンドウが開きます。**[デバイスの詳細]** ウィンドウは、選択したデバイスに基づく設定モデルが表示されます。

[デバイスの詳細] ウィンドウを使用して、以下を行います。

- デバイスのプロパティの表示
- デバイス グループのメンバーシップの表示と変更
- エンタイトルメントの表示
- レポートの要約の表示
- 管理エージェントの配布
- デバイス管理ジョブの作成

以下の領域が、[デバイスの詳細] ウィンドウから利用できます。

### 一般

[一般] タブは、デバイスに利用可能な共通のタスクを表示します。その他の設定タスクを表示するには、他の管理領域タブをクリックしてください。

### プロパティ

[プロパティ] タブは、デバイスのプロパティを表示します。管理エージェントが配布されるまでは、デバイス情報の一部しか利用できません。

### グループ

[グループ] タブは、現在のデバイスが所属する全グループを表示します。

### OS

[OS] タブは、デバイスのグループ メンバーシップに基づいて、デバイスにエンタイトルメントが設定されたオペレーティング システムをすべて表示します。付属のツールバーを使用して、OS イメージを配布します。

### ソフトウェア

[ソフトウェア] タブは、グループ メンバーシップに基づいて、エンタイトルメントが設定されたソフトウェアをすべて表示します。ツールバー ボタンを使用して、現在のデバイスにソフトウェアを配布したり、デバイスからソフトウェアを削除します。

### パッチ

[パッチ] タブは、グループ メンバーシップに基づいて、エンタイトルメントが設定されたパッチをすべて表示します。ツールバーを使用して、現在のデバイスへパッチを配布します。



パッチは、配布された後に削除できません。

## レポート

[レポート] タブには、表示しているデバイスに固有のレポートの要約が表示されます。詳細なレポートを表示するには、管理コンソールの [レポート] タブを使用します。

## 現在のジョブ

[現在のジョブ] は、アクティブなまたはスケジュールされたデバイス管理ジョブをすべて表示します。デバイス管理ジョブは、個々のデバイスを対象とし、OVCCM データベースのデバイスに対して、管理エージェントの配布や削除、またはソフトウェアの管理に使用できます。

カラムの見出しをクリックして、ソート順を変更できます。あるいは、表の上部にあるナビゲーション ボタンを使用して、特定のセクションへジャンプできます。

ジョブ コントロールおよびジョブ ステータスに関する情報は、112 ページのジョブ管理の「現在のジョブ」セクションを参照してください。

## 過去のジョブ

[過去のジョブ] は、完了したデバイス管理ジョブをすべて表示します。

カラムの見出しをクリックして、ソート順を変更できます。あるいは、表の上部にあるナビゲーション ボタンを使用して、特定のセクションへジャンプできます。



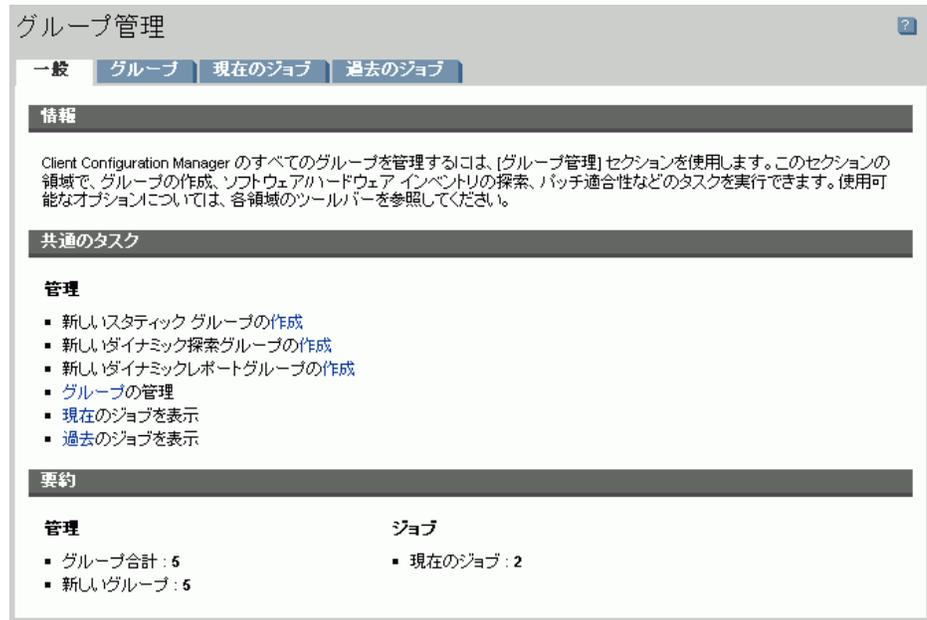
完了したジョブは完了の 1 分後に過去のジョブ リストに移動されます。

## グループ管理

[グループ管理] セクションを使用して、デバイス グループの作成と管理を行います。デバイス グループの作成は、管理を容易にし、管理対象デバイスにソフトウェアおよびパッチを配布するのに必要です。[グループ管理] には次のタブが含まれています：

- 一般 (64 ページ)
- グループ (66 ページ)
- 現在のジョブ (77 ページ)
- 過去のジョブ (77 ページ)

図 11 [グループ管理] セクション



## 一般

[一般] 領域を使用して、新しいグループの作成、既存のグループの管理、および現在および完了したグループ管理ジョブの表示を行います。

グループには、管理対象デバイスおよび管理対象ではないデバイスを含めることができます。

### 新しいスタティック グループを作成するには

- [共通のタスク] 領域で、[新しいスタティック グループの**作成**] をクリックします。グループ作成ウィザードが起動します。

164 ページのウィザードの手順に従って、ソフトウェアとパッチの配布用の新しいデバイス グループを作成します。

### 新しいダイナミック探索グループを作成するには

- [共通のタスク] 領域で、[新しいダイナミック探索グループの**作成**] をクリックします。グループ作成ウィザードが起動します。

164 ページのウィザードの手順に従って、新しいデバイス探索グループを作成します。

#### 新しいダイナミック レポート グループを作成するには

- [レポート] タブを使用して、最初にクエリを定義し、次に **[ダイナミック レポート グループの作成]** ツールバー ボタンをクリックして、**グループ作成ウィザード**を開始します。詳細については、130 ページの「**ダイナミック レポート グループの作成**」を参照してください。
- **グループ タイプ**

## グループ タイプ

次のセクションでは、OVCCM で使用できる各種グループについて説明します。OVCCM は、デバイスの管理に 4 つのグループ タイプを使用します。

### 内部

内部グループは OVCCM が提供します。たとえば、**All Devices** グループには、デフォルトではインポートされた全デバイスが含まれています。

### スタティック

個々のデバイスを選択して、スタティック グループを作成します。スタティック グループにデバイスを追加したり、スタティック グループからデバイスを削除するには、**[グループの詳細]** ウィンドウを使用して、**グループ メンバーシップ**を手動で変更しなければなりません。

### 探索

探索グループには、グループ作成ウィザードの間に設定したパラメータに従って、外部ソース (LDAP、ネットワーク探索) に由来する、管理対象デバイスまたは管理対象でないデバイスの動的なリストが含まれています。探索されたデバイスは、自動的に OVCCM デバイス リストに追加されます。

### レポート

レポート クエリで返されたデバイスのリストからレポート グループを作成します。レポート グループは、**グループ管理ジョブ**を使用して、自動的に更新されます。詳細については、130 ページの「**ダイナミック レポート グループの作成**」を参照してください。

デフォルトでは、OVCCM にはレポート グループが 2 つあります：**All Windows XP Professional Devices** と **All Windows 2000 Professional Devices** の 2 つです。

これらのグループは、1 時間ごとに更新され、ダイナミック グループの要件に合致した新しい管理対象デバイスが自動的に追加されます。

## グループ

[グループ] タブには、作成された全グループが表示されます。新しく作成されたグループ (7 日以内に作成) は、グループ名の右に、カッコ付きの " '新規作成' " という単語 (新規作成) が表示されます。

- グループに特有の情報を表示するには、グループの説明リンクをクリックします。
- グループ リストをソートするには、カラムの見出しをクリックします。
- グループ内のデバイスについてインベントリ、パッチ、および電源管理ジョブを作成するには、ツールバー ボタンを使用します。
- デバイスのリストの範囲を狭くするには、**[検索]** 機能を使用します。最初の検索ボックスには、コンソールの現在いるセクションで利用可能なカラムの見出しが必ず表示されます。2 番目のボックスには、クエリをカスタマイズするために使用する検索パラメータを入れます。クエリ結果を表示すると、**[フィルタ結果]**  が、表の下部に表示されます。

作成したグループは、デバイスのインベントリ、場所、または指定した他の条件に基づいて、どのデバイスがどのソフトウェアまたはパッチを受け取るかを判断できます。デバイスを追加する前に、必ずグループ作成を計画してください。

表 2 [グループ] ツールバーのタスク

ツールバー ボタン	説明
	リフレッシュ – グループ リストのリフレッシュ
	新しいグループの作成 – グループ作成ウィザードの起動
	管理エージェントの配布 – エージェント配布ウィザードの起動
	管理エージェントの削除 – エージェント削除ウィザードの起動
	インベントリの収集： ソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索 – ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザードの起動 パッチ適合性の探索 – パッチ適合性探索ウィザードの起動 アプリケーション利用状況の探索 – アプリケーション利用状況収集ウィザードの起動
	電源管理 – 電源管理ウィザードの起動
	グループの削除 – グループ リストからのグループの削除

次のタスクが [グループ] タブから実行できます。

- グループの作成 (68 ページ)
- 管理エージェントのグループへの配布 (68 ページ)
- 管理エージェントのグループからの削除 (69 ページ)
- グループに対するソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索 (69 ページ)
- グループに対するパッチ適合性の探索 (70 ページ)
- グループに対するアプリケーション利用状況データの探索 (70 ページ)
- 電源管理 (71 ページ)
- グループの削除 (71 ページ)
- グループの詳細 (72 ページ)
- [グループの詳細] ウィンドウのタスク (74 ページ)
- スタティック グループでのデバイスの追加と削除 (74 ページ)
- グループでのソフトウェア エンタイトルメントの追加と削除 (75 ページ)
- グループでのソフトウェアの配布、削除、および同期 (75 ページ)
- グループでのパッチ エンタイトルメントの追加と削除 (76 ページ)
- グループへのパッチの配布 (77 ページ)

## グループの作成

### スタティック グループを作成するには

- **[新しいグループの作成]**  ツールバー ボタンをクリックして、**[新しいスタティック グループの作成]** を選択します。 **グループ作成ウィザード** が起動します。グループは、管理対象デバイスおよび管理対象ではないデバイスの両方について作成できます。

164 ページのウィザードの手順に従って、ソフトウェアとパッチの配布用の新しいスタティック デバイス グループを作成します。

### ダイナミック探索グループを作成するには

- **[新しいグループの作成]**  ツールバー ボタンをクリックして、**[新しいダイナミック探索グループの作成]** を選択します。 **グループ作成ウィザード** が起動します。

164 ページのウィザードの手順に従って、ソフトウェアとパッチの配布用の新しいダイナミック探索グループを作成します。

## 管理エージェントのグループへの配布

エージェント配布ウィザードを使用して、エージェントをグループに配布します。

### デバイスのグループに管理エージェントを配布するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスを選択して、管理したいグループ、または管理エージェントを配布したいグループを選択します。
- 2 **[管理エージェントの配布]**  ツールバー ボタンをクリックして、**エージェント配布ウィザード** を起動します
- 3 159 ページのウィザードの手順に従って、選択したグループに管理エージェントを配布します。



管理エージェントの配布には、デバイスの認証情報 (管理者権限を持つユーザー名およびパスワード) が必要です。エージェントをグループに配布するには、そのグループ内の全デバイスが、同じ認証情報を共有している必要があります。



管理エージェントは、シンクライアント デバイスへリモートで配布できません。OVCCM メディアの \ThinClient ディレクトリにあるインストールプログラムを使用して、手動でインストールする必要があります。

## 管理エージェントのグループからの削除

エージェント削除ウィザードを使用して、デバイスのグループからエージェントを削除します。

### デバイスのグループから管理エージェントを削除するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスを選択して、エージェントを削除したいグループを選択します。
- 2 **[管理エージェントの削除]**  ツールバー ボタンをクリックして、**エージェント削除ウィザード**を起動します。
- 3 160 ページのウィザードの手順に従って、選択したグループ内の全デバイスから管理エージェントを削除します。

## グループに対するソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索

ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザードを使用して、デバイスのグループに対してインベントリを探索します。

### デバイスのグループに対してソフトウェア/ハードウェア インベントリを探索するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスを選択して、インベントリを探索したいグループを選択します。
- 2 **[インベントリの収集]**  ツールバー ボタンをクリックして、**[ソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索]** を選択し、**ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザード**を起動します。
- 3 160 ページのウィザードの手順に従って、選択した各グループ内のデバイスについてインベントリを探索します。
- 4 **[レポート]** タブを使用して、選択したグループに関するインベントリ レポートを表示します。

## グループに対するパッチ適合性の探索

パッチ適合性探索ウィザードを使用して、デバイスのグループに対してパッチ適合性を探索します。

### デバイスのグループに対してパッチ適合性を探索するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスを選択してパッチ適合性の探索の対象とするグループを選択します。
- 2 [インベントリの収集]  ツールバー ボタンをクリックして、[**パッチ適合性の探索**] を選択し、パッチ適合性探索ウィザードを起動します。
- 3 161 ページのウィザードの手順に従って、選択したグループ内のデバイスについてパッチ適合性を探索し、強制します。
- 4 [レポート] タブを使用して、選択したグループに関するパッチ適合性レポートを表示します。

## グループに対するアプリケーション利用状況データの探索

アプリケーション利用状況収集ウィザードを使用して、OVCCM データベース内のデバイスについてアプリケーション利用状況を探索します。ウィザードは、収集エージェントをインストールします。収集エージェントは、作成し有効にしたフィルタが指定する利用状況のデータを返します。さらに、必要な場合には、プライバシーを確保するため、利用状況データを難読化できます。詳細は、149 ページの [設定] タブの「レポート」セクションを参照してください。

-  アプリケーション利用状況データを収集するには、**Premium** レベルのライセンスが必要です。

### アプリケーション利用状況を探るには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスを選択して、アプリケーション利用状況探索の対象とするグループを選択します。
- 2 **[インベントリの収集]**  ツールバー ボタンをクリックして、**[アプリケーション利用状況の探索]** を選択し、**アプリケーション利用状況収集ウィザード** を起動します。
- 3 162 ページのウィザードの手順に従って、選択したグループについてアプリケーション利用状況を探ります。
- 4 **[レポート]** タブを使用して、選択したグループに関する利用状況レポートを表示します。

### 電源管理

デバイスの電源をオンにしたり、オフにしたり、デバイスを再起動するには、電源管理ウィザードを使用します。

- 管理したいグループを選択して、**[電源管理]**  ツールバー ボタンをクリックし、**電源管理ウィザード** を起動します。

163 ページのウィザードの手順に従って、選択したグループに対して電源管理ジョブを作成します。

### グループの削除

[グループ] ツールバーを使用して、OVCCM からグループを削除します。

#### OVCCM からグループを削除するには

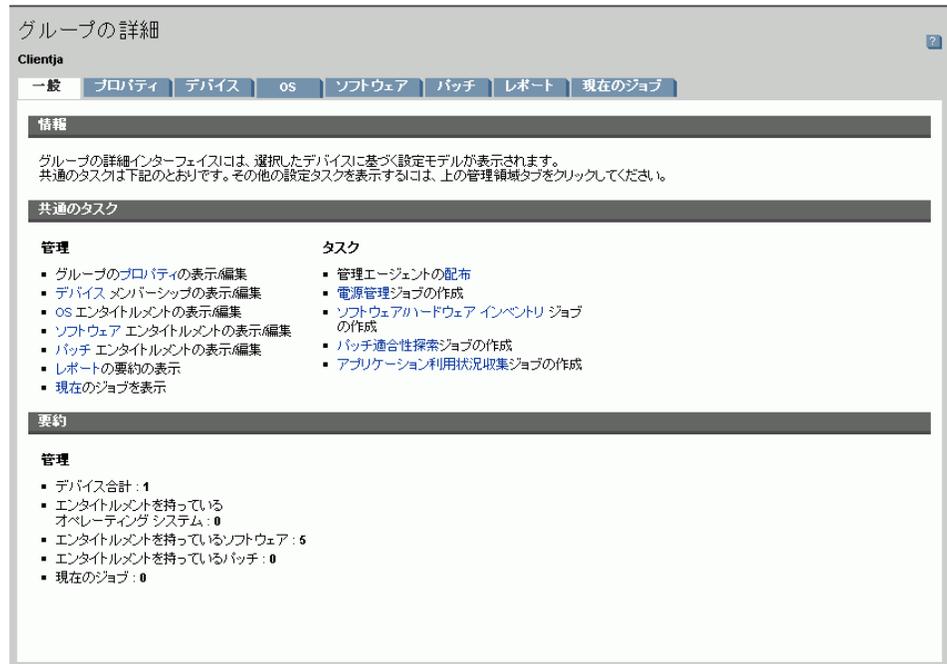
- 1 最初のカラムのチェック ボックスを選択して、削除したいグループを選択します。
- 2 **[グループの削除]**  ツールバー ボタンをクリックして、OVCCM からグループを削除します。

## グループの詳細

グループ名をクリックして、[グループの詳細] ウィンドウを開きます。このウィンドウには、選択したグループに基づく設定モデルが表示されます。

[グループの詳細] ウィンドウを使用して、グループのプロパティの表示、デバイスのメンバーシップの表示と変更、エンタイトルメントの表示または変更、レポートの要約の表示、またはグループ管理ジョブの作成を行います。次の領域が利用可能です。

図 12 [グループの詳細] ウィンドウ



### 一般

[一般] タブは、グループに利用可能な共通のタスクを表示します。その他の設定タスクを表示するには、他の管理領域タブをクリックしてください。

### プロパティ

[プロパティ] タブは、グループの名前およびタイプを表示します。

## グループ タイプ

**スタティック:** [グループの詳細] の [デバイス] セクションを使用して、手動でデバイスのメンバーシップを更新します。

**レポートおよび探索:** グループ メンバーシップを更新するには、[現在のジョブ] タブのジョブ制御を使用して、探索ジョブを実行します。

**内部:** グループ メンバーシップは変更できません。

[保存] をクリックして、変更をコミットします。

## デバイス

[デバイス] タブに表示されたデバイスは、そのグループの現在のメンバーです。

- スタティック グループのデバイス メンバーシップは手動で編集する必要があります。
- [現在のジョブ] タブのジョブ コントロールを使用して、ダイナミック レポートまたは探索グループのメンバーシップ リフレッシュ スケジュールを変更します。

## OS

[OS] タブに表示されたオペレーティング システムのイメージは、グループにエンタイトルメントが設定されています。ツールバー ボタンを使用して、グループ固有の OS エンタイトルメント設定および配布のタスクを完了します。

## ソフトウェア

[ソフトウェア] タブに表示されたソフトウェアは、グループにエンタイトルメントが設定されています。ソフトウェア エンタイトルメントの追加または削除は、既存のデバイス メンバーすべておよび将来グループに追加されるデバイスに影響します。

ツールバー ボタンを使用して、エンタイトルメントの追加または削除、ソフトウェアの同期、あるいはグループのデバイスでのソフトウェアの配布または削除を行います。

- ▶ ソフトウェア エンタイトルメントを削除しても、グループ内のデバイスからソフトウェアが自動的に削除されることはありません。ソフトウェアを削除するには、ターゲットデバイスを選択し、[ソフトウェアの削除] ボタンを使用します。ソフトウェアの削除後、エンタイトルメントを削除することで、そのソフトウェアを使用できないようにできます。

## パッチ

[パッチ] タブには、グループに対してエンタイトルメントを持っているすべてのパッチが表示されます。

ツールバー ボタンを使用して、グループに対するパッチ エンタイトルメントの追加または削除、あるいはグループのデバイスへのパッチの配布を行います。

 パッチは、配布された後、デバイスから削除できません。

## レポート

[レポート] タブでは、グループ別のレポートの要約が表示されます。詳細なレポートを表示するには、管理コンソールの [レポート] タブを使用します。

## 現在のジョブ

[現在のジョブ] タブには、そのグループについて現在アクティブなジョブ、またはスケジュールされているジョブがすべて表示されます。ツールバー ボタンを使用して、利用可能なジョブを管理します。

## [グループの詳細] ウィンドウのタスク

[グループの詳細] ウィンドウを使用して、次のタスクを完了します。

- [スタティック グループでのデバイスの追加と削除 \(74 ページ\)](#)
- [グループでのソフトウェア エンタイトルメントの追加と削除 \(75 ページ\)](#)
- [グループでのソフトウェアの配布、削除、および同期 \(75 ページ\)](#)
- [グループでのパッチ エンタイトルメントの追加と削除 \(76 ページ\)](#)
- [グループへのパッチの配布 \(77 ページ\)](#)

## スタティック グループでのデバイスの追加と削除

[グループの詳細] ウィンドウを使用して、スタティック グループのメンバーシップを更新します。

### スタティック グループにデバイスを追加するには

- 1 [グループの詳細] ウィンドウで、**[デバイス]** タブをクリックします。
- 2 **[デバイスの追加]**  をクリックします。
- 3 開いたウィンドウで、グループに含めたいデバイスを選択して、**[デバイスの追加]** をクリックします。

### スタティック グループからデバイスを削除するには

- 1 [グループの詳細] ウィンドウで、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 そのグループから削除したいデバイスを選択して、[デバイスの削除]  をクリックします。

## グループでのソフトウェア エンタイトルメントの追加と削除

グループのデバイスに対してソフトウェアのエンタイトルメントを追加または削除するには、[グループの詳細] ウィンドウを使用します。

### グループにソフトウェアのエンタイトルメントを設定するには

- 1 [グループの詳細] ウィンドウで、[ソフトウェア] タブをクリックします。
- 2 [エンタイトルメントの追加]  をクリックします。[ソフトウェア エンタイトルメント] ウィンドウが開きます。
- 3 グループにエンタイトルメントを設定したいソフトウェアを選択して、[エンタイトルメントの追加] をクリックします。

### グループからソフトウェアのエンタイトルメントを削除するには

- 1 [グループの詳細] ウィンドウで、[ソフトウェア] タブをクリックします。
- 2 そのグループに対するエンタイトルメントを削除したいソフトウェアを選択して、[エンタイトルメントの削除]  をクリックします。

## グループでのソフトウェアの配布、削除、および同期

グループのデバイスに対してソフトウェアを配布、削除または同期するには、[グループの詳細] ウィンドウを使用します。

### グループにソフトウェアを配布するには

- 1 [グループの詳細] ウィンドウで、[ソフトウェア] タブをクリックします。
- 2 配布したいソフトウェアを選択して、[ソフトウェアの配布]  ツールバー ボタンをクリックします。
- 3 グループ内の管理対象デバイスにソフトウェアを配布するには、168 ページの「ソフトウェア配布ウィザード」の手順に従います。

### グループからソフトウェアを削除するには

- 1 [グループの詳細] ウィンドウで、**[ソフトウェア]** タブをクリックします。
- 2 グループ内の管理対象デバイスから削除したいソフトウェアを選択して、**[ソフトウェアの削除]**  ツールバー ボタンをクリックします。
- 3 グループ内の管理対象デバイスからソフトウェアを削除するには、172 ページの「ソフトウェア削除ウィザード」の手順に従います。

### ソフトウェアを同期するには

- 1 [グループの詳細] ウィンドウで、**[ソフトウェア]** タブをクリックします。
- 2 **[ソフトウェアの同期]** ツールバー ボタンをクリックして、**ソフトウェア同期ウィザード**を起動します。エンタイトルメントが設定された全ソフトウェアがグループのメンバーにインストールされ、新しいグループメンバーはエンタイトルメントを設定したソフトウェアを受け取ります。
- 3 170 ページのウィザードの手順に従って、そのグループのソフトウェア同期スケジュールを設定します。

## グループでのパッチ エンタイトルメントの追加と削除

グループのデバイスに対してパッチのエンタイトルメントを追加または削除するには、[グループの詳細] ウィンドウを使用します。

### グループに対しパッチのエンタイトルメントを設定するには

- 1 [グループの詳細] ウィンドウで、**[パッチ]** タブをクリックします。
- 2 **[エンタイトルメントの追加]**  ツールバー ボタンをクリックします。[パッチ エンタイトルメント] ウィンドウが開きます。
- 3 グループにエンタイトルメントを設定したいパッチを選択して、**[エンタイトルメントの追加]** をクリックします。



エンタイトルメントを設定していないパッチだけが、[パッチ エンタイトルメント] ウィンドウに表示されます。エンタイトルメントをすでに設定したパッチは表示されません。

### グループからパッチ エンタイトルメントを削除するには

- 1 [グループの詳細] ウィンドウで、**[パッチ]** タブをクリックします。
- 2 エンタイトルメントを削除したいパッチを選択して、**[エンタイトルメントの削除]**  ツールバー ボタンをクリックします。

## グループへのパッチの配布

グループのデバイスにパッチを配布するには、[グループの詳細] ウィンドウを使用します。

### グループにパッチを配布するには

- 1 [グループの詳細] ウィンドウで、[パッチ] タブをクリックします。
- 2 配布したいパッチを選択して、[パッチの配布]  ツールバー ボタンをクリックします。パッチ配布ウィザードが開きます。
- 3 171 ページのウィザードの手順に従って、グループ内の管理対象デバイスにパッチを配布します。



パッチは、配布された後、デバイスから削除できません。

## 現在のジョブ

[現在のジョブ] は、アクティブなまたはスケジュールされたグループ管理ジョブをすべて表示します。グループ管理ジョブは、特定のグループを対象にし、そのグループのデバイスに配布されたソフトウェアの管理、および作成したダイナミックレポートまたは探索グループのデバイスのリフレッシュを行います。

カラムの見出しをクリックして、ソート順を変更できます。あるいは、表の上部にあるナビゲーション ボタンを使用して、特定のセクションへジャンプできます。

ジョブ コントロール およびジョブ ステータス に関する詳細は、112 ページの「現在のジョブ」を参照してください。

## 過去のジョブ

[過去のジョブ] は、完了したグループ管理ジョブをすべて表示します。ジョブのステータスをより詳細に表示するには、ジョブの説明をクリックしてください。



完了したジョブは完了の 1 分後に過去のジョブ リストに移動されます。

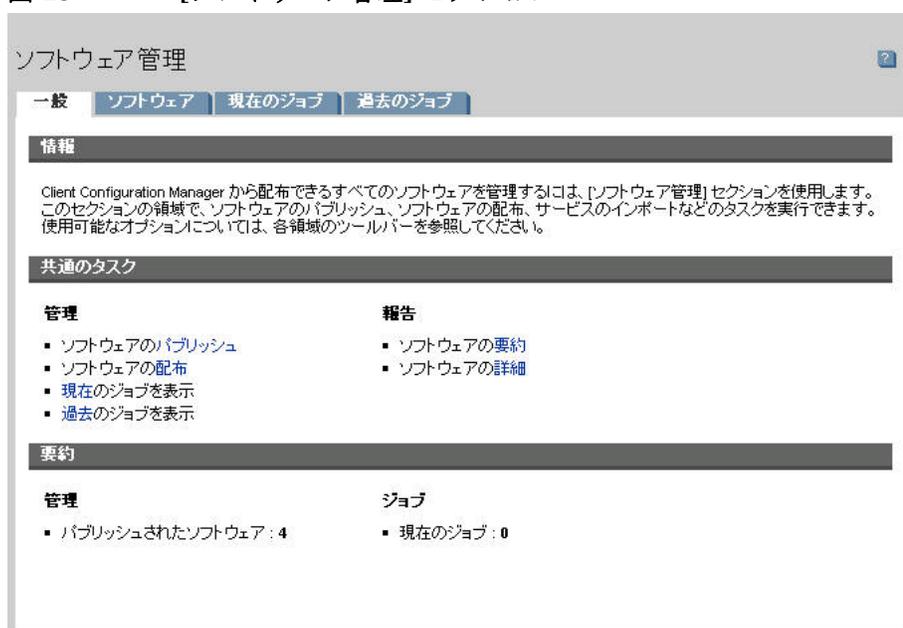
## ソフトウェア管理

ソフトウェア サービスおよびソフトウェア管理ジョブを管理するには、[ソフトウェア管理] セクションを使用します。ソフトウェアは、管理対象デバイスのグループにエンタイトルメントが設定されてから、OVCCM を使用して管理者によって配布されるか、または **Application Self-Service Manager** を使用してエンドユーザーによってインストールされます。

[ソフトウェア管理] タブは、次のセクションで説明しています。

- 一般 (79 ページ)
- ソフトウェア (79 ページ)
- 現在のジョブ (87 ページ)
- 過去のジョブ (87 ページ)

図 13 [ソフトウェア管理] セクション



▶ ソフトウェアを配布するには、**Premium** レベルのライセンスが必要です。**Basic** ライセンスでは、BIOS 設定および HP Softpaq の配布だけができます。

## 一般

[一般] タブを使用して、ソフトウェアのパブリッシュ、管理対象デバイスへのソフトウェアのエンタイトルメント設定および配布、現在および過去のソフトウェア管理ジョブの表示、ソフトウェアの詳細およびレポートの要約の表示の方法を学びます。

[要約] セクションには、OVCCM データベースで現在利用可能なソフトウェアサービスの数および現在のソフトウェア管理ジョブの数が表示されます。

### ソフトウェアをパブリッシュするには

- **Publisher** を使用して、ソフトウェアを OVCCM にパブリッシュします。パブリッシュされたソフトウェアは、[ソフトウェア ライブラリ](#)に表示されます。ソフトウェア サービスの選択および設定を行う側のマシンに **Publisher** をインストールします。インストールの指示については、[37 ページの「Publisher のインストール」](#)を参照してください。ソフトウェアを OVCCM にパブリッシュする方法の詳細は、「[第 9 章 Publisher の使用](#)」を参照してください。

### ソフトウェアのエンタイトルメント設定および配布を行うには

- 1 [共通のタスク] 領域で **[配布]** をクリックします。ソフトウェア配布ウィザードが起動します。
- 2 [168 ページ](#)のウィザードの手順に従って、管理対象デバイスへソフトウェアのエンタイトルメント設定および配布を行います。

## ソフトウェア

[ソフトウェア] タブには、OVCCM にパブリッシュされたソフトウェアがすべて表示されます。

付属のツールを使用して、ソフトウェア データのリフレッシュ、管理対象デバイスへのソフトウェアの配布、またはライブラリからのソフトウェアの削除を行います。また、ソフトウェアをソフトウェア ライブラリからインポートしたり、ソフトウェア ライブラリへエクスポートすることができます。

OVCCM には、デフォルトで次のソフトウェア サービスが備わっています。

- **CCM\_Publisher – CM Administrator Publisher**。Publisher の別のインストール方法。このサービスを使用して、ソフトウェアの取得およびパブリッシュ、OS イメージ、BIOS 設定、または **HP Softpaq** のパブリッシュを行う、元のデバイスへ Publisher を配布します。
- **CCM\_TPM\_ENABLEMENT – TPM Enablement**。このサービスは、[設定] タブの [\[ハードウェア管理\]](#) セクションで設定した内容を使用して、互換性の

ある HP デバイスの TPM チップの使用および所有権を初期化します。設定オプションについては、148 ページの「[TPM の設定](#)」を参照してください。このサービスをインストールすると、次のタスクを実行します。

- BIOS での TPM チップの有効化
- 指定された BIOS 管理者パスワードの設定
- TPM の所有権および所有者のパスワードのセットアップ
- 緊急復旧トークンおよびパスの初期化
- パスワードリセット トークンとパス、およびバックアップアーカイブパスの設定

**TPM Enablement** サービスが配布された後、デバイスは、ユーザー レベルの初期化を実行できます (初期化は、エンドユーザーが **HP ProtectTools Security Manager** インターフェイスを介して行います)。

 **TPM セキュリティ チップを有効化および初期化するには、HP ProtectTools ソフトウェアをデバイスにインストールしておく必要があります。デバイス モデルによっては、このソフトウェアがプレインストールされているものや、別途ソフトウェアをダウンロードまたは購入する必要があるものがあります。詳細は、ご使用のデバイス モデルの HP ドキュメントを参照してください。**

- **CCM\_SMM – OpenView Settings Migration Manager。** このサービスは、個々のデバイスのユーザー設定のバックアップおよび復元を可能にする、**Settings Migration Manager Utility** をインストールします。**Settings Migration Manager** の使用に関する詳細は、251 ページの「[Settings Migration](#)」を参照してください。
-  これらのデフォルトのサービスは、ソフトウェア ライブラリから削除できません。

表 3 [ソフトウェア] ツールバーのタスク

ツールバー ボタン	説明
	データのリフレッシュ – ソフトウェア ライブラリのリフレッシュ
	ソフトウェアの配布 – ソフトウェア配布ウィザードの起動
	グループ エンタイトルメントの追加 – サービス エンタイトルメント ウィザードの起動
	サービスのインポート – サービス インポート ウィザードの起動
	サービスのエクスポート – サービス エクスポート ウィザードの起動
	ソフトウェアの削除 – ライブラリからのソフトウェアの削除

次のタスクが [ソフトウェア] タブから実行できます。

- [ソフトウェアの配布 \(81 ページ\)](#)
- [グループ エンタイトルメントの追加 \(82 ページ\)](#)
- [サービスのインポート \(82 ページ\)](#)
- [サービスのエクスポート \(83 ページ\)](#)
- [OVCCM からのソフトウェアの削除 \(83 ページ\)](#)
- [ソフトウェアの詳細 \(83 ページ\)](#)

## ソフトウェアの配布

ソフトウェア配布ウィザードを使用して、ソフトウェアをグループまたはデバイスに配布します。

### ソフトウェアのエンタイトルメント設定および配布を行うには

- 1 配布するソフトウェアを選択して、**[ソフトウェアの配布]**  ツールバー ボタンをクリックします。ソフトウェア配布ウィザードが起動します。
- 2 168 ページのウィザードの手順に従って、管理対象デバイスへソフトウェアのエンタイトルメント設定および配布を行います。

## グループ エンタイトルメントの追加

ライブラリで利用可能なソフトウェアは、デバイスのグループにエンタイトルメントを設定できます。

### グループ エンタイトルメントを追加するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスを選択して、グループ エンタイトルメントを追加するソフトウェアを選択します。
- 2 **[グループ エンタイトルメントの追加]**  ツールバー ボタンをクリックして、サービス エンタイトルメント ウィザードを起動します。
- 3 172 ページのウィザードの手順に従って、ウィザードを使って選択するデバイスのグループに、選択したソフトウェアのエンタイトルメントを設定します。

## サービスのインポート

OVCCM は、ソフトウェア サービスをソフトウェア ライブラリにインポートできます。サービスをインポートするには、サービス インポート デッキが、OVCCM サーバーの ChangeControl ディレクトリ内にある必要があります(デフォルトでは C:\Novadigm\ChangeControl)。

テスト環境を構築してある場合に、サービスのインポートは便利です。テスト環境で特定のサービスを承認したら、OVCCM プロダクション サーバーの ChangeControl ディレクトリにそのサービスをエクスポートします。次に、サービス インポート ウィザードを使用して、そのサービスをプロダクション環境のソフトウェア ライブラリにインポートして、ソフトウェアを管理対象デバイスに配布します。

### サービスをインポートするには

- 1 **[サービスのインポート]**  ツールバー ボタンをクリックして、サービス インポート ウィザードを起動します。
- 2 169 ページのウィザードの手順に従って、サービスをソフトウェア ライブラリにインポートします。

## サービスのエクスポート

パブリッシュされたソフトウェア サービスは、OVCCM サーバーの ChangeControl ディレクトリにエクスポートできます。エクスポートされたサービスは、(たとえば、テスト環境内の) 他の OVCCM サーバー ライブラリへのインポートに利用できます。

### サービスをエクスポートするには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスを選択して、サービスとしてエクスポートするソフトウェアを選択します。
- 2 **[サービスのエクスポート]**  ツールバー ボタンをクリックして、**サービス エクスポート ウィザード**を起動します。
- 3 169 ページのウィザードの手順に従って、そのサービスを OVCCM サーバー マシンの ChangeControl ディレクトリにエクスポートします。

## OVCCM からのソフトウェアの削除

OVCCM データベースからソフトウェアを削除するには、[ソフトウェア] ツールバーを使用します。

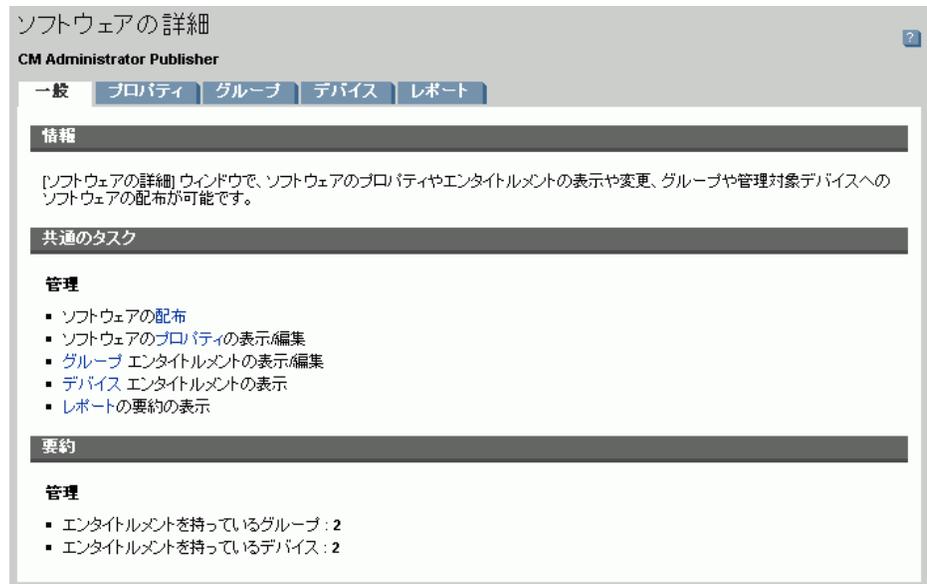
### ソフトウェア ライブラリからソフトウェアを削除するには

- 1 削除するソフトウェアを選択します。
- 2 **[ソフトウェアの削除]**  ツールバー ボタンをクリックします。

## ソフトウェアの詳細

ソフトウェア名をクリックして、[ソフトウェアの詳細] ウィンドウを開きます。[ソフトウェアの詳細] ウィンドウを使用して、ソフトウェア サービス プロパティの表示、エンタイトルメントの表示または変更、ソフトウェアの配布または削除、あるいはレポートの要約の表示を行います。

図 14 [ソフトウェアの詳細] ウィンドウ



### 一般

[一般] タブは、ソフトウェアに利用可能な共通のタスクを表示します。その他の設定タスクを表示するには、他の管理領域タブをクリックします。

### プロパティ

[プロパティ] タブを使用して、カタログ グループや管理機能など、ソフトウェアの詳細を変更します。

- **ソフトウェア カテゴリ**  
ソフトウェアのカテゴリを入力します。ソフトウェア カテゴリは、ソフトウェア ライブラリに表示され、ソート オプションとして利用できます。
- **カタログの表示**  
管理対象デバイスのカタログにこのソフトウェアを表示するかどうかを選択します。カタログにソフトウェアを表示すると、エンド ユーザーは、そのソフトウェアをインストールまたは削除できます。
- **再起動の設定**  
ソフトウェアがインストールされた後、管理対象デバイスを再起動するかどうか、およびエンド ユーザーに確認するかどうかを選択します。
- **インストール コマンドライン**  
ソフトウェアがデバイスに配布された後に実行するコマンド。
- **アンインストール コマンドライン**  
ソフトウェアがデバイスから削除された後に実行するコマンド。



ソフトウェアの詳細に変更を加えた後は、**[保存]** を必ずクリックしてください。

## グループ

[グループ] タブには、選択されたソフトウェアについてエンタイトルメントが設定されているグループがすべて表示されます。ツールバー ボタンを使用して、各グループ内の管理対象デバイスにおけるソフトウェアのエンタイトルメントまたはインストール状態を変更します。

- 追加のグループに**エンタイトルメントを設定する**には、**[ソフトウェア エンタイトルメントの追加]**  ツールバー ボタンをクリックします。
- グループから**エンタイトルメントを削除する**には、**[ソフトウェア エンタイトルメントの削除]**  ツールバー ボタンをクリックします。
- 特定のグループに、選択したソフトウェアを**配布する**には、グループを選択し、**[ソフトウェアの配布]**  ツールバー ボタンをクリックします。**ソフトウェア配布ウィザード**が起動します。168 ページのウィザードの手順に従って、選択したソフトウェアを配布します。
- 特定のグループからソフトウェアを**削除する**には、最初にグループを選択し、**[ソフトウェアの削除]**  ツールバー ボタンをクリックします。**ソフトウェア削除ウィザード**が起動します。172 ページのウィザードの手順に従って、グループ内の管理対象デバイスからソフトウェアを削除します。
- **デバイスのグループのソフトウェアおよびハードウェアのインベントリを探索する**には、最初にグループを選択して、**[インベントリの収集]**  ツールバー ボタンをクリックし、**[ソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索]** を選択します。**ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザード**が起動します。160 ページのウィザードの手順に従って、ソフトウェアおよびハードウェア インベントリを探索します。
- デバイスの**パッチ適合性の探索と強制**を行うには、デバイスを選択して、**[インベントリの収集]**  ツールバー ボタンをクリックし、**[パッチ適合性の探索と強制]** を選択します。**パッチ適合性探索ウィザード**が起動します。161 ページのウィザードの手順に従って、パッチ適合性の探索と強制を行います。

- デバイスのグループの**アプリケーション利用状況の探索**を行うには、グループを選択して、**[インベントリの収集]** ツールバー ボタンをクリックし、**[アプリケーション利用状況の探索]** を選択します。**アプリケーション利用状況収集ウィザード**が起動します。162 ページのウィザードの手順に従って、アプリケーション利用状況データを探索します。
- デバイスのグループの**電源をオンまたはオフにする、あるいは再起動する**には、グループを選択して、**[電源管理]** ツールバー ボタンをクリックします。**電源管理ウィザード**が起動します。163 ページのウィザードの手順に従って、デバイスを管理します。

## デバイス

[デバイス] タブには、選択されたソフトウェアについてエンタイトルメントが設定されているデバイスがすべて表示されます。リストの一番上のツールバーを使用して、特定のデバイスでソフトウェアを配布または削除します。

- 特定のデバイスに、選択したソフトウェアを**配布する**には、デバイスを選択し、**[ソフトウェアの配布]** ツールバー ボタンをクリックします。**ソフトウェア配布ウィザード**が起動します。168 ページのウィザードの手順に従って、選択したソフトウェアを配布します。
- 特定のデバイスからソフトウェアを**削除する**には、最初にデバイスを選択し、**[ソフトウェアの削除]** ツールバー ボタンをクリックします。**ソフトウェア削除ウィザード**が起動します。172 ページのウィザードの手順に従って、グループ内の管理対象デバイスからソフトウェアを削除します。
- デバイスの**ソフトウェアおよびハードウェアのインベントリを探索する**には、最初にデバイスを選択して、**[インベントリの収集]** ツールバー ボタンをクリックし、**[ソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索]** を選択します。**ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザード**が起動します。160 ページのウィザードの手順に従って、ソフトウェアおよびハードウェア インベントリを探索します。
- デバイスのグループの**パッチ適合性の探索と強制**を行うには、グループを選択して、**[インベントリの収集]** ツールバー ボタンをクリックし、**[パッチ適合性の探索と強制]** を選択します。**パッチ適合性探索ウィザード**が起動します。161 ページのウィザードの手順に従って、パッチ適合性の探索と強制を行います。
- デバイスのグループの**アプリケーション利用状況の探索**を行うには、グループを選択して、**[インベントリの収集]** ツールバー ボタンをクリックし、**[アプリケーション利用状況の探索]** を選択します。**アプリケーション利用状況収集ウィザード**が起動します。162 ページのウィザードの手順に従って、アプリケーション利用状況データを探索します。
- デバイスの**電源をオンまたはオフにする、あるいは再起動する**には、デバイスを選択して、**[電源管理]** ツールバー ボタンをクリックします。**電源管理ウィザード**が起動します。163 ページのウィザードの手順に従って、デバイスを管理します。

## レポート

[レポート] タブには、表示しているソフトウェアに固有のレポートの要約が表示されます。詳細なレポートを表示するには、管理コンソールの [レポート] タブを使用します。

## 現在のジョブ

[現在のジョブ] は、現在アクティブなまたはスケジュールされたソフトウェア管理ジョブをすべて表示します。OVCCM データベースの管理対象デバイスで、ソフトウェアのエントリーメント設定および配布または削除するには、ソフトウェア管理ジョブが使用されます。

カラムの見出しをクリックして、ソート順を変更できます。あるいは、表の上部にあるナビゲーション ボタンを使用して、特定のセクションへジャンプできます。

ジョブ コントロールおよびジョブ ステータスに関する詳細は、112 ページの「現在のジョブ」を参照してください。

## 過去のジョブ

[過去のジョブ] は、完了したソフトウェア管理ジョブをすべて表示します。

カラムの見出しをクリックして、ソート順を変更できます。あるいは、表の上部にあるナビゲーション ボタンを使用して、特定のセクションへジャンプできます。



完了したジョブは完了の 1 分後に ([現在のジョブ] タブから) 過去のジョブ リストに移動されます。

## パッチ管理

パッチ、HP Softpaq およびパッチ管理ジョブを管理するには、[パッチ管理] 領域を使用します。

取得したパッチと HP Softpaq は、管理対象デバイスのグループにエントリーメントが設定され、OVCCM を使用して、管理者によって配布されます。また、エントリーメントを設定したパッチと Softpaq は、設定した適合性スケジュールに基づいて、自動的に配布されます。141 ページの「パッチ管理 -

Configuration」を参照してください。Publisher を使用してパブリッシュされた Softpaq は、ソフトウェア ライブラリに格納されています。一方、取得した Softpaq はパッチ ライブラリに格納されています。

[パッチ管理] タブは、次のセクションで説明しています。

- [一般 \(89 ページ\)](#)
- [パッチ \(90 ページ\)](#)
- [現在のジョブ \(96 ページ\)](#)
- [過去のジョブ \(96 ページ\)](#)

図 15 [管理] タブの [パッチ管理] セクション

パッチ管理

一般 **パッチ** 現在のジョブ 過去のジョブ

**情報**

Client Configuration Manager から配布できるすべてのパッチを管理するには、[パッチ管理] セクションを使用します。このセクションの領域で、パッチの取得やパッチの配布などのタスクを実行できます。使用可能なオプションについては、各領域のツールバーを参照してください。

**共通のタスク**

管理	報告
<ul style="list-style-type: none"><li>▪ <a href="#">パッチの取得</a></li><li>▪ <a href="#">パッチの配布</a></li><li>▪ <a href="#">現在のジョブを表示</a></li><li>▪ <a href="#">過去のジョブを表示</a></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>▪ <a href="#">パッチ適合性の要約</a></li><li>▪ <a href="#">パッチ適合性の詳細</a></li></ul>

**要約**

管理	ジョブ
<ul style="list-style-type: none"><li>▪ <a href="#">リフレッシュされたパッチ: 47</a></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>▪ <a href="#">現在のジョブ: 0</a></li></ul>



Microsoft パッチ管理には Premium レベルのライセンスが必要です。

## 一般

[一般] タブを使用して、パッチの取得および配布、現在のおよび完了したパッチ管理ジョブの表示、およびパッチ適合性の詳細とレポートの要約の表示を行います。

[要約] セクションでは、OVCCM データベースで現在利用可能なパッチの数および現在のパッチ管理ジョブの数が表示されます。

パッチおよび Softpaq は、[設定] セクションで入力した情報に基づいて、HP および Microsoft から取得します。詳細については、141 ページの「[パッチ管理 - Configuration](#)」を参照してください。

### パッチを取得するには

- 1 [共通のタスク] 領域で **[取得]** をクリックします。
- 2 パッチがダウンロードされ、パッチ ライブラリに追加されます。OVCCM は、設定した取得スケジュールに従って、追加のパッチを自動的にダウンロードします。

パッチは、OVCCM 管理コンソールだけから管理対象デバイスに配布されます。パッチは、Application Self-Service Manager のソフトウェア カタログでは利用できません。

### パッチを配布するには

- 1 [共通のタスク] 領域で、[パッチの**配布**] をクリックして、[パッチ配布ウィザード](#)を起動します。
- 2 ウィザードの手順に従って、選択したグループのデバイスにパッチを配布します。

## パッチ

パッチ ライブラリに示されたパッチは、管理対象デバイスに対してエンタイトルメントの設定や配布が可能です。ライブラリには、[設定] タブの [パッチ管理] セクションで設定した取得設定に基づいて取得された、パッチおよび **Softpaq** が格納されています。

表 4 [パッチ ライブラリ] ツールバーのタスク

ツールバー ボタン	説明
	データのリフレッシュ – パッチ ライブラリのリフレッシュ
	パッチの配布 – パッチ配布ウィザードの起動
	グループ エンタイトルメントの追加 – サービス エンタイトルメント ウィザードの起動
	サービスのインポート – サービスインポート ウィザードの起動
	サービスのエクスポート – サービス エクスポート ウィザードの起動

次のタスクが [パッチ] タブから実行できます。

- [パッチの配布 \(91 ページ\)](#)
- [グループ エンタイトルメントの追加 \(91 ページ\)](#)
- [サービスのインポート \(91 ページ\)](#)
- [サービスのエクスポート \(92 ページ\)](#)
- [パッチの詳細 \(92 ページ\)](#)

## パッチの配布

パッチ ライブラリで利用可能なパッチは、管理対象デバイスに配布できます。

### パッチを配布するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスを選択して、配布するパッチを選択します。
- 2 **[パッチの配布]**  ツールバー ボタンをクリックして、**パッチ配布ウィザード**を起動します。
- 3 ウィザードの手順に従って、管理対象デバイスにパッチを配布します。

## グループ エンタイトルメントの追加

パッチ ライブラリで利用可能なパッチは、デバイスのグループにエンタイトルメントを設定できます。エンタイトルメントにより、**パッチ配布ウィザード**で設定したスケジュールを使用して、パッチ適合性を強制できます。

### グループ エンタイトルメントを追加するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスを選択して、グループ エンタイトルメント用のパッチを選択します。
- 2 **[グループ エンタイトルメントの追加]**  ツールバー ボタンをクリックして、**サービス エンタイトルメント ウィザード**を起動します。
- 3 172 ページのウィザードの手順に従って、ウィザードを使って選択するデバイスのグループに、選択したパッチのエンタイトルメントを設定します。

## サービスのインポート

OVCCM は、パッチ サービスをパッチ ライブラリにインポートできます。サービスをインポートするには、サービス インポート デッキが、OVCCM サーバーの ChangeControl ディレクトリ内にある必要があります (デフォルトでは C:\Novadigm\ChangeControl)。

テスト環境を構築してある場合に、サービスのインポートは便利です。テスト環境で特定のサービスを承認したら、OVCCM プロダクション サーバーの ChangeControl ディレクトリにそのサービスをエクスポートします。次に、サービス インポート ウィザードを使用して、そのサービスをプロダクション パッチ ライブラリにインポートし、パッチを管理対象デバイスに配布します。

### サービスをインポートするには

- 1 **[サービスのインポート]**  ツールバー ボタンをクリックして、サービス インポート ウィザードを起動します。
- 2 169 ページのウィザードの手順に従って、サービスをパッチ ライブラリにインポートします。

### サービスのエクスポート

パブリッシュされたパッチ サービスは、OVCCM サーバーの ChangeControl ディレクトリにエクスポートできます。エクスポートされたサービスは、(たとえば、テスト環境内の) 他の OVCCM サーバー ライブラリへのインポートに利用できます。

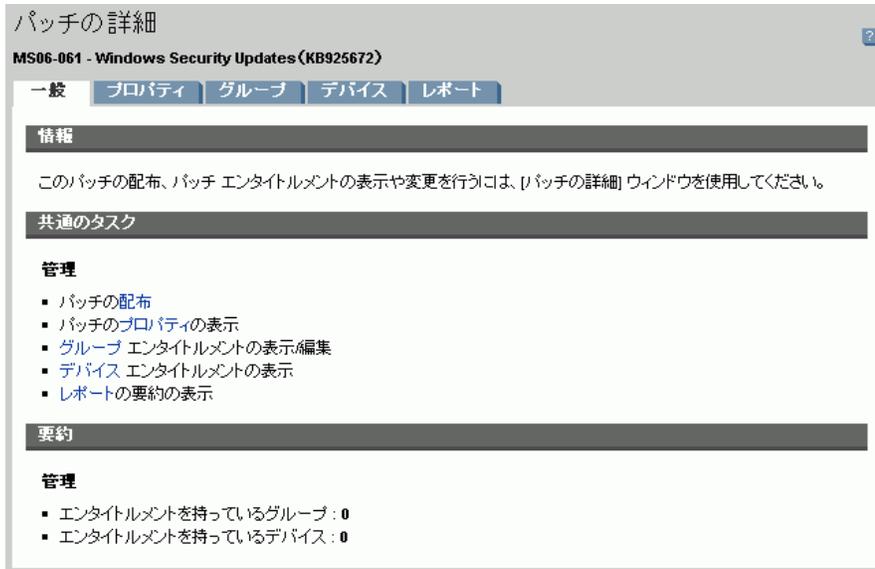
### サービスをエクスポートするには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスを選択して、サービスとしてエクスポートするパッチを選択します。
- 2 **[サービスのエクスポート]**  ツールバー ボタンをクリックして、サービス エクスポート ウィザードを起動します。
- 3 169 ページのウィザードの手順に従って、そのサービスを OVCCM サーバー マシンの ChangeControl ディレクトリにエクスポートします。

### パッチの詳細

パッチの説明をクリックして、[パッチの詳細] ウィンドウを開きます。[パッチの詳細] ウィンドウを使用して、パッチ サービスのプロパティの表示、エンタイトルメントの表示および変更、またはレポートの要約の表示を行います。次の領域が利用可能です。

図 16 [パッチの詳細] ウィンドウ



## 一般

[一般] タブは、そのパッチ サービスに利用可能な共通のタスクを表示します。その他の設定タスクを表示するには、他の管理領域タブをクリックしてください。

## プロパティ

[プロパティ] タブには、ブリテン番号、ブリテンの説明とタイプ、公開日と改訂日、およびベンダー情報のリンクが表示されます。

## グループ

[グループ] タブには、選択されたパッチについてエンタイトルメントが設定されているグループがすべて表示されます。ツールバー ボタンを使用して、各グループ内の管理対象デバイスでパッチのエンタイトルメントまたはインストール状態を変更します。

- 追加のグループに**エンタイトルメントを与える**には、[**グループ エンタイトルメントの追加**]  ツールバーのボタンをクリックします。
- グループから**エンタイトルメントを削除する**には、[**グループ エンタイトルメントの削除**]  ツールバー ボタンをクリックします。
- 特定のグループに、選択したパッチを**配布する**には、グループを選択し、[**パッチの配布**]  ツールバー ボタンをクリックします。**パッチ配布ウィザード**が

起動します。171 ページのウィザードの手順に従って、選択したパッチを配布します。

- デバイスのグループの**ソフトウェアおよびハードウェアのインベントリを探索する**には、最初にグループを選択して、**[インベントリの収集]** ツールバー ボタンをクリックし、**[ソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索]** を選択します。**ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザード**が起動します。160 ページのウィザードの手順に従って、ソフトウェアおよびハードウェア インベントリを探索します。
- デバイスのグループの**パッチ適合性の探索と強制**を行うには、グループを選択して、**[インベントリの収集]** ツールバー ボタンをクリックし、**[パッチ適合性の探索と強制]** を選択します。**パッチ適合性探索ウィザード**が起動します。161 ページのウィザードの手順に従って、パッチ適合性の探索と強制を行います。
- デバイスのグループの**アプリケーション利用状況の探索**を行うには、グループを選択して、**[インベントリの収集]** ツールバー ボタンをクリックし、**[アプリケーション利用状況の探索]** を選択します。**アプリケーション利用状況収集ウィザード**が起動します。162 ページのウィザードの手順に従って、アプリケーション利用状況データを探索します。
- デバイスのグループの**電源をオンまたはオフにする、あるいは再起動する**には、グループを選択して、**[電源管理]** ツールバー ボタンをクリックします。**電源管理ウィザード**が起動します。163 ページのウィザードの手順に従って、デバイスを管理します。

## デバイス

[デバイス] タブに表示されるデバイスは、選択したパッチに対してエンタイトルメントが設定されています。ツールバー ボタンを使用して、特定のデバイスにパッチを配布します。

- 特定のデバイスに、選択したパッチを**配布する**には、デバイスを選択し、**[パッチの配布]** ツールバー ボタンをクリックします。**パッチ配布ウィザード**が起動します。171 ページのウィザードの手順に従って、選択したソフトウェアを配布します。



パッチは、配布された後に削除できません。

- デバイスの**ソフトウェアおよびハードウェアのインベントリを探索する**には、最初にデバイスを選択して、**[インベントリの収集]** ツールバー ボタンをクリックし、**[ソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索]** を選択します。**ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザード**が起動します。160 ページのウィザードの手順に従って、ソフトウェアおよびハードウェア インベントリを探索します。
- デバイスの**パッチ適合性の探索と強制**を行うには、デバイスを選択して、**[インベントリの収集]** ツールバー ボタンをクリックし、**[パッチ適合性の探索と強**

制] を選択します。パッチ適合性探索ウィザードが起動します。161 ページのウィザードの手順に従って、パッチ適合性の探索と強制を行います。

- デバイスの**アプリケーション利用状況の探索**を行うには、デバイスを選択して、**[インベントリの収集]** ツールバー ボタンをクリックし、**[アプリケーション利用状況の探索]** を選択します。アプリケーション利用状況収集ウィザードが起動します。162 ページのウィザードの手順に従って、アプリケーション利用状況データを探索します。
- デバイスの**電源をオンまたはオフにする、あるいは再起動する**には、デバイスを選択して、**[電源管理]** ツールバー ボタンをクリックします。電源管理ウィザードが起動します。163 ページのウィザードの手順に従って、デバイスを管理します。

## レポート

[レポート] タブには、表示しているパッチに固有のレポートの要約が表示されます。詳細なレポートを表示するには、管理コンソールの **[レポート]** セクションを使用します。

## 現在のジョブ

環境内のデバイスにセキュリティパッチを配布するため、パッチ管理ジョブが使用されています。[現在のジョブ]は、アクティブなまたはスケジュールされたジョブのリストを表示します。ジョブのステータスをより詳細に表示するには、ジョブの説明をクリックしてください。

ツールバーを使用して、現在スケジュールされている、またはアクティブなジョブを管理します。

ジョブコントロールおよびジョブステータスに関する詳細は、112ページの「現在のジョブ」を参照してください。

## 過去のジョブ

[過去のジョブ]は、完了したパッチ管理ジョブをすべて表示します。ジョブのステータスをより詳細に表示するには、ジョブの説明をクリックしてください。

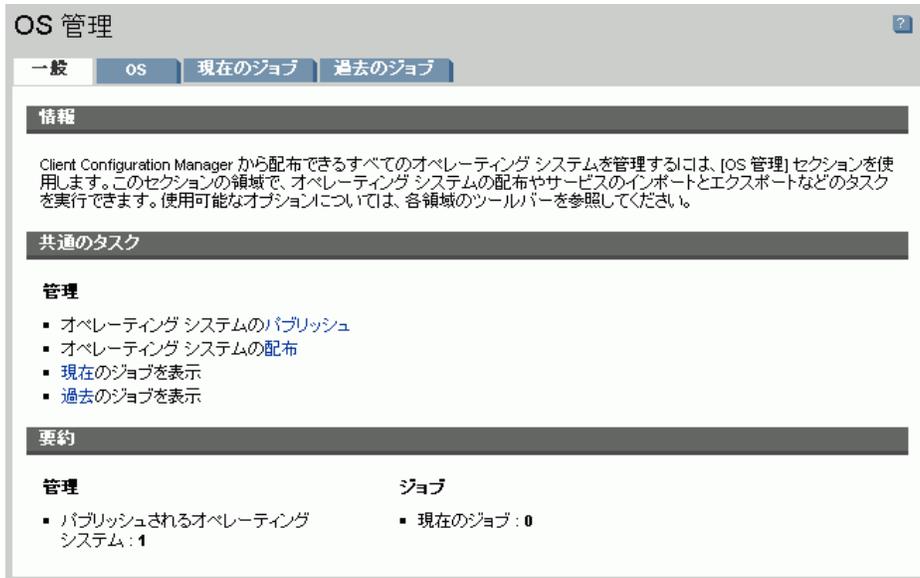
 完了したジョブは完了の1分後に過去のジョブリストに移動されます。

## OS 管理

[OS 管理] セクションを使用して、クライアントデバイスが使用するオペレーティングシステム (OS) を管理します。このセクションの領域で、OS の配布やサービスのインポートとエクスポート、エンタイトルメント設定などのタスクを実行できます。次のセクションで、各 [OS 管理] タブについて説明します。

- 一般 (97 ページ)
- OS (98 ページ)
- 現在のジョブ (110 ページ)
- 過去のジョブ (110 ページ)

図 17 [OS 管理] セクション



▶ OVCCM OS 管理には Premium レベルのライセンスが必要です。

## 一般

[一般] タブを使用して、オペレーティング システムのパブリッシュに関する情報の検索、オペレーティング システムの管理対象デバイスへのエンタイトルメント設定および配布、現在および過去の OS 管理ジョブの表示、およびオペレーティング システムの詳細やレポートの要約の表示を行います。

[要約] セクションでは、OVCCM データベースで現在利用可能なオペレーティング システム サービスの数および現在の OS 管理ジョブの数が表示されます。

### OS イメージを取得してパブリッシュするには

OS イメージが OS ライブラリで利用可能になるには、OS イメージを OVCCM にパブリッシュする必要があります。Image Preparation Wizard を使用して OS イメージを取得し、Publisher を使用して OVCCM へパブリッシュします。

- **Image Preparation Wizard** を使用して、OS イメージの準備と取得を行います。イメージの準備および取得の詳細は、179 ページの「**OS イメージの準備と取得**」、または **Image Preparation Wizard** のオンライン ヘルプを参照してください。
- オペレーティングシステムイメージを **OVCCM** にパブリッシュするには、**Publisher** を使用します。パブリッシュされたオペレーティングシステムサービスは、[オペレーティングシステム] タブに表示されます。オペレーティングシステムのパブリッシュに関する詳細は、213 ページの「**Publisher の使用**」、または **Publisher** のオンライン ヘルプを参照してください。

### OS イメージを配布するには

- 1 [共通のタスク] 領域で **[配布]** をクリックします。これで、**OS 配布ウィザード** が起動します。
- 2 174 ページのウィザードの手順に従って、管理対象デバイスへオペレーティングシステムのエンタイトルメント設定および配布を行います。

ターゲットデバイスの要件や配布シナリオなど、オペレーティングシステムの配布に関する詳細は、100 ページの「**オペレーティングシステムの配布**」を参照してください。

## OS

[OS] タブでは、**OVCCM** にパブリッシュされた利用可能なオペレーティングシステムがすべて表示できます。

付属のツールを使用して、オペレーティングシステムデータのリフレッシュ、管理対象デバイスへのオペレーティングシステムの配布、またはライブラリからのオペレーティングシステムの削除を行います。また、オペレーティングシステムサービスをオペレーティングシステムライブラリからインポートしたり、オペレーティングシステムライブラリへエクスポートすることができます。

新しくパブリッシュされたサービス (7 日以内にパブリッシュ) は、説明の右に、カッコ付きの " '新規作成' " という単語 (**新規作成**) が表示され、識別ができます。

表 5 [OS ライブラリ] ツールバーのタスク

ツールバー ボタン	説明
	データのリフレッシュ – OS ライブラリのリフレッシュ
	オペレーティング システムの配布 – OS 配布ウィザードの起動
	グループ エンタイトルメントの追加 – サービス エンタイトルメント ウィザードの起動
	サービスのインポート – サービスインポート ウィザードの起動
	サービスのエクスポート – サービスエクスポート ウィザードの起動
	オペレーティング システムの削除 – オペレーティング システムのライブラリからの削除

次のタスクが [OS] タブから実行できます。

- オペレーティング システムの配布 (100 ページ)
- Local Service Boot (LSB) を使用した OS イメージの配布 (104 ページ)
- PXE を使用した OS イメージの配布 (104 ページ)
- サービス CD を使用した OS イメージの配布 (105 ページ)
- グループ エンタイトルメントの追加 (106 ページ)
- サービスのインポート (107 ページ)
- サービスのエクスポート (107 ページ)
- オペレーティング システムのライブラリからの削除 (108 ページ)
- OS の詳細 (108 ページ)

## オペレーティング システムの配布

### オペレーティング システムのエンタイトルメント設定および配布を行うには

- 1 配布するオペレーティング システムを選択して、**[オペレーティング システムの配布]** ツールバー ボタンをクリックします。OS 配布ウィザードが起動します。
- 2 174 ページのウィザードの手順に従って、管理対象デバイスへオペレーティング システムのエンタイトルメント設定および配布を行います。

オペレーティング システムの配布には、有人モードと無人モードがあります。配布モードを選択するには、146 ページで、[設定] タブの [OS 管理] セクションを参照してください。

配布シナリオおよび OS 配布のターゲット デバイス要件は、以下のセクションを参照してください。

### 配布シナリオ

ユーザーの環境のデバイスへのオペレーティング システムの配布は、いくつかの変動要因により異なります。次の表は、複数の OS イメージ配布シナリオおよびデバイスにオペレーティング システムを配布する手順を説明しています。

表 6 OS 配布シナリオ

デバイスの状態	配布の手順
管理対象 (エージェントをインストール済み)	デバイスがすでに管理されている場合： <ul style="list-style-type: none"><li>● デバイスをグループに追加</li><li>● グループにオペレーティング システムのエンタイトルメントを設定 (エンタイトルメント設定がまだの場合)</li><li>● OS 配布ウィザードを使用して OS を配布</li></ul> 注意：OS 配布プロセスの間に LSB を使用する場合、PXE やサービス CD の準備は必要ありません。

デバイスの状態	配布の手順
非管理対象 (エージェントが未インストール)	<p>非管理対象デバイスに OS がインストールされている場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• デバイスに管理エージェントを配布</li> <li>• 上の管理対象デバイスに関する手順を参照</li> </ul> <p>非管理対象デバイスに OS がインストールされていない場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• OS がインストールされていないデバイスへの OS の配布については、下の手順を参照</li> </ul>
ベアメタル (OS が未インストール)	<p>(ハードディスクの復旧など) デバイスが以前管理されていた場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• グループ メンバーシップおよび OS エンタイトルメントがまだ有効なはずです。PXE またはサービス CD を使用して OS を配布</li> </ul> <p>デバイスが以前管理されたことがない場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• PXE またはサービス CD でデバイスを起動</li> <li>• MAC アドレスの変化をデバイス名として使用し、デバイスが OVCCM に追加される</li> <li>• 新しいデバイスを OS エンタイトルメントを持つグループに追加</li> </ul> <p>注意：OS が All Devices グループにアタッチされている場合、OS は自動的にインストールされます。複数の OS が All Devices にアタッチされている場合、インストールする OS を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• デバイスが再起動され、サービス CD または PXE が OS の配布を続けます。</li> </ul> <p>注意：OS がインストールされていないデバイスへの OS の配布には、LSB は使用できません。</p>

### ターゲット デバイスの要件

ターゲット デバイスとは、オペレーティング システムをインストール、置き換え、または更新したいワークステーションのことです。次の要件を満たす必要があります。

- (Windows オペレーティング システムに関し) Microsoft により、あるいは OVCCM が配布する OS の実行に関しマシンのメーカーにより公表されている、ハードウェアおよび BIOS の最低要件を満たさなければなりません。

- ポリシー用に、マシンのモデル、メーカーおよび一意の識別子のレポートを作成したい場合、またはこれらを利用したい場合、**BIOS**は(システム管理用の)**SMBIOS**仕様をサポートしなければなりません。ターゲットデバイスが**SMBIOS**をサポートしていない場合、そのマシンでポリシーを指定するのに利用できる基準は**MAC**アドレスだけです。
- 英語、フランス語、またはドイツ語のキーボードを使用している。
- **RAM**が**128 MB**以上ある。
- ネットワーク(**PXE**)ブートを使用している場合、以下が必須です。
  - ブートサーバーから起動できる。このためには、ハードディスクの前にネットワークから起動するように**BIOS**を設定しておきます。
  - **PXE**をサポートするネットワーク インターフェイス カード(**NIC**)がある。ネットワーク カードには**PXE**対応のものがありますが、実際は、ネットワーク ブート **ROM**を追加した**PXE**をサポートするだけです。これらのカードに、ネットワーク ブート **ROM**が備えられている必要があります。以前の**3Com**カードには、ファームウェアの**MBA 4.3**へのアップグレードおよび**PXE**スタックバージョン**2.2**を必要とするものがあります。
  - **Microsoft Sysprep**を使用するには、ターゲットデバイスが、同じまたは互換性のある**HAL (Hardware Abstract Layer)**を参照マシンとして備えていることを確認します。**HAL.DLL**のバージョンが同じマシンは、同じ**HAL**を共有しています。マシンの**HAL**の決定に関する詳細は、次を参照してください。

**<http://support.microsoft.com/?kbid=237556>**

**HAL.DLL**をチェックできない場合、配布の成功を確認するため、テスト環境でターゲットマシンにイメージを配布することを検討してください。

- **IDE**または**SCSI (Adaptecのみ)**ブート ドライブ インターフェイスを備えている必要があります。
- 参照マシンの**ACPI**特性(**HAL**で表される**ACPI**と**非ACPI**など)とブートドライブ インターフェイスが一致する。
- 参照マシンで取得された**HAL**に示されている、プログラム可能割り込みコントローラの特性と互換性がある(高度なプログラム可能割り込みコントローラ(**APIC**)**HAL**は**APIC**を持たないマシンでは動作しません。しかし、**PIC**(標準のオンボードプログラム可能割り込みコントローラ)**HAL**は、**APIC**を持つマシンで動作します)。比較的新しい**HP/Compaq**コンピュータは、多くの場合、**APIC**を備えています。
- **NTFS**および**FAT32**ファイルシステムをサポート。

- **Windows XPe** および **CE** のイメージは、同等以上のサイズのフラッシュドライブを備えたターゲットマシンに配布できます。たとえば、**256 MB** のイメージは、**256** または **512 MB** のターゲットデバイスに配布できます。
- **Embedded Linux** のイメージは、サイズが同じフラッシュドライブを備えたターゲットマシンにしか配布できません。たとえば、**256 MB** のイメージは、**256 MB** のフラッシュドライブを備えたターゲットデバイスにしか配布できません。



OS イメージを配布すると、ターゲットデバイスのハードディスクおよびパーティションの数によっては、既存のデータが上書きされます。次のシナリオは、イメージ配布プロセスで、どのパーティションが影響を受けて、どのパーティションが影響を受けないかを説明しています。

#### **2 つのパーティションを持つ 1 台の HDD :**

- ブートパーティションにはイメージが配布されます。2 番目のパーティションは影響を受けません。

#### **1 つのパーティションを持つ 1 台の HDD :**

- ハードディスクにイメージが配布されます。既存のデータはすべて上書きされます。

#### **各 1 つのパーティションを持つ 2 台の HDD :**

- 最初のハードディスクにイメージが配布されます。最初のハードディスクの既存のデータはすべて上書きされます。2 台目のハードディスクは影響を受けません。

#### **各 2 つのパーティションを持つ 2 台の HDD :**

- 最初のハードディスクのブートパーティションにイメージが配布されます。2 番目のパーティションおよび 2 台目のハードディスクは影響を受けません。

### **シンクライアントの出荷イメージの配布**

サポートされているシンクライアントのオペレーティングシステム、**Windows XP Embedded (XPe)**、**Windows CE**、または **Embedded Linux** の出荷イメージを配布する場合、次に注意します。

- イメージがデバイスに配布された後、デバイスの管理を始めるため、管理エージェントをインストールしなければなりません。インストールの指示は、**40** ページの「[シンクライアントでの管理エージェントのインストール](#)」および製品マニュアルの「[シンクライアントへの管理エージェントのインストール](#)」を参照してください。

## Local Service Boot (LSB) を使用した OS イメージの配布

ローカル サービスの起動により、OVCCM は、ネットワークから起動されていないデバイスの OS の管理を行います。

ローカル サービスの起動を使用するとき、既存のマシンは PXE 対応である必要はありません。また、各ターゲット デバイスについて、起動の順序を BIOS でローカルに設定する必要はありません。

OS 配布の前提要件については、100 ページの「[配布シナリオ](#)」を参照してください。

### ローカル サービスの起動を使用して OS イメージを配布するには

- 1 配布用のイメージを選択して、**[オペレーティング システムの配布]**  ツールバー ボタンをクリックし、**OS 配布ウィザード**を起動します。
- 2 ウィザードの指示に従い、配布方法の選択では、**[Local Service Boot (LSB)]** を選択します。
- 3 これで、**LSB** ソフトウェアがターゲット デバイスにインストールされます。次に **LSB** ソフトウェアが、選択した **OS** をインストールします。複数の **OS** イメージがデバイスにエンタイトルメント設定されている場合、どの **OS** をインストールするか選択するように表示されます。

## PXE を使用した OS イメージの配布

PXE ベースの環境により、OVCCM は、ネットワークから起動されるターゲット デバイスの OS の管理を行います。OS 配布の前提要件については、100 ページの「[配布シナリオ](#)」を参照してください。

PXE の使用は、ネットワークから起動しているクライアントにブート イメージを提供する DHCP サーバー、およびこれらのファイルを提供する TFTP サーバーの設定からなります。

- DHCP サーバーおよび TFTP サーバーは、OS 配布に PXE を使用する前に、設定する必要があります。設定の指示は製品のドキュメントを参照してください。詳細については、43 ページの「[OS 配布用の PXE の設定](#)」を参照してください。

PXE が設定されている場合、ターゲット デバイスがネットワークから起動する、またはプライマリ ブート デバイスとして PXE が有効になっていることを確認してください。このような設定になるよう、必要な設定の調節を行います(たとえば、BIOS のバージョンによっては、再起動プロセスの間に ESC キーを押して、設定内の起動順序を変更できます)。

これで、OS イメージを配布する準備ができました。

## PXE を使用して OS イメージを配布するには

- 1 PXE が設定されていることを確認します。
- 2 配布用のイメージを選択して、[オペレーティング システムの配布]  ツールバー ボタンをクリックし、OS 配布ウィザードを起動します。
- 3 174 ページのウィザードの指示に従い、配布方法の選択では、[ローカル CD または PXE サーバー] を選択します。
- 4 ウィザードが終了したら、DHCP サーバーで指定した設定を使用して、ターゲット デバイスが再起動されます。
- 5 OS イメージがターゲット デバイ스에 配布、インストールされました (複数の OS イメージがデバイスにエンタイトルメント設定されている場合、インストールする OS を選択するように表示されます)。

## サービス CD を使用した OS イメージの配布

サービス CD を使用して、まだオペレーティング システムがインストールされていないターゲット デバイス (ベアメタル マシン) をローカルに起動します。

サービス CD はファイル rom\_cdsb.iso を使用して作成します。ファイルは、OVCCM CD-ROM の \OSManagement\ISO\DeploymentCD\ ディレクトリにあります。

LSB は、まだ OS をインストールしていないデバイスには使用できないので、OS 配布のためベアメタル マシンを起動するには、サービス CD あるいは PXE サーバーのいずれかを使用しなければなりません。

サービス CD は、ターゲット デバイスでローカルに作成され、利用可能でなければなりません。

OS 配布の前提要件については、100 ページの「配布シナリオ」を参照してください。

## サービス CD を使用して OS イメージを配布するには

- 1 ターゲット デバイスにサービス CD を挿入し、CD から起動します。
- 2 指示が出たら、OVCCM サーバーの IP アドレスまたはホスト名およびポート番号を入力して、**Enter** キーを押し続行します。たとえば、**OVCCM.acmecorp.com:3469** または **192.168.1.100:3469** と入力します。ポート 3469 は、OS のイメージングと配布に予約されています。

- 3 デバイスが OVCCM サーバーに接続し、MAC アドレスの変化をデバイス名として使用して、デバイス リストに追加されます。サービス CD が OVCCM サーバーに接続したら、「このマシンにローカル OS がないか、OS が無効です。」および「マシンは使用できず、管理者がポリシーを指定して Wake On LAN を実行するまでシャットダウンされます。」というメッセージが表示されます。
- 4 OVCCM のコンソールで、[OS 管理] セクションを使用して、新しいデバイスをグループに追加します。
- 5 [OS 管理] セクションで、配布用のイメージを選択して、[オペレーティング システムの配布]  ツールバー ボタンをクリックし、OS 配布ウィザードを起動します。
- 6 ウィザードの指示に従い、配布方法の選択では、[ローカル CD または PXE サーバー] を選択します。
- 7 ウィザードが完了したら、再びサービス CD を使用して、ターゲット デバイスを再起動します。この再起動の間に、OS イメージが検出され配布されます。イメージのサイズおよびネットワークのバンド幅により、これには 10 ~ 15 分かかる場合があります (複数の OS イメージがデバイスにエンタイトルメント設定されている場合、どの OS をインストールするか選択するように指示されます)。
- 8 イメージの配布が終了したら、ターゲット デバイスは再起動して Windows を起動します。Sysprep プロセスが、新しいイメージを起動し、初期化します。

## グループ エンタイトルメントの追加

OS ライブラリで利用可能な OS イメージは、デバイスのグループにエンタイトルメントを設定できます。

### グループ エンタイトルメントを追加するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスを選択して、グループ エンタイトルメント用の OS イメージを選択します。
- 2 [グループ エンタイトルメントの追加]  ツールバー ボタンをクリックして、サービス エンタイトルメント ウィザードを起動します。
- 3 172 ページのウィザードの手順に従って、ウィザードを使って選択するデバイスのグループに、選択したイメージのエンタイトルメントを設定します。

## サービスのインポート

OVCCM は、OS サービスを OS ライブラリにインポートできます。サービスをインポートするには、サービス インポート デッキが、OVCCM サーバーの ChangeControl ディレクトリ内にある必要があります。

テスト環境を構築してある場合に、サービスのインポートは便利です。テスト環境で特定のサービスを承認したら、OVCCM プロダクション サーバーの ChangeControl ディレクトリにそのサービスをエクスポートします。次に、サービス インポート ウィザードを使用して、そのサービスをプロダクション環境の ソフトウェア ライブラリにインポートして、ソフトウェアを管理対象デバイスに配布します。

### サービスをインポートするには

- 1 [サービスのインポート]  ツールバー ボタンをクリックして、サービス インポート ウィザードを起動します。
- 2 169 ページのウィザードの手順に従って、サービスを OS ライブラリにインポートします。

## サービスのエクスポート

パブリッシュされた OS イメージは、OVCCM サーバーの ChangeControl ディレクトリにエクスポートできます。エクスポートされたサービスは、(たとえば、テスト環境内の)他の OVCCM サーバー ライブラリへのインポートに利用できます。

### サービスをエクスポートするには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスを選択して、サービスとしてエクスポートする OS イメージを選択します。
- 2 [サービスのエクスポート]  ツールバー ボタンをクリックして、サービス エクスポート ウィザードを起動します。
- 3 169 ページのウィザードの手順に従って、そのサービスを OVCCM サーバー マシンの ChangeControl ディレクトリにエクスポートします。

## オペレーティング システムのライブラリからの削除

OVCCM データベースからソフトウェアを削除するには、[OS] ツールバーを使用します。

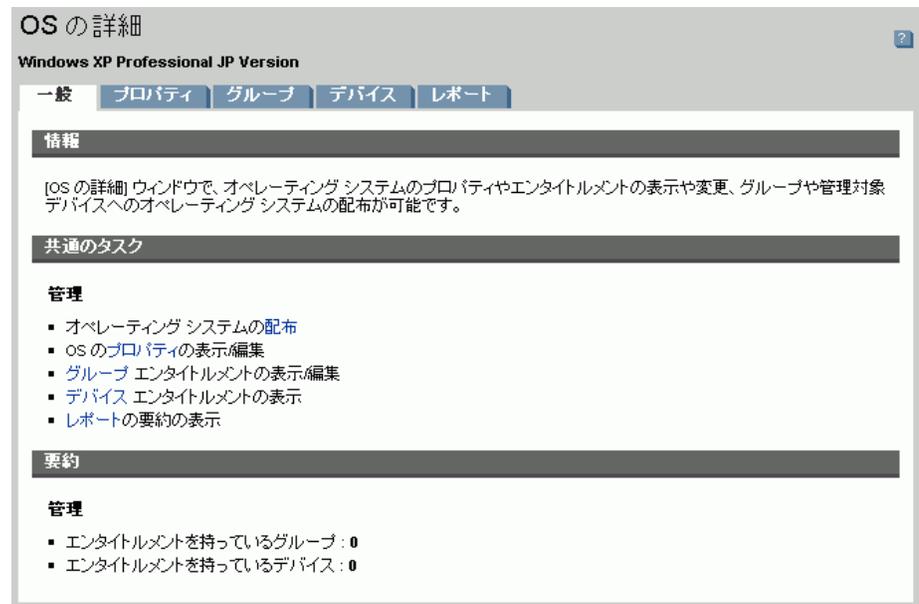
オペレーティング システム ライブラリからオペレーティング システム サービスを削除するには

- 1 削除する OS を選択します。
- 2 **[オペレーティング システムの削除]**  ツールバー ボタンをクリックします。

## OS の詳細

いずれかのオペレーティング システム サービスの詳細リンクをクリックして、[OS の詳細] ウィンドウを開きます。[OS の詳細] ウィンドウで、OS のプロパティの表示、エンタイトルメントの表示や変更、レポートの要約の表示、または OS 管理ジョブの作成が可能です。次の領域が利用可能です。

図 18 [OS の詳細] ウィンドウ



[OS の詳細] ウィンドウでは次の領域が利用可能です。

## 一般

[一般] タブは、その OS サービスに利用可能な共通のタスクを表示します。その他の設定タスクを表示するには、他の管理領域タブをクリックしてください。

## プロパティ

[プロパティ] タブを使用して、オペレーティング システム サービスの詳細を変更します。

- **説明**  
このオペレーティング システム サービスについて表示される説明。このフィールドは必須です。
- **連絡先**  
この OS サービスに関する連絡先情報を保管する、オプションのフィールド。
- **Web サイト**  
このサービスに関連する URL を入力する、オプションのフィールド。

[保存] をクリックして、変更をコミットします。

## グループ

[グループ] タブのグループは、オペレーティング システムにエンタイトルメントが設定されています。ツールバーを使用して、表示されたグループについて、エンタイトルメントの管理、OS の配布、ソフトウェアおよびハードウェア インベントリの探索、パッチ適合性の探索および強制を行います。

- 追加のグループに**エンタイトルメントを与える**には、[グループ エンタイトルメントの追加]  ツールバーのボタンをクリックします。
- グループから**エンタイトルメントを削除する**には、[グループ エンタイトルメントの削除]  ツールバー ボタンをクリックします。
- 特定のグループに、オペレーティング システムを**配布する**には、グループを選択し、[オペレーティング システムの配布]  ツールバー ボタンをクリックします。OS 配布ウィザードが起動します。174 ページのウィザードの手順に従って、選択した OS を配布します。

## デバイス

[デバイス] タブのデバイスは、オペレーティング システムにエンタイトルメントが設定されています。ツールバーを使用して、特定のデバイスに OS を配布します。

- 特定のデバイスにオペレーティング システムを**配布する**には、デバイスを選択し、**[オペレーティング システムの配布]**  ツールバー ボタンをクリックします。OS 配布ウィザードが起動します。174 ページのウィザードの手順に従って、選択した OS を配布します。

## レポート

[レポート] タブでは、そのオペレーティング システム サービスに固有のレポートの要約が表示されます。詳細なレポートを表示するには、管理コンソールの [レポート] タブを使用します。

## 現在のジョブ

[現在のジョブ] は、現在アクティブなまたはスケジュールされた OS 管理ジョブをすべて表示します。OVCCM データベースの管理対象デバイスで、オペレーティング システム サービスのエンタイトルメント設定および配布を行うには、OS 管理ジョブが使用されます。

カラムの見出しをクリックして、ソート順を変更できます。あるいは、表の上部にあるナビゲーション ボタンを使用して、特定のセクションへジャンプできます。

ジョブ コントロールおよびジョブ ステータスに関する詳細は、112 ページの「現在のジョブ」を参照してください。

## 過去のジョブ

[過去のジョブ] は、完了した OS 管理ジョブをすべて表示します。

カラムの見出しをクリックして、ソート順を変更できます。あるいは、表の上部にあるナビゲーション ボタンを使用して、特定のセクションへジャンプできます。

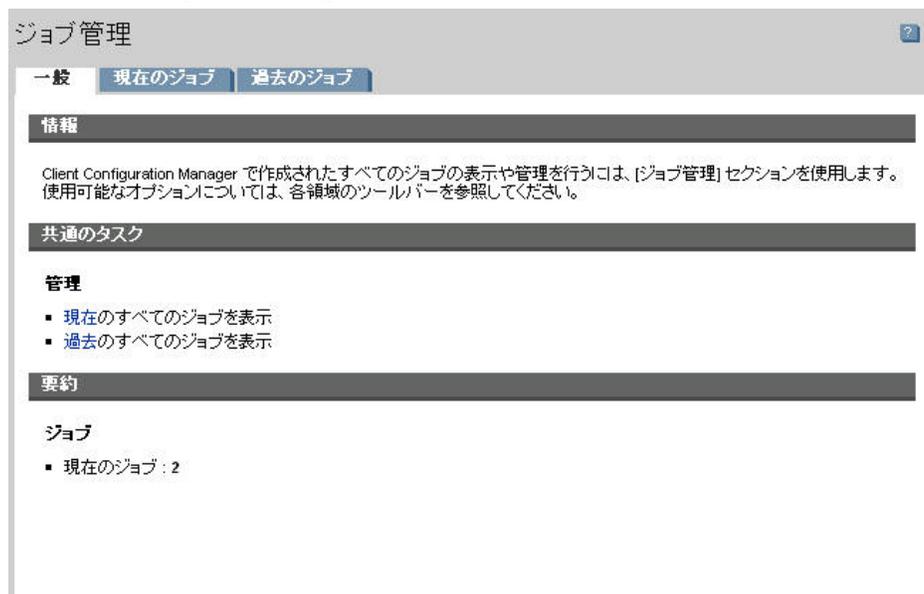
 完了したジョブは完了の 1 分後に ([現在のジョブ] タブから) 過去のジョブ リストに移動されます。

# ジョブ管理

[ジョブ管理] セクションを使用して、現在のジョブおよび過去のジョブをすべて表示し、管理します。要約情報で、現在アクティブな管理ジョブおよびスケジュールされている管理ジョブの合計数が表示されます。[ジョブ管理] には次のタブがあります。

- 一般 (111 ページ)
- 現在のジョブ (112 ページ)
- 過去のジョブ (116 ページ)

図 19 [ジョブ管理] セクション



## 一般

[一般] タブを使用して、現在および過去の全ジョブの表示、およびアクティブなジョブおよびスケジュールされているジョブの合計数の表示を行います。

## 現在のジョブ

[現在のジョブ] は、アクティブなまたはスケジュールされた全ジョブのリストを表示します。ジョブのステータスをより詳細に表示するには、ジョブの説明をクリックしてください。

ツールバー ボタンを使用して、現在スケジュールされている、またはアクティブなジョブを管理します。

- [ジョブ コントロール \(112 ページ\)](#)
- [ジョブ ステータス \(112 ページ\)](#)
- [ジョブの詳細 \(115 ページ\)](#)

## ジョブ コントロール

既存のジョブを管理するには、ジョブ リストの一番上にあるジョブ コントロールを使用します。各コントロールに関する説明は、下の表を参照してください。

表 7 ジョブ コントロール

アイコン	説明
	ジョブの開始
	無効になったり一時停止されたジョブのリジューム
	現在アクティブ、開始を待機中、または停止を待機中のジョブの一時停止。ジョブのステータスは一時停止に設定されます。
	現在アクティブまたは一時停止のジョブの停止。ジョブのステータスは無効化に設定されます。
	ジョブのスケジュール再設定
	ジョブの削除

## ジョブ ステータス

各ジョブに関する情報は、[ステータス] カラムを参照します。次の表は、各ジョブ ステータス メッセージを説明しています。

表 8 ジョブ ステータス

アイコン	ステータス	説明
	エラーで終了	ジョブは完了したが、いくつかエラーが発生した。詳細は、ジョブの説明をクリックします。
	成功	ジョブは、エラーもなく正常に終了した。
	現在アクティブ	ジョブが現在実行中。
	一時停止	ジョブは現在、一時停止。
	開始を待機中	ジョブは、スケジュールされ、実行を待機中。
	停止を待機中	ジョブは現在、停止のプロセスの途中。
	失敗	ジョブが正常に終了しなかった。
	無効化	ジョブが停止または一時停止された。

各ジョブの管理にジョブコントロールを使用するとき、予想される結果を確認するには、次の表を参照してください。

表 9 ジョブ ステータスと予想されるジョブコントロールのアクション

ジョブコントロール ジョブステータス	 開始	 リジューム	 一時停止	 停止	 スケジュール再設定	 削除
 エラーで終了	ステータスが現在アクティブに変化	なし	ステータスが無効化に変化	なし	更新を適用	ジョブの削除
 成功	ステータスが現在アクティブに変化	なし	ステータスが無効化に変化	なし	更新を適用	ジョブの削除
 現在アクティブ	なし	なし	ステータスが一時停止に変化	ステータスが停止を待機中に変化	更新を適用	なし

ジョブコントロール ジョブステータス	 開始	 リジューム	 一時停止	 停止	 スケジュール再設定	 削除
 一時停止	なし	ステータスが一時停止ステータスの前の状態に変化	なし	ステータスが停止を待機中に変化	更新を適用	なし
 開始を待機中	ステータスが現在アクティブに変化	なし	ステータスが無効化に変化	なし	更新を適用	ジョブの削除
 停止を待機中	なし	なし	ステータスが一時停止に変化	なし	更新を適用	N/A
 失敗	ステータスが現在アクティブに変化	なし	ステータスが無効化に変化	なし	更新を適用	ジョブの削除
 無効化	なし	ステータスが無効化ステータスの前の状態に変化	なし	なし	更新を適用	ジョブの削除

ジョブコントロールは、[現在のジョブ] タブにあるジョブにしか利用できません。これには、現在アクティブなジョブおよび反復スケジュールを設定したジョブが含まれます。[過去のジョブ] タブにある完了したジョブはコントロールできないので、再び実行する必要がある場合は再作成します。

ジョブに関する詳細は、[説明] カラムのリンクをクリックしてください。新しいウィンドウが開き、それぞれのジョブの詳細が表示されます。

- ▶ ジョブが一時停止されても、ジョブのアクション (配布、収集など) は、現在対象となっているデバイスについては続行されます。アクションが完了すると、ジョブは、リジュームされるまで、他のデバイスでの実行はされません。

## ジョブの詳細

ジョブの説明リンクをクリックすると、新しいウィンドウが開き、そのジョブに特有の情報が表示されます。ジョブタイプによっては、[ジョブの詳細] ウィンドウに、下で説明するタブのいくつかが現れます。

図 20 [ジョブの詳細] ウィンドウ

ジョブの詳細

14 - Reporting Device Synchronization

デバイス

情報

この探索ジョブで見つかったデバイスは下記のとおりです。ダイナミック探索グループの場合、このリストは現在のグループ メンバーシップを反映しています。

見つかったデバイス

検索: デバイス 含む

検索 リセット

デバイス	モデル	IP アドレス	オペレーティング システム	サービス パック	エージェントのステータス	前回の変更
CCMCLIENTJA	VMware Virtual Platform	15.154.228.226	Windows XP	Service Pack 2	インストール済み	2006-11-23 11:05:04

### 詳細

[詳細] タブは、すべてのジョブ情報を表示します。

### ターゲット

[ターゲット] タブには、ジョブが作成された全デバイスが表示されます。

## サービス

[サービス] タブには、そのジョブのターゲット デバイス用の全ソフトウェア、パッチ、またはオペレーティング システムが表示されます。

ジョブ メッセージに関する詳細は、297 ページの「トラブルシューティング」を参照してください。

## 過去のジョブ

[過去のジョブ] は、完了した管理ジョブをすべて表示します。ジョブのステータスをより詳細に表示するには、ジョブの説明をクリックしてください。



完了したジョブは完了の 1 分後に過去のジョブ リストに移動されます。

## 第 5 章 レポート

[レポート] インターフェイスを使用して、ユーザーの環境にあるデバイスやソフトウェアに関する詳細なレポートを設定、表示します。[レポート] インターフェイスには、次の領域があります。

図 21 [レポート] インターフェイス



- 検索オプション (118 ページ)
- 表示オプション (118 ページ)
- 検索条件 (118 ページ)
- [レポート] ウィンドウ (119 ページ)

▶ [レポート] セクションのグラフィカル レポートを表示するには、**Java Runtime** または **Virtual Java Machine** が必要です。詳細は、<http://java.com/en/index.jsp> を参照してください。

## 検索オプション

[ディレクトリ/グループ フィルタ] または [データ フィルタ] 領域を使用して、現在の表示でアクセスしているデータセットに 1 つ以上のフィルタを適用します。適用するフィルタは、レポートの上に**検索条件**として表示されます。

### ディレクトリ/グループ フィルタ

- ディレクトリ/グループ エントリをクリックして、そのレベルまで現在のデータセットをフィルタします。この領域の使用方法に関する詳細は、**119** ページの「**検索オプションを使用したフィルタの選択**」を参照してください。

### データ フィルタ

- この領域を使用して、現在のデータセットに適用するフィルタを生成または選択します。この領域の使用方法に関する詳細は、**119** ページの「**検索オプションを使用したフィルタの選択**」を参照してください。

## 表示オプション

[表示オプション] 領域を使用して、現在のセッションおよび表示をコントロールします。

### レポート ビュー

- [レポート ビュー] は、現在のデータセットを表示するレポート ウィンドウおよび各ウィンドウに関連する初期設定 (最小化や最大化、各ウィンドウの項目数など) の定義を行います。**Reporting Server** に初めてアクセスすると、デフォルトのビューが適用されます。現在のビューは、グローバル ツールバーの右に表示されます。

[レポート ビュー] 領域を使用して、レポート ビューの変更やカスタマイズを行います。詳細については、**123** ページの「**表示オプションを使用したレポート ビューの選択**」を参照してください。

## 検索条件

検索条件は、[レポート] ウィンドウの上に表示され、検索コントロールのいずれかを使用してデータセットに適用されたフィルタの一覧を表示します。

- フィルタを削除するには、検索条件リストのフィルタ名の左にある **X** をクリックします。

## デバイス フィルタ

デバイス フィルタは、デバイス関連の情報を含むレポートに適用されます。

### レポート固有のフィルタ

レポート固有のフィルタは、特定のレポート ビュー内で利用可能なデータにだけ適用されるフィルタです。たとえば、デバイス別利用状況、利用状況関連フィルタを適用し、製品別利用状況データを表示してから、1つの製品名を選択した場合、レポート固有のフィルタが、選択した条件に基づいてそのレポートに適用されます。

## [レポート] ウィンドウ

[レポート] ウィンドウには現在のビューが表示されます。

- ウィンドウのタイトルバーにある [最小化]  をクリックして、レポート ウィンドウを折りたたみます。
- ウィンドウのタイトルバーにある [最大化]  をクリックして、レポート ウィンドウを展開します。

[レポート] ウィンドウのアクションバー アイコンの使用に関する詳細や、レポート内の項目の詳細のブラウズ、ソート、および表示については、127 ページの「[レポート] ウィンドウについて」を参照してください

各ウィンドウには**アクション バー**が備えられています。このバーには、ツールが含まれており、現在の [レポート] ウィンドウにより、デバイスのグループの作成、CSV ファイルの作成、Web クエリ リストの作成やグラフィック ビューへの切り替えができます。詳細については、128 ページの「**Windows アクション バーの使用**」を参照してください。

 OVCCM のレポートは、GMT タイムゾーンで表示されます。

## 検索オプションを使用したフィルタの選択

[検索オプション] 領域では、Reporting Server 内のデータセットをフィルタする 2 つの方法が提供されます。以下が可能です。

- [ディレクトリ/グループ フィルタ] 領域からグループ エントリを選択します。これにより、結果はグループ エントリ レベルに制限されます。
- [データ フィルタ] 領域を使用して、フィルタを作成または適用します。これにより、結果は適用した固有のフィルタに制限されます。

図 22 [検索オプション] 領域



ディレクトリ/グループ フィルタを選択したり、データ フィルタを適用するときは、フィルタが検索条件エントリに自動的に表示されます

次のセクションで、[検索オプション] 領域について説明します。

- [ディレクトリ/グループ フィルタ] 領域 (120 ページ)
- [データ フィルタ] 領域 (121 ページ)

## [ディレクトリ/グループ フィルタ] 領域

ディレクトリ/グループ フィルタを使用して、グループをブラウズします。グループ エントリをクリックすると、OVCCM は、そのエントリについて表示されるレポート データを自動的にフィルタします。たとえば、**販売**グループ エントリをクリックすると、レポート領域には、販売グループに関連するデバイスだけが表示されます。

そのグループに対しさらにドリル ダウンするには、[ディレクトリ/グループ フィルタ] 領域内のイメージをクリックします。テキストをクリックすると、関連するフィルタがデータに適用されます。

[ディレクトリ/グループ フィルタ] 領域のツリー ビューを展開すると、展開された分岐はルート分岐になります。

## [データ フィルタ] 領域

[データ フィルタ] 領域は、いつでも検索コントロールとして利用できます(ウィンドウの左側に位置)。これを使用して、現在のデータセットに適用するフィルタを選択します。フィルタは、適用されると、レポート ウィンドウの上の検索条件リストに追加されます。

[データ フィルタ] 領域を使用して、フィルタの選択および適用を行うには

- 1 [データ フィルタ] 領域で、フィルタ グループを展開して、ツリー ビューを表示し、サブグループを選択します。下の図に示した例では、**[インベントリ管理の関連情報]**、そして次に **[ハードウェアの関連情報]** が選択されました。
- 8 ツリー ビューでフィルタを選択します。下の図に示した例では、**[デバイスの関連情報]**、そして次に **[デバイスの分類]** が選択されました。
- 9 [フィルタ値] テキスト ボックスに、具体的な値を入力します。たとえば、**\*Notebook\*** と入力します。複数の文字を表す \* や、1 文字を表す ? や \_ (アンダースコア) など、ワイルドカードを使用できます。
- 10 **[適用]** をクリックして、レポートにフィルタを追加します。フィルタを適用すると、そのフィルタが、レポート ウィンドウの上の検索条件リストに追加されます。

 [リセット] ボタンは、[フィルタ値] フィールドをクリアします。また、フィルタ グループおよびフィルタの選択も、デフォルト値にリセットされます。

下の図は、**Notebook** デバイスだけにレポートを制限するのに使用されるデータ フィルタ エントリの例を示します。

図 23 レポートを Notebook デバイスに制限するため検索条件を適用



特別なフィルタ値文字とワイルドカード

検索文字列に特別な文字やワイルドカードを使用すると、適切なレコードを見つけるのが容易になります。これらの特殊文字を、[フィルタ値] テキストボックスに入力するテキストとともに使用します。以下の「表 10」で、各特殊文字が説明されています。

表 10 特殊文字とワイルドカード

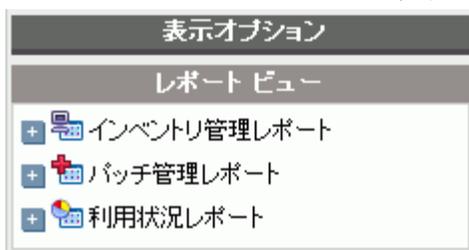
文字	説明
*または %	特定のテキスト文字列の全レコードを返す。 例： デバイスのベンダー フィルタ HP* は、全 HP レコードを返す。 %HP% は、HP を含む全レコードを返す。
? または _	任意の 1 文字を返す。 例： デバイスの分類フィルタ Not?book は、'Not' で始まり 'book' で終わる全レコードを返す。 Note_ook は、'Note' で始まり 'ook' で終わる全レコードを返す。

文字	説明
!	フィルタを否定。!はテキスト文字列の前に置く必要があります。 例： デバイスのベンダー フィルタ !HP* は、HP でないレコードを返す。

## 表示オプションを使用したレポート ビューの選択

[表示オプション] 領域内で、[レポート ビュー] は、レポートページで表示するウィンドウおよびその初期状態 (最大化または最小化) を指定します。

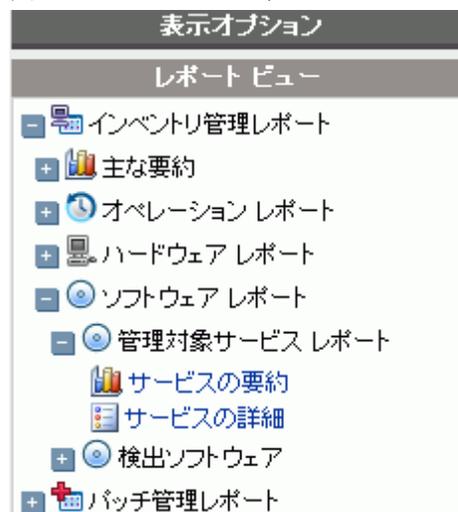
図 24 [表示オプション] 領域



ビューを適用するには

- 1 [レポート ビュー] 領域で、ビュー グループ リストを展開して、グループを選択します。下の図では、[インベントリ管理レポート]、[ソフトウェア レポート] が展開されています。
- 2 次に、そのグループのビューを選択します。下の図は、[管理対象サービス レポート] に利用可能なレポート ビューを示します。  
ビューを選択すると、適切なレポートが表示されます。

図 25 ソフトウェア レポートの選択例



[戻る] ボタン  をクリックして、前のレポートウィンドウに戻ります。  
次のセクションでは、レポート ビューについて詳しく説明しています。

- レポート ビューのタイプ(124 ページ)
- HP ハードウェア レポートの表示 (126 ページ)

## レポートビューのタイプ

表示したいデータのタイプにより、適切なレポート ビューを選択します。

- インベントリ管理レポート (125 ページ)
- パッチ管理レポート (125 ページ)
- 利用状況管理レポート (125 ページ)

 OVCCM のレポートは、GMT タイムゾーンで表示されます。

## インベントリ管理レポート

インベントリ管理レポートは、OVCCM の全デバイスに関するハードウェアおよびソフトウェアの情報を表示します。

## パッチ管理レポート

パッチ管理レポートは、管理対象デバイスのパッチ適合性情報や、パッチおよび Softpaq の取得情報を表示します。

- **適合性レポート** – 管理エージェントは、OVCCM へ製品およびパッチの情報を送ります。この情報は、利用可能なパッチと比較され、管理対象デバイスが、脆弱性を削除するためパッチを必要とするかどうかを判断します。適合性レポートは、環境で検出されたデバイスに該当する情報しか表示しません。
- **取得レポート** – 取得ベースのレポートは、ベンダーの Web サイトからのパッチ取得の成功および失敗を表示します。
- **リサーチ レポート** – リサーチ ベースのレポートは、ソフトウェア ベンダーの Web サイトから取得したパッチに関する情報を表示します。リサーチベースのレポートでは、フィルタバーが利用できます。

## 利用状況管理レポート

利用状況管理レポートは、利用状況収集エージェントがインストールされているデバイスの利用状況についての情報を表示します。アプリケーション利用状況収集ウィザードを使用して、収集エージェントをインストールし、利用状況データの収集を始めます。

- **デバイス レポート** – 個々のデバイスまたはユーザー別に、収集した利用状況についての情報を表示します。
- **月次利用状況レポート** – ベンダー、製品、またはアプリケーション別に、利用状況についての情報を表示します。

利用状況管理レポートには、次のデータ カラムが含まれる場合があります。

- **利用時間** – アプリケーションが実行されている時間。
- **集中時** – アプリケーションがアクティブなウィンドウである時間。
- **利用回数** – ユーザーのデバイスでアプリケーションが実行された回数を追跡します。
- **利用ステータス** – 個々のアプリケーションまたはアプリケーションのグループについて、使用インスタンスと未使用インスタンスとの関係を表します。

▶ 収集エージェントが配布された後、利用時間の収集がすぐに始まります。集中時の収集は、ユーザーが次回ログインしてから始まります。

- ▶ Program Files など、ほとんどの論理フォルダは、マシンに関係し、個々のユーザーとは関連付けられていません。ゆえに、利用状況管理レポート、デバイス レポート、ユーザー別利用状況レポートでは、[ユーザー名] カラムに [未定義] と表示される場合があります。

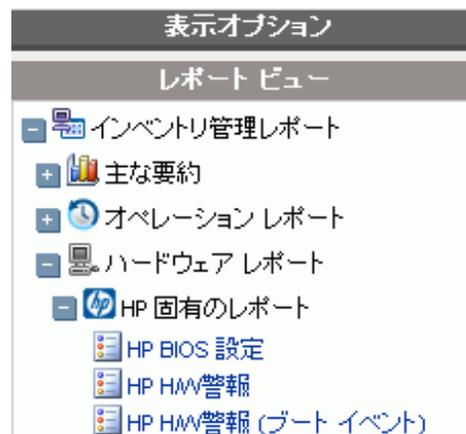
[設定] タブの [レポート] セクションで指定した**利用状況の設定**によっては、利用状況データの一部または全部が難読化される場合があります。

## HP ハードウェア レポートの表示

[表示オプション] を使用して、HP ハードウェア レポートを表示します。これらのレポートには、互換性のある HP デバイスの HP Client Management Interface (CMI) が取得した簡易警告情報が含まれます。

HP ハードウェア レポートを表示するには

- 1 [表示オプション] 領域で、**[インベントリ管理レポート]** を選択します。
- 2 [ハードウェア レポート] を選択します。
- 3 **[HP 固有のレポート]** を選択します。



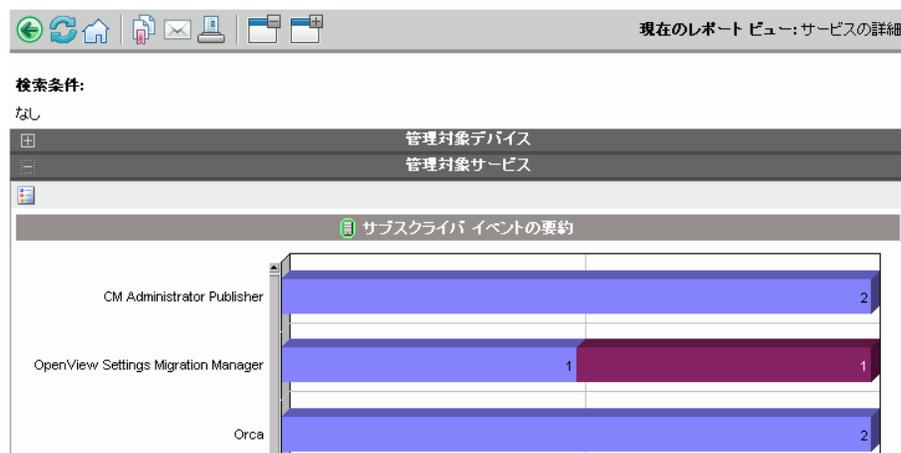
- 4 **HP 固有のハードウェア レポート ビュー** を選択します。レポートが右のペインに表示されます。
- 5 (選択したレポート ビューに基づいて) 具体的な警告タイプまたは BIOS 設定を検索するには、レポートウィンドウの一番上に表示される追加のデータ フィルタ検索ボックスを使用します。

データフィルタ							
H/W 警報の名前							
<input type="text"/>							
適用 リセット							
HP H/W 警報							
15 項目							
1-1 項目(共に1項目)							
詳細	デバイス名	前回の更新	名前	説明	カテゴリ	ステータス	重大度
	HP10293324192	2005-04-18 14:38:02	Chassis Fan Stall	Chassis Fan Speed	3: センサ	5: 前兆的な故障	25: 致命的故障

## [レポート] ウィンドウについて

[レポートページ] では、適用されたビューで指定されたウィンドウを表示します。下の図は、[レポートページ] で表示されるレポートウィンドウの例を示します。**[管理対象デバイス]** および **[管理対象サービス]**。[管理対象デバイス] ウィンドウは最小化され、[管理対象サービス] ウィンドウは最大化されて、レポート データを表示します。

図 26 [レポート] ウィンドウの例



次のセクションで、[レポート] ウィンドウの機能およびオプションを説明します。

- **Windows** アクション バーの使用 (128 ページ)
- **ダイナミック レポートグループ**の作成 (130 ページ)

## Windows アクション バーの使用

各ウィンドウには、**アクション バー**があり、次のようなアイコンが表示されています。

 **新しいダイナミック レポート グループの作成** – グループ作成ウィザードを起動 (164 ページ) して、レポートで返されたデバイスを使用し、新しいグループを作成します。

 グループ作成ボタンは、デバイスのリストを含むレポートでだけ表示されます。

 **CSV にエクスポート** – 開いたり保存したりできる、レポート クエリのコマ区切りのリストを作成します。

 **IQY にエクスポート** – Microsoft Excel ファイルとして開いたり保存したりできる、レポート クエリの Web クエリ リストを作成します。ソース レポートへのライブ リンクが作成され、OVCCM からデータを直接取得することにより、Excel のスプレッドシート内からレポート データをリフレッシュできます。

 **グラフィック ビューに切り替え** – レポート ビューをグラフィック モードに切り替えます。

図 27 [レポート] ウィンドウの例



詳細	前回の接続	↓	Radio ID	デバイス	IP アドレス	オペレーティング システム	OS のレベル
	2006-11-23 05:42:54		CCMSERVERJA	CCMSERVERJA	15.154.228.225	Microsoft Windows Server 2003 Enterprise Edition Version 5.2.3790 [Build 3790]	Service Pack 1
	2006-11-23 04:49:03		CCMCLIENTJA	CCMCLIENTJA	15.154.228.226	Microsoft Windows XP Professional Version 5.1.2600 [Build 2600]	Service Pack 2

### レポートの項目のブラウズ

レポートには、多くの項目が含まれる場合があります。[アクション バー] で、ウィンドウ領域に表示する項目の数をカスタマイズできます。現在のウィンドウ領域外のレコードまでブラウズするには、下の図に示すように [ブラウズ] ボタンまたはドロップダウン リストを使用します。

### ウィンドウあたりの最大項目数

このドロップダウン リスト ボックスを使用して、現在のウィンドウに表示する項目の数を制限します。たとえば、最大 30 項目を選択した場合、現在のウィンドウで 30 項目をスクロールできます。

### [前へブラウズ] および [次へブラウズ] ボタン

ウィンドウあたりの最大項目数に、レポートの合計項目数より小さな値を選択した場合、複数のウィンドウを通してブラウズできます。ブラウズ ボタンを使用して、現在のレポートの最初、前、次、または最後のウィンドウに移動します。

### 特定のウィンドウへのブラウズ

あるいは、利用可能なウィンドウのリストから、表示する項目の集合を選択します。たとえば、ドロップダウン リストから **1 - 15 of 46** を選択すると、1 ~ 15 の項目が表示されます。

図 28 レポート表示の設定



### 凡例

- a 現在のソート フィールドおよび順序
- b ウィンドウあたりの最大項目数
- c ブラウズ ボタン
- d 現在の表示と合計数

### カラムのソート

カラムの見出し名をクリックし、そのカラムを基準としてレポートの項目を昇順または降順にソートします。

昇順と降順を切り替えるには、(矢印で示された) 現在選択されているカラムをクリックします。上向きの矢印は、アクティブなソート カラムを昇順で表示します。下向きの矢印は、項目を降順で表示します。

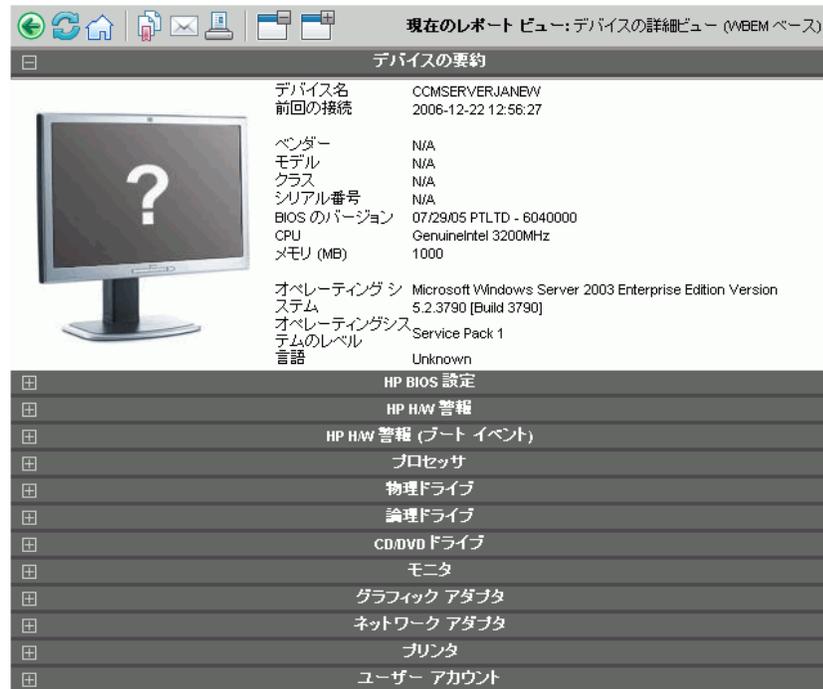
たとえば、上の図は、[前回の接続] カラムを基準に降順にソートされたレポートを示しています。[前回の接続] カラムの見出しの右に下向きの矢印があることに注意してください。

### デバイスの要約の表示

[管理対象デバイス] レポートウィンドウで、項目の隣の **[詳細の表示]**  をクリックすると、そのデバイスの詳細が表示されます。

次の図で示すように [デバイスの要約] ウィンドウが開きます。標準のグローバル アイコンの他に、緑色の矢印アイコンが表示され、前のウィンドウに戻れることに注意してください。

図 29 [デバイスの要約] ウィンドウ



ページの下にある見出しをクリックして、リストを展開します。たとえば、**[HP H/W 警報]** を展開すると、そのデバイスについてレポートされたハードウェア警告のリストが表示されます。

デバイスの要約の内容は、最初の [レポート] ウィンドウにより異なります。

### レポート データからのフィルタの適用

レポート内のハイパーリンクされたデータをクリックして、特定の条件でフィルタします。フィルタが適用され、[検索条件] に表示されます。

### ダイナミック レポート グループの作成

ダイナミック レポート グループには、レポート クエリの結果として返されたデバイスが含まれています。ダイナミック レポート グループを作成するには、最初にレポート クエリにデバイスのリストを生成し、次に**グループ作成ウィザード**を使用します。

### ダイナミック レポート グループを作成するには

- 1 レポート クエリを使用してデバイスのリストを生成します。たとえば、デフォルトのレポートウィンドウから **[管理対象デバイスを表示]** をクリックします。
- 2 デバイス リストをフィルタして、グループに含めたいデバイスだけにします。たとえば、[オペレーティング システム] カラムの **Microsoft Windows XP Professional Version 5.1.2600** をクリックします。レポートは、**Windows XP Professional** のバージョン **5.1.2600** を使用する管理対象デバイスをすべて表示します。フィルタを追加して、デバイス リストをさらにフィルタできます。
- 3 グループに追加したいデバイスのリストができれば、 **[新しいダイナミックレポートグループの作成]** ボタンをクリックして、**グループ作成ウィザード**を開始します。
- 4 164 ページのウィザードの手順に従って、デバイスのダイナミック グループを作成します。

### ダイナミック レポート グループについて

- ダイナミック レポート グループのメンバーシップは、元のリストを作成するため使用したクエリで定義された条件に合うデバイスによります。メンバーシップは、グループ作成ウィザードで指定したスケジュールに基づいて更新されます。あるいは、[グループの詳細] ウィンドウを使用して変更できます。
- レポート グループで使用される条件を変更するには、新しいデバイス クエリを作成してから、グループ作成ウィザードを使用し、新しい条件で新しいグループを作成します。



## 第 6 章 設定

[設定] セクションでは、サポートへの連絡、コンソールユーザー アクセスの管理、インフラストラクチャ サーバーの定義と設定、パッチ取得のスケジュールと設定の管理、ハードウェアの管理、および ODBC の設定ができます。

図 30 [設定] タブのセクション



左のセクション コンテンツ領域にあるリンクをクリックして、各領域で利用可能な設定オプションを表示します。次のセクションで、コントロールできる [設定] 領域を定義しています。

- [レポート \(149 ページ\)](#)
- [サポート \(134 ページ\)](#)
- [コンソールへのアクセス \(135 ページ\)](#)

インフラストラクチャ (138 ページ)

- パッチ管理 (141 ページ)
- OS 管理 (146 ページ)
- ハードウェア管理 (147 ページ)
- レポート (149 ページ)

## サポート

[サポート] セクションを使用して、サポート情報の検索、現在のサーバー ログファイルのダウンロード、およびライセンス情報の確認を行います。

ライセンス セクションでは、インストールしている OVCCM ライセンスのタイプ、Premium か Basic かを表示します。

図 31 [設定] タブの [サポート] セクション



次のタスクが [サポート] 領域で完了できます。

- ログファイルのダウンロード (135 ページ)
- ライセンス情報の更新 (135 ページ)

## ログ ファイルのダウンロード

弊社サポートセンターに連絡すると、ログ ファイルの提供を求められる場合があります。用意されているリンクを使用して、現在のサーバー ログ ファイルの圧縮ファイルをダウンロードし保存します。

ログ ファイルをダウンロードするには

- 1 [トラブルシューティング] 領域で、**[現在のサーバー ログ ファイルをダウンロード]** リンクをクリックします。新しいウィンドウが開きます。
- 2 ログ ファイルが準備できたら、**[logfiles.zip をダウンロード]** をクリックします。
- 3 表示メッセージに応じて **[保存]** をクリックし、圧縮ファイルをコンピュータに保存します。
- 4 ファイルを保存する場所を指定して、**[OK]** をクリックします。
- 5 ログ ファイルがコンピュータにダウンロードされ、logfiles.zip という名前の 1 つの ZIP 形式ファイルで保存されます。

## ライセンス情報の更新

現在のライセンス情報が、OVCCM を使用するのに必要です。[ライセンス] セクションを使用して、この情報の表示および更新を行います。

新しいライセンスを適用するには

- 1 新しい license.nvd ファイルからテキストをコピーして、**[ライセンス データ]** テキスト ボックスに貼り付けます。
- 2 **[保存]** をクリックします。  
更新されたライセンス情報が、**[現在のライセンス]** の後に表示されます。

## コンソールへのアクセス

[コンソールへのアクセス] セクションを使用して、コンソール ユーザーを管理します。管理ジョブには、ジョブを作成するため使用されたユーザー ID を表示する、[作成者] フィールドが含まれます。これにより、どのコンソール ユーザーが個々のジョブを作成したかを追跡できます。

デフォルトでは、コンソール ユーザーは **admin** の 1 人だけで、デフォルトのパスワードは **secret** です。このコンソール ユーザー アカウントは削除できません。

また、現在アクティブなユーザー アカウントも削除できません。現在アクティブなアカウントを削除する必要がある場合、最初にログアウトして、別のユーザーとしてログインしなおします。これで、以前にアクティブだったコンソール ユーザー アカウントを削除できます。

図 32 [コンソールへのアクセス] セクション



次のセクションでは、コンソール ユーザーの管理方法を説明します。

- [追加コンソール ユーザーの作成 \(136 ページ\)](#)
- [コンソール ユーザーの削除 \(136 ページ\)](#)
- [コンソール ユーザーの詳細の表示および変更 \(137 ページ\)](#)
- [コンソール パスワードの変更 \(137 ページ\)](#)

## 追加コンソール ユーザーの作成

- **[新しいユーザーの作成]** ツールバー ボタン  をクリックして、ユーザー作成ウィザードを起動します。
- 173 ページのウィザードの手順に従って、コンソール ユーザーを追加します。

## コンソール ユーザーの削除

- コンソール ユーザーを削除するには、最初にユーザーをリストから選択して、**[ユーザーの削除]** ツールバー ボタン  をクリックします。

## コンソール ユーザーの詳細の表示および変更

ユーザー ID をクリックして、コンソール ユーザーの詳細を表示します。

[ユーザーの詳細] ウィンドウから、表示名、説明、およびパスワードを変更できます。必ず **[保存]** をクリックして、変更を確定します。

図 33 [ユーザーの詳細] ウィンドウ

ユーザーの詳細

admin

**情報**

このユーザーに対して下記のパラメータを変更してください。

**必須フィールド \***

ユーザー ID: admin

表示名:

説明:

**パスワードの変更**

パスワード:

パスワードの確認:

## コンソール パスワードの変更

コンソール ユーザーを作成するときに、コンソール アクセス パスワードを指定します。パスワードを変更するには、[ユーザーの詳細] ウィンドウを使用します。

### コンソール パスワードを変更するには

- 1 ユーザー ID をクリックして、[ユーザーの詳細] ウィンドウを開きます。
- 2 **[パスワードの変更]** セクションで、表示されたテキスト ボックスに新しいパスワードを入力して確認します
- 3 **[保存]** をクリックします。

## インフラストラクチャ

[インフラストラクチャ] セクションを使用して、インフラストラクチャ サーバーを管理します。インフラストラクチャ サーバー グループにデバイスを追加してから、インフラストラクチャ サービスを配布して、サーバーを定義します。

インフラストラクチャ サーバーを実装すると、管理対象デバイスにデータ キャッシング サービスを提供することにより、バンド幅を最適化し、ネットワーク パフォーマンスを向上できます。

管理対象デバイスは、自動的に最も効率的な接続を使ってインフラストラクチャ サーバーを検出します。そして、そのサーバーをデータ転送タスクに使用します。これにより、ネットワーク上でのパフォーマンスの向上とバンド幅の最適化が可能です。

▶ インフラストラクチャ サーバーは、オペレーティング システム イメージを除く、要求されたデータをすべてキャッシュします。

図 34 インフラストラクチャ サーバー

デバイス	モデル	IP アドレス	オペレーティング システム	サービス パック	インフラストラクチャのステータス	作成済み	前回の変更 ↓
<input type="checkbox"/> CCMCLIENT.JA	VMware Virtual Platform	15.154.228.226	Windows XP	Service Pack 2		2006-11-20 13:36:04	2006-11-23 11:05:04
<input type="checkbox"/> ccmservrja	VMware Virtual Platform	15.154.228.225	Windows NT 5.2	Service Pack 1	インストール済み	2006-11-17 16:36:10	2006-11-22 16:13:52

0 個のアイテムが選択されました

[インフラストラクチャ サーバー] ツールバーには、ユーザーの環境にあるインフラストラクチャ サーバーの定義および設定に使用できるボタンが備えられています。

表 11 [インフラストラクチャ サーバー] ツールバー ボタン

ツールバー ボタン	説明
	データのリフレッシュ – リストデータのリフレッシュ
	デバイスの追加 – インフラストラクチャ サーバー グループへのデバイスの追加
	インフラのグループからデバイスの削除 – インフラストラクチャ サーバー グループからのデバイスの削除
	インフラストラクチャ サービスの配布 – インフラストラクチャ 配布ウィザードの起動
	インフラストラクチャ サービスの削除 – インフラストラクチャ 削除ウィザードの起動
	データベースからデバイスの削除 – デバイスを削除

インフラストラクチャ サーバーは、インフラストラクチャ サーバー グループに追加されたデバイスであり、インフラストラクチャ サービスがインストールされています。

次のセクションでは、インフラストラクチャ サーバーの定義と設定の方法を説明しています。

- [インフラストラクチャ サーバーの管理 \(139 ページ\)](#)
- [インフラストラクチャ サービスの配布 \(140 ページ\)](#)

## インフラストラクチャ サーバーの管理

インフラストラクチャ サーバーとして追加するためのデバイスを選択するとき、次の事項を考慮する必要があります。

- デバイスには、パブリッシュされたサービスを保管するのに十分な領域が必要です。
- デバイスには、高性能の高速ネットワーク カード(データ転送速度 100 MB または 1 GB) が必要です。
- デバイスは、そのネットワークへのダウンロードトラフィックをローカライズしたいサブネット上に存在する必要があります。

ツールバーを使用して、インフラストラクチャ サーバー グループでのデバイスの追加および削除を行います。

### インフラストラクチャ サーバーを追加するには

- 1 [インフラストラクチャ] ツールバーで、**[デバイスの追加]**  ツールバー ボタンをクリックします。[CCM Infrastructure Servers グループ メンバーシップ] ウィンドウが開き、OVCCM にインポートされた全デバイスのリストが表示されます。
- 2 リストからデバイスを選択して、**[デバイスの追加]** をクリックします。  
追加されたデバイスが、インフラストラクチャ サーバー リストに現れます。

### インフラストラクチャ サーバーを削除するには

- 1 [インフラストラクチャ] ツールバーで、インフラストラクチャ サーバー グループから削除したいデバイスを選択します。
- 2 **[インフラのグループからデバイスの削除]**  ツールバー ボタンをクリックします。  
そのデバイスがグループから削除されます。

 インフラストラクチャ サービスがインストールされたインフラストラクチャ グループからデバイスを削除する場合、サービスが削除されるまで、インフラストラクチャ サーバーとして機能し続けます。サービスを削除するには、**[インフラストラクチャ サービスの削除]** ツールバー ボタンを使用します。

デバイスを追加したら、**インフラストラクチャ サービスの配布**を開始できます。各サーバーでリモート データ キャッシングを開始するのに、このサービスが必要です。

## インフラストラクチャ サービスの配布

インフラストラクチャ サービスを配布して、インフラストラクチャ サーバー デバイスでリモート サービスを有効にします。

### インフラストラクチャ サービスを配布するには

- 1 左のカラムのチェックボックスを使用して、インフラストラクチャ サーバー リストからデバイスを選択します。
- 2 **[インフラストラクチャ サービスの配布]**  ツールバー ボタンをクリックして、**インフラストラクチャ 配布ウィザード**を起動します。
- 3 176 ページのウィザードの手順に従って、選択したデバイスにインフラストラクチャ サービスを配布します。

サービスがインストールされたら、管理対象デバイスは、インフラストラクチャサーバーがローカルサブネットにあるか、OVCCMサーバーより「近くに」あるかを、自動的に検出します。デバイスは、インフラストラクチャサーバーからリソースを受信します。

インフラストラクチャサーバーのローカルキャッシュで利用できないリソースをデバイスが要求するたびに、データがOVCCMサーバーから取得され、インフラストラクチャサーバーのダイナミックキャッシュに保存されて、クライアントデバイスに提供されます。

#### インフラストラクチャサービスを削除するには

- 1 左のカラムのチェックボックスを使用して、インフラストラクチャサーバーリストからデバイスを選択します。
- 2 **[インフラストラクチャサービスの削除]**  ツールバー ボタンをクリックして、インフラストラクチャ削除ウィザードを起動します。
- 3 177 ページのウィザードの手順に従って、選択したデバイスからインフラストラクチャサービスを削除します。

## パッチ管理 - Configuration

[パッチ管理] セクションを使用して、パッチおよび HP Softpaq の取得、パッチ取得スケジュールの設定、およびパッチ取得設定の指定を行います。

エンタイトルメントを持っているパッチは、**パッチ適合性探索ウィザード**を使用して指定した適合性探索スケジュールに基づいて、自動的に配布されます。パッチは、**パッチ配布ウィザード**を使用して即座に配布できます。

図 35 [設定] タブの [パッチ管理] セクション

パッチ管理

スケジュール 設定

パッチ取得スケジュール

現在のスケジュール: スケジュールは設定されていません

スケジュールの作成/更新:

実行: 時間ごと

間隔: 1 時間

開始日: 2006 11月 28 時間 15 : 30

現在のサーバー時刻: 2006-11-28 15:27:00 東京 (標準時)

次のセクションでは、各 [パッチ管理] タブについて説明します。

- [パッチ取得スケジュール \(142 ページ\)](#)
- [パッチ取得設定 \(143 ページ\)](#)

## パッチ取得スケジュール

[スケジュール] タブを使用して、パッチの取得またはパッチ取得スケジュールの設定を行います。

▶ 最新のパッチを能率的に取得するため、パッチ取得スケジュールを 1 日に 1 度だけオフピーク時に実行するよう設定することを推奨します。

[現在のスケジュール] は、現在設定されているパッチ取得スケジュールを示します。

### パッチを取得するには

- [\[パッチを今すぐ取得\]](#) をクリックして、現在のパッチ取得設定に基づき、パッチを取得します。パッチがダウンロードされ、パッチ ライブラリに保管されます。
- [パッチ管理] の [\[パッチ\]](#) タブで取得したパッチを確認します。

## パッチ取得スケジュールを設定するには

- 1 付属のツールを使用して、取得スケジュールを設定します。
  - **実行**：時間、日、週など一定の間隔でパッチを探索するかどうかを設定します。
  - **間隔**：具体的な間隔 (時間、日、または週) を選択します。
  - **開始日**：ドロップダウン リストを使用して、パッチ適合性を探索する日を選択します。
  - **[現在のサーバー時刻]** は、OVCCM サーバーの現在の時刻を表示します。
- 2 終了したら、**[保存]** をクリックして、変更をコミットします。  
**[現在のスケジュール]** の後に、新しいスケジュールが表示されます。

## パッチ取得設定

**[設定]** タブを使用して、取得したい Windows パッチおよび HP Softpaq の取得設定を設定します。パッチは、HP および Microsoft から取得します。Softpaq は、HP インスタント サポート技術を活用して取得します。

必須のフィールドにはアスタリスク (\*) が付いています。

図 36 パッチ取得の [設定] タブ

パッチ管理

スケジュール 設定

パッチ取得設定

取得するパッチ タイプの取得設定を行ってください。ブリテンは HP とサードパーティベンダー ソースの両方から取得されます。

必須フィールド\*

**Microsoft ブリテン**

有効: はい

取得するブリテン:\* MS04\*,MS05\*,MS06\* ?  
例: MS05\* または MS05\*,MS06\*

取得する言語:\* en ?  
例: en または en,ja,fr

**HP Softpaq**

有効: はい

HP システム ID:\* 088C ?  
例: 088C

**接続の設定**

プロキシ サーバーのアドレス: http://proxyserver:8080 ?  
例: http://proxyserver:8080

### パッチ取得設定を行うには

#### 11 [Microsoft ブリテン] 領域に入力します。

- **[有効]** ドロップダウン ボックスで **[はい]** を選択して **Microsoft ブリテン** を取得します。
- **[取得するブリテン]** テキスト ボックスに、各探索期間にダウンロードするブリテンを入力します。ある範囲のブリテンを指定するには、ワイルドカード文字を使用します (**MS05\*** など)。複数のブリテン検索を同時に行うには、コンマで区切ります (**MS05\*, MS06\*** など)。
- **[取得する言語]** テキスト ボックスに、ダウンロードしたいパッチに利用可能な各言語バージョンの言語コードを入力します。次の表を使用して、適切な言語コードを確認します。複数の言語コードはスペースを入れずにコンマで区切ります (**en,fr,ja** など)。コードは大文字と小文字を区別します。

表 12 言語コード

言語 = コード	言語 = コード	言語 = コード
アラビア語 = ar	フランス語 = fr	ノルウェー語 (ブークモール) = no
中国語 (香港特別行政区) = zh-hk	ドイツ語 = de	ポーランド語 = pl
中国語 (簡体字) = zh-cn	ギリシャ語 = el	ポルトガル語 (ブラジル) = pt-br
中国語 (繁体字) = zh-tw	ヘブライ語 = he	ポルトガル語 (ポルトガル) = pt-pt
チェコ語 = cs	ハンガリー語 = hu	ロシア語 = ru
デンマーク語 = da	イタリア語 = it	スペイン語 = es
オランダ語 = nl	日本語 = ja	スウェーデン語 = sv
英語 = en	日本語 (NEC) = ja-nec	トルコ語 = tr
フィンランド語 = fi	韓国語 = ko	

12 [HP Softpaq] 領域に入力します。

- [有効] ドロップダウン ボックスで [はい] を選択して HP Softpaq を取得します。
- [HP システム ID] テキスト ボックスで、どのデバイス関連 HP Softpaq を取得するか決定します。これには、テキスト ボックスに HP システム ID のリストを入力するか、またはテキスト ボックスの右にある [データの取得] ボタン  をクリックして、OVCCM のデバイスに基づいたシステム ID のリストを自動的に作成します。

13 必要な場合は、[接続の設定] 領域に入力します。

- ブリテンの取得元の [プロキシ サーバーのアドレス] を入力します (<http://proxyserver:8080/> など)。
- パッチを取得するときに使用する [プロキシのユーザー ID] および [プロキシのパスワード] を入力します。
  -  パッチ取得は、基本認証のみで設定されたプロキシ サーバーからしかできません。

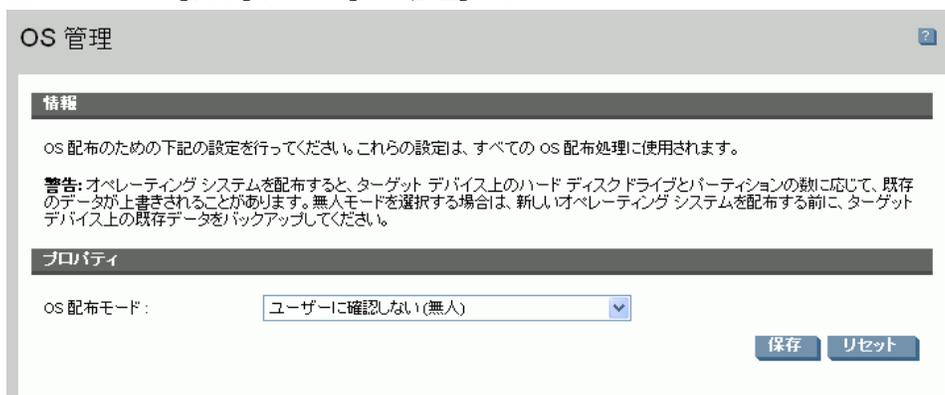
14 [保存] をクリックして、変更を適用します。

-  最初のパッチ取得は、長時間かかる場合があります。

## OS 管理

[OS 管理] セクションを使用して、オペレーティング システム配布の設定を行います。

図 37 [設定] タブの [OS 管理] セクション



OS 管理

情報

OS 配布のための下記の設定を行ってください。これらの設定は、すべての OS 配布処理に使用されます。

**警告:** オペレーティング システムを配布すると、ターゲット デバイス上のハード ディスクドライブとパーティションの数に応じて、既存のデータが上書きされることがあります。無人モードを選択する場合は、新しいオペレーティング システムを配布する前に、ターゲット デバイス上の既存データをバックアップしてください。

プロパティ

OS 配布モード:

保存 リセット

### OS 配布モードを設定するには

- [設定] タブの [OS 管理] セクションで、[OS 配布モード] を選択します。
  - **ユーザーに確認 (有人)** — 配布プロセスを続行するには、オペレーティング システム配布の間にユーザーが管理対象デバイスがある場所にいる必要があります。
  - **ユーザーに確認せず (無人)** — オペレーティング システム配布の間に、管理対象デバイスではダイアログ ウィンドウが表示されません。ユーザーとの対話は必要ありません。

 オペレーティング システムイメージを配布すると、ターゲット デバイスのハード ディスクおよびパーティションの数によっては、既存のデータが上書きされることがあります。**[ユーザーに確認しない (無人)]** を選択する場合、新しいオペレーティング システムを配布する前に、既存のデータを必ずバックアップします。

- ▶ オペレーティング システム配布の間に設定を移行する場合、オペレーティング システムをインストールする前に、デバイスの設定をバックアップするためパスワードの提供が必要となります。
- [保存] をクリックして、変更をコミットします。
- ▶ OS 配布モードを変更すると、新規およびスケジュール済みの OS 配布ジョブすべてが影響を受けます。

## ハードウェア管理

[ハードウェア管理] セクションを使用して、HP Client Management Interface (CMI) 警告オプションおよび Trusted Platform Module (TPM) の設定を行います。

次のセクションでは、利用可能なハードウェア設定オプションを説明します。

- [CMI の設定 \(147 ページ\)](#)
- [TPM の設定 \(148 ページ\)](#)

### CMI の設定

CMI Softpaq は、OVCCM エージェント配布の一部として、各 HP ターゲットデバイスにインストールされます。HP Client Management Interface (CMI) は、企業管理者や IT プロフェッショナルに、HP ビジネスクラス デスクトップ、ノートブックおよびワークステーションに対する 1 レベル上の管理システムを提供します。

CMI のハードウェア固有の情報が取得され、レポートに利用できます。[レポート] タブの [表示オプション] セクションで [HP 固有のレポート] レポート ビューを使用して、CMI ハードウェア関連レポートを作成します。(CMI 関連のレポート オプションを表示するには、[インベントリ管理レポート]、[ソフトウェア レポート] そして [HP 固有のレポート] と選択します)。

CMI に関する詳細は、次を参照してください。

**<http://h20331.www2.hp.com/Hpsub/cache/284014-0-0-225-121.html>**

[CMI] タブを使用して、HP CMI 設定を変更します。変更した設定は、管理対象のクライアントが次に OVCCM インフラストラクチャに接続したときに、有効になります。

- ▶ CMI は、特定の HP デバイス モデルでしか互換性がありません。互換性に関する情報は、デバイスの説明を参照してください。

#### クライアント警告のレポートを有効にするには

- [クライアント警告のレポート] ドロップダウン リストから [有効] を選択して、管理対象 HP デバイスから取得したクライアント警告についてレポートします。警告レポートはデフォルトでは無効になっています。
- レポートする最低の警告重大度をドロップダウン リストから選択します。

#### クライアント デバイスにクライアント警告を表示するには

- [クライアント警告の表示] ドロップダウン リストから [有効] を選択して、管理対象 HP デバイスでのクライアント警告をオンにします。警告はデフォルトでは無効です。
- クライアント デバイスに表示する最低の警告重大度を選択します。
- 警告をクライアント デバイスに表示する秒数を入力します。デフォルトでは、警告は 5 秒間表示されます。

## TPM の設定

[TPM] タブを使用して、互換性を持つ HP デバイスの **Trusted Platform Module** チップを設定します。**CCM\_TPM\_ENABLEMENT** サービスを配布して、TPM の所有権を初期化し、これらの設定を適用します。ソフトウェア配布に関する情報は、81 ページの「ソフトウェアの配布」を参照してください。

- ▶ **TPM セキュリティ チップを有効化および初期化するには、HP ProtectTools** ソフトウェアをデバイスにインストールしておく必要があります。デバイス モデルによっては、このソフトウェアがプレインストールされているものや、別途ソフトウェアをダウンロードまたは購入する必要があるものがあります。詳細は、ご使用のデバイス モデルの HP ドキュメントを参照してください。

TPM は、HP ビジネス PC のマザーボードに取り付けられたハードウェア セキュリティ チップです。これは、**HP ProtectTools Embedded Security** の一部です。

詳細は、次を参照してください。

<http://h20331.www2.hp.com/hpsub/cache/292199-0-0-225-121.html>

## TPM を設定するには

- 1 BIOS Admin パスワードおよび TPM Owner パスワードを入力します。
- 2 緊急リカバリ トークンおよびパスワードリセット トークンを入力します。
- 3 [再起動の設定] を選択します。TPM チップが有効になった後で、デバイスが再起動されます。この設定は、エンドユーザーが行う対話のレベルを決定します
  - **許可のみ** — 再起動の後、ユーザーは有効化を許可しなければなりません。
  - **許可または拒否** — 再起動の後、ユーザーは有効化を許可または拒否できます。
  - **サイレント** — ユーザーは、再起動の後に有効化を確認するよう求められません。
- 4 バックアップアーカイブ、緊急リカバリ アーカイブ、および TPM パスワードリセットアーカイブのファイルパスを入力します。
- 5 **[保存]** をクリックします。

## レポート

[レポート] セクションのタブを使用して、データベースの ODBC 設定の変更、利用状況データ収集の設定、および利用状況収集フィルタの管理を行います。

- [データベース \(150 ページ\)](#)
- [利用状況の設定 \(150 ページ\)](#)
- [利用状況の収集 \(151 ページ\)](#)
- [メンテナンス \(156 ページ\)](#)

図 38 [設定] タブの [レポート] セクション

レポート

データベース 利用状況の設定 利用状況の収集 メンテナンス

**ODBC 設定**

下記の ODBC 設定を行ってください。これらの設定は Client Configuration Manager サーバーの ODBC DSN の設定と一致する必要があります。

必須フィールド \*

ODBC DSN: **CCMDB**

ODBC のユーザー ID: \*

ODBC のパスワード:

保存 リセット

## データベース

[データベース] タブを使用して、ODBC の設定を行います。これらの設定は OVCCM サーバーの ODBC DSN の設定と一致する必要があります。

必須のフィールドにはアスタリスク (\*) が付いています。

### ODBC を設定するには

- 15 表示されるテキスト ボックスに DSN ユーザー ID およびパスワードを入力します。
- 16 **[保存]** をクリックして、変更をコミットします。

## 利用状況の設定

[利用状況の設定] タブを使用して、利用状況収集のパラメータを設定します。必要な場合には、プライバシーを確保するため、利用状況データを難読化できます。利用状況データは、収集エージェントが配布されたときに、収集されます。[アプリケーション利用状況収集ウィザード](#)を使用して、エージェントを配布し、データの収集を始めます。

利用状況の設定は、収集スケジュールの間に既存のクライアント デバイスに適用されます。

-  難読化は、収集エージェントを配布する前に有効にしておく必要があります。エージェントを配布してから有効にすると、レポートデータの一部が、難読化された状態や難読化されない状態で表示されます。

### 利用状況データを難読化するには

- 1 ドロップダウン ボックスを使用して、どの利用状況データ情報を非表示にするかを選択します。
  - **コンピュータ** — コンピュータ関連の情報を非表示にします。コンピュータ名はランダムな英数字列としてレポートされます。
  - **ユーザー** — ユーザー固有の情報を非表示にします。ユーザー名は [AnyUser] としてレポートされます。
  - **ドメイン** — ドメイン情報。ドメイン名は、ランダムな英数字列としてレポートされます。
  - **利用状況** — 利用回数および利用時間を非表示にします。実行ファイルの利用時間および起動回数はすべてゼロとレポートされます。
- 2 利用状況レポート内で難読化したい利用状況情報の隣にある **[有効]** を選択します。
- 3 **[保存]** をクリックして、変更をコミットします。

## 利用状況の収集

[利用状況の収集] タブを使用して、利用状況収集フィルタの作成および管理を行います。

図 39 [利用状況の収集] タブ

レポート

データベース | 利用状況の設定 | **利用状況の収集** | メンテナンス

**情報**

設定されているすべての収集フィルタは下記のとおりです。これらのフィルタによって、CCM 利用状況収集エージェントがレポートのために提供する利用状況データが決まります。

**収集フィルタ**

検索: 説明 | 含む | [検索] | [リセット]

10 個のアイテム | 1 - 7 個のうち 7 個のアイテム

説明	有効	前回の変更
<input type="checkbox"/> Internet Explorer	はい	2006-12-26 13:33:07
<input type="checkbox"/> Microsoft PowerPoint	いいえ	2006-06-13 11:52:17
<input type="checkbox"/> Microsoft Project	いいえ	2006-06-13 11:52:14
<input type="checkbox"/> Microsoft Outlook	いいえ	2006-06-13 11:52:11
<input type="checkbox"/> Microsoft Excel	いいえ	2006-06-13 11:52:08
<input type="checkbox"/> Microsoft Word	いいえ	2006-06-13 11:52:04
<input type="checkbox"/> Microsoft Access	いいえ	2006-05-17 15:26:56

0 個のアイテムが選択されました

▶ アプリケーション利用状況データを収集するには、**Premium** レベルのライセンスが必要です。

利用状況収集フィルタは、利用状況収集エージェントがどの利用状況データをレポートに利用できるようにするかを決定します。利用状況収集エージェントがデバイスに配布されると、全アプリケーションの全利用状況データが収集されローカルに保存されます。作成して有効にした利用状況フィルタが、ローカルの利用状況データのどれを **OVCCM** に送信するかを決定します。[アプリケーション利用状況収集ウィザード](#) を使用して、収集エージェントを配布し、収集スケジュールを指定します。

利用状況収集エージェントがすでに配布されているときにフィルタを有効にすると、フィルタが指定し、収集してローカルに保存されていた利用状況データがすべて **OVCCM** にレポート用に送信されます。

たとえば、利用状況収集エージェントが 5 月に配布され、フィルタが **Microsoft Word** に対して有効になると、**Microsoft Word** の利用状況データすべてが、指定したスケジュールに基づいて **OVCCM** へ送信されます。さらに 6 月に、**Microsoft Excel** に対して新しいフィルタを作成し、有効にすると決めました。次に利用状況データが **OVCCM** に送信される時、5 月に初めて利用状況収集エージェントがインストールされた日から 6 月の現在の日付までの、収集されローカルに保存されていた **Excel** 利用状況データもすべて送信されます。その後、両方のアプリケーションについて、利用状況の送信が続きます。

利用状況データは、12 か月の間、管理対象デバイスでローカルに保存されます。

利用状況収集フィルタの設定手順は、次を参照してください。

- [利用状況収集フィルタの設定 \(153 ページ\)](#)
- [利用状況条件の定義 \(154 ページ\)](#)

## 利用状況収集フィルタの設定

利用状況収集フィルタ作成ウィザードを使用して、新しい利用状況収集フィルタを作成します。既存のフィルタを変更するには、[フィルタの詳細] ウィンドウを使用してください。

OVCCM にはデフォルトで、あらかじめ設定された収集フィルタが備えられています。新しいフィルタを作成するモデルにこれらのフィルタを使用できます。あるいは、ニーズに合うようにこれらのフィルタを変更できます。



ワイルドカード文字を使用して利用状況データを収集するフィルタを設定すると、大量のデータが収集されることになる場合があります。この場合、データベースのサイズが大きくなるにつれて、レポートのパフォーマンスに重大な問題が生じる可能性があります。利用状況情報がほしいアプリケーションについてだけ、データを収集するフィルタを作成するように、強く推奨します。

全アプリケーションについて利用状況データを収集するのは、避けてください。

### 収集フィルタを作成するには

- 1 [利用状況] タブで、**[新しいフィルタの作成]**  ツールバー ボタンをクリックして、**利用状況収集フィルタ作成ウィザード** を起動します。
- 2 175 ページのウィザードの手順に従って、新しい収集フィルタを作成し有効にします。

### 収集フィルタを有効にするには

- 17 フィルタ リストで、フィルタの説明の左にあるボックスをクリックして、有効にしたいフィルタを選択します。
- 18 **[選択したアイテムの有効化]**  ツールバー ボタンをクリックします。
- 19 **[保存]** をクリックします。

### 既存のフィルタを変更するには

- 1 フィルタ リストで、フィルタの説明リンクをクリックして、[フィルタの詳細] ウィンドウを開きます。
- 2 [フィルタ条件] 領域に、利用状況データを収集するときに使用する具体的なフィルタ条件を入力します。どの条件を選択するか決定するためのアドバイスは、154 ページの「[利用状況条件の定義](#)」を参照してください。
- 3 **[保存]** をクリックします。

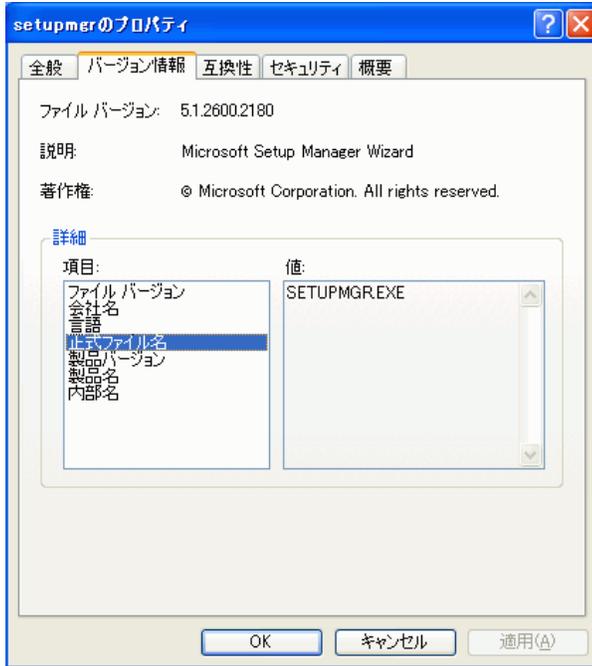
### 利用状況条件の定義

利用状況収集エージェントは、ローカルの各実行可能ファイルのファイルヘッダー情報を使用して、そのアプリケーションが定義されたフィルタ条件に適合するか判断します。フィルタを定義するときに、ファイルヘッダー情報を使用して、どの条件を使用するか決定できます。

#### ファイルヘッダー情報を決定するには

- 20 システムの実行可能ファイルを右クリックします。
- 21 ショートカットメニューから **[プロパティ]** を選択します。
- 22 [プロパティ] ウィンドウで **[バージョン]** タブをクリックします。

図 40 アプリケーションの [プロパティ] ウィンドウ



**[項目]** および **[値]** 領域に含まれる情報を利用状況収集エージェントが使用して、利用可能な利用状況データをフィルタします ([言語] および [内部名] の各アイテムは、現在サポートされていないので除外されます)。

▶ 実行可能ファイルがすべて、ファイルヘッダーに格納する値をサポートし、正しく表示している、というわけではないことに注意してください。

次の例は、特定のアプリケーションについて検索するフィルタの作成方法を説明しています。

#### notepad.exe の利用状況データをフィルタするには

23 利用状況収集フィルタ作成ウィザードを起動して、新しい利用状況フィルタを作成します。

24 [プロパティ] の手順で、次のフィルタ条件を定義します。

- 説明 : Notepad
- 有効 : はい
- ファイル/アプリケーション名 : notepad.exe

- 25 利用状況収集エージェントを管理対象デバイスに配布します。管理対象デバイスへのソフトウェア配布に関する指示は、81 ページの「ソフトウェアの配布」を参照してください。

利用状況データが週毎に OVCCM に送信され、これには収集エージェントがインストールされている全デバイスに対する Notepad の利用状況データすべてが含まれます。

## メンテナンス

[メンテナンス] タブは、OVCCM にレポート データが格納されているデバイスをすべて表示します。[メンテナンス] タブ ツールバーを使用して、OVCCM データベースにはもう存在しないデバイスのレポート データをクリーンアップします。

### デバイスのレポート データを削除するには

- 1 [メンテナンス] タブで、OVCCM からレポート データを削除したいデバイスを選択します。
- 2 **[レポート データの削除]**  ツールバー ボタンをクリックします。
- 3 レポート データが OVCCM から削除されます。

あるデバイスについてレポート データが削除されると、そのデータはレポートを生成するのに利用できなくなります。



アクティブに管理されているデバイスのレポート データを削除する場合、レポート データの矛盾を避けるため、削除してから、そのデバイスに管理エージェントを再配布します。

## 第 7 章 ウィザード

HP OpenView Client Configuration Manager (OVCCM) を使用する間、多くの異なるウィザードを使用して、エージェントの配布、デバイスの追加、グループの作成、ソフトウェアおよびパッチのプブリッシュなどができます。このセクションでは、各ウィザードおよび個々の手順の説明をします。

▶ ウィザードには、コントロールパネルの複数の領域から起動できるものがあります。

- デバイスインポートウィザード (158 ページ)
- エージェント配布ウィザード (159 ページ)
- エージェント削除ウィザード (160 ページ)
- ソフトウェア/ハードウェアインベントリウィザード (160 ページ)
- パッチ適合性探索ウィザード (161 ページ)
- アプリケーション利用状況収集ウィザード (162 ページ)
- 電源管理ウィザード (163 ページ)
- グループ作成ウィザード (164 ページ)
- リモート制御ウィザード (167 ページ)
- ソフトウェア配布ウィザード (168 ページ)
- サービスインポートウィザード (169 ページ)
- サービスエクスポートウィザード (169 ページ)
- ソフトウェア同期ウィザード (170 ページ)
- パッチ配布ウィザード (171 ページ)
- サービスエンタイトルメントウィザード (172 ページ)
- ソフトウェア削除ウィザード (172 ページ)
- ユーザー作成ウィザード (173 ページ)
- OS 配布ウィザード (174 ページ)
- 利用状況収集フィルタ作成ウィザード (175 ページ)
- インフラストラクチャ配布ウィザード (176 ページ)
- インフラストラクチャ削除ウィザード (177 ページ)

▶ ウィザードを実行したり警告を表示するときに、OVCCM 管理コンソールが別のブラウザインスタンスを開く場合があります。これらのウィザードや通知にアクセスするには、ブラウザのポップアップブロック設定で **[許可されたサイト]** に OVCCM を設定します。

## デバイス インポート ウィザード

デバイスインポートウィザードを使用して、OVCCM データベースでのデバイスの探索および追加を行います。デバイスは、インポートされると、エージェント配布ウィザードを使用して管理の対象とすることができます。

デバイス インポート ウィザードを使用してデバイスをインポートするには

- 1 ウィザードを起動するには、**デバイス管理**セクションの**一般**タブにある **[インポート]** をクリックするか、あるいは、**デバイス** タブの **[管理対象デバイスのインポート]**  ツールバー ボタンをクリックします。
- 2 **[次へ]** をクリックして、ウィザードを開始します。
- 3 ドロップダウン ボックスから **[デバイス ソース]** を選択します。
  - **手動インポート** — 表示されたボックスに、デバイスのホスト名または IP アドレスのリストを入力するか貼り付けます。
  - **LDAP/Active Directory** — **Active Directory** や他の **LDAP** 互換ディレクトリ サービスからデバイスを自動的にインポートするには、**LDAP** ホスト、ポート、ユーザー ID、パスワード (必要な場合)、およびクエリする **DN** を入力します。  
また、クエリに適用する、範囲、詳細フィルタ、またはデバイスの制限を選択します。
  - **ドメイン** — インポートするデバイスのネットワーク ドメインをスキャンするには、ドメイン名 (たとえば、**ABC** ドメインの完全ドメイン スキャンには **ABC** と入力) またはドメイン名の一部とワイルドカード文字 (**ABC\*** とすると、**ABC** で始まるドメインから全デバイスが返されます) を入力します。ドメインの特定のデバイスを含めるには、「ドメイン\デバイス」という構文を使用します。たとえば、**Sales\WS\*** は、Sales ドメインの **WS** で始まるデバイスだけを返します。  
ドメインの特定のデバイスを排除するには、感嘆符 (!) を使用します。たとえば、**Sales,!Sales\WS\*** は、**WS** で始まるデバイスを除く、**Sales** ドメインの全デバイスを返します。

- 4 **[インポート]** をクリックします。
- 5 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。  
インポートされたデバイスは、**デバイス** タブに表示されます。

## エージェント配布ウィザード

エージェント配布ウィザードを使用して、OVCCM データベースのデバイスに管理エージェントを配布します。

ウィザードを起動するには、[デバイス管理] の **[一般]** 領域から **[配布]** をクリックするか、[デバイス] 領域から、エージェントを配布するデバイスを先に選択して、**[管理エージェントの配布]** **[一般]**  ツールバー ボタンをクリックします。

エージェント配布ウィザードは、[グループ管理] の **グループ** 領域から、**[管理エージェントの配布]**  ツールバー ボタンをクリックしても起動できます。

### エージェント配布ウィザードを使用して管理エージェントを配布するには

- 1 ウィザードを起動するには：
  - [デバイス管理] にある **[一般]** タブの **[配布]** をクリックします。
  - [デバイス管理] にある [デバイス] タブの **[管理エージェントの配布]** ツールバー ボタンをクリックします。
  - [グループ管理] にある [グループ] タブの **[管理エージェントの配布]** ツールバー ボタンをクリックします。
- 2 **[次へ]** をクリックして、ウィザードを開始します。
- 3 利用可能なデバイスがすべて表示されます。管理エージェントを配布したい各デバイスを選択して、**[次へ]** をクリックします。デバイスのリストの範囲を狭くするには、**[検索]** 機能を使用します。
- 4 選択したデバイスに関する必要な情報を入力して、**[次へ]** をクリックします。
- 5 ウィザードが完了したらすぐにエージェントを配布するには、**[実行：今すぐ]** を選択します。あるいは、**[実行：後で]** を選択して、エージェント配布の日付と時刻を入力します。
- 6 **[次へ]** をクリックします。
- 7 要約情報を確認し、**[サブミット]** をクリックします。
- 8 エージェント配布ジョブが作成されました。**[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

## エージェント削除ウィザード

OVCCM データベースにあるデバイスから管理エージェントを削除するには、エージェント削除ウィザードを使用します。



管理エージェントを削除すると、ソフトウェアやパッチを配布したり、そのデバイスの最新のインベントリ情報を収集したりすることができなくなります。管理対象でないデバイスは、グループまたは OVCCM から削除されるまで、それぞれのグループに存在し、配布済みのすべてのソフトウェアを保持します。

エージェント削除ウィザードを使用して管理エージェントを削除するには

- 1 [デバイス管理] の **デバイス** タブから、または [グループ管理] の **グループ** タブからウィザードを起動します。
- 2 管理エージェントを削除したいデバイスまたはグループを選択して、**[管理エージェントの削除]** ツールバー ボタンをクリックします。
- 3 **[次へ]** をクリックして、ウィザードを開始します。
- 4 ウィザードが完了したらすぐにエージェントを削除するには、**[実行：今すぐ]** を選択します。あるいは、**[実行：後で]** を選択して、エージェント削除の日付と時刻を入力します。
- 5 **[次へ]** をクリックします。
- 6 要約情報を確認し、**[サブミット]** をクリックします。
- 7 エージェント配布ジョブが作成されました。**[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

## ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザード

ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザードを使用して、選択したデバイスについてソフトウェアとハードウェア インベントリを探索する、インベントリ監査ジョブを作成します。

### ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザードを使用してインベントリを探索するには

- 1 ウィザードは [デバイス管理] の **デバイス** タブまたは [グループ管理] の [グループ] タブから起動します。[インベントリの収集]  ツールバー ボタンをクリックして、[ソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索] を選択します。
- 2 [次へ] をクリックして、ウィザードを開始します。
- 3 ウィザードが完了したらすぐにインベントリを探索するには、[実行: 今すぐ] を選択します。あるいは、[実行: 後で] を選択して、インベントリ探索の日付と時刻を入力します。反復スケジュールを設定するには、[‘x’ 時間ごと]、[‘x’ 日ごと]、または [‘x’ 週ごと] を選択して、ドロップダウン ボックスから [間隔] を選択します。
  - ▶ 反復ジョブ スケジュール オプション ( ‘x’ 日ごとなど) は、グループ関連のジョブを作成するときだけ利用できます。
- 4 そのデバイスに LAN で起動を有効にするかどうかを選択します。ドロップダウン ボックスから [はい] を選択すると、OVCCM は、必要な場合、デバイスの電源をオンにしてインベントリを探索します。
- 5 要約情報を確認し、[サブミット] をクリックします。
- 6 ジョブが正常に作成されました。[閉じる] をクリックして、ウィザードを終了します。

保留中の管理ジョブをすべて表示するには、[現在のジョブ](#) タブを使用します。

## パッチ適合性探索ウィザード

パッチ適合性探索ウィザードを使用して、選択したデバイスおよびグループに対するパッチ適合性スケジュールを設定します。

### パッチ適合性を探索するには

- 1 ウィザードは [デバイス管理] の **デバイス** タブまたは [グループ管理] の **グループ** タブから起動します。[インベントリの収集]  ツールバー ボタンをクリックして、[パッチ適合性の探索] を選択します。
- 2 [次へ] をクリックして、ウィザードを開始します。
- 3 ウィザードが完了したらすぐにジョブを実行するようスケジュールを設定するには、[実行: 今すぐ] を選択します。あるいは、[実行: 後で] を選択して、ジョブを開始する日付と時刻を入力します。反復スケジュールを設定するには、[‘x’ 時間ごと]、[‘x’ 日ごと]、または [‘x’ 週ごと] を選択して、ドロップダウン ボックスから [間隔] を選択します。

▶ 反復ジョブ スケジュール オプション (['x' 日ごと] など) は、グループ関連のジョブを作成するときだけ利用できます。

- 4 そのデバイスに [LAN で起動] を有効にするかどうかを選択します。ドロップダウン ボックスから [はい] を選択すると、OVCCM は、必要な場合、デバイスの電源をオンにします。
- 5 要約情報を確認し、[サブミット] をクリックします。
- 6 ジョブが正常に作成されました。[閉じる] をクリックして、ウィザードを終了します。

終了したら、[レポート] タブを使用して、選択したデバイスまたはグループに関する適合性レポートを表示します。

## アプリケーション利用状況収集ウィザード

アプリケーション利用状況収集ウィザードを使用して、ターゲット デバイスまたはグループのアプリケーション利用状況データを収集します。アプリケーション利用状況収集ウィザードは、ターゲット デバイスに収集エージェントをインストールして、ユーザーが作成し有効にしたフィルタに基づいて利用状況データを返します。詳細は、151 ページの「[利用状況の収集](#)」を参照してください。

### アプリケーション利用状況データを探索するには

- 1 ウィザードは [デバイス管理] の [デバイス](#) タブまたは [グループ管理] の [グループ](#) タブから起動します。[インベントリの収集] ツールバー ボタンをクリックして、[アプリケーション利用状況の探索] を選択します。
- 2 ウィザードを開始するには、[次へ] をクリックします。
- 3 ウィザードが完了したらすぐにジョブを実行するようスケジュールを設定するには、[実行：今すぐ] を選択します。あるいは、[実行：後で] を選択して、ジョブを開始する日付と時刻を入力します。反復スケジュールを設定するには、['x' 時間ごと]、['x' 日ごと]、または ['x' 週ごと] を選択して、ドロップダウン ボックスから [間隔] を選択します。

▶ 反復ジョブ スケジュール オプション ('x' 日ごとなど) は、グループ関連のジョブを作成するときだけ利用できます。  
週ごとのアプリケーション利用状況データの収集を推奨します。

- 4 そのデバイスに [LAN で起動] を有効にするかどうかを選択します。ドロップダウン ボックスから [はい] を選択すると、OVCCM は、必要な場合、デバイスの電源をオンにします。
- 5 要約情報を確認し、[サブミット] をクリックします。
- 6 ジョブが正常に作成されました。[閉じる] をクリックして、ウィザードを終了します。

保留中の管理ジョブをすべて表示するには、[現在のジョブタブ](#)を使用します。

## 電源管理ウィザード

選択したデバイスの電源をオンにしたり、オフにしたり、デバイスを再起動するには、電源管理ウィザードを使用します。

▶ リモートからデバイスの電源をオンにするには、コンピュータに **Wake-On-LAN** 機能が内蔵されていなければなりません。Wake-On-LAN は、OVCCM サーバーが、ネットワーク上にパケットを送信して、管理対象デバイスの電源をリモートからオンにできる、管理ツールです。デバイスに、リモートの起動機能を有効にするよう BIOS を設定しなければならない場合があります。詳細は、ハードウェアのドキュメントを参照してください。HP デバイスの BIOS 設定は、OVCCM を使用して、変更および配布ができます。詳細は、225 ページの「[BIOS 設定のパブリッシュ](#)」を参照してください。

▶ Windows XPe デバイスに電源オフ機能を選択すると、電源がオフになる前に、1 度デバイスが再起動します。これは、XPe デバイスの内部 キャッシュをクリアするために必要な、通常の動作です。

### リモートからデバイスの電源オン、オフ、および再起動を行うには

- 1 [デバイス管理] の [デバイス] 領域から、または [グループ管理] の グループ領域から、ウィザードを起動します。[電源管理]  ツールバー ボタンをクリックします。
- 2 ウィザードを開始するには、[次へ] をクリックします。
- 3 ドロップダウン リストから電源管理機能を選択します。選択したデバイスの電源オン、オフ、または再起動ができます。
  - **起動** — 選択したデバイスの電源をオンにします
  - **停止** — 選択したデバイスの電源をオフにします

— 再起動 — 選択したデバイスを再起動します

- 4 このジョブの実行スケジュールを設定します。すぐにジョブを実行するようスケジュールを設定するには、**[実行：今すぐ]**を選択します。あるいは、**[実行：後で]**を選択して、ジョブを開始する日付と時刻を設定します。反復スケジュールを設定するには、**['x' 時間ごと]**、**['x' 日ごと]**、または**['x' 週ごと]**を選択して、ドロップダウン ボックスから**[間隔]**を選択します。

 反復ジョブ スケジュール オプション ('x' 日ごとなど) は、グループ関連のジョブを作成するときだけ利用できます。

- 5 要約情報を確認し、**[サブミット]** をクリックします。
- 6 ジョブが正常に作成されました。**[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

保留中の管理ジョブをすべて表示するには、**現在のジョブ** タブを使用します。

## グループ作成ウィザード

データベースにある管理対象デバイスのグループに、ソフトウェアまたはパッチを配布する必要があります。グループ作成ウィザードを使用して、指定したデバイス、探索したデバイス、またはレポート クエリの一部として返されたデバイスに基づき、デバイス グループを定義します。

グループ作成ウィザードの手順は、作成するグループのタイプにより異なります。次のセクションで各タイプについて説明します。

- [スタティック グループの作成 \(164 ページ\)](#)
- [ダイナミック探索グループの作成 \(165 ページ\)](#)
- [ダイナミック レポート グループの作成 \(166 ページ\)](#)

### スタティック グループの作成

スタティック グループを作成するには

- 1 [グループ管理] の [一般] タブから **[新しいスタティック グループの作成]** をクリックするか、**グループ** タブから **[新しいスタティック グループの作成]** ツールバー ボタン  をクリックして、ウィザードを起動します。
- 2 グループの作成を開始するには、**[次へ]** をクリックします。
- 3 **Sales Devices** など、グループのわかりやすい名前を入力します。

- 4 [次へ] をクリックします。
- 5 グループに含めたいデバイスを選択するには、該当する各デバイスの最初の  
カラムのボックスをチェックします。必要な場合、デバイスのリストの範囲  
を狭くするには、[検索] 機能を使用できます。
- 6 [次へ] をクリックします。
- 7 要約情報を確認します。選択したデバイスの数が、[デバイス数] 要約と一致  
することを確認します。グループを変更する必要がある場合、[前へ] をク  
リックします。
- 8 [作成] をクリックします。
- 9 グループが正常に作成されました。[閉じる] をクリックして、ウィザードを  
終了します。

## ダイナミック探索グループの作成

探索グループメンバーシップは、LDAP クエリまたはドメイン スキャンの間に  
発見されたデバイスをベースにしています。

### ダイナミック探索グループを作成するには

- 1 [グループ管理] の [一般] タブから [新しい探索グループの作成] をクリック  
するか、グループタブから [新しいグループの作成] ツールバー ボタン  を  
クリックして、[新しいダイナミック探索グループの作成] を選択します。
- 2 [次へ] をクリックして、グループの作成を開始します。
- 3 Sales Domain Devices など、グループのわかりやすい名前を入力します。
- 4 [次へ] をクリックします。
- 5 探索ソースを選択します。
  - **LDAP/Active Directory** — LDAP ホストおよびポート番号、ユー  
ザー ID、パスワード (必要な場合)、およびクエリする DN を入力します。  
  
また、クエリに適用する、範囲、詳細フィルタ、またはデバイスの制限を  
選択します。
  - **ドメイン** — インポートするデバイスのネットワーク ドメインをスキャ  
ンするには、ドメイン名 (たとえば、ABC ドメインの完全ドメイン ス  
キャンには ABC と入力) またはドメイン名の一部とワイルドカード文字  
(ABC\* とすると、ABC で始まるドメインから全デバイスが返されます)  
を入力します。ドメインの特定のデバイスを含めるには、「ドメイン\デ  
バイス」という構文を使用します。たとえば、Sales\WS\*は、Sales ド  
メインの WS で始まるデバイスだけを返します。

ドメインの特定のデバイスを排除するには、感嘆符 (!) を使用します。  
たとえば、Sales,!Sales\WS\* は、WS で始まるデバイスを除く、Sales  
ドメインの全デバイスを返します。

- 6 [次へ] をクリックします。
- 7 ダイナミック グループのリフレッシュ スケジュールを設定します。
  - **実行** : 時間、日、週など一定の間隔でダイナミック グループ メンバーシップを更新するかどうかを設定します。
  - **間隔** : 具体的な間隔 (時間、日、または週) を選択します。
  - **開始日** : ドロップダウン リストを使用して、グループをリフレッシュする日付を選択します。
  - **[現在のサーバー時刻]** は、OVCCM サーバーの現在の時刻を表示します。
- 8 [次へ] をクリックします。
- 9 要約情報を確認し、[作成] をクリックします。
- 10 [閉じる] をクリックして、ウィザードを終了します。

探索グループは、LDAP クエリまたはドメイン スキャンの間に発見されたデバイスを含むように作成されます。発見されたデバイスがすでに OVCCM の一部でなかった場合、自動的にデバイス リストに追加されます。このグループのデバイス メンバーシップは、設定したリフレッシュ スケジュールに基づいて更新されます。

## ダイナミック レポート グループの作成

レポートグループは、レポート クエリで返されたデバイスを使用して、作成されます。

ダイナミック レポート グループを作成するには

- 1 [レポート] 領域のアクション バーからウィザードを起動します。[新しいダイナミック レポート グループの作成]  をクリックします。
- 2 [次へ] をクリックして、ウィザードを開始します。
- 3 グループの名前を入力して、[次へ] をクリックします。
- 4 ダイナミック グループのリフレッシュ スケジュールを設定します。
  - **実行** : 時間、日、週など一定の間隔でダイナミック グループ メンバーシップを更新するかどうかを設定します。
  - **間隔** : 具体的な間隔 (時間、日、または週) を選択します。

- **開始日** : ドロップダウン リストを使用して、グループをリフレッシュする日付を選択します。
  - **[現在のサーバー時刻]** は、OVCCM サーバーの現在の時刻を表示します。
- 5 **[次へ]** をクリックします。
  - 6 要約情報を確認し、**[作成]** をクリックします。
  - 7 レポート クエリの現在のデバイスを含む、レポート グループが作成されます。このグループのデバイス メンバーシップは、設定したリフレッシュ スケジュールに基づいて更新されます。
  - 8 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

## リモート制御ウィザード

リモート制御ウィザードを使用して、管理対象デバイスとのリモート セッションを開きます。

リモート制御ウィザードを使用して、リモート セッションを開始するには

- 1 **[リモート制御]**  ツールバー ボタンをクリックして、[デバイス管理] の [デバイス] 領域からウィザードを起動します。**[次へ]** をクリックして、ウィザードを開始します。
- 2 利用可能なオプションからリモート制御方法を選択します。

**Microsoft クライアント (RDP)** – RDP (リモート デスクトップ プロトコル) は、Windows クライアント デバイスで利用可能なマルチチャンネル対応のプロトコルです。RDP を使用して、RDP が有効なデバイス (Windows XP など) にリモートで接続できます。

**VNC クライアント** – VNC (仮想ネットワーク コンピュータ) は、オープンソースのリモート制御アプリケーションです。VNC を使用して、VNC がインストールされ有効になっているクライアント デバイスにリモートで接続します。VNC を選択すると、**[VNC Java ビューアポート]** および **[VNC リスポート]** を入力する必要があります。Windows デバイスにはデフォルト値が提供されています (それぞれ 5800 および 5900)。Embedded Linux シンクライアント デバイスでは、デフォルトのポートは通常 5801 および 5901 です。

- 3 リモート セッション ウィンドウの **[画面サイズ]** を選択します。
- 4 **[接続]** をクリックします。
- 5 リモート セッションが新しいウィンドウで開きます。

- 6 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

リモートセッションを終了したら、ウィンドウを閉じてデバイスとの接続を解除します。

## ソフトウェア配布ウィザード

ソフトウェア配布ウィザードを使用して、ユーザーの環境にある管理対象デバイスにソフトウェアのエンタイトルメント設定と配布を行います。

ソフトウェア配布ウィザードを使用して、ソフトウェアのエンタイトルメント設定と配布を行うには

- 1 [ソフトウェア管理] の [一般] 領域で **[配布]** をクリックするか、[ソフトウェアの詳細] ウィンドウの [ソフトウェア] タブまたは [グループの詳細] ウィンドウで **[ソフトウェアの配布]**  ツールバー ボタンをクリックして、ウィザードを起動します。
- 2 **[次へ]** をクリックして、ウィザードを開始します。
- 3 最初のカラムのボックスをチェックして、エンタイトルメント設定と配布を行うソフトウェアを選択します。
- 4 **[次へ]** をクリックします。
- 5 最初のカラムのボックスをチェックして、エンタイトルメントが設定され配布の対象となるグループを選択します。
- 6 **[次へ]** をクリックします。
- 7 ソフトウェア配布ジョブの実行スケジュールを設定します。ソフトウェアを今すぐ配布するには **[実行：今すぐ]** を、ソフトウェア配布の日付と時刻をスケジュール設定するには **[実行：後で]** を選択します。反復スケジュールを設定するには、**['x' 時間ごと]**、**['x' 日ごと]**、または **['x' 週ごと]** を選択して、ドロップダウン ボックスから **[間隔]** を選択します。  
 反復ジョブ スケジュール オプション (['x' 日ごと] など) は、グループ関連のジョブを作成するときだけ利用できます。
- 8 **[次へ]** をクリックします。
- 9 要約情報を確認し、**[サブミット]** をクリックします。
- 10 ジョブが正常に作成され、現在のジョブに追加されました。[現在のジョブ] タブをクリックして、現在のソフトウェア配布ジョブを表示します。
- 11 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

## サービス インポート ウィザード

サービス インポート ウィザードを使用して、OVCCM サーバー マシンの ChangeControl ディレクトリからソフトウェア、パッチ、または OS ライブラリへサービスをインポートします。

サービス インポート ウィザードを使用して、サービスをインポートするには

- 1 [ソフトウェア管理] の [ソフトウェア] 領域、[パッチ管理] の [パッチ] 領域、または [OS 管理] の [オペレーティング システム] 領域から、**[サービスのインポート]**  ツールバー ボタンをクリックして、ウィザードを起動します。
- 2 **[次へ]** をクリックして、ウィザードを開始します。
- 3 インポートするサービスを選択します。OVCCM サーバーの ChangeControl ディレクトリ内で利用可能なサービス デッキがすべてリストに表示されます。  
  
各サービスのファイル名の 4 番目の部分に、そのソフトウェア、パッチ、または OS のわかりやすい名前が含まれています。たとえば、PRIMARY.SOFTWARE.ZSERVICE.ORCA は、Orca ソフトウェア アプリケーション用のサービス デッキです。
- 4 要約情報を確認し、**[インポート]** をクリックします。
- 5 サービスがインポートされ、OVCCM ライブラリ内で利用可能になります。
- 6 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

## サービス エクスポート ウィザード

サービス エクスポート ウィザードを使用して、OVCCM ソフトウェア、パッチ、または OS ライブラリから、OVCCM サーバー マシンの ChangeControl ディレクトリへ、サービスをエクスポートします。

サービス エクスポート ウィザードを使用して、サービスをエクスポートするには

- 1 エクスポートするサービス (ソフトウェア、パッチ、または OS) を選択します。
- 2 [ソフトウェア管理] の [ソフトウェア] 領域、[パッチ管理] の [パッチ] 領域、または [OS 管理] の [オペレーティング システム] 領域から、**[サービスのエクスポート]**  ツールバー ボタンをクリックして、ウィザードを起動します。
- 3 **[次へ]** をクリックして、ウィザードを開始します。

- 4 要約情報を確認し、**[エクスポート]** をクリックします。
- 5 サービスが、OVCCM サーバーの ChangeControl ディレクトリへエクスポートされます。
- 6 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

各サービスのファイル名の 4 番目の部分に、そのソフトウェア、パッチ、または OS のわかりやすい名前が含まれています。たとえば、PRIMARY.SOFTWARE.ZSERVICE.ORCA は、Orca ソフトウェアアプリケーション用のサービス デッキです。

## ソフトウェア同期ウィザード

ソフトウェア同期ウィザードを使用して、ソフトウェア同期ジョブを作成します。このジョブは、ソフトウェアをインストールしていないグループ メンバーに、エンタイトルメントが設定されたソフトウェアをすべて自動的に配布します。また、ソフトウェア同期ジョブは、新しいグループ メンバーが全員、エンタイトルメントが設定されたソフトウェアをすべて受信するようにします。

### ソフトウェア同期ジョブを作成するには

- 1 **[グループの詳細]** ウィンドウの **[ソフトウェア]** タブで、**[ソフトウェアの同期]** ツールバー ボタンをクリックして、ウィザードを起動します。
- 2 ソフトウェア同期ジョブの実行スケジュールを設定してください。すぐにジョブを実行するようスケジュールを設定するには、**[実行：今すぐ]** を選択します。あるいは、**[実行：後で]** を選択して、ジョブの日付と時刻を設定します。反復スケジュールを設定するには、**[‘x’ 時間ごと]**、**[‘x’ 日ごと]**、または **[‘x’ 週ごと]** を選択して、ドロップダウン ボックスから **[間隔]** を選択します。  
 反復ジョブ スケジュール オプション (**[‘x’ 日ごと]** など) は、グループ関連のジョブを作成するときだけ利用できます。
- 3 **[LAN で起動]** ドロップダウン リストを使用して、グループのデバイスについて **[LAN で起動]** を有効にします。これにより、OVCCM は、必要なジョブ アクションを実行するため、デバイスの電源をオンにできます。
- 4 要約情報を確認し、**[サブミット]** をクリックします。
- 5 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

# パッチ配布ウィザード

パッチ配布ウィザードを使用して、ユーザーの環境にある管理対象デバイスにパッチのエンタイトルメント設定と配布を行います。

パッチ配布ウィザードを使用して、パッチのエンタイトルメント設定と配布を行うには

- 1 [パッチ管理] の [一般] タブで [配布] をクリックするか、[パッチ ライブラリ] 領域の [パッチの詳細] または [グループの詳細] ウィンドウで [パッチの配布]  ツールバー ボタンをクリックして、ウィザードを起動します。
- 2 [次へ] をクリックして、ウィザードを開始します。
- 3 配布メソッドを選択します。

**適合性の強制** — どのパッチがターゲット デバイ스에適用可能か判断するには、この方法を選択します。適用可能なパッチのみがインストールされます。新しいパッチがデバイスにエンタイトルメント設定されると、このジョブが次回実行されるときに、そのパッチがインストールされます。継続的にパッチ適合性を強制するには、反復スケジュールを作成しなければなりません。

**手動選択** — ターゲット デバイ스에パッチを配布するには、この方法を選択します。パッチがデバイスに適用できない場合、ジョブはエラーにより終了することがあります。反復適合性スケジュールを作成せずに、1 度だけターゲット デバイ스에パッチを配布するには、この方法を使用します。

- 4 最初のカラムのボックスをチェックして、エンタイトルメント設定と配布を行うパッチを選択します。
- 5 [次へ] をクリックします。
- 6 最初のカラムのボックスをチェックして、エンタイトルメントが設定され配布の対象となるグループを選択します。
- 7 [次へ] をクリックします。
- 8 このジョブの実行スケジュールを設定します。すぐにジョブを実行するようスケジュールを設定するには、[実行: 今すぐ] を選択します。あるいは、[実行: 後で] を選択して、ジョブの日付と時刻を設定します。反復スケジュールを設定するには、[‘x’ 時間ごと]、[‘x’ 日ごと]、または [‘x’ 週ごと] を選択して、ドロップダウン ボックスから [間隔] を選択します。



**[適合性の強制]** 配布方法を選択した場合だけ、反復スケジュールが利用できます。

- 9 [次へ] をクリックします。
- 10 要約情報を確認し、[サブミット] をクリックします。
- 11 ジョブが正常に作成され、現在のジョブに追加されました。[現在のジョブ] タブをクリックして、現在のパッチ配布ジョブを表示します。
- 12 [閉じる] をクリックして、ウィザードを終了します。



パッチは、配布された後、デバイスから削除できません。

## サービス エンタイトルメント ウィザード

サービス エンタイトルメント ウィザードは、デバイスのグループにソフトウェア、オペレーティング システム、およびパッチ サービスのエンタイトルメントを設定します。

サービス エンタイトルメント ウィザードを使用してグループ エンタイトルメントを追加するには

[パッチ管理] の [パッチ] タブから、または [OS 管理] の [オペレーティング システム] タブからウィザードを起動します。

- 1 グループにエンタイトルメントを設定するパッチを選択して、[グループ エンタイトルメントの追加]  ツールバー ボタンをクリックします。
- 2 [次へ] をクリックして、ウィザードを開始します。
- 3 左のカラムのチェック ボックスをクリックして、サービスへのエンタイトルメントを受け取るグループを選択します。
- 4 [次へ] をクリックします。
- 5 要約情報を確認し、[サブミット] をクリックします。
- 6 ジョブが正常に作成され、現在のジョブに追加されました。[現在のジョブ] タブをクリックして、現在のソフトウェア削除ジョブを表示します。
- 7 [閉じる] をクリックして、ウィザードを終了します。

## ソフトウェア削除ウィザード

ソフトウェア削除ウィザードは、選択したデバイスまたはグループからソフトウェアをアンインストールします。

### ソフトウェア削除ウィザードを使用してソフトウェアを削除するには

- 1 [ソフトウェアの詳細] ウィンドウまたは [グループの詳細] ウィンドウから、削除するソフトウェアを選択します。
- 2 **[ソフトウェアの削除]**  ツールバー ボタンをクリックして、ウィザードを起動します。
- 3 **[次へ]** をクリックして、ウィザードを開始します。
- 4 ソフトウェア削除ジョブの実行スケジュールを設定します。ソフトウェアを今すぐ削除するには **[実行：今すぐ]** を、ソフトウェア削除の日付と時刻をスケジュール設定するには **[実行：後で]** を選択します。
- 5 **[次へ]** をクリックします。
- 6 要約情報を確認し、**[サブミット]** をクリックします。
- 7 ジョブが正常に作成され、現在のジョブに追加されました。**[現在のジョブ]** タブをクリックして、現在のソフトウェア削除ジョブを表示します。
- 8 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

## ユーザー作成ウィザード

ユーザー作成ウィザードは、コンソール ユーザーを追加します。

### ユーザー作成ウィザードを使用して追加のコンソール ユーザーを作成するには

- 1 [設定] タブの [コンソールへのアクセス] セクションで、**[新しいユーザーの作成]**  ツールバー ボタンをクリックして、ウィザードを起動します。
- 2 **[次へ]** をクリックして、ウィザードを開始します。
- 3 jdoe など、**[ユーザー ID]** を入力します。この ID を使用して、コンソールにログインします。
- 4 **[表示名]** を入力します。これは、管理ジョブの [作成者] フィールドに表示される名前です。
- 5 オプションで、ユーザーの **[説明]** を入力します。
- 6 **[パスワード]** を入力して、**[パスワードの確認]** テキスト ボックスでパスワード入力を確認します。
- 7 **[作成]** をクリックします。
- 8 ユーザーが正常に作成されました。



ユーザー ID が同じユーザーがすでに存在する場合、新しいユーザーを作成できません。

9 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

新しいコンソール ユーザーがユーザーのリストに表示されます。コンソール ユーザーのプロパティを変更または表示するには、ユーザー ID をクリックします。

## OS 配布ウィザード

OS 配布ウィザードは、オペレーティング システムを管理対象デバイスへ配布します。オペレーティング システムの配布には、有人モードと無人モードがあります。配布モードを選択するには、146 ページの [設定] タブ、**[OS 管理]** セクションを参照してください。

### OS 配布ウィザードを使用してオペレーティング システムを配布するには

- 1 **[OS 管理]** セクションの **[一般]** 領域または **[オペレーティング システム]** 領域で、**[オペレーティング システムの配布]**  ツールバー ボタンをクリックして、ウィザードを起動します。
- 2 **[次へ]** をクリックして、ウィザードを開始します。



OS 配布用に作成されたグループは、グループ内の全デバイスが同様の、互換性のあるハードウェアを持っているなど、基本的なガイドラインに従う必要があります。

- 3 オペレーティング システムのエントリーメント設定および配布用のグループを選択します。
- 4 **[次へ]** をクリックします。
- 5 このジョブで使用する OS 配布メソッドを選択します。
  - **Local Service Boot (LSB) :** OS を配布するために LSB をインストールしたい場合、このオプションを選択します。ローカル サービスの起動を使用すると、既存のマシンは PXE 対応である必要がなく、各ターゲット デバイスについて、起動の順序を BIOS でローカルに設定する必要がないという利点があります。
  - **ローカル CD または PXE サーバー :** デバイスにオペレーティング システムをインストールするのに PXE サーバーまたはサービス CD を使用する場合は、このオプションを選択します。

- 6 Premium ライセンスがインストールしてある場合、**ユーザー データと Settings Migration** を行うかどうかを選択するように表示されます。[はい] を選択すると、オペレーティング システムと一緒に **Settings Migration Utility** が配布されます。オペレーティング システムの配布の間に、**Settings Migration Utility** が起動し、ユーザーに設定をバックアップするように表示します。新しいオペレーティング システムがインストールされた後、設定を復元するため、**Settings Migration Manager** サービスをデバイスに配布します。詳細は、251 ページの「**Settings Migration**」を参照してください。
- ▶ OS 配布に無人モードを使用して、**Settings Migration** を選択した場合、このプロセスも無人で実行されます。コンピュータ名およびパスワードといった、**Settings Migration** に必要な情報は、自動的に生成されます。エンドユーザーは、**Settings Migration Utility** の**オペレーティング システムの移行からの復元**機能を使用して、OS 無人配布の間に保管された設定を復元します。
- 7 このジョブの実行スケジュールを設定します。OS を今すぐ配布するには **[実行：今すぐ]** を、OS 配布の日付と時刻をスケジュール設定するには **[実行：後で]** を選択します。反復スケジュールを設定するには、**[‘x’ 時間ごと]**、**[‘x’ 日ごと]**、または **[‘x’ 週ごと]** を選択して、ドロップダウン ボックスから **[間隔]** を選択します。
  - ▶ 反復ジョブ スケジュール オプション ([‘x’ 日ごと] など) は、グループ関連のジョブを作成するときだけ利用できます。
- 8 追加のジョブ タスクは **[その他のパラメータ]** セクションで設定します。
- 9 **[次へ]** をクリックします。
- 10 要約情報を確認し、**[サブミット]** をクリックします。
- 11 ジョブが正常に作成され、現在のジョブに追加されました。[現在のジョブ] タブをクリックして、現在の OS 配布ジョブを表示します。
- 12 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

## 利用状況収集フィルタ作成ウィザード

利用状況収集フィルタ作成ウィザードを使用して、新しい利用状況収集フィルタを作成します。

### 新しい収集フィルタを作成するには

- 1 [設定] タブの [レポート] セクションにある [利用状況の収集] タブの [新しいフィルタの作成] ツールバー ボタンをクリックして、ウィザードを起動します。
- 2 [次へ] をクリックします。
- 3 各テキスト ボックスに条件を入力して、フィルタ パラメータを設定します。利用状況データをフィルタしたいフィールドにだけ値を入力します。空のテキスト ボックスは無視され、フィルタ条件として使用されません。入力した値が、ソフトウェアの実行可能ファイルのファイル ヘッダーと比較され、収集された利用状況データがフィルタ条件に合致するか判断されます。特定のソフトウェアをどうフィルタするか決める方法は、154 ページの「[利用状況条件の定義](#)」を参照してください。  
 50 を超えるアプリケーションについて収集しレポートするようにフィルタを設定すると、大量のデータが収集され、しだいにレポートのパフォーマンスに重大な問題が生じる可能性があります。
- 4 [作成] をクリックします。
- 5 [閉じる] をクリックします。  
新しいフィルタが、収集フィルタ リストに追加されます。

## インフラストラクチャ配布ウィザード

インフラストラクチャ配布ウィザードを使用して、データ キャッシングなどのリモート サービスが可能になるインフラストラクチャ サービスをインフラストラクチャ サーバーにインストールします。

### インフラストラクチャ サービスを配布するには

- 1 [設定] タブの [インフラストラクチャ] セクションにある [インフラストラクチャ サービスの配布] ツールバー ボタンをクリックして、ウィザードを起動します。
- 2 [次へ] をクリックします。
- 3 配布の資格情報を入力して、[次へ] をクリックします。
- 4 インフラストラクチャ サービスをインストールするドライブを選択して、[次へ] をクリックします。
- 5 このジョブの実行スケジュールを設定します。サービスを今すぐ配布するには [実行: 今すぐ] を、配布の日付と時刻をスケジュール設定するには [実行: 後で] を選択します。

- 6 **[次へ]** をクリックします。
- 7 要約情報を確認し、**[サブミット]** をクリックします。
- 8 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

## インフラストラクチャ削除ウィザード

インフラストラクチャ削除ウィザードを使用して、インフラストラクチャ サーバー グループのデバイスからインフラストラクチャ サービスを削除します。

### インフラストラクチャ サービスを削除するには

- 1 [設定] タブの [インフラストラクチャ] セクションのツールバーからウィザードを起動します。
- 2 インフラストラクチャ サービスを削除したいデバイスを選択して、**[インフラストラクチャ サービスの削除]** ツールバー ボタンをクリックします。
- 3 **[次へ]** をクリックして、ウィザードを開始します。
- 4 ウィザードが完了したらすぐにサービスを削除するには、**[実行：今すぐ]** を選択します。あるいは、**[実行：後で]** を選択して、インフラストラクチャ サービスの削除の日付と時刻を入力します。
- 5 **[次へ]** をクリックします。
- 6 要約情報を確認し、**[サブミット]** をクリックします。
- 7 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。



## 第 8 章 OS イメージの準備と取得

**Image Preparation Wizard** を使用して、ユーザーの環境にあるデバイスに配布するため、オペレーティング システム イメージを準備し取得します。イメージを取得したら、**Publisher** を使用して **OVCCM** にパブリッシュします。

ウィザードを実行すると、イメージと関連付けられているインベントリ情報を収集し、イメージ ファイルを **OVCCM** サーバーの \upload ディレクトリ (デフォルトでは C:\Novadigm\OSManagerServer\upload) に送信します。

▶ パフォーマンスの問題を避けるため、イメージは、非プロダクション環境にある **OVCCM** サーバーに送信します。

**Image Preparation Wizard** は、**OVCCM CD-ROM** の `OSManagement\ISO\CaptureCD` ディレクトリにある `osprep wiz.iso` ファイルの一部として利用可能です。

- 始める前に、このファイルから **Image Preparation Wizard CD** を作成します。

準備と取得の手順は、オペレーティング システムにより異なります。OS 特有の手順は、下の適切なセクションを参照してください。

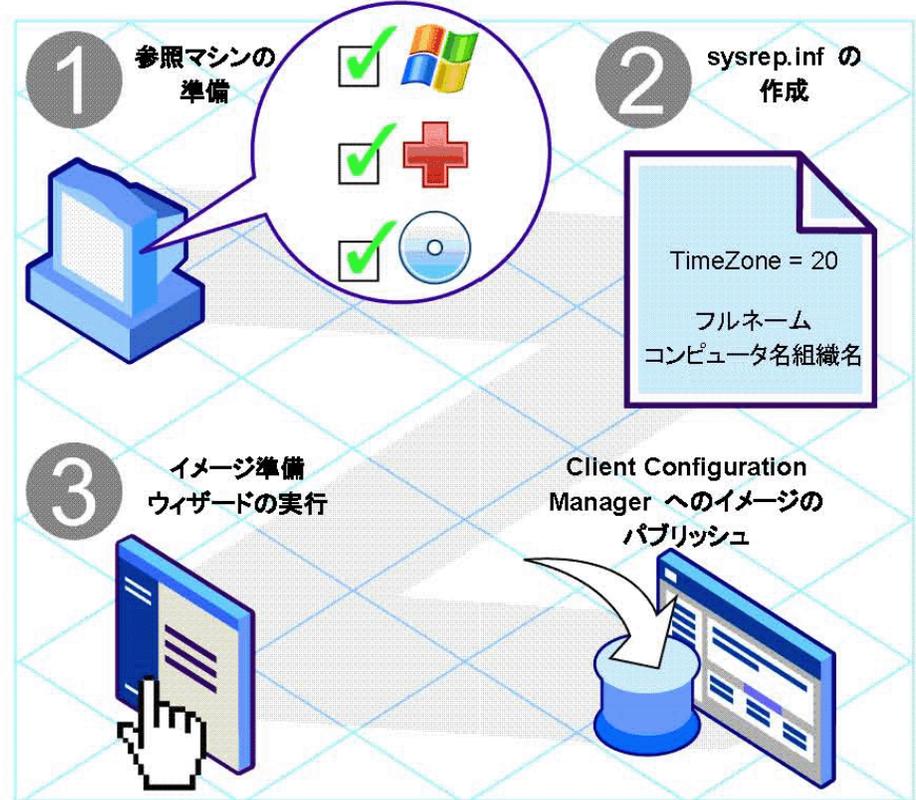
- [Windows OS イメージ \(179 ページ\)](#)
- [シンクライアントの OS イメージ \(194 ページ\)](#)

### Windows OS イメージ

次のセクションでは、**Windows** オペレーティング システムのイメージを準備し取得する方法を説明しています。

- [手順 1 – 参照マシンの準備 \(180 ページ\)](#)
- [手順 2 – Sysprep.inf の作成 \(183 ページ\)](#)
- [手順 3 – Image Preparation Wizard の実行 \(185 ページ\)](#)

図 41 OS イメージの作成プロセス



## 手順 1 – 参照マシンの準備

参照マシン (オペレーティング システムのイメージを作成するため使用されるマシン) で作成されたイメージが、ターゲット デバイスに配布されます。HP が提供する Image Preparation Wizard (`prep wiz.exe`) を使用してイメージを作成する前に、次を行います。

- 1 CD-ROM ドライブから起動するように参照マシンを設定します。

Image Preparation Wizard の CD-ROM はブータブルなのでこの設定が必要です。Image Preparation Wizard を実行すると、イメージを取得するため、CD-ROM から起動するメモリ常駐型 Linux 環境にデバイスが再起動されます。

- 2 参照マシンで OS のインストールを実行します。参照マシンが DHCP を使用していることを確認します。

▶ C: ドライブしか取得されないので、OS は C: ドライブに保存する必要があります。

- 3 必要に応じて OS をカスタマイズします。これには、基本的なまたは必要な複数のアプリケーションをインストールすることが含まれる場合があります。OS およびアプリケーションの最新のサービスパックを必ず含めてください。イメージを配布するデバイスの全設定に必要なドライバをすべて必ず含めてください。次の Microsoft サポート技術情報の記事には、Windows OS のインストールに OEM ドライバを含めることに関する情報が記載されています。

<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;en-us;314479>

▶ Windows XP イメージは、最低でも サービスパック 1 を必要とします。

- 4 管理エージェントを参照マシンに配布するか、OVCCM CD-ROM を使用して手動でエージェントをインストールします。OS イメージが配布されるときにデバイスが OVCCM サーバーに接続するために、エージェントが必要です。

#### その他の推奨事項

- 1 OVCCM サーバーへのアップロードプロセスが終了するまで、キーボードやマウスによる操作が数分間行われなくても、マシンの電源が切れないように、BIOS の電源管理を設定します。
- 2 イメージファイルのサイズはできるだけ小さくしておきます。理想的な設定は、オペレーティングシステムを収納できるだけの大きさを持つパーティションになります。[OS のアップロードの前にパーティションのサイズを変更する] チェック ボックスが選択されている場合、Image Preparation Wizard は、パーティションをより小さいサイズに変更します。

Image Preparation Wizard にこれを行わせたくない場合は、以下のことを考慮します。

##### — 最小パーティション サイズの使用

OS インストール用の参照マシンのドライブのパーティションを設定するとき、必要な最小限の領域を使用します。

- Windows 2000 Professional は、インストールに 800 MB のパーティションを必要とします。
- SP1 を適用する Windows XP は 1.5 GB を必要とします。

##### — ラップトップを使用している場合の休止状態の無効

- OS のパフォーマンスを維持しながら、できるだけ小さいページファイルを作成

Windows XP については、以下のことを考慮します。

- システムの復元をオフにして、変更の追跡を止めます。
- ページファイルを無効にします。



サービス パック 1 を適用した Windows XP Professional では、KeepPageFile パラメータが Sysprep ファイルでデフォルト値 (null 値) に設定されている場合、ページファイルはターゲット マシンで有効になっています。KeepPageFile に関する詳細は、<http://support.microsoft.com/?kbid=813138> を参照してください。

- 休止状態をオフにします。ページファイルが削除されます。



Windows XP SP1 では、powercfg.exe を使用して、コマンドラインから休止状態ファイルをオンにできます。  
<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;en-us;q324347> を参照してください。

Windows 2000 については、以下のことを考慮します。

- ページファイルを 0 に設定して無効にします。
- 休止状態をオフにします。

#### — 空き領域の作成

できるだけ小さいディスク空き領域を持つできるだけ小さいパーティションを作成したら、Sysprep.inf の [Unattended] セクションで **ExtendOemPartition = 1** を設定します。これにより、ずっと大きいドライブを持つターゲット マシンで小さなイメージがインストールできるようになります。ExtendOemPartition を 1 に設定すると、Microsoft ミニセットアップ ウィザードは、OS インストール パーティションを、そのディスク上で、物理的に連続しパーティションが設定されていない利用可能な領域へ拡張します。すると、クライアントは、そのボリュームの空き領域をアプリケーションのインストールに使用できます。

- イメージを取得する前に、OS Image Preparation Wizard は、システムドライブのパーティションの終わりの空き領域をゼロに設定できます。



これは、OS Image Preparation Wizard を使用するとき利用できるオプションです。

- これにより、取得したイメージの圧縮率が大きくなり、サイズが小さくなります。イメージファイルのサイズが小さい方が、保存するディスク領域が少なく、ネットワーク上を転送するバンド幅が小さくてすみます。

## 手順 2 – Sysprep.inf の作成

複製されたイメージを使用して **Microsoft** オペレーティング システムを配布するため、**Microsoft Sysprep** をダウンロードします。



**Sysprep** の使用方法、**Sysprep.inf** の作成方法、および利用可能なパラメータは、**Microsoft** のドキュメントを参照してください。**Windows XP** および **Windows 2000** の **Microsoft Sysprep** に関する情報を参照するには、インストール メディアの `\support\tools\deploy.cab` へ移動します。**Deploy.cab** には 3 つのヘルプ ファイルが含まれています (**Deploy.chm** には、**Sysprep** の詳細情報が含まれています)。

イメージ作成の最後の手順で、**Image Preparation Wizard** は、**Microsoft Sysprep** を実行します。これにより、イメージのセキュリティ識別子がすべて削除され、イメージがリセットされます。

オペレーティング システム イメージがターゲット マシンに配布後、ターゲット マシンが起動されると、**Microsoft** ミニウィザードが自動的に動作します。

**Sysprep.inf** が提供する応答を使用した後、**Microsoft** ミニウィザードは、ターゲット マシンの **Sysprep** ディレクトリを削除します。

### Sysprep をセットアップするには

- 1 **Microsoft** オペレーフォルダにあるティング システムのインストール **CD-ROM** の `SUPPORT\TOOLS DEPLOY.CAB` へ移動します。詳細は、**Microsoft** のドキュメントを参照してください。
- 2 適切な オペレーティング システムのシステム **CD-ROM** を使用して、**Deploy.cab** ファイルから **Microsoft Sysprep** ファイルを展開します。これらのファイルを参照マシンの `C:\SysPrep` にコピーして、ディレクトリおよびファイルが読み取り専用設定されていないことを確認します。



**Sysprep** のバージョン **5.02195.2104r** 以上を使用していることを確認します。これより古いバージョンを使用すると、次のエラーが発生する場合があります。

無効な Sysprep バージョンエラー。Sysprep バージョン 5.02195.2104r をインストールしてウィザードを再実行してください。終了する場合は [OK] をクリックしてください。

適切なバージョンの **Sysprep** がない場合は、**Microsoft** の Web サイトからダウンロードできます。

管理者権限を持っている場合でも、**Sysprep** を実行するように設定されている適切なユーザー権限があることを確認してください。

**Microsoft Web** サイトの記事 **#270032 "User Rights Required to Run the Sysprep.exe Program"** を参照してください。

**<http://support.microsoft.com/?kbid=270032>**

適切なユーザー権限がない場合、**Sysprep** を実行すると、次のエラーが発生します。

このアプリケーションを実行するには管理者でなければなりません。

**Image Preparation Wizard** を終了し、適切なユーザー権限をセットアップしたら、再びウィザードを実行する必要があります。

- 3 **Microsoft Sysprep** を使用するには、参照マシンが、ドメインではなく **WORKGROUP** に所属していることを確認します。
- 4 **Sysprep.inf** を作成して、**C:\Sysprep** に保存します。

#### Sysprep.inf を作成するには

**Sysprep.inf** ファイルは、オペレーティング システム イメージと一緒に配布されます。このファイルは手動で作成できます。あるいは、**Microsoft Setup Manager** (**Setupmgr.exe**) を使用して **Sysprep** ファイルを作成します。**Setup Manager** は、**Microsoft OS** 配布 CD-ROM にある **SUPPORT\TOOLS** フォルダの **Deploy.cab** ファイルにあります。詳細は、**Microsoft** のドキュメントを参照してください。

サンプルの **Sysprep.inf** ファイルが、イメージ準備 CD の **\samples** ディレクトリにあります。

次に、**Sysprep.inf** ファイルを作成するときに考慮すべきヒントをいくつかあげます。

- 企業のタイムゾーン値を調整します。
- 管理者パスワードをセットアップします。
- ユーザーがターゲット マシンで入力する必要があるように、プロダクトキーを必ず含めます。

- 無人インストールを行うには、[Unattended] セクションに `UnattendMode = FullUnattended` を含めます。
- `ExtendOemPartition` を 1 に設定します。Microsoft Sysprep は、OS のパーティションをそのディスク上で、物理的に連続しパーティションが設定されていない利用可能な領域へ拡張します。
- `JoinDomain` が `Sysprep.inf` にある場合、`Sysprep.inf` は、コンピュータをドメインに参加させる権限を持つ、ドメインのアカウントの管理者ユーザー ID およびパスワードを含んでいる必要があります。`JoinDomain` は大文字と小文字を区別することに注意します。
- `ComputerName` も大文字と小文字を区別します。

これらの手順を終了したら、185 ページの「[手順 3 – Image Preparation Wizard の実行](#)」を行います。

## 手順 3 – Image Preparation Wizard の実行

Image Preparation Wizard は次のタスクを行います。

- 1 マシンに十分な空きディスク領域があるかチェックし、OS Manager クライアントがインストールされていることを確認します。180 ページの「[手順 1 – 参照マシンの準備](#)」を参照してください。十分な空きディスク領域がない場合、Image Preparation Wizard はメッセージを表示して終了します。
- 2 参照マシンに関する情報 (ハードウェアおよび BIOS の機能など) を含むオブジェクトを作成します。
- 3 サポートされているオペレーティングシステムで Microsoft Sysprep を実行します (Windows XPe、CE、および Embedded Linux は、Sysprep をサポートしません)。
- 4 参照マシンを (作成したイメージ準備 CD から起動した) Linux から再起動します。OS Manager の Image Preparation Wizard の Linux ベースの部分が動作して、イメージおよび関連ファイルを収集します。
- 5 次のファイルを作成し、OVCCM サーバーの `SystemDrive:\Novadigm\OSManagerServer\upload` にコピーします。
  - `ImageName.IMG`  
このファイルにイメージが含まれます。これは、非常に大きなハードディスク ドライブ システムのブート パーティションをセクタごとにコピーして圧縮したファイルです。このファイルには、イメージがインストールされるときにアクセス可能な組み込みファイル システムが含まれます。
  - `ImageName.MBR`  
このファイルには、参照マシンのマスタ ブート レコード ファイルが含まれます。

- ImageName.PAR  
このファイルには、参照マシンのパーティション テーブル ファイルが含まれます。
- ImageName.EDM  
このファイルには、インベントリ情報を持つオブジェクトが含まれます。



これらのファイルが転送される間は、オペレーティング システム イメージが転送の間に圧縮されるので、ネットワーク速度は最大速度より遅くなります。

イメージが配布された後、包括的なログ (*machineID.log*) も *SystemDrive:\Novadigm\OSManagerServer\upload* で利用できます。

### Image Preparation Wizard を使用するには

- 1 作成した **Image Preparation Wizard** の CD-ROM を参照マシンの CD-ROM ドライブに挿入します。この CD は、OVCCM CD の OSCaptureISO ディレクトリにある *osprep wiz.iso* を使用して作成します。
- 2 自動実行が有効な場合、OpenView OVCCM OS 準備と取得 CD のホームページが開きます。
- 3 **[Browse]** をクリックして、\OSPreparationWizard\win32\ ディレクトリを開きます。
- 4 **prep wiz.exe** をダブルクリックします。**Image Preparation Wizard** が、先へ進む前に C:\Sysprep フォルダが存在するか確認します。
- 5 **[次へ]** をクリックします。
- 6 [エンドユーザー ライセンス契約] ウィンドウが表示されます。
- 7 **[同意する]** をクリックします。  
[イメージのタイプの選択] ウィンドウが開きます。



- 8 デフォルトの [標準] を受け入れて、[次へ] をクリックします。PowerQuest は、将来の使用のため予約されています。



- 9 OVCCM サーバーの IP アドレスまたはホスト名およびポートを入力します。これは、`xxx.xxx.xxx.xxx:port` という形式で指定します。OS のイメージ作成用に予約されている OVCCM サーバーのポートは **3469** です。

Image Preparation Wizard が OVCCM サーバーに接続できない場合、メッセージが開くので、次を行います。

- **[はい]** をクリックして続行します。
- **[いいえ]** をクリックして、ホスト名または IP アドレスを変更します。
- **[キャンセル]** をクリックして、Image Preparation Wizard を終了します。

- 10 **[次へ]** をクリックします。

[イメージ名] ウィンドウが開きます。



- 11 イメージファイルの名前を入力します。これは、OVCCM サーバーの /upload ディレクトリに保存されるイメージ名です。

- 12 **[次へ]** をクリックします。

イメージの説明を入力できるウィンドウが開きます。



13 イメージファイルの説明を入力します。

14 [次へ] をクリックします。

[オプション] ウィンドウが表示されます。



- 15 適切なオプションを選択します。

#### **Sysprep.inf に大容量ストレージ セクションをビルドする**

このチェック ボックスを選択して、Windows 2000 以上の Sysprep.inf の [SysprepMassStorage] セクションに、大容量ストレージ ドライバのリストを構築します。



大容量ストレージ ドライバのリストは、レジストリにインストールされます。これには約 15 ～ 20 分かかりますが、マシンのモデルおよびメーカーにまたがるイメージ配布を成功させるため、基本的な大容量ストレージ デバイスのドライバを提供します。

これらのエントリにエラーがあると、この後の Sysprep の実行は失敗する場合があります。

#### **未使用のディスク スペースの圧縮を最適化する**

このチェック ボックスを選択して、未使用ディスク領域の圧縮を最適化します。これは、ディスクの終わりまでゼロを追加します。ハードディスクのサイズにより、しばらく時間がかかる場合があることに注意してください。

#### **OS のアップロードの前にパーティションのサイズを変更する**

このチェック ボックスを選択して、パーティションのサイズをできるだけ小さくなるように変更します。このチェック ボックスを選択しない場合は、パーティションのサイズが適切であるか確認してください。

#### **OS のインストール後にクライアント接続を実行する**

このチェック ボックスを選択して、OS が正しくインストールされたか確認するため、OS のインストール後に OVCCM サーバーに接続します。このチェック ボックスを選択しない場合は、OS がインストールされた後、OS 接続は自動的に実行されません。

- 16 デフォルトを受け入れて、**[次へ]** をクリックします。

[要約] ウィンドウが表示されます。

- 17 **[開始]** をクリックします。

APIC マシンで作業をしている場合、新しいウィンドウが開きます。



18 必要な場合、チェック ボックスを選択します。



Microsoft はこれを推奨していません。この選択を行う前に、Microsoft の Web サイトで詳細を必ず確認してください。

19 [次へ] をクリックします。

前の手順でチェック ボックスを選択した場合、[Windows CD の選択] ウィンドウが開きます。



- 20 Windows CD-ROM へ移動します。
- 21 [次へ] をクリックします。
- 22 [完了] をクリックして、Sysprep を実行します。

Image Preparation Wizard が Sysprep を起動します。これが完了するのに 15 ~ 20 分かかる場合があります。Sysprep は、完了すると、マシンを自動的に再起動します。

- 23 [OK] をクリックします。  
Sysprep が起動します。

▶ Windows 2000 を使用している場合、画面では活動していないように見えても、Sysprep の実行に時間がかかっている場合があります。

Sysprep がデバイスを再起動した後、デバイスは、CD-ROM ドライブの Image Preparation Wizard CD を起動しなければなりません。

このような設定になるよう、必要な設定の調節を行います (たとえば、BIOS のバージョンによっては、再起動プロセスの間に F10 キーを押して、設定内の起動順序を変更できます)。

⚠ デバイスが CD を起動せずに Windows を起動する場合、上記の「手順 1 - 参照マシンの準備」から、プロセスを再起動する必要があります。

▶ マシンが再起動したら、画面に **Fedora Core** が次のように表示されます。

```
To specify options manually, type sos opt1=xxx  
opt2=xxx enter
```

```
Some quick boot specifications with preset options  
are
```

```
SOS for PREPWIZ or ROMA, default after a few  
seconds
```

```
TESTMODE - TESTMODE=1
```

```
DEBUG - runs in debug mode, SOSDEBUG=1 (no drivers  
loaded)
```

数秒待つて続行するか、または **Enter** キーを押して、マシンを起動します。

画面に示されたオプションは通常、技術サポートが指示した場合だけ使用します。

▶ イメージのアップロードは、長時間かかるように思える場合があります。しかし、長時間かかっているのは、アップロードではなく、イメージの圧縮と圧縮のための未使用ディスク領域の最適化です(特に、空きディスク領域が多くある場合)。これは、イメージの転送の間に行われるので、ネットワークのパイプはボトルネックになりません。転送速度は、約 **30** から **400 Kbps** ですが、プロセッサの速度やネットワーク環境により異なる場合があります。

▶ 必要な場合に取り出せるように、\upload ディレクトリに保存されているファイルをコピーしたい場合があります。

**24 Image Preparation Wizard** はネットワークに接続して、**OVCCM** サーバーのイメージを /upload ディレクトリに保存します。

アップロードプロセスが完了すると、次のメッセージが表示されます。

```
OS イメージが正常に OVCM OS Manager Server へ送信されました
```

```
**** CD を挿入している場合、CD を取り出して再起動します
```

**25 参照マシン**を再起動して、必要な場合は起動設定を再調整し、元のオペレーティングシステムに戻ります。

これで、**Publisher** を使用して、管理対象デバイスへの配布のため、イメージファイルを **OVCCM** サーバーにパブリッシュできるようになりました。222 ページの「オペレーティング システム イメージのパブリッシュ」を参照してください。

## シンクライアントの OS イメージ

次のセクションでは、サポートされているシンクライアント オペレーティング システムのイメージを準備し取得する方法を説明しています。

- [Windows XPe OS イメージ \(194 ページ\)](#)
- [Windows CE OS イメージ \(201 ページ\)](#)
- [Embedded Linux OS イメージ \(205 ページ\)](#)

### Windows XPe OS イメージ

次のセクションでは、**Windows XPe** シンクライアント オペレーティング システムのイメージを準備し取得する方法を説明しています。

- [手順 1 – XPe 参照マシンの準備 \(194 ページ\)](#)
- [手順 2 – Image Preparation Wizard の実行 \(195 ページ\)](#)

#### 手順 1 – XPe 参照マシンの準備

イメージ取得のため **XPe** シンクライアントを準備するには、次が必要です。

- **OVCCM** メディア
- **XPe Embedded Toolkit CD-ROM**
- イメージ準備 **CD-ROM**

**Windows XPe** イメージを取得する前に、次を行う必要があります。

- 1 **Windows XPe** に管理者としてログインします。
- 2 **XPe Embedded Toolkit** から、`etprep.exe` を `C:\Windows` にコピーします。
- 3 **XPe Embedded Toolkit** から、`fbreseat.exe` を `C:\Windows\fbat` にコピーします。
- 4 管理エージェントをインストールします。

## Windows XPe に管理エージェントをインストールするには

- 1 Windows XPe シンクライアントデバイスから OVCCM メディアにアクセスします。
- 2 OVCCM メディアで、*SystemDrive:\ThinClient\XPE* に移動します。
- 3 *setup.exe* をダブルクリックします。
- 4 インストールの指示に従います。
- 5 IP アドレスとポート番号の入力を要求されたら、OVCCM サーバーの IP アドレスとポート番号を入力します。  
管理エージェントがインストールされます。

## 手順 2 – Image Preparation Wizard の実行

Image Preparation Wizard は次のタスクを行います。

- 1 マシンに十分な空きディスク領域があるかチェックし、管理エージェントがインストールされていることを確認します。十分な空きディスク領域がない場合、Image Preparation Wizard はメッセージを表示して終了します。
- 2 参照マシンに関する情報 (ハードウェアおよび BIOS の機能など) を含むオブジェクトを作成します。
- 3 参照マシンを (作成したイメージ準備 CD から起動した) サービス オペレーティング システムから再起動します。OS Manager の Image Preparation Wizard の Linux ベースの部分が動作して、イメージおよび関連ファイルを収集します。
- 4 次のファイルを作成し、OVCCM サーバーの *SystemDrive:\Novadigm\OSManagerServer\upload* にコピーします。
  - *ImageName.IBR*  
このファイルにイメージが含まれます。シンクライアントイメージファイルは、参照マシンのフラッシュ ドライブと同じサイズです。  
**Windows XPe** のイメージは、同等以上のサイズのフラッシュ ドライブを備えたターゲット マシンに配布できます。このファイルには、イメージがインストールされるときにアクセス可能な組み込みファイル システムが含まれます。
  - *ImageName.EDM*  
このファイルには、インベントリ情報を持つオブジェクトが含まれます。



これらのファイルが転送される間は、オペレーティング システム イメージが転送の間に圧縮されるので、ネットワーク速度は最大速度より遅くなります。

イメージが配布された後、包括的なログ (*machineID.log*) も *SystemDrive:\Novadigm\OSManagerServer\upload* で利用できます。

### Image Preparation Wizard を使用するには

- 1 作成した **Image Preparation Wizard** の CD-ROM を参照マシンの CD-ROM ドライブに挿入します (シンクライアント デバイスは、USB CD-ROM ドライブを必要とします)。この CD は、OVCCM CD の **OSCaptureISO** ディレクトリにある **osprepwiz.iso** を使用して作成します。
- 2 自動実行が有効な場合、OpenView OVCCM OS 準備と取得 CD のホームページが開きます。
- 3 **[Browse]** をクリックして、\OSPreparationWizard\win32\ ディレクトリを開きます。
- 4 **prepwiz.exe** をダブルクリックします。**Image Preparation Wizard** は、続行する前に、*etprep.exe* および *fbreseat.exe* が利用できるかを確認します。

[よろこそ] ウィンドウが表示されます。

- 5 **[次へ]** をクリックします。

[エンドユーザー ライセンス契約] ウィンドウが表示されます。

- 6 **[同意する]** をクリックします。



- 7 OVCCM サーバーの IP アドレスまたはホスト名およびポートを入力します。これは、xxx.xxx.xxx.xxx:port という形式で指定します。OS のイメージ作成用に予約されている OVCCM サーバーのポートは 3469 です。

Image Preparation Wizard が OVCCM サーバーに接続できない場合、メッセージが開きます。次を行います。

- **[はい]** をクリックして続行します。
- **[いいえ]** をクリックして、ホスト名または IP アドレスを変更します。
- **[キャンセル]** をクリックして、Image Preparation Wizard を終了します。

- 8 **[次へ]** をクリックします。  
[イメージ名] ウィンドウが開きます。



- 9 イメージファイルの名前を入力します。これは、OVCCM サーバーの /upload ディレクトリに保存されるイメージ名です。
- 10 [次へ] をクリックします。  
イメージの説明を入力できるウィンドウが開きます。



- 11 イメージファイルの説明を入力します。
- 12 **[次へ]** をクリックします。  
[オプション] ウィンドウが表示されます。



- 13 適切なオプションを選択します。

**OS のインストール後にクライアント接続を実行する**

このチェック ボックスを選択して、OS が正しくインストールされたか確認するため、OS のインストール後に OVCCM サーバーに接続します。このチェック ボックスを選択しない場合は、OS がインストールされた後、OS 接続は自動的に実行されません。

- 14 デフォルトを受け入れて、**[次へ]** をクリックします。

[要約] ウィンドウが表示されます。

- 15 **[開始]** をクリックします。

**[完了]** をクリックします。

ウィザードがイメージを準備します。

16 [OK] をクリックします。

デバイスは、CD-ROM ドライブの **Image Preparation Wizard CD** から起動します。このような設定になるよう、必要な設定の調節を行います (たとえば、BIOS のバージョンによっては、再起動プロセスの間に **F10** キーを押して、設定内の起動順序を変更できます)。



デバイスが **CD** を起動せずに **Windows XPe** を起動する場合、上記の **手順 1 - XPe 参照マシンの準備** から、プロセスを再起動する必要があります。



マシンが再起動したら、画面に **Fedora Core** が次のように表示されます。

```
To specify options manually, type sos opt1=xxx  
opt2=xxx enter
```

```
Some quick boot specifications with preset options  
are
```

```
SOS for PREPWIZ or ROMA, default after a few  
seconds
```

```
TESTMODE - TESTMODE=1
```

```
DEBUG - runs in debug mode, SOSDEBUG=1 (no drivers  
loaded)
```

数秒待つて続行するか、または **Enter** キーを押して、マシンを起動します。

画面に示されたオプションは通常、技術サポートが指示した場合だけ使用します。



イメージのアップロードは、長時間かかるように思える場合があります。しかし、長時間かかっているのは、アップロードではなく、イメージの圧縮と圧縮のための未使用ディスク領域の最適化です (特に、空きディスク領域が多くある場合)。これは、イメージの転送の間に行われるので、ネットワークのパイプはボトルネックになりません。転送速度は、約 **30** から **400 Kbps** ですが、プロセッサの速度やネットワーク環境により異なる場合があります。



必要な場合に取り出せるように、**\upload** ディレクトリに保存されているファイルをコピーしたい場合があります。

17 OS Image Preparation Wizard はネットワークに接続して、OVCCM サーバーのイメージを /upload ディレクトリに保存します。

アップロードプロセスが完了すると、次のメッセージが表示されます。

OS イメージが正常に OVCM OS Manager Server へ送信されました

\*\*\*\* CD を挿入している場合、CD を取り出して再起動します

18 参照マシンを再起動して、必要な場合は起動設定を再調整し、元のオペレーティングシステムに戻ります。

これで、Publisher を使用して、管理対象デバイスへの配布のため、イメージファイルを OVCCM サーバーにパブリッシュできるようになりました。222 ページの「オペレーティングシステムイメージのパブリッシュ」を参照してください。

## Windows CE OS イメージ

次のセクションでは、Windows CE シンクライアントオペレーティングシステムのイメージを準備し取得する方法を説明しています。

- 手順 1 – CE 参照マシンの準備 (201 ページ)
- 手順 2 – Image Preparation Wizard の実行 (202 ページ)

### 手順 1 – CE 参照マシンの準備

イメージ取得のため CE シンクライアントを準備するには、次が必要です。

- OVCCM メディア
- イメージ準備 CD-ROM

イメージを取得する前に、Windows CE デバイスに管理エージェントをインストールする必要があります。

#### Windows CE に管理エージェントをインストールするには

- 1 Windows CE シンクライアントデバイスから OVCCM メディアにアクセスします。
- 2 OVCCM メディアで、*SystemDrive:\ThinClient\WinCE* に移動します。
- 3 **radskman.X86.CAB** をダブルクリックします。
- 4 OVCCM サーバーの IP アドレスまたはホスト名を入力して、**[OK]** をクリックします。

管理エージェントがインストールされます。

## 手順 2 – Image Preparation Wizard の実行

Image Preparation Wizard は次のタスクを行います。

- 1 マシンに十分な空きディスク領域があるかチェックし、管理エージェントがインストールされていることを確認します。十分な空きディスク領域がない場合、Image Preparation Wizard はメッセージを表示して終了します。
- 2 参照マシンに関する情報 (ハードウェアおよび BIOS の機能など) を含むオブジェクトを作成します。
- 3 参照マシンを (作成したイメージ準備 CD から起動した) サービス オペレーティング システムから再起動します。OS Manager の Image Preparation Wizard の Linux ベースの部分が動作して、イメージおよび関連ファイルを収集します。
- 4 次のファイルを作成し、OVCCM サーバーの `SystemDrive:\Novadigm\OSManagerServer\upload` にコピーします。

— ImageName.IBR

このファイルにイメージが含まれます。シンクライアントイメージファイルは、参照マシンのフラッシュ ドライブと同じサイズです。Windows CE のイメージは、同等のサイズのフラッシュ ドライブを備えたターゲット マシンに配布できます。このファイルには、イメージがインストールされるときにアクセス可能な組み込みファイル システムが含まれます。

— ImageName.EDM

このファイルには、インベントリ情報を持つオブジェクトが含まれます。



これらのファイルが転送される間は、オペレーティング システムイメージが転送の間に圧縮されるので、ネットワーク速度は最大速度より遅くなります。

イメージが配布された後、包括的なログ (`machineID.log`) も `SystemDrive:\Novadigm\OSManagerServer\upload` で利用できます。

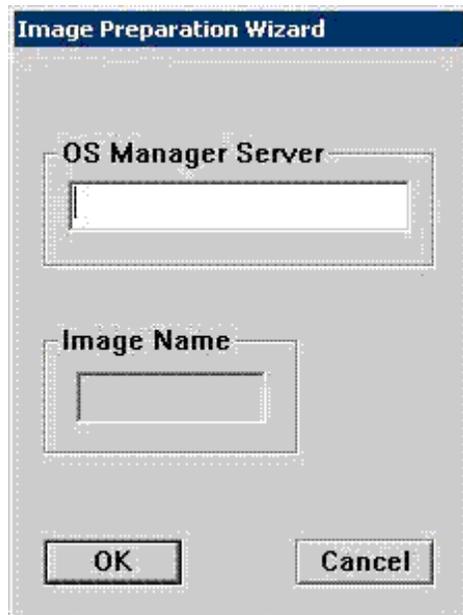
### Image Preparation Wizard を使用するには

- 26 作成した Image Preparation Wizard CD-ROM を参照マシンの CD-ROM ドライブに挿入します (シンクライアント デバイスは、USB CD-ROM ドライブを必要とします)。この CD は、OVCCM CD の OSCaptureISO ディレクトリにある `osprepwiz.iso` を使用して作成します。
- 27 自動実行が有効な場合、OpenView OVCCM OS 準備と取得 CD のホームページが開きます。

28 **[Browse]** をクリックして、\OSPreparationWizard\WinCE\ ディレクトリを開きます。

29 **prep wiz.exe** をダブルクリックします。

Image Preparation Wizard が開きます。



30 OVCCM サーバーの IP アドレスまたはホスト名およびポートを入力します。これは、xxx.xxx.xxx.xxx:port という形式で指定します。OS のイメージ作成用に予約されている OVCCM サーバーのポートは **3469** です。

Image Preparation Wizard が OVCCM サーバーに接続できない場合、メッセージが開きます。次を行います。

- **[はい]** をクリックして続行します。
- **[いいえ]** をクリックして、ホスト名または IP アドレスを変更します。
- **[キャンセル]** をクリックして、Image Preparation Wizard を終了します。

31 **[OK]** をクリックします。

ウィザードがイメージを準備します。

デバイスは、CD-ROM ドライブの **Image Preparation Wizard CD** から起動します。このような設定になるよう、必要な設定の調節を行います (たとえば、BIOS のバージョンによっては、再起動プロセスの間に **F10** キーを押して、設定内の起動順序を変更できます)。



デバイスが CD を起動せずに **Windows CE** を起動する場合、上記の手順 **1 - CE 参照マシンの準備プロセス** を再起動する必要があります。



マシンが再起動したら、画面に **Fedora Core** が次のように表示されます。

```
To specify options manually, type sos opt1=xxx  
opt2=xxx enter
```

Some quick boot specifications with preset options are

SOS for PREPWIZ or ROMA, default after a few seconds

TESTMODE - TESTMODE=1

DEBUG - runs in debug mode, SOSDEBUG=1 (no drivers loaded)

数秒待つて続行するか、または **Enter** キーを押して、マシンを起動します。

画面に示されたオプションは通常、技術サポートが指示した場合だけ使用します。



イメージのアップロードは、長時間かかるように思える場合があります。しかし、長時間かかっているのは、アップロードではなく、イメージの圧縮と圧縮のための未使用ディスク領域の最適化です(特に、空きディスク領域が多くある場合)。これは、イメージの転送の間に行われるので、ネットワークのパイプはボトルネックになりません。転送速度は、約 **30** から **400 Kbps** ですが、プロセッサの速度やネットワーク環境により異なる場合があります。



必要な場合に取り出せるように、`\upload` ディレクトリに保存されているファイルをコピーしたい場合があります。

**32 OS Image Preparation Wizard** はネットワークに接続して、**OVCCM** サーバーのイメージを `/upload` ディレクトリに保存します。

アップロードプロセスが完了すると、次のメッセージが表示されます。

OS イメージが正常に OVCM OS Manager Server へ送信されました

\*\*\*\* CD を挿入している場合、CD を取り出して再起動します

- 33** 参照マシンを再起動して、必要な場合は起動設定を再調整し、元のオペレーティングシステムに戻ります。

これで、**Publisher** を使用して、管理対象デバイスへの配布のため、イメージファイルを **OVCCM** サーバーにパブリッシュできるようになりました。**222** ページの「オペレーティング システム イメージのパブリッシュ」を参照してください。

## Embedded Linux OS イメージ

次のセクションでは、**Embedded Linux** オペレーティング システムのイメージを準備し取得する方法を説明しています。

- [手順 1 – Embedded Linux 参照マシンの準備 \(205 ページ\)](#)
- [手順 2 – Image Preparation Wizard の実行 \(206 ページ\)](#)

### 手順 1 – Embedded Linux 参照マシンの準備

イメージ取得のため **Embedded Linux** シンクライアントを準備するには、次が必要です。

- **OVCCM** メディア
- イメージ準備 **CD-ROM**

イメージを取得する前に、**Embedded Linux** シンクライアントに管理エージェントをインストールする必要があります。

 シンクライアント デバイスの情報および **NFS** を使用したインストールの実行の手順の詳細は、このガイドのインストールの章または `ThinClient.tar` の **README** ファイルを参照してください。

#### Embedded Linux に Management Agent をインストールするには

- 34** ターゲットのシンクライアント デバイスにログインします。
- 35** `/mnt/opt/OVCM` という名前の新しいディレクトリを作成します。
- 36** (**OVCCM** メディアの `/ThinClient/Linux` ディレクトリにある) **ThinClient.tar** の内容を `/mnt/opt/OVCM` にコピーします。

デバイスのモデルによっては、/tmp または別のマシンでこれらのファイルを展開する必要があります。tar ファイルと展開された内容を両方とも格納する十分なディスク領域がないモデルもあるからです(約 7 ~ 8 MB の空き領域が必要です)。展開した後は、ThinClient.tar を削除できます。

- 37 カレント ディレクトリを /mnt/opt/OVCM に変更して、次のように入力しインストールを実行します。

```
/install -i OVCCM_Server
```

この場合の *OVCCM\_Server* は OVCCM サーバーのホスト名または IP アドレスです。

管理エージェントがインストールされます。

## 手順 2 – Image Preparation Wizard の実行

Image Preparation Wizard は次のタスクを行います。

- 38 マシンに十分な空きディスク領域があるかチェックし、管理エージェントがインストールされていることを確認します。十分な空きディスク領域がない場合、Image Preparation Wizard はメッセージを表示して終了します。
- 39 参照マシンに関する情報 (ハードウェアおよび BIOS の機能など) を含むオブジェクトを作成します。
- 40 参照マシンを (作成したイメージ準備 CD から起動した) サービス オペレーティング システムから再起動します。OS Manager の Image Preparation Wizard の Linux ベースの部分が動作して、イメージおよび関連ファイルを収集します。
- 41 次のファイルを作成し、OVCCM サーバーの *SystemDrive:\Novadigm\OSManagerServer\upload* にコピーします。
- ImageName.DD  
このファイルにイメージが含まれます。シンクライアントイメージファイルは、参照マシンのフラッシュ ドライブと同じサイズです。  
**Embedded Linux** のイメージは、サイズが同じフラッシュ ドライブを備えたターゲット マシンにしか配布できません。このファイルには、イメージがインストールされる時にアクセス可能な組み込みファイル システムが含まれます。
  - ImageName.EDM  
このファイルには、インベントリ情報を持つオブジェクトが含まれます。

▶ これらのファイルが転送される間は、オペレーティング システム イメージが転送の間に圧縮されるので、ネットワーク速度は最大速度より遅くなります。

イメージが配布された後、包括的なログ (*machineID.log*) も *SystemDrive:\Novadigm\OSManagerServer\upload* で利用できません。

### Image Preparation Wizard を使用するには

- 1 作成した **Image Preparation Wizard CD-ROM** を参照マシンの **CD-ROM** ドライブに挿入します (シンククライアント デバイスは、**USB CD-ROM** ドライブを必要とします)。この **CD** は、**OVCCM CD** の **OSCaptureISO** ディレクトリにある **osprepwiz.iso** を使用して作成します。
- 2 イメージ準備 **CD** で、**/OSPreparationWizard/linux** へ移動し、**./prepwiz** を実行します。  
[ようこそ] ウィンドウが表示されます。
- 3 **[次へ]** をクリックします。  
[エンドユーザー ライセンス契約] ウィンドウが表示されます。
- 4 **[同意する]** をクリックします。



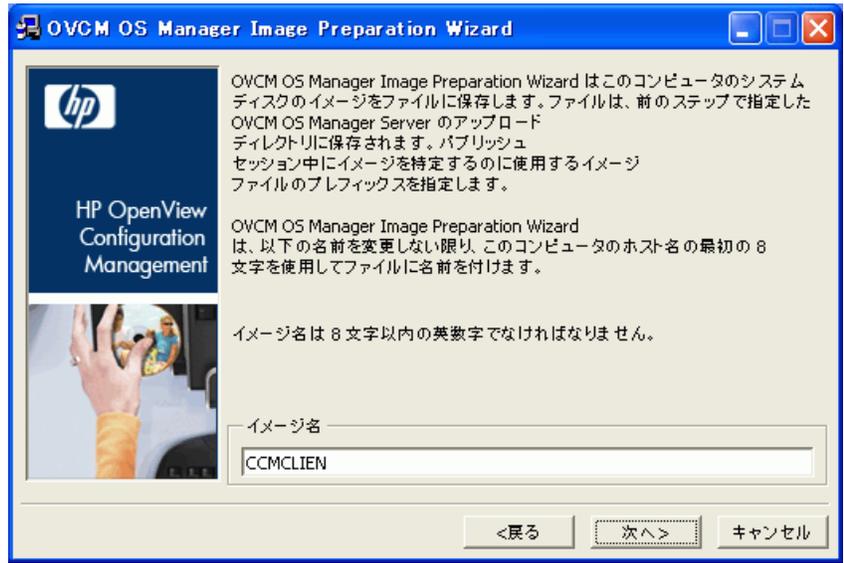
- 5 OVCCM サーバーの IP アドレスまたはホスト名およびポートを入力します。これは、xxx.xxx.xxx.xxx:port という形式で指定します。OS のイメージ作成用に予約されている OVCCM サーバーのポートは 3469 です。

Image Preparation Wizard が OVCCM サーバーに接続できない場合、メッセージが開きます。次を行います。

- [はい] をクリックして続行します。
- [いいえ] をクリックして、ホスト名または IP アドレスを変更します。
- [キャンセル] をクリックして、Image Preparation Wizard を終了します。

- 6 [次へ] をクリックします。

[イメージ名] ウィンドウが開きます。



- 7 イメージ ファイルの名前を入力します。これは、OVCCM サーバーの /upload ディレクトリに保存されるイメージ名です。

- 8 [次へ] をクリックします。

イメージの説明を入力できるウィンドウが開きます。



- 9 イメージファイルの説明を入力します。
- 10 **[次へ]** をクリックします。  
[オプション] ウィンドウが表示されます。



11 適切なオプションを選択します。

### OS のインストール後にクライアント接続を実行する

このチェック ボックスを選択して、OS が正しくインストールされたか確認するため、OS のインストール後に OVCCM サーバーに接続します。このチェック ボックスを選択しない場合は、OS がインストールされた後、OS 接続は自動的に実行されません。

12 デフォルトを受け入れて、[次へ] をクリックします。

[要約] ウィンドウが表示されます。

13 [開始] をクリックします。

14 [完了] をクリックします。

ウィザードがイメージを準備します。

15 [OK] をクリックします。

デバイスは、CD-ROM ドライブの Image Preparation Wizard CD から起動します。このような設定になるよう、必要な設定の調節を行います (たとえば、BIOS のバージョンによっては、再起動プロセスの間に F10 キーを押して、設定内の起動順序を変更できます)。



デバイスが CD を起動せずに Embedded Linux を起動する場合、上記の [手順 1 – Embedded Linux 参照マシンの準備](#) から、プロセスを再起動する必要があります。



マシンが再起動したら、画面に Fedora Core が次のように表示されます。

```
To specify options manually, type sos opt1=xxx  
opt2=xxx enter
```

```
Some quick boot specifications with preset options  
are
```

```
SOS for PREPWIZ or ROMA, default after a few  
seconds
```

```
TESTMODE - TESTMODE=1
```

```
DEBUG - runs in debug mode, SOSDEBUG=1 (no drivers  
loaded)
```

数秒待つて続行するか、または **Enter** キーを押して、マシンを起動します。

画面に示されたオプションは通常、技術サポートが指示した場合だけ使用します。



イメージのアップロードは、長時間かかるように思える場合があります。しかし、長時間かかっているのは、アップロードではなく、イメージの圧縮と圧縮のための未使用ディスク領域の最適化です(特に、空きディスク領域が多くある場合)。これは、イメージの転送の間に行われるので、ネットワークのパイプはボトルネックになりません。転送速度は、約 30 から 400 Kbps ですが、プロセッサの速度やネットワーク環境により異なる場合があります。



必要な場合に取り出せるように、\upload ディレクトリに保存されているファイルをコピーしたい場合があります。

16 OS Image Preparation Wizard はネットワークに接続して、OVCCM サーバーのイメージを /UPLOAD ディレクトリに保存します。

アップロードプロセスが完了すると、次のメッセージが表示されます。

OS イメージが正常に OVCM OS Manager Server へ送信されました

\*\*\*\* CD を挿入している場合、CD を取り出して再起動します

17 参照マシンを再起動して、必要な場合は起動設定を再調整し、元のオペレーティングシステムに戻ります。

これで、**Publisher** を使用して、管理対象デバイスへの配布のため、イメージファイルを **OVCCM** サーバーにパブリッシュできるようになりました。222 ページの「オペレーティングシステムイメージのパブリッシュ」を参照してください。

## OS イメージのパブリッシュおよび配布

イメージを取得したら、**Publisher** を使用して **OVCCM** にイメージをパブリッシュします。手順は、222 ページの「オペレーティングシステムのパブリッシュ」

または **Publisher** のオンラインヘルプを参照してください。

**OVCCM** にパブリッシュするとき、**OS** ライブラリをリフレッシュして、新しいイメージを表示します。**OVCCM** コンソールツールバーを使用して、選択したデバイスにイメージを配布します。手順は、100 ページの「オペレーティングシステムの配布」を参照してください。



## 第 9 章 Publisher の使用

Publisher を使用して、HP OpenView Client Configuration Manager (OVCCM) へ、ソフトウェア、BIOS 設定、HP Softpaq、およびオペレーティング システム イメージのパブリッシュを行います。パブリッシュされたソフトウェアはすべて、管理コンソールの [ソフトウェア管理] にある [ソフトウェア] タブで利用できます。パブリッシュされたオペレーティング システムは、[OS 管理] の [オペレーティング システム] タブ内で利用できます。

ソフトウェアは、パブリッシュした後、環境の管理対象デバイスへエンタイトルメント設定と配布を行う必要があります。

 Publisher は、OVCCM とは別にインストールされます。インストールには、製品 CD の Configuration Management Administrator インストール ファイルを使用するか、またはソフトウェア ライブラリの CM Administrator Publisher サービスを使用します。詳細については、37 ページのインストール手順を参照してください。

### Publisher を起動するには

42 Publisher をインストールしたデバイスで、[スタート] メニューを使用して、次へ移動します。

[スタート] > [すべてのプログラム] > [HP OVCM Administrator] > [CM Administrator Publisher]

43 OVCCM 管理コンソールのユーザー名とパスワードを使用して、Publisher にログインします。デフォルトでは、ユーザー名は **admin**、パスワードは **secret** です。

次のセクションは、Windows インストーラ ファイル、オペレーティング システム イメージ、HP Softpaq、および他のソフトウェア形式を OVCCM にパブリッシュするため Publisher を使用する方法を説明しています。

- [ソフトウェアのパブリッシュ \(214 ページ\)](#)
- [オペレーティング システム イメージのパブリッシュ \(222 ページ\)](#)
- [HP Softpaq のパブリッシュ \(223 ページ\)](#)
- [BIOS 設定のパブリッシュ \(225 ページ\)](#)

▶ パブリッシュ オプションは、ターゲット デバイスおよびインストールしている OVCCM ライセンスにより、異なります。

- パブリッシュ オプションの [コンポーネントを選択]、[OS イメージ]、および [Windows インストーラ] には、Premium レベルのライセンスが必要です。
- シンククライアントパブリッシュ オプションの [OS イメージ] および [コンポーネントを選択] は、Basic と Premium の両レベルのライセンスで利用できます。

## ソフトウェアのパブリッシュ

パブリッシュするソフトウェアのタイプにより、2つのパブリッシュ オプションの1つを使用します。ログイン画面で、[Windows インストーラ] を使用して Windows インストーラ ファイル (.msi) をパブリッシュするか、[コンポーネントを選択] を使用して Windows 以外のインストーラ ファイルをパブリッシュするかを選択します。次のセクションでは、各ファイル タイプをパブリッシュする手順を説明します。

- Windows インストーラ ファイルのパブリッシュ (214 ページ)
- [コンポーネントを選択] を使用したパブリッシュ (219 ページ)

### Windows インストーラ ファイルのパブリッシュ

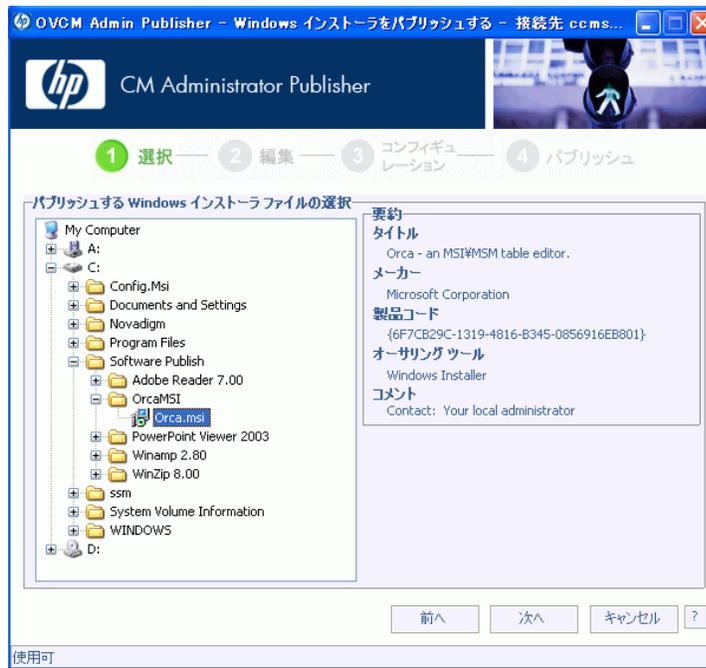
Windows インストーラは、MSI ファイルを使用して、オペレーティングシステムにソフトウェア サービスを配布します。Publisher は、このファイルを使用して サービスを作成し、そのサービスが OVCCM へパブリッシュされます。ソフトウェア サービスが OVCCM に格納されると、ユーザー環境にある管理対象デバイスへそのサービスを配布する準備が完了します。

#### Windows インストーラ ファイルをパブリッシュするには

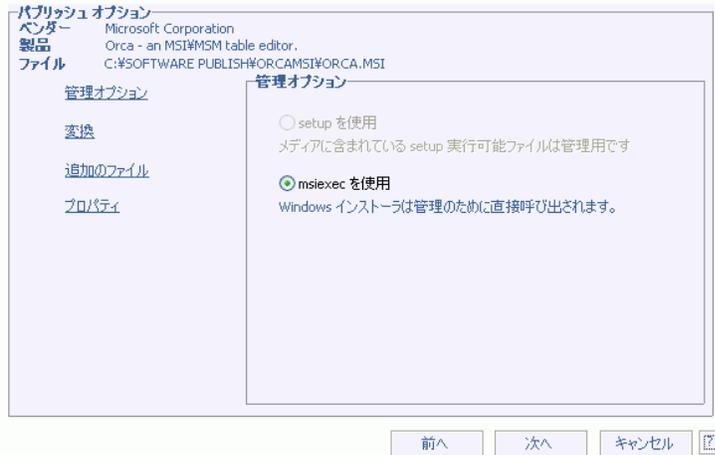
- 1 Publisher を起動します。213 ページの「Publisher を起動するには」を参照してください。
- 2 ログイン画面で、管理者ユーザー ID およびパスワードを入力して、[OK] をクリックします。

▶ OVCCM 管理コンソールのユーザー名とパスワードを使用して、Publisher にログインします。デフォルトでは、ユーザー名は **admin**、パスワードは **secret** です。

- 3 [パブリッシュ オプション] 領域で、[Windows インストーラ] を選択して、[OK] をクリックします。



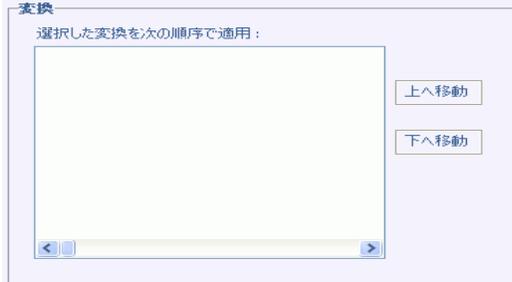
- 4 左ペインの Windows インストーラ ファイルへ移動します。右ペインには、選択した MSI ファイルで利用可能な情報が表示されます。
- 5 [次へ] をクリックします。



- **管理オプション**  
[setupを使用] または [msiexecを使用] を選択して、管理インストールポイント (AIP) を作成します。

▶ AIP のパスは、一時的な場所であり、パブリッシュセッションが完了したら、削除されます。

- **変換**  
Windows インストーラファイルに関連付けられた変換ファイルの適用を選択したり、順序を変更します。

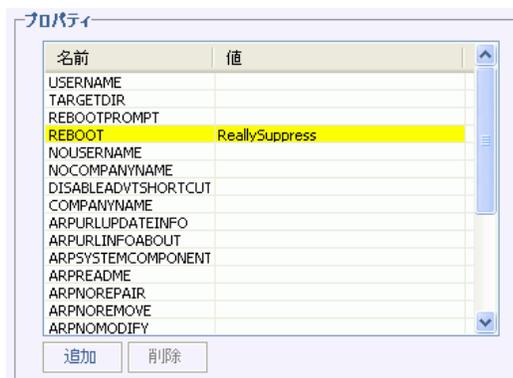


- **追加のファイル**  
AIPの一部として追加のファイルを含めます。



- リストに表示された利用可能なファイルをすべて選択するには、[すべて選択] をクリックします。
- すべてのファイルの選択を解除するには、[選択なし] をクリックします。

- **プロパティ**  
msi ファイルのプロパティを表示および変更します。Windows インストーラファイルは、正しく配布するため、追加のコマンドラインパラメータが必要な場合があります。たとえば、インストールの間にシリアル番号を渡すため、アプリケーションがカスタムプロパティを必要とする場合があります。[プロパティ] ダイアログを使用して、パラメータを追加します。



- 新しいプロパティを追加するには **[追加]** をクリックします。
- 既存のプロパティを削除するには **[削除]** をクリックします。
- プロパティの **[名前]** または **[値]** を変更するには、変更したい項目をクリックして、新しい値を入力します。

パブリッシュ オプションの編集が終わったら、**[次へ]** をクリックします。



- 6 [アプリケーションの情報] セクションでソフトウェア サービスの情報を入力します。
- 7 **[パッケージを限定する対象システム]** セクションを使用して、特定のオペレーティング システムまたはハードウェアへのサービスを制限します。リンクをどれかクリックして、設定可能なオプションを表示します。
- 8 **[次へ]** をクリックします。



- 9 [要約] セクションで、前の手順で指定したサービス情報を確認します。この情報で良ければ、[パブリッシュ] をクリックします。

パブリッシュ プロセスが完了したら、[完了] をクリックして **Publisher** を終了します。これで、Windows インストーラ サービスを企業へ配布する準備が整いました。

#### 変換ファイルを使用してその他のパラメータを適用するには

- 1 Orca などの MSI エディタを使用して、変換を作成します。変換は、Windows インストーラ ファイルがパブリッシュするのと同じディレクトリに必ず保存します。
- 2 Windows インストーラのパブリッシュ セッションを開始します。詳細は、上記の指示に従います。
- 3 編集手順で [変換] をクリックします。



- 4 利用可能な変換ファイルを選択して、パブリッシュ セッションを続けます。  
ソフトウェア サービスが配布されたら、変換ファイルが適用され、追加の  
コマンドライン パラメータを提供します。

## [コンポーネントを選択] を使用したパブリッシュ

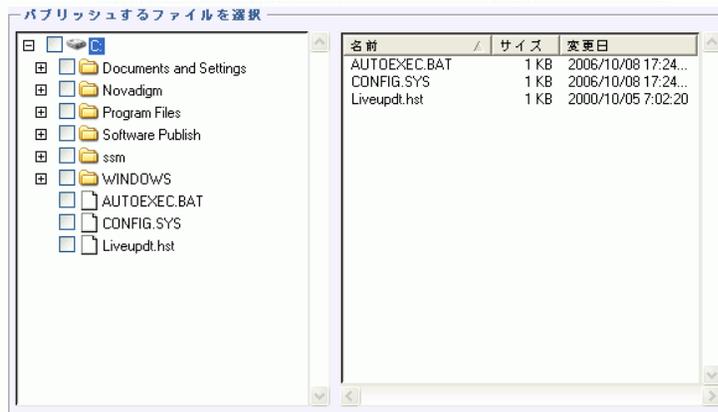
Windows インストーラ ファイル以外のソフトウェアをパブリッシュするには、  
[コンポーネントを選択] オプションを使用して、パブリッシュしたいソフトウェアを  
選択します。

### [コンポーネントを選択] を使用してパブリッシュするには

- 1 **Publisher** を起動します。213 ページの「**Publisher** を起動するには」を参照  
してください。
- 2 ログイン画面で、管理者ユーザー ID およびパスワードを入力して、**[OK]** を  
クリックします。

▶ OVCCM 管理コンソールのユーザー名とパスワードを使用して、  
**Publisher** にログインします。デフォルトでは、ユーザー名は  
**admin**、パスワードは **secret** です。

- 3 [パブリッシュ オプション] 領域で：
  - シンクライアントへパブリッシュしている場合は、**[シンクライアントのパブリッシュ]** を選択します。
  - ドロップダウン リストから **[コンポーネントを選択]** を選択します。
- 4 **[OK]** をクリックします。  
[パブリッシュするファイルを選択] ウィンドウが開きます。

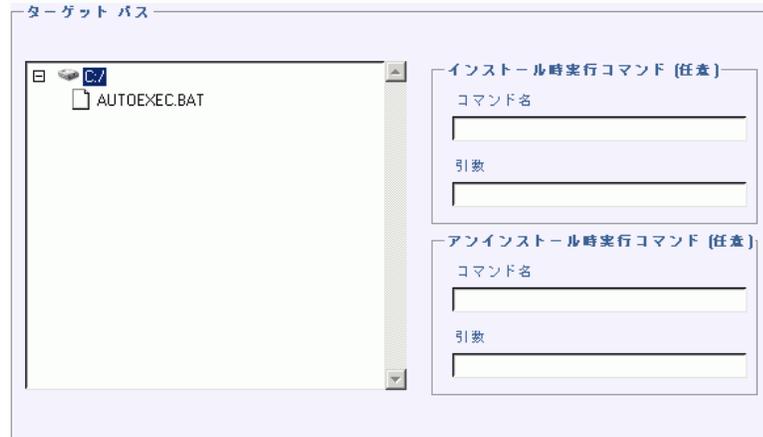


5 パブリッシュするファイルを選択して、**[次へ]** をクリックします。

▶ ソフトウェアが位置する (そして、そこからパブリッシュされる) ディレクトリパスは、ソフトウェアがターゲットデバイスに配布される先のディレクトリパスになります。

▶ ネットワーク共有が表示されますが、(配布中に利用できなくなる場合があるので) ソフトウェアのパブリッシュには使用しません。

[ターゲットパス] ウィンドウが開きます。



6 コマンドを入力して、アプリケーションのインストールおよびアンインストールを実行します。たとえば、インストールを実行するコマンドは、次のようになります。C:\temp\installs\install.exe /quietmode /automatic c:\mydestination

一方、アンインストールを実行するコマンドは、次のようになります。

```
C:\temp\installs  
\uninstall.exe /quietmode /automatic
```

▶ ファイルを右クリックして、インストールまたはアンインストールコマンドとして設定できます。

7 シンクライアントへパブリッシュしている場合、さらにインストールポイントを選択する必要があります。



- 8 **[次へ]** をクリックします。  
[アプリケーションの情報] ウィンドウが表示されます。

アプリケーションの情報

サービス ID	TEST	説明	Test Package
ベンダー	Hewlett Packard	Web URL	www.hp.com
ソフトウェア カタログ	DemandApplication	作成者	Hewlett Packard

パッケージを限定する対象システム

- Win2000 (Windows 2000)
- WinXP (Windows XP)
- WinVista (Windows Vista)
- Win2K3 (Windows Server 2003)

- 9 [アプリケーションの情報] セクションでソフトウェア サービスの情報を入力します。
- 10 **[パッケージを限定する対象システム]** セクションを使用して、特定のオペレーティング システムまたはハードウェアへのサービスを制限します。いずれかのリンクをクリックして、設定可能なオプションを表示します。
- 11 **[次へ]** をクリックします。

要約

パブリッシュの対象

タイプ  
コンポーネントの選択

説明  
Test Package

ファイル数	サイズ (KB)
1	0

パブリッシュ先のロケーション

サーバー	ドメイン
ccmserverjaneuw	SOFTWARE

パッケージ  
TEST

サービス  
TEST

進行状況

現在の処理：  
[Progress bar]

全体の処理：  
[Progress bar]

アクティビティの要約  
[Summary box]

- 12 [要約] セクションで、前の手順で指定したサービス情報を確認します。設定を終了したら、**[パブリッシュ]** をクリックします。
- パブリッシュ プロセスが完了したら、**[完了]** をクリックして **Publisher** を終了します。これで、ソフトウェア サービスを企業へ配布する準備が整いました。

## オペレーティング システム イメージのパブリッシュ

Image Preparation Wizard を使用して作成したオペレーティング システム イメージは、OVCCM サーバーの \Novadigm\OSManagerServer\upload に保存されています。Publisher を使用して、管理対象デバイスへ配布するためにオペレーティング システム イメージファイル (.IMG) をパブリッシュします。

### オペレーティング システム イメージをパブリッシュするには

44 Publisher を起動します。213 ページの「Publisher を起動するには」を参照してください。

45 ログイン画面で、管理者ユーザー ID およびパスワードを入力して、[OK] をクリックします。



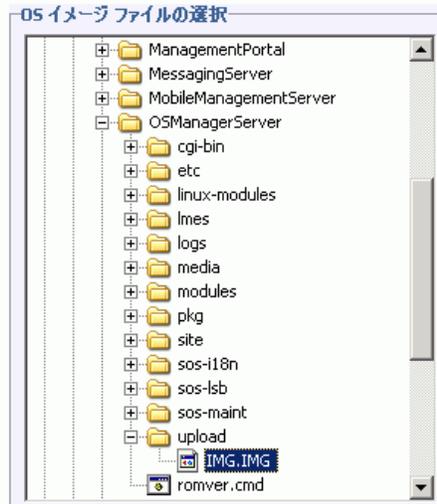
OVCCM 管理コンソールのユーザー名とパスワードを使用して、Publisher にログインします。デフォルトでは、ユーザー名は **admin**、パスワードは **secret** です。

46 [パブリッシュ オプション] 領域で：

- シンクライアントへパブリッシュしている場合は、[シンクライアントのパブリッシュ] を選択します。
- ドロップダウン リストから [OS イメージ] を選択します。

47 [OK] をクリックします。

[OS イメージ ファイルの選択] ウィンドウが開きます。



- 48 [選択] ウィンドウで、パブリッシュするファイルを探して選択します(**Image Preparation Wizard** を使用して作成したイメージは、**OVCCM** サーバーの `\Novadigm\OSManagerServer\upload` ディレクトリに保存されています)。
- 49 続行する前に、[説明] 領域を使用して、ファイルを確認します。説明に情報を追加することもできます。
- 50 [次へ] をクリックします。

[アプリケーションの情報] ウィンドウが表示されます。

サービス ID	説明
SP313172	
ベンダー	Web URL
Microsoft Corporation	www.hp.com
ソフトウェア カタログ	作成者
OS Images	

- 51 [アプリケーションの情報] セクションでサービスの情報を入力します。
- 52 [次へ] をクリックします。
- [要約] ウィンドウが表示されます。
- 53 [要約] 情報を見て、前の手順で指定したパッケージおよびサービスの情報を確認します。この情報で良ければ、[パブリッシュ] をクリックします。
- 54 パブリッシュ プロセスが完了したら、[完了] をクリックして **Publisher** を終了します。

これで、企業内の管理対象デバイスへサービスを配布する準備が整いました。

パブリッシュされたオペレーティング システム イメージ サービスは、[OS 管理] セクションのオペレーティング システム OS ライブラリのリストで確認できます。

## HP Softpaq のパブリッシュ

HP Softpaq は、サポート ソフトウェアの集合です。これには、デバイス ドライバ、設定プログラム、フラッシュ可能な ROM イメージなど、デバイスを最新の状態に保ち、最善のパフォーマンスを発揮させるのに利用可能なユーティリティが含まれます。

Softpaq は、実行可能 (.EXE) ファイルとして、利用できます。

Publisher を使用して、管理対象デバイスに配布するため HP Softpaq を OVCCM へパブリッシュします。

### Softpaq をパブリッシュするには

- 1 Publisher を起動します。213 ページの「Publisher を起動するには」を参照してください。
- 2 ログイン画面で、管理者ユーザー ID およびパスワードを入力して、[OK] をクリックします。



OVCCM 管理コンソールのユーザー名とパスワードを使用して、Publisher にログインします。デフォルトでは、ユーザー名は **admin**、パスワードは **secret** です。

- 3 [パブリッシュ オプション] 領域で、[HP Softpaq] を選択して、[OK] をクリックします。

[選択] ウィンドウが表示されます。



- 4 パブリッシュする Softpaq ファイルを選択します。
  - [要約] セクションには、Softpaq が SSM 準拠であるかないかなど、選択した Softpaq の情報が表示されます。選択した Softpaq が SSM 準拠でなく、Softpaq の一部としてサイレントインストールが含まれていない場合、Softpaq の内容を展開して、付属のドキュメントを読む必要があります。必要なファイルをパブリッシュして、指示されたようにインストール方法をセットアップします。

— [システム情報] ダイアログ ボックスは、選択した **Softpaq** がサポートする全ハードウェアを表示します。

- 5 [次へ] をクリックします。

[アプリケーションの情報] ウィンドウが表示されます。

サービス ID	説明
HP_CLIENT_MANAGEMENT_INTERFACE_S	HP Client Management Interface Software Provider
ベンダー	Web URL
Hewlett Packard	http://www.hp.com
ソフトウェア カタログ	作成者
HP Softpaq	Hewlett Packard

- 6 **Softpaq** 情報を表示し、必要な場合は変更します。アプリケーション情報は、**Softpaq** ファイルから利用できる情報に基づいて、あらかじめ決まっています。

- 7 [次へ] をクリックします。

[要約] ウィンドウが表示されます。

- 8 要約情報を確認し、それで良ければ、[パブリッシュ] をクリックします。

- 9 パブリッシュ プロセスが完了したら、[完了] をクリックして **Publisher** を終了します。

**Softpaq** が **OVCCM** へパブリッシュされ、管理対象デバイスへの配布に利用できるようになります。パブリッシュされた **Softpaq** を、**OVCCM** コンソールの [ソフトウェア管理] にあるソフトウェア ライブラリで表示します。配布された **Softpaq** は、**Application Self-Service Manager** または管理対象デバイスの **HP Softpaq** カテゴリ グループ内にあります。

## BIOS 設定のパブリッシュ

**Publisher** を使用して、クライアント デバイスへ配布するため、**BIOS** 設定ファイルをサービスとしてパブリッシュします。設定ファイルを使用して、**BIOS** 設定 (起動順序など) の更新または変更、あるいはクライアント デバイスの **BIOS** パスワードの変更ができます。

**BIOS** 設定ファイルのサンプル (Common HP BIOS Settings.xml) が、**Publisher** のインストール時に、デフォルトでは C:\Program

Files\Novadigm\BIOS に置かれます。このファイルを使用して、ターゲットデバイスの BIOS 設定を変更します。

BIOS 設定ファイルのサンプルに、必要なオプションが含まれない、または特定のデバイス用の設定ファイルを作成したい場合は、228 ページの「BIOS 設定ファイルの作成」を参照してください。

### BIOS 設定をパブリッシュするには

55 Publisher を起動します。213 ページの「Publisher を起動するには」を参照してください。

56 ログイン画面で、管理者ユーザー ID およびパスワードを入力して、[OK] をクリックします。

▶ OVCCM 管理コンソールのユーザー名とパスワードを使用して、Publisher にログインします。デフォルトでは、ユーザー名は **admin**、パスワードは **secret** です。

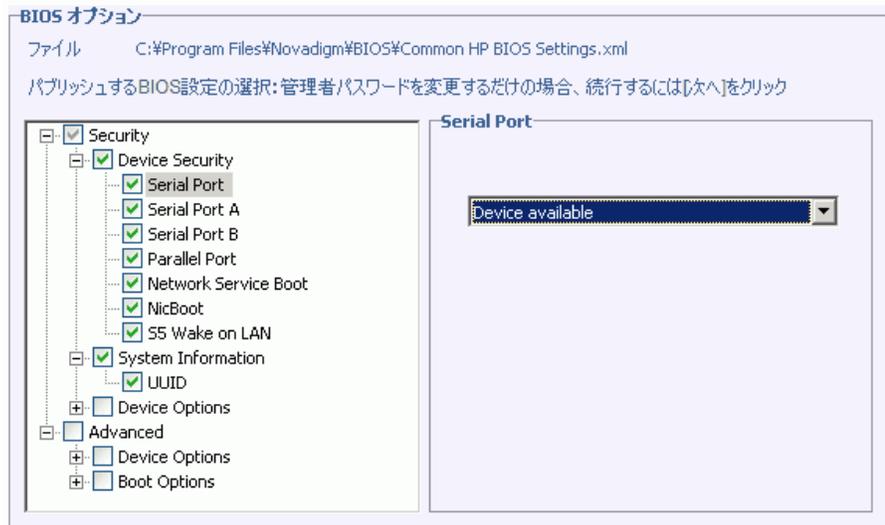
57 [パブリッシュ オプション] 領域で、[HP BIOS 設定] を選択して、[OK] をクリックします。

[選択] ウィンドウが表示されます。



58 パブリッシュする BIOS 設定ファイルを選択します。BIOS 設定ファイルのサンプル (Common HP BIOS Settings.xml) は、デフォルトでは C:\Program Files\Novadigm\BIOS にあります。

- 59 必要な場合は **[現在の BIOS 管理者パスワード]** 領域に、BIOS パスワードを入力して確認します。ターゲット デバイスに BIOS パスワードがある場合、設定を変更するにはこれが必要です。
- 60 現在の BIOS パスワードを変更したい場合、**[BIOS パスワードの変更]** を選択して、新しいパスワードを入力して確認します。これが必要なのは、クライアント デバイスの BIOS パスワードを変更したい場合だけです。
- 61 **[次へ]** をクリックします。
- [BIOS オプション] ウィンドウが表示されます。



- 62 BIOS 設定名の左にあるチェック ボックスをクリックして、パブリッシュする BIOS 設定を選択します。
- 63 BIOS 設定の値を変更する必要がある場合、設定名をクリックして、必要に応じて利用可能なオプションを調整します。
- 64 **[次へ]** をクリックします。
- [アプリケーションの情報] ウィンドウが表示されます。

アプリケーションの概要	
サービス ID	説明
SP30918	SP30918
ベンダー	Web URL
Hewlett Packard	http://www.hp.com
ソフトウェア カタログ	作成者
HP BIOS Setting	Hewlett Packard

パッケージを限定する対象システム
<input checked="" type="checkbox"/> Win2000 (Windows 2000)
<input checked="" type="checkbox"/> WinXP (Windows XP)
<input type="checkbox"/> WinVista (Windows Vista)
<input type="checkbox"/> Win2K3 (Windows Server 2003)

65 アプリケーション情報を表示し、必要な場合は変更します。アプリケーション情報は、設定ファイルから利用できる情報に基づいて、あらかじめ決まっています。

66 **[次へ]** をクリックします。

[要約] ウィンドウが表示されます。

67 要約情報を確認し、それで良ければ、**[パブリッシュ]** をクリックします。

68 パブリッシュ プロセスが完了したら、**[完了]** をクリックして **Publisher** を終了します。

BIOS 設定サービスは、OVCCM コンソールのソフトウェア ライブラリで利用できます。

## BIOS 設定ファイルの作成

OVCCM に付属のファイル以外の BIOS 設定ファイルを使用したい場合、HP System Software Manager (SSM) の BIOS 設定ユーティリティを使用して、独自の設定ファイルを生成できます。

SSM は、管理エージェントと一緒にインストールされます (C:\Program Files\Hewlett-Packard\SSM)。または、HP サポート サイトからダウンロードできます。

## BIOS 設定ファイルを作成するには

69 コマンドプロンプトを表示して、SSM BIOS 設定ユーティリティがあるディレクトリ (デフォルトでは C:\Program Files\Hewlett-Packard\SSM) に移動します。

1 次を入力します。

```
BiosConfigUtility.exe /GetConfig:"C:\tmp\MyBIOSconfig.xml"  
/Format:XML
```

このコマンドは、MyBIOSconfig.xml という名前の XML ファイルを生成し、C:\tmp に保存します。

XML ではなくテキスト ファイルを作成したい場合は、次を入力します。

```
BiosConfigUtility.exe /GetConfig:"C:\tmp\MyBIOSconfig.txt"  
/Format:REPSET
```

このコマンドは、MyBIOSconfig.txt という名前のテキスト ファイルを生成し、C:\tmp に保存します。

2 BIOS 設定をパブリッシュする準備ができれば、上の BIOS 設定をパブリッシュするにはの手順 6 のようにファイルを選択します。

## パブリッシュされたサービスの表示

OVCCM 管理コンソールの [ソフトウェア] タブでパブリッシュされたソフトウェアを表示します。

## 図 42 ソフトウェア ライブラリ



パブリッシュされたオペレーティング システムは、コンソールの [OS 管理] セクション内の [オペレーティング システム] 領域に保存されています。

## CM Administrator Agent Explorer

Configuration Management Administrator の一部として、Publisher と一緒にインストールされる、Agent Explorer は、トラブルシューティングや問題解決に役立ちます。ただし、HP サポートからの直接の指示なしに使用しないでください。

# 第 10 章 Application Self-Service Manager の使用

Application Self-Service Manager は、管理エージェントがデバイスに配布されたときにインストールされます。Application Self-Service Manager を使用して、デバイスにエンタイトルメントが設定されたソフトウェアをインストールします。

次のセクションでは、Application Self-Service Manager のユーザー インターフェイスの使用方法を説明します。

- [Application Self-Service Manager へのアクセス \(231 ページ\)](#)
- [Application Self-Service Manager の概要 \(232 ページ\)](#)
- [Application Self-Service Manager ユーザー インターフェイスの使用 \(235 ページ\)](#)
- [ユーザー インターフェイスのカスタマイズ \(241 ページ\)](#)
- [OVCM システム トレイ アイコン \(247 ページ\)](#)

## Application Self-Service Manager へのアクセス

Windows の [スタート] メニューから、またはデスクトップの Application Self-Service Manager アイコンをダブルクリックして、ユーザー インターフェイスにアクセスします。

ユーザー インターフェイスにアクセスするには

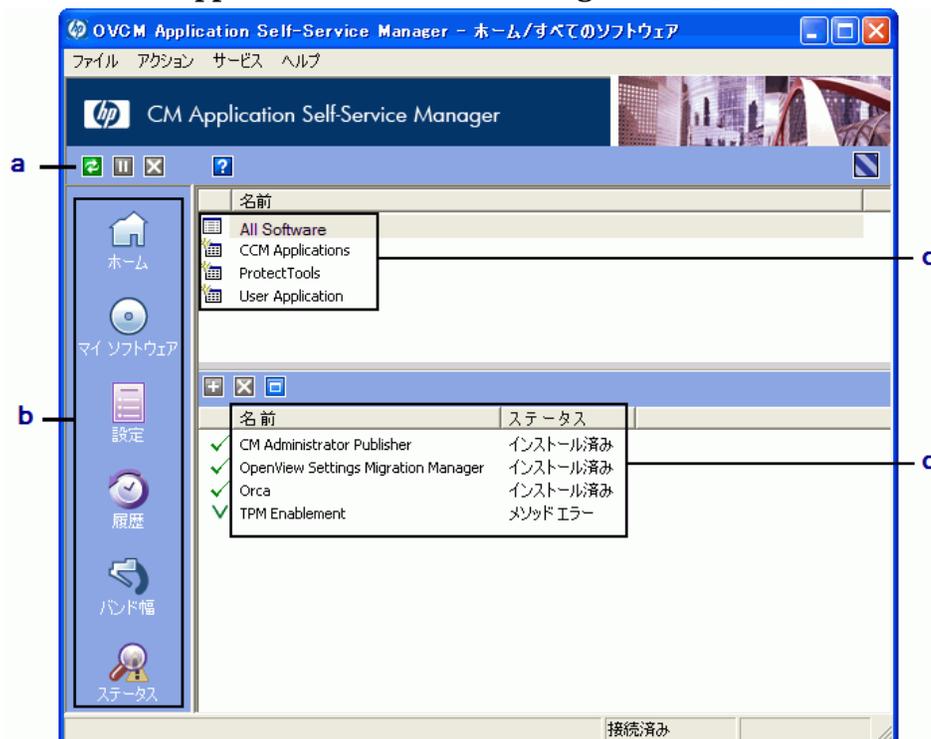
- [スタート] > [プログラム] > [HP OVCM Client] > [CM Application Self-Service Manager] へと移動します。  
または
- [CM Application Self-Service Manager] デスクトップ ショートカットをダブルクリックします。



## Application Self-Service Manager の概要

Application Self-Service Manager には、4つの主要セクションがあります。各セクションでは、利用可能なソフトウェアの管理、カタログにあるソフトウェアの情報やステータスの表示、ユーザー インターフェイス表示のカスタマイズができます。

図 43 Application Self-Service Manager のユーザー インターフェイス



### 凡例

- a グローバル ツールバー — カタログのリフレッシュや、現在のアクションの一時停止または取り消しができます。
- b メニュー バー — Application Self-Service Manager を使用するときにご利用可能なメニューの選択肢を表示します。
- c カタログ リスト — 使用できるさまざまなソフトウェア カタログの一覧が表示されます。
- d サービス リスト — エンタイトルメントを設定できるアプリケーションの一覧が表示されます。

次のセクションでは、ユーザー インターフェイス セクションを詳細に説明します。

- [グローバル ツールバー \(233 ページ\)](#)
- [メニュー バー \(233 ページ\)](#)
- [カタログ リスト \(234 ページ\)](#)
- [サービス リスト \(234 ページ\)](#)

## グローバル ツールバー

グローバル ツールバーでは、カタログのリフレッシュ、現在のアクションの一時停止、または現在のアクションの取り消しができます。アクションを一時停止すると、**[一時停止]** ボタンを再度クリックしてアクションを再開するか、**[キャンセル]** ボタンをクリックして一時停止したアクションをキャンセルするまで、他のアクションは実行できません。

グローバル ツールバーのボタンのうち、現在のアクションにおいて使用できないボタンは、グレー表示になります。

### カタログをリフレッシュするには

- 選択したカタログをリフレッシュするには、グローバル ツールバーの **[リフレッシュ]**  をクリックします。

### 現在のアクションを一時停止または再開するには

- 現在のアクションを停止するには、グローバル ツールバーの **[一時停止]**  をクリックします。
- 一時停止したアクションを再開するには、**[リジューム]**  をクリックします (アクションを一時停止すると、**[一時停止]** ボタンが **[リジューム]** ボタンに変わります)。

### 現在のアクションをキャンセルするには

- 現在のアクションをキャンセルするには、グローバル ツールバーの **[キャンセル]**  をクリックします。

## メニュー バー

メニュー バーを使用して、**Application Self-Service Manager** の設定およびカスタマイズを行います。

次のセクションでは、メニュー バーの各アイコンを説明します。

### [ホーム]

このボタンをクリックすると、ホーム カタログにアクセスできます。

## [マイ ソフトウェア]

このボタンをクリックすると、インストールしたサービスだけを表示します。

### 設定

このボタンをクリックすると、**Application Self-Service Manager** のさまざまな表示オプション、サービス リスト オプション、および接続オプションにアクセスできます。

変更内容を保持または無視するには、**[設定]** セクションの右上隅にある **[OK]**、**[適用]**、または **[キャンセル]** を任意の時点でクリックします。

## カタログ リスト

[カタログ リスト] セクションには、使用可能なソフトウェア カタログおよび仮想カタログの一覧が表示されます。

### カタログを選択するには

- [カタログ リスト] で、[サービス リスト] セクションに表示したいカタログをクリックします。カタログをリフレッシュするには、カタログの名前を右クリックして、ショートカット メニューから **[リフレッシュ]** を選択します。

### 仮想カタログ

仮想カタログは、**OVCCM** の [ソフトウェアの詳細] で管理者が定義した、デフォルトのカタログのサブセットです。カタログ グループの値が同じサービスは、1 つの仮想カタログにグループ化されます。

	名前
	All Software
	CCM Applications
	ProtectTools

## サービス リスト

[サービス リスト] セクションは、利用可能なアプリケーションを一覧表示します。すでにインストールされているソフトウェアの隣には、チェック マークが付きます。表示されているカラムの見出しは、必要に応じて変更できます。詳細は、251 ページの「**設定**」を参照してください。

表 13 [サービス リスト] セクションのボタン

ボタン	アクション	説明
	インストール	選択したサービスをマシンにインストール。
	削除	選択したサービスをマシンから削除。
	展開/折りたたむ	選択したサービスを展開または折りたたむ



[サービス リスト] セクションのボタンは、選択したアプリケーションに対して使用できない場合、グレー表示になります。

## Application Self-Service Manager ユーザー インターフェイスの使用

ユーザー インターフェイスを使用して、ソフトウェアのインストールと削除、利用可能なソフトウェアのカタログのリフレッシュ、および利用可能なソフトウェアに関する情報の表示を行います。メニュー バーには、セッション履歴の表示、バンド幅の調整、およびアプリケーションの現在のステータスの表示のためのボタンが備えられています。

詳細は次のセクションを参照してください。

-

- ソフトウェアのインストール (237 ページ)
- カタログのリフレッシュ (237 ページ)
  - 情報の表示 (238 ページ)
  - ソフトウェアの削除 (238 ページ)
  - 履歴の表示 (239 ページ)
  - バンド幅の調整 (240 ページ)
  - ステータスの表示 (240 ページ)

## ソフトウェアのインストール

利用可能なアプリケーションは、サービス リストに一覧表示されます。これらのアプリケーションを 1 つ以上、いつでもインストールできます。

### ソフトウェアをインストールするには

- 1 インストールするソフトウェア名をサービス リストでクリックします。
- 2 [インストール] ボタン  をクリックします。

インストールによっては、複数のダイアログ ボックスが表示されます。表示された場合、指示に従います。それ以外の場合は、インストールがすぐに始まります。

 インストールするソフトウェア名を右クリックして、表示されるショートカット メニューの **[インストール]** をクリックしても同じ操作を実行することができます。

インストールの進行状況が、進行状況バーに表示されます。



名前	ステータス	Avis	UI オプション
Adobe Reader 7.0		サイズ	31.30 MB
Adobe Systems Incorporat		圧縮後のサイズ	29.10 MB
<a href="http://www.adobe.com/support/main.html">http://www.adobe.com/support/main.html</a>			
 CM Administrator Publisher	更新可能	YYYN	
 CM Administrator Publisher Language Pack	更新可能	YYYN	
 CM Agent Language Pack	更新可能	YYYN	
 OpenView Settings Migration Manager	更新可能	YYYN	
 TPM Enablement	メソッドエラー	YNTN	
 テスト	インストール済み	YYYY	

- インストールをキャンセルするには、グローバル ツールバーの **[キャンセル]**  をクリックします。
- インストールを一時停止するには、グローバル ツールバーの **[一時停止]**  をクリックします。アクションを一時停止すると、一時停止しているアクションをキャンセルまたは再開するまで、他のアクションを実行できません。

## カタログのリフレッシュ

Application Self-Service Manager ユーザー インターフェイスにログインするたびに、カタログはリフレッシュされます。ログインしている間に、使用権限が与えられているアプリケーションのリストが変わった、またはインストールしているアプリケーションの更新が利用可能になったと思う場合は、グローバル ツールバーの **[カタログをリフレッシュ]**  をクリックして、アプリケーションの更新されたリストを取得します。



ソフトウェア リストの任意のアイテムを右クリックして、表示されるショートカットメニューの **[カタログをリフレッシュ]** をクリックしても同じ操作を実行することができます。

## 情報の表示

アプリケーションに関しサービス リストが提供する情報よりもさらに詳細な情報をほしい場合があります。ベンダー、バージョン、サイズ、およびアプリケーションがインストールされた日付を知りたい場合、サービス リストにこれらのカラムを追加するか、または展開したサービス ボックスで **[拡張情報を表示]** をクリックします。

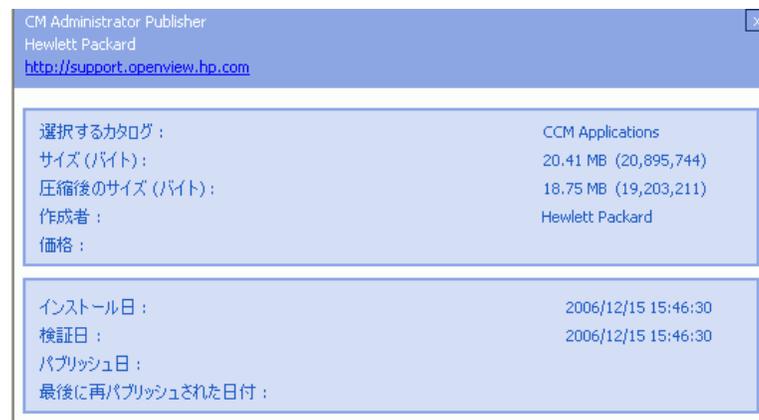
メーカーからの詳細情報をほしい場合は、ベンダーのリンクをクリックします。

### 詳細情報を表示するには

- サービス リストで目的のソフトウェアを選択し、**[拡張情報を表示]**  をクリックします。



目的のソフトウェアを右クリックし、表示されるショートカットメニューの **[プロパティ]** をポイントし、**[情報]** をクリックしても同じ操作を実行することができます。



サービス リストに戻るには、対応する **[キャンセル]** ボタンをクリックします。

## ソフトウェアの削除

**[削除]** ボタン  をクリックすると、コンピュータからソフトウェアを削除できます。

## ソフトウェアを削除するには

- 1 削除したいソフトウェアを選択します。
- 2 **[削除]**  をクリックします。
- 3 アプリケーションの削除を確認するメッセージが表示されたら、**[はい]** をクリックします。



インストールされている削除対象のソフトウェア名を右クリックして、表示されるショートカットメニューの **[削除]** をクリックしても同じ操作を実行することができます。

## 履歴の表示

メニューバーで、**[履歴]** をクリックして、現在のセッションの履歴を表示します。

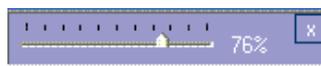
図 44 **[履歴]** ウィンドウ



**[履歴]** ウィンドウを閉じて、サービス リストを表示します。

## バンド幅の調整

メニューバーで、[バンド幅] をクリックして、下に示すようにバンド幅のスライダを表示します。この値を変更すると、スロットリングの値がダイナミックに変化します。



バンド幅のスライダを使用してバンド幅の設定を調整するには

- スライダをドラッグして、目的のバンド幅スロットリングの量にまで値を増減して調整します。
- バンド幅スロットリングは、[設定] の [接続オプション] セクションでも調整できます。

## ステータスの表示

メニューバーで [ステータス] をクリックすると、サイズ、推定時間、進捗状況、使用可能なバンド幅など、現在のアクションのステータスが表示されます。

図 45 選択したアプリケーションのステータス表示

A screenshot of the Application Self-Service Manager status window. The window has a blue sidebar on the left with icons for '設定' (Settings), '履歴' (History), 'バンド幅' (Bandwidth), and 'ステータス' (Status). The main area shows a list of applications with their status. Below the list, there is a summary table for the selected application, 'OpenView Settings Migration Manager'.

名前	ステータス
✓ CM Administrator Publisher Languag...	インストール済み
✓ CM Agent Language Pack	インストール済み
↔ OpenView Settings Migration Manager	サイズ 7.94 MB
HP	圧縮後のサイズ 7.23 MB
<a href="http://support.openview.hp.com">http://support.openview.hp.com</a>	
更新可能	
✓ TPM Enablement	メソッドエラー

転送速度	0 kbps	ファイルの総数	N/A
合計サイズ	N/A	受信ファイル数	0
受信したバイト	0 Kb	サービスの総数	0
推定残り時間	00:00:00	受信サービス数	0

[ステータス] ウィンドウは、Application Self-Service Manager からドッキングしたりドッキングを解除したりできます。これにより、画面上の任意の位置に [ステータス] ウィンドウを移動できます。デフォルトでは、[ステータス] ウィンドウはドッキングされています。

### [ステータス] ウィンドウのドッキングを解除するには

- 1 メニュー バーの **[ステータス]** をクリックします。
- 2 表示された **[ステータス]** ウィンドウ上で右クリックします。
- 3 ショートカット メニューから **[ドッキング済み]** を選択します。**[ステータス]** ウィンドウがドッキングされると、ショートカット メニューの **[ドッキング済み]** の横にチェック マークが表示されます。



Application Self-Service Manager から **[ステータス]** ウィンドウが分離され、画面上の任意の場所に移動できるようになります。

### [ステータス] ウィンドウをドッキングするには

- 1 メニュー バーの **[ステータス]** をクリックします。
- 2 表示された **[ステータス]** ウィンドウ上で右クリックします。
- 3 ショートカット メニューの **[ドッキング済み]** をクリックします (チェック マークが表示されていない場合のみ)。



**[ステータス]** ウィンドウが Application Self-Service Manager にドッキングされます。

## ユーザー インターフェイスのカスタマイズ

メニュー バーの **[設定]** ボタンをクリックして、利用可能なカスタマイズ オプションを表示します。

次のセクションで各カスタマイズ領域について説明します。

- [全般オプション \(242 ページ\)](#)
- [サービス リスト オプション \(243 ページ\)](#)
- [接続オプション \(246 ページ\)](#)

## 全般オプション

[全般オプション] ウィンドウを使用して、Application Self-Service Manager の外観を変更します。

図 46 [全般オプション] ウィンドウ



### 表示を変更するには

- メニューを表示する場合は、該当するチェック ボックスをオンにします。
- カタログリストを表示する場合は、該当するチェック ボックスをオンにします。
- 各セッションの開始時にオフライン モードで Application Self-Service Manager を使用するプロンプトを表示する場合は、該当するチェック ボックスをオンにします。

### 色を変更するには

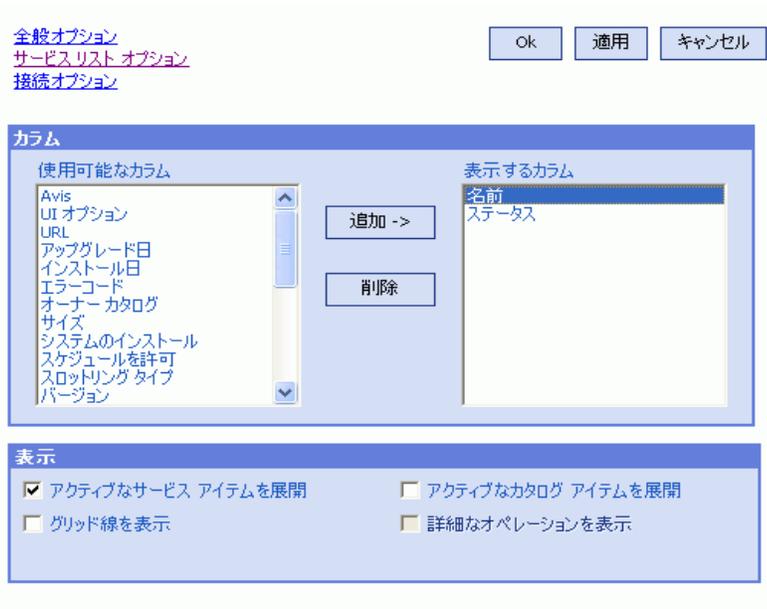
- システムの色を使用する場合は、[システムの色を使用] オプション ボタンをクリックします。
- 独自のカスタム色を使用する場合は、[色のカスタマイズ] オプション ボタンをクリックします。

- [色のカスタマイズ] をクリックした場合、目的に応じて次のボックスをクリックします。
  - 選択した色を変更するには [選択色を設定] をクリックします。
  - ボタンの色を変更するには [ボタンの色を設定] をクリックします。
  - 背景色を変更するには [背景色を設定] をクリックします。
  - 作業領域の色を変更するには [作業領域の色を設定] をクリックします。

## サービス リスト オプション

[サービス リスト オプション] を使用して、サービス リストの外観を変更します。

図 47 サービス リスト オプション



### サービス リストのカラム名をカスタマイズするには

[カラム] 領域を使用して、サービス リストに表示されるカラムをカスタマイズします。右のカラムには、サービス リストに表示されるカラム名が一覧表示されます。利用可能な各カラム見出しの説明は、次ページの「表 14」を参照してください。

### サービス リストにカラムを追加するには

- 1 [使用可能なカラム] リスト ボックスで、1 つ以上の名前を選択します。複数の連続するカラム名を選択するには、**Shift** キーを、複数の連続しないカラム名を選択するには、**Ctrl** キーを押したままにします。
- 2 **[追加]** をクリックします。選択したカラムが [表示するカラム] リスト ボックスの一覧に表示されます。

### サービス リストからカラムを削除するには

- 1 [表示するカラム] リスト ボックスで、1 つ以上の名前を選択します。複数の連続するカラム名を選択するには、**Shift** キーを、複数の連続しないカラム名を選択するには、**Ctrl** キーを押したままにします。
- 2 **[削除]** をクリックします。選択したカラムが [表示するカラム] リスト ボックスから削除され、元の [使用可能なカラム] ボックスに表示されます。

### 表示のカスタマイズ

- サービス リストで現在のサービス アイテムを展開するには、**[アクティブなサービス アイテムを展開]** を選択します。
- 各サービスを仕切るグリッド線付きでサービス リストを表示するには、**[グリッド線を表示]** を選択します。
- 現在選択しているカタログを展開するには、**[アクティブなカタログ アイテムを展開]** を選択します。
- **[詳細なオペレーションを表示]** は今は利用できません。

表 14 サービス リストで利用可能なカラムの見出し

カラムの見出し	説明
適応バンド幅	バンド幅スロットリングを使用するとき使用されるバンド幅の適用最小割合。
警告メッセージ	エンド ユーザーに長いサービス説明または指示のメッセージを表示 (警告/延期設定の一部としてオプションのサービス テキスト フィールド)。
作成者	サービスの作成者。
Avis	内部で使用するためだけのサービス ステータス フラグ。
圧縮後のサイズ	圧縮後のサービスのサイズ (バイト単位)。
エラーコード	現在のサービスのステータス。例: 初期 = 999。メソッドの失敗 = 709。

コラムの見出し	説明
説明	サービスの簡潔な説明。
インストール日	サービスがコンピュータにインストールされた日付。
ローカルの修復	ローカルでのデータ修復可能性 (データがローカル コンピュータにキャッシュされているかどうか)。
名前	サービスの名前。
必須	サービスで定義される必須/オプション ファイル (内部使用)。
オーナー カタログ	アプリケーションの取得元のドメイン名。
価格	サービスの価格。
パブリッシュ日	サービスがカタログにパブリッシュされた日付。
再起動	サービスの再起動設定 (内部使用)。
再パブリッシュ日	サービスがカタログに再パブリッシュされた日付。
予約済みのバンド幅	バンド幅スロットリングを使用するときに使用されるバンド幅の予約済み最大割合。
スケジュールを許可	エンド ユーザーがローカルにサービスの更新スケジュールを変更できるかどうかを指定。
サイズ	サービスのサイズ (バイト単位)。 注意: サービスを正常にインストールするには、このコラムで表示される空き容量がコンピュータに必要です。
ステータス	ソフトウェアの現在のステータス <ul style="list-style-type: none"> <li>• 使用可能</li> <li>• インストール済み</li> <li>• 更新可能</li> <li>• 破損</li> </ul>
システムのインストール	システム アカウントを使用してサービスがインストールされるかどうかを表示。
スロットリングタイプ	使用するバンド幅スロットリングのタイプ。可能な値は、 <b>ADAPTIVE</b> 、 <b>RESERVED</b> 、または <b>NONE</b> 。
UI オプション	ステータス ウィンドウを表示するかどうかを決定。
アップグレード日	サービスがアップグレードされた日付。
URL	ソフトウェア ベンダーの URL。

カラムの見出し	説明
ベンダー	サービスを提供したソフトウェアベンダー。
検証日	前回、サービスが検証された日付。
バージョン	サービスのバージョン。

## 接続オプション

次の図に示すように、**[接続オプション]**では、使用するバンド幅スロットリングのタイプを選択したり、プロキシサーバーを使用するために必要な設定を指定したりすることができます。

図 48 接続オプション

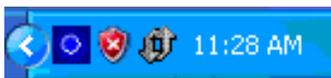
- スロットリング
  - スロットリングを行わない場合、**[なし]**を選択します。
  - 使用するネットワークバンド幅の最大の割合をスケールに基づいて指定するには、**[バンド幅を予約]**を選択します。サブスクライバは、ダウンロード時に予約バンド幅をユーザーインターフェイスで変更できます。

- 使用するネットワーク バンド幅の最小の割合をスケールに基づいて指定するには、**[トラフィックに適応]** を選択します。適応バンド幅は、データ ダウンロードプロセスの間は変更できません。設定できるのは、ジョブがディスパッチされる前だけです。
- **プロキシ**
  - **Application Self-Service Manager** は、インターネット プロキシが使用されると、インターネット プロキシを検出できます。その後、インターネット プロキシのアドレスは、クライアント コンピュータの IDMLIB ディレクトリの PROXYINF.EDM に格納されます。IDMLIB のデフォルトのロケーションは、`SystemDrive:\Program Files\Novadigm\Lib` です。次回、クライアント コンピュータが OVCCM サーバーに接続する際は、指定のインターネット プロキシが使用されます。この機能を使用するには、クライアントが、インターネット プロキシを使用および検出できるようにする必要があります。**Application Self-Service Manager** を使用している場合、[設定] の [接続] セクションでプロキシを設定します。

## OVCM システム トレイ アイコン

OVCM システム トレイ アイコンは、サブスクライバに、ステータスと統計の情報、および一時停止および取り消し機能を提供します。

図 49 OVCM システム トレイ アイコン



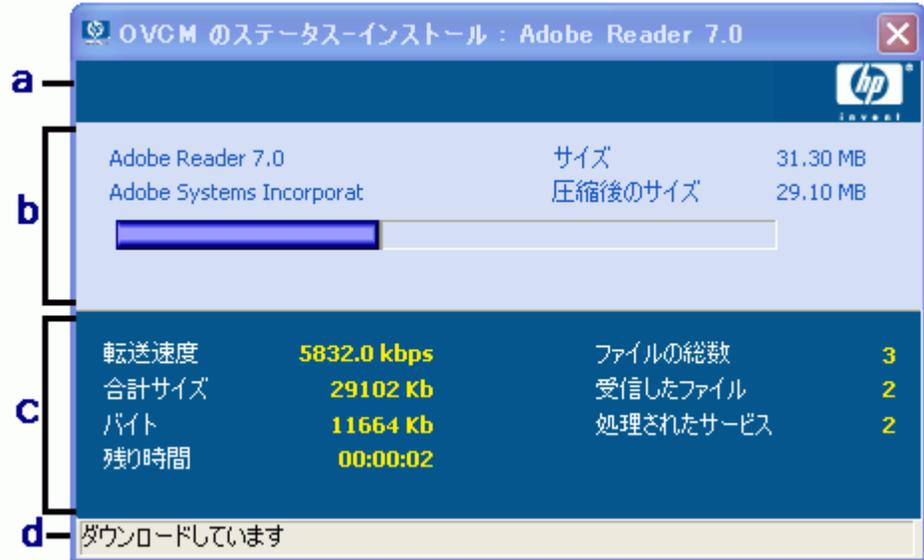
OVCM の状態を表示するには、カーソルをアイコンの上に移動します。

- **アイドル**  
アクションが処理中でなく、ユーザーの介入を必要としないとき、アイコンはスタティックです。システム トレイ アイコンは、アイドル状態では非表示になる場合があります。
- **アクティブ**  
**Application Self-Service Manager** が実行中のとき、またはユーザーの介入が必要なときに、アイコンはアクティブになります。アイコンの上にカーソルを合わせると、活動情報を示すポップアップが表示されます。重要な通知が行われた場合は、ポップアップが自動的に表示されます。

## OVCM [ステータス] ウィンドウ

OVCM システム トレイ アイコンを左クリックして、OVCM [ステータス] ウィンドウを表示します。OVCM [ステータス] ウィンドウは、下の図のように表示されます。

図 50 OVCM ステータス



### 凡例

- a ボタン バー
- b 情報パネル
- c ステータス領域
- d ステータス メッセージ

[ステータス] ウィンドウには次の領域があります。

- **OVCM ボタン バー**  
[一時停止] ボタン、[キャンセル] ボタン、およびエージェントが実行中にアニメーション表示になるロゴがあります。
- **情報パネル**  
この領域には、アクティブなサービスに関する情報が表示され、完了したタスクの割合を示す進行状況バーも表示されます。

- **ステータス領域**  
転送速度、送信の合計サイズ、受信したバイト数、送信の推定残り時間、送信するファイルの総数、受信したファイルの数、処理されたサービスの数など、アクティブなプロセスに関する統計が表示されます。
- **ステータス メッセージ領域**  
現在のプロセスに関するメッセージが表示されます。
- **バンド幅設定**
  - **OVCN Server** のサービスにバンド幅スロットリング を設定している場合、システム トレイ コンソールのバンド幅のトグル ボタン  をクリックすると、バンド幅設定用のスライダが表示されます。バンド幅スロットリングの値を変更するには、スライダを調整します。



# 第 11 章 Settings Migration

[Settings Migration] では、個々の管理対象デバイスにあるアプリケーションおよびオペレーティング システムのユーザー設定をバックアップ、復元できます。設定およびファイルは OVCCM サーバーに保管され、元のデバイスや新しいデバイスへの復元に利用できます。またはオペレーティング システムの配布の間に含めることもできます。

**OpenView Settings Migration Manager** を使用して、管理対象デバイスのユーザー設定およびファイルを取得するための設定テンプレートの作成および保管を行います。

**OpenView Settings Migration Utility** が個々のデバイスに配布され、これらの設定ファイルのバックアップや復元に使用されます。

▶ Settings Migration には Premium レベルのライセンスが必要です。

次のセクションでは、ユーザーの環境で Settings Migration を行う方法を説明しています。

- サポートされるアプリケーションと設定 (251 ページ)
- 設定テンプレートの作成 (253 ページ)
- Settings Migration Utility の使用 (256 ページ)
- OS 配布の間の Settings Migration (262 ページ)
- File Rules (262 ページ)
- アプリケーション サポートの注意点 (265 ページ)

## サポートされるアプリケーションと設定

次の表は、Settings Migration でサポートされるアプリケーションおよびオペレーティング システムの設定を一覧表示しています。

表 15 サポートされるアプリケーション

サポートされる <b>Microsoft</b> のアプリケーション	サポートされる他のアプリケーション
<ul style="list-style-type: none"> <li>• Microsoft Access 95, 97, 2000, XP, 2003</li> <li>• Microsoft Excel 95, 97, 2000, XP, 2003</li> <li>• Microsoft FrontPage 2000, XP, 2003</li> <li>• Microsoft InfoPath 2003</li> <li>• Microsoft OneNote 2003</li> <li>• Microsoft Outlook (Windows Messaging), 97, 98, 2000, XP, 2003</li> <li>• Microsoft PowerPoint 95, 97, 2000, XP, 2003</li> <li>• Microsoft Project 98, 2000, 2002, 2003</li> <li>• Microsoft Publisher 2003</li> <li>• Microsoft Word 95, 97, 2000, XP, 2003</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Act! 2000</li> <li>• Adobe Acrobat 4.x, 5.x, 6</li> <li>• Acrobat Reader 4.x, 5.x, 6, 7</li> <li>• Lotus Notes 5.x, 6.x</li> <li>• Microsoft Internet Explorer 4.01, 5.x, 6.x</li> <li>• Microsoft NetMeeting 2.x, 3.x</li> <li>• Microsoft Outlook Express 5.x, 6.x</li> <li>• Netscape 4.5, 4.6, 4.7, 6.x</li> <li>• Norton AntiVirus 2000</li> <li>• Norton AntiVirus Corporate Edition</li> <li>• Visio 4.5, 5, 2000, 2002, 2003</li> <li>• WinZip 7.x, 8.x, 9.0</li> <li>• WordPerfect Office 2000               <ul style="list-style-type: none"> <li>— Corel Utilities</li> <li>— Dragon NaturallySpeaking for WordPerfect</li> <li>— Quattro Pro 9</li> <li>— WordPerfect 9</li> </ul> </li> </ul>

表 16 サポートされる設定

Windows のオプション	コントロール パネルの設定
<ul style="list-style-type: none"> <li>● デスクトップ ショートカット</li> <li>● ダイアルアップ ネットワーク</li> <li>● フォルダ オプション</li> <li>● ローカル プリンタ ログ</li> <li>● マッピングされたネットワークドライブ</li> <li>● マイ ドキュメント</li> <li>● ネットワーク接続および共有プリンタ接続</li> <li>● ネットワーク設定</li> <li>● タスクバーおよびスタートメニュー <ul style="list-style-type: none"> <li>— クイック起動バーのショートカット</li> <li>— タスクバーとスタートメニューの設定</li> </ul> </li> <li>● Windows アドレス帳</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ユーザー補助オプション</li> <li>● 表示 <ul style="list-style-type: none"> <li>— 外観とテーマ</li> <li>— 背景</li> <li>— 視覚効果</li> </ul> </li> <li>● インターネット オプション</li> <li>● キーボード <ul style="list-style-type: none"> <li>— キーボードの言語</li> <li>— キーボードの設定</li> </ul> </li> <li>● マウスの設定 <ul style="list-style-type: none"> <li>— ボタンと動き</li> <li>— ポインタとスキーマ</li> </ul> </li> <li>● 電源管理</li> <li>● 地域の設定</li> <li>● サウンド</li> <li>● タイムゾーン</li> </ul>

サポートされるアプリケーションの追加情報は、265 ページの「アプリケーション サポートの注意点」を参照してください。

## 設定テンプレートの作成

Settings Migration Manager を使用して、テンプレートを作成します。このテンプレートは、どのアプリケーション設定、ファイル、およびオペレーティングシステム設定をバックアップし、個々のデバイスで復元またはインストールに利用できるかを決めます。

Settings Migration Manager を使用するには、最初に OVCCM を使用して配布する必要があります。

## Settings Migration Manager を配布するには

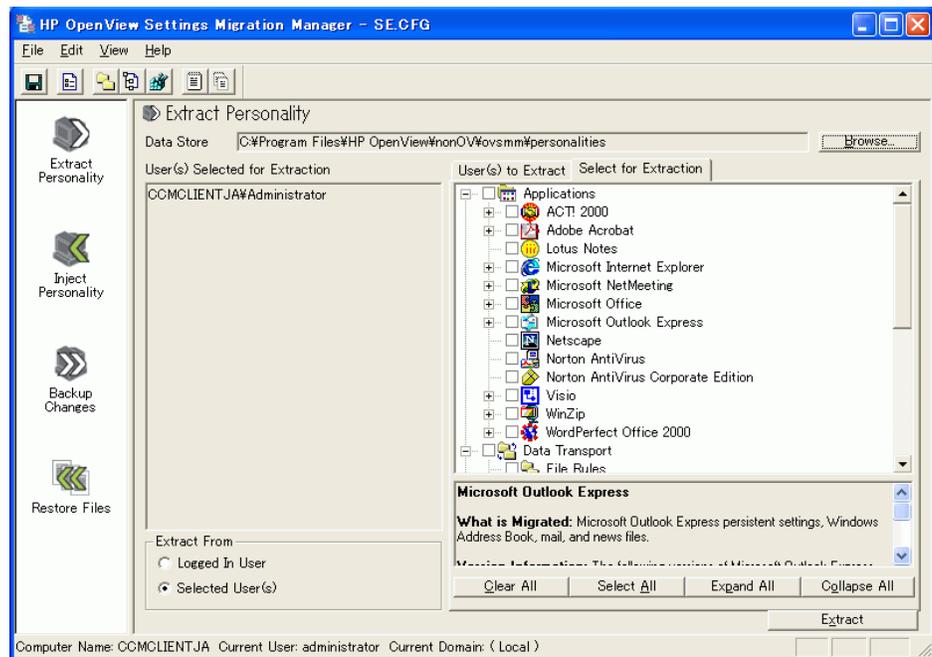
- OVCCM ソフトウェア ライブラリの **OpenView Settings Migration Manager** サービスを使用して、**Settings Migration Manager** を配布します。ソフトウェア サービスの配布に関する詳細な手順は、81 ページのセクション「ソフトウェアの配布」を参照してください。

**Settings Migration Manager** を使用して、設定テンプレートを作成します。このテンプレートは、**Settings Migration Utility** を実行したときに、どのアプリケーション設定、ファイル、およびオペレーティングシステム設定をバックアップするかを指定します。

## Settings Migration Manager を起動するには

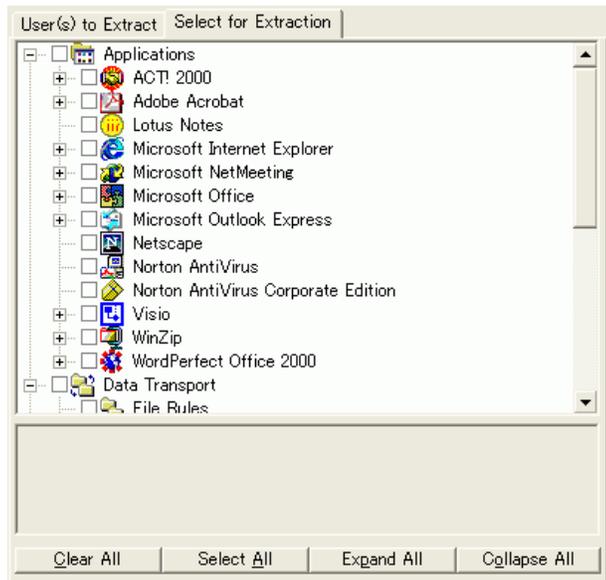
- 1 **Settings Migration Manager** がインストールされているデバイスで、`C:\Program Files\HP OpenView\nonOV\ovsmm` へ移動します。
- 2 `SE.exe` をダブルクリックします。

図 51 OpenView Settings Migration Manager



## 設定テンプレートを作成するには

- 1 **Settings Migration Manager** を起動します。
- 2 **[Select for Extraction]** をクリックして、設定およびファイルのバックアップに利用可能なアプリケーションのリストを表示します。
- 3 このツリー表示を使用して、アプリケーション設定やファイルを選択または除外します。



- 4 設定がそれで良ければ、ツールバーまたは **[File]** メニューを使用して、ファイルを保存します。ファイル名は **SE.CFG** とします (これがデフォルトの名前です)。
- 5 **Settings Migration Manager** を閉じます。
- 6 ファイル `se.rul`、`se.ptt`、および **SE.CFG** を `C:\Program Files\HP OpenView\nonOV\ovsмм` から、**OVCCM** サーバーのディレクトリ `C:\Novadigm\ProxyServer\upload` にコピーします。

ファイルをサーバーのディレクトリにコピーすると、この設定が、クライアントデバイスに配布する **Settings Migration Utility** で利用できるようになります。ユーティリティが実行されるたびに、これらのファイルにアクセスして、どの設定およびファイルをバックアップするかを判断します。

設定ファイルを **OVCCM** サーバーへコピーしたら、**Settings Migration Manager** サービスを配布して、管理対象デバイスで **Settings Migration** を有効にします。

## Settings Migration Utility の使用

Settings Migration Utility は、OpenView Settings Migration Manager サービスと一緒にインストールされます。ソフトウェア サービスの管理対象デバイスへの配布に関する詳細な手順は、81 ページのセクション「ソフトウェアの配布」を参照してください。

管理対象デバイスへ配布して、ユーティリティを設定のバックアップまたは復元に使用します。ユーティリティは、実行されるたびに、OVCCM サーバーから最新の設定テンプレート (SE.CFG) をダウンロードします。詳細は、253 ページの「設定テンプレートの作成」を参照してください。

### Setting Migration Utility を起動するには

- 1 Settings Migration Manger サービスが配布されたデバイスで、[スタート] メニューを使用して次へ移動します。

[スタート] > [すべてのプログラム] > [OpenView Settings Migration] > [OpenView Settings Migration Utility]

図 52 Settings Migration Utility



次のセクションでは、**Settings Migration Utility** の使用方法を説明します。

- [設定のバックアップ \(257 ページ\)](#)
- [設定の復元 \(259 ページ\)](#)

## 設定のバックアップ

**Settings Migration Utility** を使用して、設定およびファイルのバックアップおよび OVCCM サーバーでの保管を行います。

設定は、OVCCM サーバーの C:\Novadigm\ProxyServer\upload ディレクトリに保管されます。

**設定およびファイルをバックアップするには**

- 1 クライアントデバイスで **Settings Migration Utility** を起動します。
- 2 **[設定およびファイルのバックアップ]** を選択します。
- 3 **[次へ]** をクリックします。

図 53 バックアップ情報

The screenshot shows a dialog box titled "HP OpenView Settings Migration Manager" with a sub-header "バックアップ" (Backup). Below the sub-header, it says "バックアップはこの情報により保護されます。" (Backup is protected by this information). The HP logo is visible in the top right corner. The main text reads: "バックアップをセキュリティで保護するために使用するコンピュータ名とパスワードを入力します。この情報は、データの復元を行うために必要です。" (Enter the computer name and password used to protect the backup with security. This information is necessary for data restoration). There are four input fields: "コンピュータ名" (Computer name) with "OCMCLIENTJA", "確認" (Confirmation) with "OCMCLIENTJA", "パスワード" (Password), and "確認" (Confirmation). A checkbox labeled "パスワードの保存" (Save password) is present and unchecked. At the bottom, there are three buttons: "< 戻る(B)" (Back), "次へ(N) >" (Next), and "キャンセル" (Cancel).

- 4 コンピュータ名とパスワードを入力して確認します。設定を復元するときに必要なので、この情報を記録します。
- 5 **[次へ]** をクリックします。
- 6 要約情報を確認し、**[完了]** をクリックします。
- 7 プロセスが完了したら、**[OK]** をクリックします。

設定が **OVCCM** サーバーに保管され、デバイスへの復元に利用可能になりました。

### 保管された設定およびファイル

設定およびファイルをバックアップするたびに、**OVCCM** サーバーの C:\Novadigm\proxyserver\upload ディレクトリに保管されます。

デバイスに関連付けられているファイルはすべて、ファイル名の一部にそのデバイス名が含まれます。

定期的に、個々のデバイスについて保管されているデータを削除して、\upload ディレクトリをクリーンアップしたい場合があります。どのデータを削除するかは、各ファイル名のデバイス名を確認して判断します。

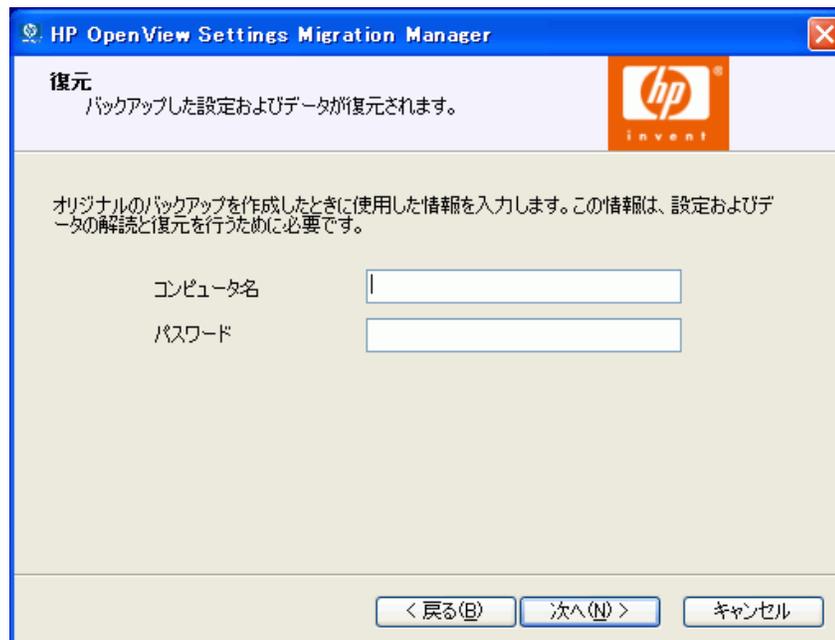
## 設定の復元

Settings Migration Utility を使用して、デバイスに設定を復元します。設定が無人オペレーティング システム配布 (移行) の間にバックアップされた場合、これらの設定を復元するオプションが提供されます。260 ページの「無人オペレーティング システム配布から設定を復元するには」を参照してください。

### 設定を復元するには

- 1 クライアント デバイスで Settings Migration Utility を起動します。
- 2 **[設定およびファイルの復元]** を選択します。
- 3 **[次へ]** をクリックします。

図 54 復元情報



HP OpenView Settings Migration Manager

**復元**  
バックアップした設定およびデータが復元されます。

 invent

オリジナルのバックアップを作成したときに使用した情報を入力します。この情報は、設定およびデータの解読と復元を行うために必要です。

コンピュータ名

パスワード

< 戻る(B)    次へ(N) >    キャンセル

- 4 復元したい設定のコンピュータ名およびパスワードを入力します。
- 5 **[次へ]** をクリックします。
- 6 要約情報を確認し、**[完了]** をクリックします。
- 7 復元プロセスが完了したら、**[OK]** をクリックします。

設定およびファイルが復元されます。



復元された設定には、ドメイン プロファイルが含まれる場合があります。このため、特定のドメインのデバイスからバックアップされた設定は、同じドメイン内のデバイスにしか復元できません。

#### 無人オペレーティング システム配布から設定を復元するには

- 1 クライアント デバイスで **Settings Migration Utility** を起動します。
- 2 **[設定およびファイルの復元]** を選択します。
- 3 **[次へ]** をクリックします。

図 55 復元情報



- 4 **[オペレーティング システムの移行からの復元]** を選択します。最後に実行した、移行を有効にした無人オペレーティング システム配布の間に保管された設定にアクセスします。このオプションは、これらのタイプの設定が検出されたときだけ利用できます。
- 5 **[次へ]** をクリックします。
- 6 要約情報を確認し、**[完了]** をクリックします。
- 7 復元プロセスが完了したら、**[OK]** をクリックします。  
設定およびファイルが復元されます。

▶ 復元された設定には、ドメイン プロファイルが含まれる場合があります。このため、特定のドメインのデバイスからバックアップされた設定は、同じドメイン内のデバイスにしか復元できません。

## OS 配布の間の Settings Migration

設定およびファイルは、オペレーティング システム配布の間に保存できます。OVCCM を使用してオペレーティング システムを配布します。詳細は、100 ページの「オペレーティング システムの配布」を参照してください。

OS 配布ウィザードの間に、ユーザーのデータおよび設定を移行するように指示されます。[はい] を選択したら、Settings Migration Manager サービスが、新しいオペレーティング システムと一緒に配布されます。配布の間に、Settings Migration Utility が実行され、エンドユーザーは、デバイス名とパスワードを入力して、既存の設定をバックアップするように指示されます。詳細は、256 ページの「Settings Migration Utility の使用」を参照してください。

オペレーティング システムのインストールが完了したら、Settings Migration Manager サービスを再配布し、Settings Migration Utility を使用して、バックアップしたデバイスの設定を復元します。最初のバックアッププロセスで入力したデバイス名およびパスワードを必ず使用します。

- ▶ OS 配布に無人モードを使用して、Settings Migration を選択した場合、このプロセスも無人で実行されます。コンピュータ名およびパスワードといった、Settings Migration に必要な情報は、自動的に生成されます。エンドユーザーは、Settings Migration Utility の OS 移行からの復元機能を使用して、無人 OS 配布の間に保管された設定を復元します。

## File Rules

希望するファイルのほとんどは、OV Settings Migration Manager の内蔵サポートを使用して移行できます。企業の移行プロジェクトでは、その他のファイル移行サポートがしばしば必要になります。たとえば、内部で開発したアプリケーションが作成した独自のファイルタイプを移行したい場合があります。

大規模な移行プロジェクト用に設計された File Rules が、パス、タイプ、日付、およびサイズによりファイルを含めたり除外したりする方法を提供します。サブディレクトリは含めることも含めないことも可能です。複数のルールを作成して、プロジェクトの目標と要件に合うように移行を調整できます。

- ▶ File Rules は、ファイルツリーを使用して選択したファイルよりも優先されます。

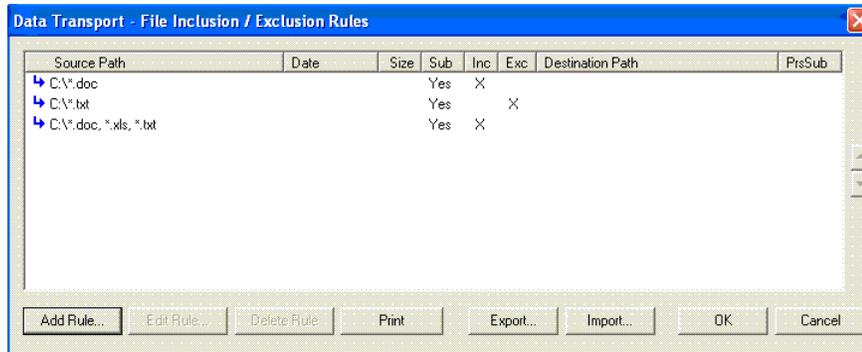
次のセクションでは、**File Rules** の使用方法を説明しています。

- **File Rules** へのアクセス (263 ページ)
- **[File Rules]** ダイアログ ボックス (264 ページ)

## File Rules へのアクセス

**File Rules** にアクセスするには、**Settings Migration Manager** を起動し、**[Edit] > [File Rules]** メニュー項目を使用します。

図 56 **File Rules**



**File Rules** には階層的な優先順位があります。2つのルールが互いに矛盾する場合、リストの上の方に表示されたルールが、下の方に表示されたルールより優先されます。たとえば、ディレクトリ `c:\files` から `.jpg` ファイルをすべて移行するときに、そのディレクトリから他のファイルが移動するのを防ぐため、優先順位が使用されます。

宛先再マッピング機能を使用して、ファイルをターゲット コンピュータの別のディレクトリにリダイレクトすることもできます。ネットワーク パスを含む任意のパスを宛先として指定できます。サブディレクトリ構造は、保存することも保存しないことも可能です。

**[Add Rule]**、**[Edit Rule]**、および **[Delete Rule]** ボタンを使用して、ルールの入力および操作を行います。

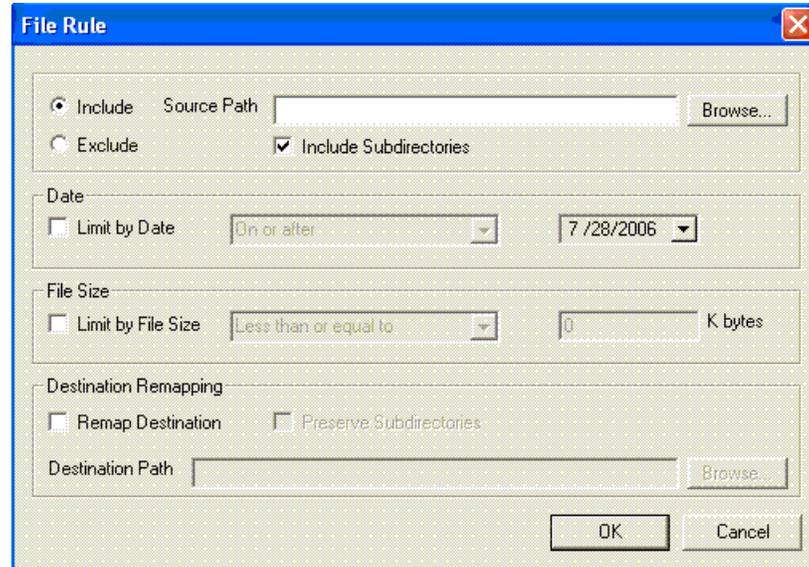
ルールを削除または編集するには、**[Source Path]** カラムでルールをクリックして強調表示し、**[Delete Rule]** または **[Edit Rule]** ボタンをクリックします。優先順位を調整するため、ルールをリスト内で移動させることができます。ダイアログ ボックスの右側にある上矢印ボタンおよび下矢印ボタンを使用します。

終了したら、**[OK]** ボタンをクリックします。または、**[キャンセル]** をクリックして、セッションを破棄します。リストのルールは、現在の設定ファイルを保存するときに、保存されます。

## [File Rules] ダイアログ ボックス

ルールを追加または編集するときは、[File Rules] ダイアログ ボックスが表示されます。

図 57 [File Rules] ダイアログ ボックス



- **[Include]** または **[Exclude]** ラジオ ボタンを使用して、ルール タイプを選択します。
- **[Source Path]** テキスト ボックスに、影響を受けるファイルのパスを入力します。このコントロールでは、ワイルドカード文字「\*」および「?」をパスのファイル名およびファイルタイプ部分で使用できます。**[Source Path]** では、トークンの置換もサポートしています。

- **[File Rules]** のソースのパスで、複数のファイルまたはファイルタイプを「;」（セミコロン）で区切ると、複数のファイルまたはファイルタイプを包含または除外できます。たとえば、**[Include]** を選択して **[Source Path]** に次を入力します。

C:\\*.doc;\*.xls;\*.mdb

**C:** ドライブにあり、指定されたファイルタイプのファイルを検索し抽出します。

**[Exclude]** を選択して次を入力します。

C:\\*.mp3;\*.dll;\*.exe

指定されたファイルタイプに一致する **C:** ドライブのファイルが抽出から除外されます。

移行のために同じファイルを指定する複数のルールを作成できますが、優先順位が高い（リストの上の方に位置する）ルールだけがこれらのファイルを移行します。

## アプリケーション サポートの注意点

次のセクションでは、各アプリケーションの設定について、留意すべき重要な使用上の注意および制限を記載します。

### Microsoft Office サポートの注意点

次に、**Microsoft Office** について留意すべき利用上の重要な注意点をあげます。

#### Microsoft Office

- 次の **Office** アプリケーションのデータ ファイル、テンプレート、および永続的な設定を移行します。
- MS Access
- MS Excel
- MS FrontPage
- MS InfoPath
- Office アシスタントの設定
- Office ショートカット バー
- MS OneNote

- MS Outlook
- MS PowerPoint
- MS Project
- MS Publisher
- MS Word

次のバージョンの Office がサポートされています。

- Office 95、Office 97、Office 2000、Office XP、および Office 2003
- 次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。
- Office 95 から Office 97 へ
- Office 95 から Office 2000 へ
- Office 95 から Office XP へ
- Office 95 から Office 2003 へ
- Office 97 から Office 97 へ
- Office 97 から Office 2000 へ
- Office 97 から Office XP へ
- Office 97 から Office 2003 へ
- Office 2000 から Office 2000 へ
- Office 2000 から Office XP へ
- Office 2000 から Office 2003 へ
- Office XP から Office XP へ
- Office XP から Office 2003 へ
- Office 2003 から Office 2003 へ

## Microsoft Access

Access のデータ ファイル、永続的な設定、およびテンプレートを移行します。  
次のファイル タイプが移行されます。

### Access のデータ ファイル :

- .ade, .adp, .mad, .maf, .mag, .mam, .maq, .mar, .mas, .mat, .mav, .maw, .mda, .mdb, .mdbhtml, .mde, .mdt, .mdw

### Access のテンプレート ファイル :

- .mdn, mdz, .wizhtml

次のバージョンの **Access** がサポートされます。

- **Access 95, Access 97, Access 2000, Access XP, Access 2003**

次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。

- **Access 95 から Access 97 へ**
- **Access 95 から Access 2000 へ**
- **Access 95 から Access XP へ**
- **Access 95 から Access 2003 へ**
- **Access 97 から Access 97 へ**
- **Access 97 から Access 2000 へ**
- **Access 97 から Access XP へ**
- **Access 97 から Access 2003 へ**
- **Access 2000 から Access 2000 へ**
- **Access 2000 から Access XP へ**
- **Access 2000 から Access 2003 へ**
- **Access XP から Access XP へ**
- **Access XP から Access 2003 へ**
- **Access 2003 から Access 2003 へ**

## Microsoft Excel

**Excel** のデータ ファイル、永続的な設定、およびテンプレートを移行します。

次のファイル タイプが移行されます。

**Excel** のデータ ファイル :

- **.csv、.dqy、.iqy、.oqy、.rqy、.slk、.xla、.xlb、.xlc、.xld、.xlk、.xll、.xlm、.xls、.xlshtml、.xlv、.xlw**

**Excel** のテンプレート ファイル :

- **.xlt**

次のバージョンの **Excel** がサポートされます。

- **Excel 95, Excel 97, Excel 2000, Excel XP, Excel 2003**

次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。

- **Excel 95 から Excel 97 へ**
- **Excel 95 から Excel 2000 へ**

- Excel 95 から Excel XP へ
- Excel 95 から Excel 2003 へ
- Excel 97 から Excel 97 へ
- Excel 97 から Excel 2000 へ
- Excel 97 から Excel XP へ
- Excel 97 から Excel 2003 へ
- Excel 2000 から Excel 2000 へ
- Excel 2000 から Excel XP へ
- Excel 2000 から Excel 2003 へ
- Excel XP から Excel XP へ
- Excel XP から Excel 2003 へ
- Excel 2003 から Excel 2003 へ

## Microsoft Frontpage

FrontPage のデータ ファイル、永続的な設定、およびテンプレートを移行します。

 FrontPage のデータ ファイルを移行するよう選択すると、ローカル ディスク ドライブにある **.html** および **.htm** ファイルがすべて移行されます。ただし、「ユーザーの一時ディレクトリを除外」および「ユーザーの一時インターネット ディレクトリを除外」ポリシーが設定されている場合 (デフォルト) を除きます。このような全ファイルの移行を希望しない場合もあります。**.html** および **.htm** ファイルをすべて移行することを希望しない場合、**File Rules** を使用して、これらのファイル タイプを完全に除外するか、ローカル ディスクの指定したファイル フォルダを選択的に除外できます。

次のファイル タイプが移行されます。

### FrontPage のデータ ファイル:

- .asa、.asp、.cdx、.fphtml、.htm、.html、.htx、.shtm、.shtml、.stm

### FrontPage のテンプレート ファイル:

- .tem

次のバージョンの FrontPage がサポートされます。

- FrontPage 2000、FrontPage XP、FrontPage 2003

次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。

- FrontPage 2000 から FrontPage 2000 へ
- HP OpenView Settings Migration Manager 89
- HP OpenView Settings Migration Manager 90
- FrontPage 2000 から FrontPage XP へ
- FrontPage 2000 から FrontPage 2003 へ
- FrontPage XP から FrontPage XP へ
- FrontPage XP から FrontPage 2003 へ
- FrontPage 2003 から FrontPage 2003 へ

## Microsoft InfoPath

InfoPath のデータ ファイル、永続的な設定、およびテンプレートを移行します。

次のファイル タイプが移行されます。

**InfoPath** のデータ ファイル :

- .xml, .xsf

**InfoPath** のテンプレート ファイル :

- .xsn

次のバージョンの **InfoPath** がサポートされます。

- InfoPath 2003

次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。

- InfoPath 2003 から InfoPath 2003 へ

## Office アシスタントの設定

Microsoft Office アシスタントの永続的な設定を移行します。



**Settings Migration Manager** は、特定のアシスタントを移行しません。  
Office アシスタントと関連する設定を移行するだけです。

## Office ショートカット バー

Office ショートカット バーの永続的な設定を移行します。

## Microsoft OneNote

OneNote のデータ ファイルおよび永続的な設定を移行します。

次のファイル タイプが移行されます。

### OneNote のデータ ファイル：

- .mht、.one、.onetoc

次のバージョンの OneNote がサポートされます。

- OneNote 2003
- 次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。
- OneNote 2003 から OneNote 2003 へ

## Microsoft Outlook

Outlook のデータ ファイル、Outlook メール クライアントと関連ファイル、および Outlook の永続的な設定を移行します。

▶ ターゲット デバイスのサービスは、ソース デバイスのサービスと同じである必要があります。たとえば、ソース デバイスで Outlook が Corporate Workgroup に設定されている場合、ターゲット デバイスの Outlook も Corporate Workgroup に設定しなければなりません。

次のファイル タイプが移行されます。

### Outlook のファイル：

- .ics、.msg、.oft、.pst (非アクティブ)、.vcs

▶ Outlook メール クライアントと関連ファイルを選択せずに .pst ファイルを移行する場合、アクティブな .pst ファイルは移行されますが、ターゲット デバイスでアクティブにはなりません。

### Outlook メール クライアントおよび関連ファイル：

Outlook Exchange およびインターネット メール クライアントが移行されます。これには、Exchange のクライアントとして Windows メッセージが含まれます。アクティブな個人用フォルダ (.pst ファイル)、アドレス帳 (.pab ファイル)、およびオフラインのアドレス帳 (.oab ファイル) も移行されます。

次のバージョンの Outlook がサポートされます。

- Windows Messaging、Outlook 97、Outlook 98、Outlook 2000、Outlook XP、Outlook 2003

次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。

- Windows Messaging から Outlook 97 へ
- Windows Messaging から Outlook 98 へ
- Windows Messaging から Outlook 2000 へ
- Outlook 97 から Outlook 97 へ
- Outlook 97 から Outlook 98 へ
- Outlook 97 から Outlook 2000 へ
- Outlook 97 から Outlook XP へ
- Outlook 97 から Outlook 2003 へ
- Outlook 98 から Outlook 98 へ
- Outlook 98 から Outlook 2000 へ
- Outlook 98 から Outlook XP へ
- Outlook 98 から Outlook 2003 へ
- Outlook 2000 から Outlook 2000 へ
- Outlook 2000 から Outlook XP へ
- Outlook 2000 から Outlook 2003 へ
- Outlook XP から Outlook XP へ
- Outlook XP から Outlook 2003 へ
- Outlook 2003 から Outlook 2003 へ

## Microsoft PowerPoint

PowerPoint のデータ ファイル、永続的な設定、およびテンプレートを移行します。

次のファイル タイプが移行されます。

**PowerPoint のデータ ファイル：**

- .pps、.ppt、.ppthtml、.ppz、.pwz

**PowerPoint のテンプレート ファイル：**

- .pot, .pothtml

次のバージョンの PowerPoint がサポートされます。

- PowerPoint 95, PowerPoint 97, PowerPoint 2000, PowerPoint XP, PowerPoint 2003

次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。

- PowerPoint 95 から PowerPoint 97 へ
- PowerPoint 95 から PowerPoint 2000 へ
- PowerPoint 95 から PowerPoint XP へ
- PowerPoint 95 から PowerPoint 2003 へ
- PowerPoint 97 から PowerPoint 97 へ
- PowerPoint 97 から PowerPoint 2000 へ
- PowerPoint 97 から PowerPoint XP へ
- PowerPoint 97 から PowerPoint 2003 へ
- PowerPoint 2000 から PowerPoint 2000 へ
- PowerPoint 2000 から PowerPoint XP へ
- PowerPoint 2000 から PowerPoint 2003 へ
- PowerPoint XP から PowerPoint XP へ
- PowerPoint XP から PowerPoint 2003 へ
- PowerPoint 2003 から PowerPoint 2003 へ

## Microsoft Project

Project のデータ ファイル、永続的な設定、およびテンプレートを移行します。

次のファイル タイプが移行されます。

**Project のデータ ファイル：**

- .mpd, .mpp, .mpw, .mpx

**Project のテンプレート ファイル：**

- .mpt

次のバージョンの Project がサポートされます。

- Project 98, Project 2000, Project 2002, Project 2003

次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。

- Project 98 から Project 98 へ
- Project 98 から Project 2000 へ
- Project 98 から Project 2002 へ
- Project 98 から Project 2003 へ
- Project 2000 から Project 2000 へ
- Project 2000 から Project 2002 へ
- Project 2000 から Project 2003 へ
- Project 2002 から Project 2002 へ
- Project 2002 から Project 2003 へ
- Project 2003 から Project 2003 へ

## Microsoft Publisher

Publisher のデータ ファイルおよび永続的な設定を移行します。

次のファイル タイプが移行されます。

**Publisher** のデータ ファイル：

- .pub, .pubhtml, .pubmhtml,

次のバージョンの Publisher がサポートされます。

- Publisher 2003

次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。

- Publisher 2003 から Publisher 2003 へ

## Microsoft Word

Word のデータ ファイル、永続的な設定、およびテンプレートを移行します。

次のファイル タイプが移行されます。

**Word** のデータ ファイル：

- .doc, .dochtml, .gly, .rtf, .wbk, .wiz

**Word** のテンプレート ファイル：

- .dot, .dothtml

次のバージョンの Word がサポートされます。

- Word 95, Word 97, Word 2000, Word XP, Word 2003

次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。

- Word 95 から Word 97 へ
- Word 95 から Word 2000 へ
- Word 95 から Word XP へ
- Word 95 から Word 2003 へ
- Word 97 から Word 97 へ
- Word 97 から Word 2000 へ
- Word 97 から Word XP へ
- Word 97 から Word 2003 へ
- Word 2000 から Word 2000 へ
- Word 2000 から Word XP へ
- Word 2000 から Word 2003 へ
- Word XP から Word XP へ
- Word XP から Word 2003 へ
- Word 2003 から Word 2003 へ

## サポートされる他のアプリケーションと OS に関する注意点

次に、このリリースの **OV Settings Migration Manager** に含まれるコンテンツ項目について、留意すべき利用上の重要な注意点をあげます。

### ACT! 2000

ACT! 2000 の永続的な設定および ACT! 2000 ファイルを移行します。

次のファイル タイプが移行されます。

**ACT! 2000 のファイル：**

- .adt、.cly、.env、.gly、.lbl、.mpr、.rep、.rpt、.tpl、.usr、.wpa

**ACT! 2000 のデータベース ファイル：**

- .dbf、.adb、.adx、.blb、.ddb、.ddf、.ddx、.edb、.edx、.gdb、.gdx、.hdb、.hdx、.lck、.mdx、.rel、.rem、.rex、.sdb、.sdx、.tdb、.tdx

## Adobe Acrobat

Adobe Acrobat および Adobe Acrobat Reader の Adobe Acrobat ファイルおよび永続的な設定を移行します。

次のファイル タイプが移行されます。

**Adobe Acrobat のデータ ファイル:**

- .akf, .apf, .eps, .fdb, .fdf, .joboptions, .ndx, .p7c, .pdf, .pdx, .pfx, .ps, .sequ

次のバージョンの Adobe Acrobat がサポートされます。

- Acrobat Reader 4.x, Acrobat Reader 5.x, Acrobat Reader 6.x, Acrobat Reader 7.x, Adobe Acrobat 4.x, Adobe Acrobat 5.x, Adobe Acrobat 6.0.

次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。

- Adobe Acrobat 4.x から 4.x へ
- Adobe Acrobat 4.x から 5.x へ
- Adobe Acrobat 4.x から 6.0 へ
- Adobe Acrobat 5.x から 5.x へ
- Adobe Acrobat 5.x から 6.0 へ
- Adobe Acrobat 6.0 から 6.0 へ
- Acrobat Reader 4.x から 4.x へ
- Acrobat Reader 4.x から 5.x へ
- Acrobat Reader 4.x から 6.x へ
- Acrobat Reader 4.x から 7.x へ
- Acrobat Reader 5.x から 5.x へ
- Acrobat Reader 5.x から 6.x へ
- Acrobat Reader 5.x から 7.x へ
- Acrobat Reader 6.x から 6.x へ
- Acrobat Reader 6.x から 7.x へ
- Acrobat Reader 7.x から 7.x へ

## Lotus Notes 5.X, 6.X

Lotus Notes のデータ ファイルおよび永続的な設定を移行します。デフォルトの場所にあるユーザー ID ファイルおよび最後に使用されたユーザー ID ファイルだけが移行されます。

-  デフォルトではない場所に保管されているユーザー ID ファイルを移行したい場合、OV Settings Migration Manager の File Rules を使用します。

次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。

- Lotus Notes 5.x から Lotus Notes 5.x へ
- Lotus Notes 5.x から Lotus Notes 6.x へ
- Lotus Notes 6.x から Lotus Notes 6.x へ

## Microsoft Internet Explorer

Internet Explorer の永続的な設定、クッキー、プロキシ設定、およびお気に入りを移行します。

次のバージョンの Internet Explorer がサポートされます。

- IE 4.01, IE 5.x, IE 6.x

次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。

- IE 4.01 から IE 4.01 へ
- IE 4.01 から IE 5.x へ
- IE 4.01 から IE 6.x へ
- IE 5.x から IE 5.x へ
- IE 5.x から IE 6.x へ
- IE 6.x から IE 6.x へ

## Microsoft NetMeeting

Microsoft NetMeeting の設定を移行します。

次のファイル タイプが移行されます。

**NetMeeting** のホワイトボード ファイル:

- .nmw, .wht

次のバージョンの Microsoft NetMeeting がサポートされます。

- Microsoft NetMeeting 2.x
- Microsoft NetMeeting 3.x

次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。

- Microsoft NetMeeting 2.x から Microsoft NetMeeting 2.x へ
- Microsoft NetMeeting 2.x から Microsoft NetMeeting 3.x へ
- Microsoft NetMeeting 3.x から Microsoft NetMeeting 3.x へ

## Microsoft Outlook Express

Microsoft Outlook Express の永続的な設定、Windows アドレス帳、メール、およびニュースのファイルを移行します。

次のファイル タイプが移行されます。

**Outlook Express のファイル :**

- .eml, .nws, Outlook Express ひな形

次のバージョンの Microsoft Outlook Express がサポートされます。

- Outlook Express 5.x
- Outlook Express 6.x

次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。

- Microsoft Outlook Express 5.x から Microsoft Outlook Express 5.x へ
- Microsoft Outlook Express 5.x から Microsoft Outlook Express 6.x へ
- Microsoft Outlook Express 6.x から Microsoft Outlook Express 6.x へ

## Netscape

Netscape のデータ ファイルおよび永続的な設定を移行します。

次のバージョンの Netscape Communicator がサポートされます。

- Netscape 4.5、Netscape 4.6、Netscape 4.7、および Netscape 6.x

次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。

- Netscape 4.5 から Netscape 4.5 へ
- Netscape 4.5 から Netscape 4.6 へ
- Netscape 4.5 から Netscape 4.7 へ
- Netscape 4.5 から Netscape 6.x へ
- Netscape 4.6 から Netscape 4.6 へ
- Netscape 4.6 から Netscape 4.7 へ

- Netscape 4.6 から Netscape 6.x へ
- Netscape 4.7 から Netscape 4.7 へ
- Netscape 4.7 から Netscape 6.x へ
- Netscape 6.x から Netscape 6.x へ

## Norton AntiVirus

Norton AntiVirus の永続的な設定を移行します。

次のバージョンの Norton AntiVirus がサポートされます。

- Norton AntiVirus 2000

## Norton AntiVirus Corporate Edition

Norton AntiVirus Corporate Edition のカスタム スキャンおよびユーザー設定を移行します。

次のバージョンの Norton AntiVirus Corporate Edition がサポートされます。

- Norton AntiVirus Corporate Edition 7.6 および Symantec AntiVirus Corporate Edition 8.0.

次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。

- Norton AntiVirus Corporate Edition 7.6 から Norton AntiVirus Corporate Edition 7.6. へ
- Norton AntiVirus Corporate Edition 7.6 から Symantec AntiVirus Corporate Edition 8.0 へ
- Symantec AntiVirus Corporate Edition 8.0 から Symantec AntiVirus Corporate Edition 8.0. へ

## Visio

Visio のデータ ファイル、永続的な設定、およびテンプレートを移行します。

次のファイル タイプが移行されます。

**Visio のデータ ファイル：**

- .vsd、.vss、.vsw

**Visio のテンプレート ファイル：**

- .vst

次のバージョンの Visio がサポートされます。

- Visio 4.5、Visio 5.0、Visio 2000、Visio 2002 および Visio 2003
- 次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。

- Visio 4.5 から Visio 4.5 へ
- Visio 4.5 から Visio 5.0 へ
- Visio 4.5 から Visio 2000 へ
- Visio 4.5 から Visio 2002 へ
- Visio 4.5 から Visio 2003 へ
- Visio 5.0 から Visio 5.0 へ
- Visio 5.0 から Visio 2000 へ
- Visio 5.0 から Visio 2002 へ
- Visio 5.0 から Visio 2003 へ
- Visio 2000 から Visio 2000 へ
- Visio 2000 から Visio 2002 へ
- Visio 2000 から Visio 2003 へ
- Visio 2002 から Visio 2002 へ
- Visio 2002 から Visio 2003 へ
- Visio 2003 から Visio 2003 へ

## WinZip

WinZip のデータ ファイルおよび永続的な設定を移行します。

- ▶ WinZip のコンテンツは、仕様により **.cab** ファイルを移行しません。**.cab** ファイルの移行を希望する場合、**OV Settings Migration Manager** の **File Rules** を使用します。

次のファイル タイプが移行されます。

### WinZip ファイル：

- .arc, .arj, .b64, .bhx, .gz, .hqx, .lzh, .mim, .tar, .taz, .tgz, .tz, .uu, .uue, .xxe, .z, .zip

次のバージョンの WinZip がサポートされます。

- WinZip 7.x
- WinZip 8.x
- WinZip 9.0

次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。

- WinZip 7.x から WinZip 7.x へ
- WinZip 7.x から WinZip 8.x へ
- WinZip 7.x から WinZip 9.0 へ
- WinZip 8.x から WinZip 8.x へ
- WinZip 8.x から WinZip 9.0 へ
- WinZip 9.0 から WinZip 9.0 へ

## WordPerfect for Office 2000

WordPerfect Office 2000 は、次のアプリケーション用のデータ ファイル、テンプレート、および永続的な設定を移行します。

- Corel Utilities (アドレス帳および QuickFinder)
- Dragon NaturallySpeaking for WordPerfect 3.x および 4.x
- Quattro Pro 9.0
- WordPerfect 9.0

次のバージョンの **WordPerfect Office** がサポートされます。

- **WordPerfect Office 2000**

次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。

- **WordPerfect Office 2000 から WordPerfect Office 2000 へ**

## Dragon Naturally Speaking for WordPerfect

**Dragon NaturallySpeaking** のデータ ファイルおよび永続的な設定を移行します。

次のバージョンの **Dragon NaturallySpeaking** がサポートされます。

- **Dragon NaturallySpeaking 3.x, Dragon NaturallySpeaking 4.x**

次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。

- **Dragon NaturallySpeaking 3.x から Dragon NaturallySpeaking 3.x へ**
- **Dragon NaturallySpeaking 3.x から Dragon NaturallySpeaking 4.x へ**
- **Dragon NaturallySpeaking 4.x から Dragon NaturallySpeaking 4.x へ**

## Corel Utilities

**Corel アドレス帳** :Corel アドレス帳の永続的な設定およびデータ ファイルを移行します。

**Corel QuickFinder** :Corel Office 2000 Suite **QuickFinder** の設定を移行します。

## Corel Quattro Pro

**Quattro Pro** のデータ ファイルおよび永続的な設定を移行します。

次のファイル タイプが移行されます。

**Quattro Pro 9 のデータ ファイル:**

- .qpw, .wb1, .wb2, .wb3, .wq1

## Corel WordPerfect

**WordPerfect** のデータ ファイルおよび **WordPerfect** の永続的な設定を移行します。

次のファイル タイプが移行されます。

#### WordPerfect 9 のデータ ファイル:

- .frm, .lab, .usr, .wpd, .wpt

### データ転送

File Rules、ファイル ツリー、およびレジストリ ルールで設定されたファイル およびレジストリ値を移行します。

### Windows のオプション

次の永続的な設定およびファイルを移行します。コントロール パネル、デスクトップ ショートカット、ダイヤルアップ ネットワーク、フォルダ オプション、ローカル プリンタ ログ、マッピングされたネットワーク ドライブ、マイドキュメント、ネットワーク接続および共有プリンタ接続、ネットワーク設定、タスク バーおよびクイック起動バー、Windows アドレス帳。

### デスクトップ ショートカット

デスクトップ上のショートカットを移行します。

- ▶ デフォルトでは、リンクが切れたデスクトップ ショートカットは移行されません。たとえば、ソース マシンのデスクトップに、インストールされたアプリケーションのショートカットがあり、そのアプリケーションがターゲット マシンにはインストールされていない場合、ターゲット マシンではリンクが切れてしまうので、このショートカットは移行されません。リンクが切れたファイルを移行するには、[編集] メニューから [設定] を選択して、[切れたショートカット ポリシー] チェック ボックスをチェックします。リンクが切れたファイルが、ソース ディレクトリへ移行され、「Broken Shortcuts」という名前のフォルダに納められます。

### ダイヤルアップ ネットワーク

ダイヤルアップ ネットワークの永続的な設定およびファイルを移行します。

- ▶ 仕様により、ハードウェアに関連する永続的な設定は移行されません。

### フォルダ オプション

フォルダ オプションの永続的な設定を移行します。

## ローカル プリンタ ログ

`printinfo.txt` という名前のファイルが、ユーザーのデスクトップでの導入の間に作成されます。このファイルには、ネットワーク プリンタおよびローカル プリンタの両方のプリンタ情報が含まれています。

## マッピングされたネットワークドライブ

マッピングされたネットワーク ドライブを移行します。ターゲット マシンで、移行するマッピングされたドライブと同じドライブ文字が使用されている場合、移行されるネットワーク ドライブには、利用可能な次のドライブ文字が使用されます。

▶ ハードウェア関連の設定およびファイルは、仕様により移行されません。

## マイドキュメント

マイ ドキュメント フォルダの内容を移行します。

▶ マイ ドキュメント フォルダの名前または場所が変更されている場合でも、**OV Settings Migration Manager** は、そのフォルダを「マイ ドキュメント」として認識し、フォルダの内部をターゲット マシンの「マイ ドキュメント」フォルダに移行します。

## ネットワークおよび共有プリンタの設定

ネットワーク プリンタおよび共有プリンタを移行します。有効な **UNC** パスがあり、ネットワークまたは共有を介してアクセス可能な場合に、プリンタは移行されます。プリンタが移行されると、プリンタ アイコンがターゲット システムのデスクトップに表示されます。このアイコンをダブルクリックして、プリンタをインストールします。

▶ **OV Settings Migration Manager Operator** は、各ユーザーについて移行されるプリンタへの完全なアクセス権を持っている必要があります。ハードウェア関連の設定およびファイルは、仕様により移行されません。

## ネットワーク設定

コンピュータ名、ワークグループ/ドメイン、説明、IP アドレス、DHCP、DNS、および WINS の設定を移行します。

- ▶ すべての問題点を十分に理解している場合を除き、ネットワーク設定の移行により、問題が発生する場合があります。

## タスク バーおよびクイック起動バー

[スタート] メニューの設定、タスク バーの設定、およびクイック起動バーのショートカットを移行します。

## Windows アドレス帳

Windows アドレス帳を移行します。

## コントロール パネル

- ▶ ハードウェア関連の設定およびファイルは、仕様により移行されません。

次の永続的な設定およびファイルを移行します。

ユーザー補助オプション、表示、インターネット オプション、キーボード、マウスの設定、電源の管理、地域設定、サウンド、およびタイム ゾーン。

## ユーザー補助オプション

キーボード、サウンド、表示、およびマウスのユーザー補助設定を移行します。

## 表示

外観、テーマ、背景、および視覚効果を移行します。

## インターネット オプション

インターネット プロパティ (ホーム ページ、色、フォント、言語) を移行します。

## キーボード

キーボードの言語およびキーボードの設定を移行します。キーボードの言語は、インストールしているオペレーティング システムによって、保管されている場所や名前が異なります。

Windows 98 では、設定は次のパスに保管されています。

- [コントロール パネル] \ [キーボード] \ [言語] (タブ)

Windows NT および Windows 2000 では、設定は次のパスに保管されています。

- [コントロール パネル] \ [キーボード] \ [入カロケール] (タブ)

Windows 2000 の次のパスにも、設定があります。

- [コントロール パネル] \ [地域の設定] \ [入カロケール]

Windows XP Professional では、設定は次のパスにあります。

- [コントロール パネル] \ [地域と言語のオプション] \ [言語] (タブ) \ [詳細] (ボタン)

## マウスの設定

マウスの永続的な設定およびファイル (ボタン、動作、ポインタ、およびスキーマ) を移行します。

## 電源管理

電源管理の永続的な設定を移行します。

## 地域の設定

永続的な地域の設定を移行します。



オペレーティング システムのバージョンにより国コードが変更された場合、またはその国コードがターゲット マシンに存在しない場合、設定は移行されません。

## サウンド

Windows のシステム サウンドの永続的な設定およびファイルを移行します。

## タイム ゾーン

タイム ゾーンの永続的な設定を移行します。



## 第 12 章 よく寄せられる質問

### 管理コンソールにはどうやってアクセスしますか？

ユーザーの環境にある任意のデバイスからブラウザを使用して、OVCCM コンソールにアクセスします。

- **http://OVCCMhost:3480/CCM** に移動します。OVCCMhost は、OVCCM がインストールされているサーバーの名前です。

### どのバージョンを使用しているかは、どのようにしてわかりますか？

- OVCCM のバージョン情報を表示するには、[設定] 領域の [サポート] セクションを使用します。

### コンソールのパスワードはどのようにして変更できますか？

各コンソールユーザーには、コンソールユーザーを作成するときに管理者が指定した自分のパスワードがあります。コンソールユーザーのログインパスワードは、[コンソールへのアクセス] 領域の [設定] セクションで変更します。

- コンソールユーザーのユーザー ID をクリックして、[ユーザーの詳細] ウィンドウを開きます。
- [パスワードの変更] 領域で、表示されたテキストボックスに新しいパスワードを入力して確認します。
- **[保存]** をクリックします。

新しいパスワードが保存されました。

## 自分の環境にあるデバイスの管理を始めるには、どのようにしますか？

デバイスは、管理エージェントが配布されると、管理されます。エージェントを配布するには、そのデバイスを **OVCCM** に追加する必要があります。

最初にデバイスをインポートします。

- [デバイス管理] の [一般] タブから、[管理対象デバイスの**インポート**] をクリックします。 **デバイス インポート ウィザード**が開きます。
- **158** ページのウィザードの手順に従って、デバイスをインポートします。

デバイスがインポートされたら、管理エージェントを配布します。

- [デバイス管理] の [一般] タブから、[管理エージェントの**配布**] をクリックします。 **エージェント配布ウィザード**が開きます。
- **159** ページのウィザードの手順に従って、管理エージェントを配布します。

エージェントが配布されたら、デバイスが管理できるようになり、ソフトウェア、パッチ、およびインベントリ管理の準備が完了します。

## インベントリの収集のスケジュール設定は、どのようにしますか？

ハードウェアおよびソフトウェアのインベントリは、 **ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザード** を使用して指定したスケジュールに基づいて収集されます。

- 最初に、インベントリ収集のスケジュール設定を、個々のデバイスについて行うか、グループについて行うかを選択します。[**デバイス管理**] の [**デバイス**] セクションまたは [**グループ管理**] の [**グループ**] セクションで、選択します。
- ツールバーで、[**インベントリの収集**]  ツールバー ボタンをクリックして、[**ソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索**] を選択し、ウィザードを起動します。
- **160** ページのウィザードの手順に従って、ユーザーのデバイスとグループについてソフトウェアおよびハードウェアのインベントリ収集を定義します。



ソフトウェア配布ジョブが完了してから、追加されたインベントリ収集が実施されます。

## 管理対象デバイスのインベントリ情報は、どのようにして表示できますか？

[レポート] タブを使用して、管理対象デバイスのインベントリ情報を表示します。

- [レポート] タブのホーム ページから、[インベントリ情報] の下にある [管理対象デバイスを表示] をクリックします。全管理対象デバイスの一覧が表示されます。
- ページの左側のツールを使用するか、各リスト項目の条件をクリックして、リストをさらにフィルタします。
- ある 1 つのデバイスの情報を表示するには、[詳細を表示]  をクリックします。

## パッチ取得はどのようにして自動化できますか？

[設定] タブの [パッチ管理] セクションを使用して、パッチ取得のスケジュールおよび設定を指定します。

- 1 [パッチ取得スケジュール] 領域で、付属のツールを使用して、取得スケジュールを設定します。
  - **実行**：時間、日、週など一定の間隔でパッチを探索するかどうかを設定します。
  - **間隔**：具体的な間隔（時間、日、または週）を選択します。
  - **開始日**：ドロップダウン リストを使用して、パッチ適合性を探索する日を選択します。
  - **[現在のサーバー時刻]** は、OVCCM サーバーの現在の時刻を表示します。
- 2 終了したら、[保存] をクリックして、変更をコミットします。[現在のスケジュール] の後に、新しいスケジュールが表示されます。
- 3 [パッチ取得設定] 領域に、各探索期間で取得するブリテンを入力します。ある範囲のブリテンを指定するには、ワイルドカード文字を使用できます。(MS05\* など)。複数のブリテン検索を同時に行うには、コンマで区切ります (MS05\*、MS06\* など)。
- 4 ブリテンの取得元の **Proxy Server** のアドレスを入力します (**http://proxyserver:8080/** など)。
- 5 必要な場合、パッチを取得するためのプロキシユーザー ID およびプロキシパスワードを入力します。
- 6 [保存] をクリックして、変更をコミットします。

## パッチ適合性探索スケジュールをどのようにして設定しますか？

- パッチ適合性探索のスケジュールを指定するには、[デバイス] タブから管理対象デバイスを選択します(あるいは、[グループ] タブからグループを選択します)。
- **[インベントリの収集]**  ツールバー ボタンをクリックして、**[パッチ適合性の探索]** を選択し、パッチ適合性探索ウィザードを起動します。
- 161 ページのウィザードの手順に従って、デバイスおよびグループのパッチ適合性探索のスケジュールを指定します。
- [レポート] タブを使用して、選択したデバイスに関するパッチ適合性レポートを表示します。

## 管理対象デバイスすべてにソフトウェアを配布するには、どのようにしますか？

最初に、管理対象デバイスをすべて含むダイナミック レポート グループを作成します。

- [レポート] タブの [インベントリ] の下で、**[管理対象デバイスを表示]** をクリックします。
- 全管理対象デバイスの一覧が表示されます。
- **[新しいダイナミック レポート グループの作成]**  をクリックします。グループ作成ウィザードの手順に従って、グループを作成します。

これで、新しく作成したグループにソフトウェアを配布できます。

- [管理] タブで **[ソフトウェア管理]** をクリックします。
- **[ソフトウェアの配布]** をクリックします。
- これで、ソフトウェア配布ウィザードが開きます。ウィザードの指示に従って、新しく作成したグループおよび配布するソフトウェアを選択します。

## 特定の Microsoft パッチを取得するには、どのようにしますか？

- [設定] タブの [パッチ管理] セクションを使用して、[パッチ取得設定] の [取得するブリテン] テキスト ボックスに具体的なパッチブリテン番号を指定します。



設定を行ってすぐにパッチ取得を起動できます。定期的にパッチを取得するようにパッチ取得スケジュールを設定した場合、取得設定の値をリセットする必要があります。これは、これらから先の取得の間に、パッチ取得が特定のパッチだけを取得するのを防ぐためです。

## ライセンス キーはどのようにして更新しますか？

- テキスト エディタを使用して、新しいライセンス ファイル (license.nvd など) を開きます。
- ファイルの内容を、[設定] タブの [サポート] セクションにある [ライセンス データ] テキスト ボックスにコピーします。
- [保存] をクリックして、ライセンス情報を更新します。

## OS サービス パックの対象とするデバイスのグループをどのようにして作成しますか？

[レポート] タブを使用して、特定のサービス パックを適用していない全デバイスを含むクエリを作成します。この例では、サービス パック 2 をインストールしていない **Windows XP** デバイスすべてを含むグループが作成されます。

- [データ フィルタ] 領域で **[インベントリ管理の関連情報]** をクリックします。
- **[OS 関連情報]** をクリックします。
- [オペレーティング システム] をクリックして、\***Windows XP**\* を入力します。
- **[適用]** をクリックします。**Windows XP** をインストールしてある全デバイスが表示されます。
- [オペレーティング システム のレベル] をクリックして、!**Service Pack 2** を入力します。
- **[適用]** をクリックします。サービス パック 2 をインストールしていない **Windows XP** デバイスがすべて表示されます。
- 次に、**[新しいダイナミック レポート グループの作成]**  をクリックして、グループ作成ウィザードの指示に従い、デバイスのグループを作成します。

## ソフトウェアをある 1 つのデバイスに配布するには、どのようにしますか？

[ソフトウェアの詳細] ウィンドウを使用して、ソフトウェアをある 1 つのデバイスに配布します。

- [管理] タブで [ソフトウェア管理] をクリックします。
- [ソフトウェア ライブラリ] をクリックして、パブリッシュされたソフトウェアをすべて表示します。
- ある 1 つのデバイスに配布したいソフトウェアの説明リンクをクリックします。[ソフトウェアの詳細] ウィンドウが開きます。
- [デバイス] タブをクリックして、そのソフトウェアを配布したいデバイスを選択します。
- [ソフトウェアの配布]  をクリックして、ソフトウェア配布ウィザードを開きます。
- ウィザードの手順に従って、そのデバイスにソフトウェアを配布します。

## コンソールを使用せずに管理エージェントをデバイスにインストールするには、どのようにしますか？

OVCCM CD-ROM に収録されている管理エージェント インストールプログラムを使用して、常時ネットワークに接続されているとは限らないデバイスに、エージェントをインストールします。

- OVCCM インストール CD-ROM の RadAgent ディレクトリにある、管理エージェントの `setup.cmd` ファイルを使用します。
- コマンドラインから次を入力します。 **setup.cmd** *OVCCM\_IP\_Addr*  
この場合の *OVCCM\_IP\_Addr* は、OVCCM サーバーの IP アドレスです。
- **Enter** キーを押します。  
管理エージェントがインストールされます。

## Windows インストーラ パッケージをパブリッシュするには、どのようにしますか？

- **Publisher** を使用して、パブリッシュするデータのタイプに [Windows インストーラ] を選択します。**Publisher** の手順に従って、Windows インストーラ ファイルが、管理対象デバイスへの配布に利用できるようにします。  
詳細は、**Publisher** のオンラインヘルプ または 第 9 章の **Publisher** の使用を参照してください。

## setup.exe をパブリッシュするには、どのようにしますか？

- **Publisher** を使用して、パブリッシュするデータのタイプに **[コンポーネントを選択]** を選択します。パブリッシュするファイルを選択して、**Publisher** の指示に従い、管理対象デバイスへの配布にそのファイルが利用できるようにします。

詳細は、**Publisher** のオンラインヘルプまたは **第 9 章** の **Publisher** の使用を参照してください。

## 全デバイスがソフトウェアを正常に受信したのは、どのようにしてわかりますか？

- [管理] 領域で [ソフトウェア管理] をクリックします。
- [レポート] タブで **[ソフトウェアの要約]** をクリックします。[レポート] 領域に、全デバイス、管理対象デバイス、および失敗したデバイスの要約が表示されます。

[ソフトウェアの詳細] ウィンドウの [デバイス] タブを使用して、デバイス別のソフトウェアのステータスを表示することもできます。

- ソフトウェアの説明リンクをクリックして、[ソフトウェアの詳細] ウィンドウを開きます。
- **[デバイス]** タブをクリックします。
- [ソフトウェアのステータス] カラムを表示して、どの管理対象デバイスにソフトウェアがインストールされているかを確認します。エンタイトルメントが設定されたデバイスだけが表示されます。

## ソフトウェアをユーザーがインストールできるようにするには、どのようにしますか？

ソフトウェア エンタイトルメントをデバイスのグループに追加して、**Application Self-Service Manager** から、ユーザーがそのソフトウェアをインストールできるようにします。

- [管理] タブの [グループ管理] セクションから **[グループ]** タブをクリックします。
- グループの説明リンクをクリックして、[グループの詳細] ウィンドウを開きます。
- **[ソフトウェア]** タブをクリックして、そのグループにエンタイトルメントが設定されている全ソフトウェアを表示します。

- 別のソフトウェアのエンタイトルメントを設定するには、[ソフトウェア エンタイトルメントの追加]  をクリックします。
- エンタイトルメントを設定するソフトウェアを選択して、[エンタイトルメントの追加] をクリックします。

エンタイトルメントを設定したら、ソフトウェアは、コンソールから、または個々のデバイスの **Application Self-Service Manager** から、配布できるようになります。

## デバイス適合性レポートを生成するには、どのようにしますか？

- [レポート] タブを使用して、どのパッチ ブリテンの適合性を確認したいか指定します。
- [データ フィルタ] で [パッチ管理の関連情報] をクリックします。
- [パッチ適合性ステータス] をクリックします。
- ブリテンの名前または名前の一部を入力して、[適用] をクリックします。
- レポート リストの上部にあるツールを使用して、レポートのエクスポートまたは印刷を行います。

## OS イメージを取得するには、どのようにしますか？

**Image Preparation Wizard** を使用して、オペレーティング システム イメージの準備と取得を行います。

- `osprep wiz.iso` ファイルからイメージ準備 CD を作成します。このファイルは、**OVCCM CD-ROM** の `\OSManagement\ISO\CaptureCD` ディレクトリにあります。
- 手順の詳細は、**Image Preparation Wizard** のオンライン ヘルプ、または **177 ページ**の「**OS イメージの準備と取得**」セクションに記載の、準備の手順に従います。

## OS イメージにドライバを追加するには、どのようにしますか？

配布用にオペレーティング システム イメージを取得する前に、予想されるすべてのデバイスのハードウェア設定に対する **OEM** のドライバがインストールされているかを確認するのが良いでしょう。

- 次の **Microsoft** サポート技術情報の記事には、**Windows OS** のインストールに **OEM** ドライバを含めることに関する情報が記載されています。

<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;en-us;314479>

## OS イメージをパブリッシュするには、どのようにしますか？

- **Publisher** を使用して、パブリッシュするデータのタイプに **[OS イメージ]** を選択します。パブリッシュするオペレーティング システム イメージを選択して、**Publisher** の指示に従い、デバイスへの配布にそのファイルが利用できるようにします。



**Image Preparation Wizard** を使用して取得したイメージは、デフォルトでは **OVCCM** サーバーの `\Novadigm\OSManagerServer\upload\` に保存されます。

詳細は、**Publisher** のオンラインヘルプまたは **第 9 章** の **Publisher** の使用を参照してください。

## OS イメージを配布するには、どのようにしますか？

最初に、**OS** イメージを受信する全デバイスを含むスタティック グループを作成します。

- **[グループ管理]** の **[一般]** タブから、**[新しいスタティック グループの作成]** をクリックします。
- グループ作成ウィザードが開きます。グループ作成ウィザードの手順に従って、グループを作成します。

これで、新しく作成したグループ内のデバイスにソフトウェアを配布できます。

- **[管理]** タブで **[OS 管理]** をクリックします。
- **[オペレーティング システムの配布]** をクリックします。

**OS** 配布ウィザードが開きます。ウィザードの指示に従って、最初に新しく作成したグループを、次に配布するソフトウェアを選択します。**OS 管理**ジョブが作成されます。

## 利用状況データの収集を開始するには、どのようにしますか？

利用状況データは、利用状況収集エージェントが、管理対象デバイスでローカルに収集し保存します。利用状況データの収集を開始するには、次を行います。

- 1 「利用状況収集フィルタ作成ウィザード」を使用して、収集フィルタを作成し有効にします。詳細は、151 ページの「利用状況の収集」を参照してください。
  - 2 「アプリケーション利用状況収集ウィザード」を使用して、利用状況収集エージェントを配布し、利用状況データの収集を始めます。162 ページのウィザードの手順に従って、グループから利用状況データを収集するスケジュールを指定します。または、個々のデバイスからの 1 回だけの収集を強制します。利用状況データは、12 か月の間、ローカル デバイスで保存されます。
- ▶ ワイルドカード文字を使用して利用状況データを収集するフィルタを設定すると、大量のデータが収集されることになる場合があります。この場合、データベースのサイズが大きくなるにつれて、レポートのパフォーマンスに重大な問題が生じる可能性があります。利用状況情報がほしいアプリケーションについてだけ、データを収集するフィルタを作成するように、強く推奨します。
- 全アプリケーションについて利用状況データを収集するのは、避けてください。

## サポートに連絡するには、どのようにしますか？

- 管理コンソールの [設定] タブを使用して、サポート連絡先情報を確認します。

## 第 13 章 トラブルシューティング

次のセクションを使用して、OVCCM の使用中に遭遇する一般的な問題のトラブルシューティングを行います。

- ログ ファイル (297 ページ)
- エージェント配布の問題 (298 ページ)
- OS 配布の問題 (299 ページ)
- **Application Self-Service Manager** の問題 (299 ページ)
- 電源管理の問題 (300 ページ)

### ログ ファイル

OVCCM のログ ファイルは、サーバーの次のディレクトリにあります。

- \Novadigm\Apache Group\Apache2\logs
- \Novadigm\ClientConfigurationManager\logs
- \Novadigm\ConfigurationServer\Log
- \Novadigm\ManagementPortal\logs
- \Novadigm\MessagingServer\logs
- \Novadigm\MobileManagementServer\logs
- \Novadigm\OSManagerServer\logs
- \Novadigm\PatchManager\Logs
- \Novadigm\ProxyServer\logs
- \Novadigm\ReportingServer\logs

ログ ファイルのサイズは、時間が経過するにつれて大きくなります。ログには、OVCCM サービスが動作中に使用されるものもあります。これらのアクティブなログ ファイルを削除しないでください。履歴ログ ファイルは必要に応じてアーカイブしたり削除したりできます。

## エージェント配布の問題

次の表は、エージェント配布ジョブの一般的なエラーメッセージおよび問題を解決するための手順を示しています。

表 17 エージェント配布ジョブのメッセージとトラブルシューティングの手順

メッセージ	トラブルシューティングの手順
Failed to connect to <i>device</i> as user <i>user</i> . code: no network provider accepted the given network path.} {debug: exit(1), exit status was 1	OVCCM サーバーは、エージェントインストールメディアをコピーするため、管理共有を作成します。Windows ファイアウォールなどのパーソナルファイアウォールが、この共有をブロックする場合があります。管理対象デバイスのファイアウォール除外リストに、 <b>3463</b> 番ポートおよびファイルと印刷共有サービスが追加されていることを確認します。
Failed to connect to <i>device</i> as user <i>user</i> . code: logon failure: unknown user name or bad password.} {debug: exit(1), exit status was 1	エージェント配布ウィザードの間に使用されたログイン資格情報が正しく、ユーザー ID がそのデバイスの管理特権を持っていることを確認します。パスワードは必ず入力してください。 Windows XP デバイスでは、簡易ファイルの共有が無効になっていることを確認します。
Connection timed out	OVCCM サーバーは、エージェントをデバイスに配布した後、 <b>3463</b> 番ポートを使用して、そのデバイスへの TCP 接続を確立します。このポートがパーソナルファイアウォールでブロックされていると、OVCCM はデバイスを管理できません。管理対象デバイスのファイアウォール除外リストに、 <b>3463</b> 番ポートおよびファイルと印刷共有サービスが追加されていることを確認します。

メッセージ	トラブルシューティングの手順
Timeout waiting for rma to register	エージェントは、デバイスにインストールされた後、 <b>3466</b> 番ポートを使用して、 <b>OVCCM</b> サーバーに登録されます。このポートが <b>OVCCM</b> サーバーでファイアウォールによりブロックされていると、 <b>OVCCM</b> はデバイスを管理できません。 <b>OVCCM</b> サーバーのファイアウォール除外リストに、 <b>3463</b> 番ポートが追加されていることを確認します。

## OS 配布の問題

この章では、オペレーティング システム イメージの配布中に遭遇する一般的な問題について説明します。

### TFTP サーバーが起動後にシャットダウンする

- 同じコンピュータで他の **TFTP** サーバーが動作していないことを確認します。

### PXE がサブネットを横断できない

- **PXE** がサブネットを自由に移動するには、**DHCP** ヘルパーが有効である必要があります。**DHCP** ヘルパーは、**DHCP** ポートでのブロードキャストトラフィックの横断を許可します。通常、ブロードキャストはルーターではオフになっています。

## Application Self-Service Manager の問題

このセクションでは、**Application Self-Service Manager** のよくある問題および問題を解決する手順を説明します。

## アプリケーションのインストールが失敗し、カタログはインストールされたと表示する

### 問題

インストールプログラムが失敗時にゼロを返すと、アプリケーションがインストールされたとカタログには表示される場合があります。

### 対処法

**Application Self-Service Manager** は、インストールが成功したかどうかを検出するのに、リターンコードを信頼しています。**Application Self-Service Manager** が失敗を検出するには、インストールはゼロ以外のコードを返す必要があります。

このためには、インストールをコマンドファイルにラッピングし、正しいコードを返すことでプロセスが成功したかしなかったかを確認するロジックを使用します。

## 電源管理の問題

このセクションでは、**OVCCM** 電源管理機能に関連するタスクの問題と対処法を説明しています。

### デバイスが **OVCCM** サーバーからの電源コマンドに応答しない

管理対象デバイスが、**OVCCM** サーバーからの電源オン コマンドに応答しない場合、ルーターやスイッチなどのネットワーク デバイスの設定に問題がある場合があります。

- **Wake on LAN** サポートについて、**OVCCM** サーバーから管理対象デバイスへのネットワーク パスをテストします。ネットワーク デバイスにリモートの電源オン コマンドを送信するためのサードパーティ製ツールが、いくつかあります。インターネットで「**Wake on Lan** ツール」を検索すると、この機能をテストするための無料のツールが見つかります。

# 付録 A 2 バイト文字のサポートについて

このセクションでは、サービス オペレーティング システム (SOS) のロケールを設定する、設定の変更を説明します。

▶ **Image Preparation Wizard** を使用してイメージを作成するとき、参照マシンとターゲット マシンのロケールが一致しなければなりません。たとえば、簡体中国語の OS イメージを作成したい場合、簡体中国語の参照マシンで **Image Preparation Wizard** を実行する必要があります。

⚠ 2 バイト文字が必要ない場合は、次の変更を行わないでください。

## サポートされる言語

簡体中国語、日本語、および韓国語

## ロケールの変更

PXE 環境に簡体中国語、日本語、および韓国語のサポートを追加するには

- 1 テキスト エディタを使用して、`\X86PC\UNDI\linux-boot\linux.cfg\default` を開きます。ファイルは次のように表示されます。

```
DEFAULT bzImage  
  
APPEND initrd=rootfs.gz root=/dev/ram0 rw ISVR=10.10.10.1  
ISVRPORT=3466
```
- 2 **APPEND** 行の最後に **LANG** パラメータを追加して、言語コードを設定します。有効なコードは次の通りです。
  - `zh_CN` = 簡体中国語
  - `ja_JP` = 日本語
  - `ko_KR` = 韓国語
  - `en_US` = 英語

- 3 結果的に、ファイルは次のようになります (次の例では、言語を日本語に設定しています)。

```
DEFAULT bzImage  
  
APPEND initrd=rootfs.gz root=/dev/ram0 rw ISVR=10.10.10.1  
ISVRPORT=3466 LANG=ja_JA
```

- 4 **default** ファイルを保存して閉じます。 .

サービス CD-ROM から復元するときに簡体中国語、日本語、または韓国語のサポートを追加するには

- **romsinfo.ini** ファイルの **ServiceCD** セクションに **LANG=xx\_XX** を指定します。この場合の **xx\_XX** は設定したい言語の言語コードです。有効な言語コードは次の通りです。
  - **zh\_CN** = 簡体中国語
  - **ja\_JP** = 日本語
  - **ko\_KR** = 韓国語
  - **en\_US** = 英語
- **romsinfo.ini** ファイルは、サービス CD **iso** の一部です。

## Sysprep ファイルの 2 バイト文字サポート

Sysprep で 2 バイト文字を使用する場合、ファイルは UTF-8 コーディングでエンコードする必要があります。

# 索引

## A

Agent Explorer, 27, 230  
All Devices グループ, 101  
APIC, 102  
APIC マシン, 190  
Application Self-Service Manager, 24  
Application Self-Service Manager  
    アクセス, 231  
Application Self-Service Manager のユーザー インターフェイス, 231  
Application Self-Service Manager ユーザー インターフェイス, 231  
    カタログ リスト, 234  
    カタログのリフレッシュ, 237  
    グローバル ツールバー, 233  
    サービス リスト, 234  
    情報の表示, 238  
    ソフトウェアのインストール, 237  
    ソフトウェアの削除, 238  
    メニュー バー, 233  
Avis, 244

## B

Basic 製品, 19  
    機能, 20  
BIOS の電源管理, 181

## C

CCMDB, 33  
CCMDB\_Data.MDF, 33  
Client Configuration Manager  
    インストール, 32  
    概要, 17, 19  
CM Administrator Agent Explorer, 230  
CM Administrator Publisher, 79  
Configuration Management Administrator Publisher, 26  
CSV にエクスポート, 128

## D

Deploy.cab, 183  
Deploy.chm, 183

## E

Embedded Linux, 103, 205  
ExtendOemPartition パラメータ, 182, 185

## H

HAL, 102  
Hardware Abstract Layer, 102  
HP Softpaq  
    パブリッシュ, 223  
HP ハードウェア レポート, 126  
hpccm.exe, 33

## I

Image Preparation Wizard, 27  
Image Preparation Wizard, 185  
Image Preparation Wizard  
    使用, 186  
Image Preparation Wizard, 186  
Image Preparation Wizard  
    使用, 196  
Image Preparation Wizard, 196  
Image Preparation Wizard  
    使用, 202  
Image Preparation Wizard, 202  
Image Preparation Wizard  
    使用, 207  
Image Preparation Wizard, 207  
ImageName.EDM, 186, 195, 202, 206  
ImageName.IMG, 185  
ImageName.PAR, 186  
IQY にエクスポート, 128

## J

JoinDomain パラメータ, 185

## K

KeepPageFile パラメータ, 182

## L

Local Service Boot, 104

## M

Management Agent, 24

Microsoft Sysprep, 183

Microsoft パッチ, 290

## O

ODBC DSN, 35

ODBC 設定, 設定, 150

OpenView Client Configuration Manager, 17

OpenView Settings Migration Manager サービス, 80

OS Image Preparation Wizard, 182

OS イメージターゲットデバイス

要件, 101

OS 管理, 96, 146

OS, 98

一般, 97

オペレーティング システム, 98

過去のジョブ, 110

現在のジョブ, 110

OS サービス バック, 291

[OS のアップロードの前にパーティションのサイズを変更する] チェック ボックス, 190

[OS のインストール後にクライアント接続を実行する] チェック ボックス, 190, 199, 210

OS の詳細, 108

グループ, 109

プロパティ, 109

OS のパーティション, 185

OS 配布ウィザード, 174

OVCCM\_Publisher, 79

OVCCM\_SMM, 80

OVCCM\_TPM\_ENABLEMENT, 79

OVCM システム トレイ, 247

OVCM ステータス ウィンドウ

ステータス メッセージ領域, 249

ステータス領域, 249

OVCM [ステータス] ウィンドウ, 248

OVCM [ステータス] ウィンドウ コンソールの情報パネル, 248

OVCM ボタン バー, 248

## P

Premium 製品, 19

機能, 21

prepwiz.exe, 186, 196, 203

Publisher, 26

別のデバイスへのインストール, 37

Publisher

使用, 213

PXE, 104

PXE ブート, 102

## S

SCSI, 102

Settings Migration Manager, 27

Settings Migration Utility, 28

setup.exe, 293

Setupmgr.exe, 184

software

removing, 238

SQL Server, 30

SQL Server Enterprise Manager, 33

SSM, 224

SSM 準拠, 224

[Sysprep.inf に大容量ストレージセクションをビルドする] チェック ボックス, 190

Sysprep.inf ファイル, 183

作成, 184

[SysprepMassStorage] セクション, 190

## T

TCP ポート, 31

TPM

設定, 148

TPM Enablement サービス, 79

## U

UI オプション, 245  
UnattendMode パラメータ, 185  
[URL] カラム, 245

## W

Windows 2003 Server, 37  
Windows CE, 103, 201  
Windows XP Embedded, 103  
Windows XPe, 194  
Windows インストーラ パッケージ, 292  
Windows インストーラ ファイル, 214

## X

XPe, 103

## あ

アクションバー, 119  
    アイコン, 128  
    使用, 128  
アクセス  
    管理コンソール, 287  
[アクティブなカタログ アイテムを展開], 244  
[アクティブなサービス アイテムを展開], 244  
[圧縮後のサイズ] カラム, 244  
[アップグレード日] カラム, 245  
アプリケーション利用状況  
    探索, 60  
アプリケーション利用状況収集ウィザード, 162  
アンインストール コマンドライン, 84

## い

[色のカスタマイズ] オプション, 242  
インスタント サポート  
    HP インスタント サポート, 143  
インストール  
    Application Self-Service Manager ユーザー インターフェイスを使用してソフトウェアをインストール, 237  
    OVCCM, 29, 32  
    Publisher を別のデバイスにインストール, 37  
インストール コマンドライン, 84

[インストール日] カラム, 245  
[インストール] ボタン, 235  
インターネット プロキシの検出, 247  
インフラストラクチャ サービス, 138  
インベントリ  
    デバイスのグループに対する探索, 69  
インベントリ管理レポート, 125  
インベントリのスケジュール設定, 288  
インベントリの表示, 289

## う

ウィザード, 157  
    OS 配布, 174  
    アプリケーション利用状況収集, 162  
    エージェント削除, 160  
    エージェント配布, 159  
    グループ作成, 164  
    サービス インポート, 169  
    サービス エクスポート, 169  
    サービス エンタイトルメント, 172  
    ソフトウェア 同期, 170  
    ソフトウェア/ハードウェア インベントリ, 160  
    ソフトウェア削除, 172  
    ソフトウェア配布, 168  
    デバイス インポート, 158  
    電源管理, 163  
    パッチ適合性探索, 161  
    パッチ配布, 171  
    ユーザー作成, 173  
ウィンドウあたりの最大項目数, 128

## え

エージェント削除ウィザード, 160  
エージェント配布ウィザード, 159  
エラーコード, 244  
エラーで終了, 113  
エンタイトルメント設定  
    ソフトウェア, 50  
    パッチ, 50, 76

## お

[オーナー カタログ] カラム, 245  
オペレーティングシステム イメージ, パブリッシュ, 222  
オペレーティングシステムの配布, 100

## か

[価格] カラム, 245  
拡張情報を表示, 238  
過去のジョブ  
    OS 管理, 110  
    ジョブ管理, 116  
    ソフトウェア管理, 87  
    デバイス管理, 63  
    パッチ管理, 96  
仮想カタログ, 234  
カタログ  
    仮想, 234  
    選択, 234  
    リフレッシュ, 233  
カタログリスト, 234  
カタログの表示, 84  
カタログのリフレッシュ, 233  
カラムのソート, 129  
管理  
    ジョブ, 111  
    ソフトウェア, 78  
管理エージェント  
    グループへの配布, 68  
    削除, 59  
    手動インストール, 39  
    デバイスのグループからの削除, 69  
    配布, 47, 58  
管理オプションパブリッシュ オプション, 216  
管理コンソール, 22

## き

休止状態, 182

## く

クイック スタート タスク, 46  
[グリッド線を表示], 244  
グループ  
    削除, 71  
        ソフトウェア, 75  
        パッチ エンタイトルメント, 76  
    作成, 68  
    スタティック, 65  
    ソフトウェアの配布, 75  
    タイプ, 65

探索, 65  
追加  
    パッチ エンタイトルメント, 76  
内部, 65  
レポート, 65  
グループ エンタイトルメントの追加, 91, 106  
グループ タイプ, 73  
グループ管理, 63, 64  
    過去のジョブ, 77  
    グループ, 66  
    現在のジョブ, 77  
グループ作成ウィザード, 164  
グループの作成, 49  
グループの詳細, 72  
    OS, 73  
    一般, 72  
    現在のジョブ, 74  
    ソフトウェア, 73  
    デバイス, 73  
    パッチ, 74  
    プロパティ, 72  
    レポート, 74  
[グループの詳細]ウィンドウ  
    タスク, 74  
グローバル ツールバー, 233

## け

警告メッセージ, 244  
現在のジョブ  
    OS 管理, 110  
    ソフトウェア管理, 87  
    デバイス管理, 63, 112  
    パッチ管理, 96  
検索オプション, 118  
    使用, 119  
    フィルタ, 119  
検索条件, 118  
[検証日] カラム, 246

## こ

高度なプログラム可能割り込みコントローラ, 102  
小型コンピュータ システム インターフェイス, 102  
コンソール ユーザー  
    削除, 136  
    作成, 136  
    詳細の表示および変更, 137

コンソールへのアクセス, 135  
[コンポーネントを選択] パブリッシュ, 219

## さ

サービス CD, 105  
サービスインポートウィザード, 169  
サービスエクスポートウィザード, 169  
サービスエンタイトルメントウィザード, 172  
サービスリスト, 234  
    [インストール] ボタン, 235  
    オプション, 243  
    カラムの削除, 244  
    カラムの追加, 244  
    [削除] ボタン, 235  
    [展開/折りたたむ] ボタン, 235  
サービスのインポート, 81, 82, 90, 91, 99, 107  
サービスのエクスポート, 81, 83, 90, 92, 99, 107  
再起動, 245  
再起動の設定, 84  
[サイズ] カラム, 245  
[再パブリッシュ日] カラム, 245  
削除  
    サービスリストからのカラムの削除, 244  
    ソフトウェア, 238  
    パッチエンタイトルメント, 76  
[削除] ボタン, 235  
作成  
    グループ, 68  
    スタティックグループ, 164  
    ダイナミック探索グループ, 165  
    ダイナミックレポートグループ, 130, 166  
[作成者] カラム, 244  
サポート, 134  
    連絡, 296  
参照マシン  
    準備, 180

## し

システムトレイ  
    アイドル状態, 247  
    アクティブ状態, 247  
システムトレイのアイドル状態, 247  
システムトレイのアクティブ状態, 247  
[システムの色を使用] オプション, 242

システムのインストール, 245  
システムの復元, 182  
システム要件, 29  
    ターゲットデバイス, 101  
集中時, 125  
手動入力, 158  
[使用可能なカラム] リストボックス, 244  
詳細なオペレーションを表示, 244  
ジョブコントロール, 112  
ジョブステータス, 112  
ジョブ管理, 111  
    一般, 111  
    過去のジョブ, 116  
    現在のジョブ, 112  
ジョブの一時停止, 112  
ジョブの開始, 112  
ジョブの削除, 113  
ジョブの詳細, 115  
    サービス, 116  
    詳細, 115  
    ターゲット, 115  
ジョブのスケジュール再設定, 113  
ジョブの停止, 112  
シンクライアント, 103  
    イメージの準備と取得, 194  
    管理, 21  
    管理エージェントのインストール, 40  
    管理エージェントの配布, 39  
    出荷 OS イメージの配布, 103  
    要件, 30

## す

スケジュール, 設定, 48  
スケジュールを許可, 245  
スタティックグループ, 73  
    作成, 164  
    デバイスの削除, 74  
    デバイスの追加, 74  
[ステータス] ウィンドウ  
    ドッキング, 241  
    ドッキング解除, 240  
[ステータス] ウィンドウのドッキング解除, 240  
[ステータス] カラム, 245  
[ステータス] ボタン, 240

スロットリング, 246  
スロットリングタイプ, 245

## せ

生成  
レポート, 51  
接続オプション, 246  
設定  
ODBC 設定, 150  
スケジュール, 48  
レポート, 149  
[設定] ボタン, 234  
[説明] カラム, 245

## そ

ソフトウェア  
エンタイトルメント設定, 50  
グループ エンタイトルメントの追加, 82  
配布, 50  
パブリッシュ, 48, 214  
ソフトウェア カテゴリ, 84  
ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザード, 160  
ソフトウェア管理, 78, 79  
過去のジョブ, 87  
現在のジョブ, 87  
ソフトウェア, 79  
ソフトウェア削除ウィザード, 172  
ソフトウェアの削除, 83  
ソフトウェアの詳細, 83  
一般, 84, 109  
グループ, 85  
デバイス, 86, 110  
プロパティ, 84  
レポート, 87, 110  
ソフトウェアの同期, 76  
ソフトウェアの配布, 81, 290  
ソフトウェア配布ウィザード, 168

## た

ターゲット デバイス  
定義, 101  
要件, 101  
対象, 17  
ダイナミック探索グループ

作成, 165  
ダイナミック レポート グループ

作成, 130, 166  
タイムゾーンパラメータ, 184  
大容量ストレージ ドライバ, 190  
大容量ストレージ ドライバリスト, 190  
探索グループ, 68

## つ

[追加のファイル] 詳細パブリッシュ モードオプション, 216  
[次へブラウズ] ボタン, 129

## て

ディレクトリ/グループフィルタ, 118, 120  
データ フィルタ, 118, 121  
データベースのセットアップ, 33  
適応バンド幅, 244  
デバイス  
インポート, 47, 58  
削除, 61  
デバイス管理, 55  
デバイスインポートウィザード, 158  
デバイス管理, 53  
一般, 54  
過去のジョブ, 63  
現在のジョブ, 63  
デバイス, 55  
デバイス適合性レポート, 294  
デバイスのインポート, 47, 58  
デバイスのグループに対する電源管理, 71  
デバイスの詳細, 61  
OS, 62  
一般, 62  
グループ, 62  
ソフトウェア, 62  
パッチ, 62  
プロパティ, 62  
レポート, 63  
デバイスの探索, 58, 158  
デバイスの要約, レポート, 129  
デバイスを探索, 58  
[展開/折りたたむ] ボタン, 235  
電源管理, 57, 61

電源管理ウィザード, 163

## と

ドッキング済み [ステータス] ウィンドウ, 241

## な

[名前] カラム, 245

## は

バージョン, 287

[バージョン] カラム, 246

パーティション

拡張, 182

パーティションサイズ, 181

ハードウェア管理, 147

配布

管理エージェント, 47

ソフトウェア, 50

パッチ, 50, 77, 91

配布シナリオ

OS イメージ, 100

配布モード, 100, 174

パスワード

変更, 137

パッチ

エンタイトルメント設定, 50, 76

エンタイトルメントの削除, 76

グループ エンタイトルメントの追加, 91, 106

取得, 48

配布, 50, 77, 89, 91

パッチ管理, 87

一般, 89

過去のジョブ, 96

現在のジョブ, 96

設定, 141

パッチ, 90

パッチ管理レポート, 125

パッチ取得, 289

スケジュール, 142

設定, 143

パッチ適合性

探索, 59

パッチ適合性探索ウィザード, 161

パッチ適合性探索スケジュール, 290

パッチの取得, 48, 89

パッチの詳細, 92

一般, 93

グループ, 93

デバイス, 94

プロパティ, 93

レポート, 95

パッチ配布ウィザード, 171

パブリッシュ

OS イメージ, 98

コンポーネントを選択, 219

ソフトウェア, 48, 214

モード

管理オプション, 216

追加のファイル, 216

プロパティ, 216

パブリッシュされたサービス, 表示, 229

[パブリッシュ日] カラム, 245

バンド幅

スロットリング, 246

予約, 246

バンド幅スロットリング, 249

バンド幅設定, 249

バンド幅のスライダ, 240

バンド幅の設定、調整, 240

バンド幅を予約, 246

## ひ

ビュー, 適用, 123

表示

Application Self-Service Manager ユーザー イン

ターフェイスでの情報の表示, 238

パブリッシュされたサービス, 229

レポート, 51

表示オプション, 118, 123

[表示するカラム] リスト ボックス, 244

## ふ

ファイアウォール, 31

フィルタ

値文字, 122

適用, 121

ワイルドカード, 122

ブラウズ

レポートの項目, 128

プロキシ, 36  
プロキシの検出, 247  
[プロパティ] パブリッシュ オプション, 216

## へ

ベアメタル, 101  
ページファイル, 181  
変換ファイル, 218  
[ベンダー] カラム, 246

## ほ

報告  
  設定, 149  
[ホーム] ボタン, 233

## ま

[マイ ソフトウェア] ボタン, 234  
[前へブラウザ] ボタン, 129

## み

[未使用のディスク スペースの圧縮を最適化する] チェックボックス, 190

## め

メニュー バー, 233

## も

[戻る] ボタン, 124

## ゆ

ユーザー作成ウィザード, 173  
[ユーザーの詳細] ウィンドウ, 137

## よ

予約済みのバンド幅, 245

## ら

ライセンス キー  
  更新, 291  
ライセンス情報, 更新, 135

## り

利用回数, 125  
利用時間, 125  
利用状況管理対象製品 (使用), 127  
利用状況管理レポート, 125  
利用状況データの難読化, 60, 70, 150  
[利用状況の設定] タブ, 150  
利用ステータス, 125  
[履歴] ボタン, 239, 240

## れ

レポート, 117  
  インターフェイス, 117  
  ウィンドウ, 127  
  生成, 51  
  表示, 51  
[レポート] ウィンドウ, 119  
[レポート] タブ, 117  
レポート ビュー, 118, 123  
レポート グループ  
  作成, 128  
  レポート クエリからの作成, 128

## ろ

[ローカルの修復] カラム, 245  
ログ ファイル, ダウンロード, 135  
ログイン, 45